

Tomoko Fuse Origami Models



I ♥ ORIGAMI

by Tomoko Fuse
Editor Makoto Yamaguchi

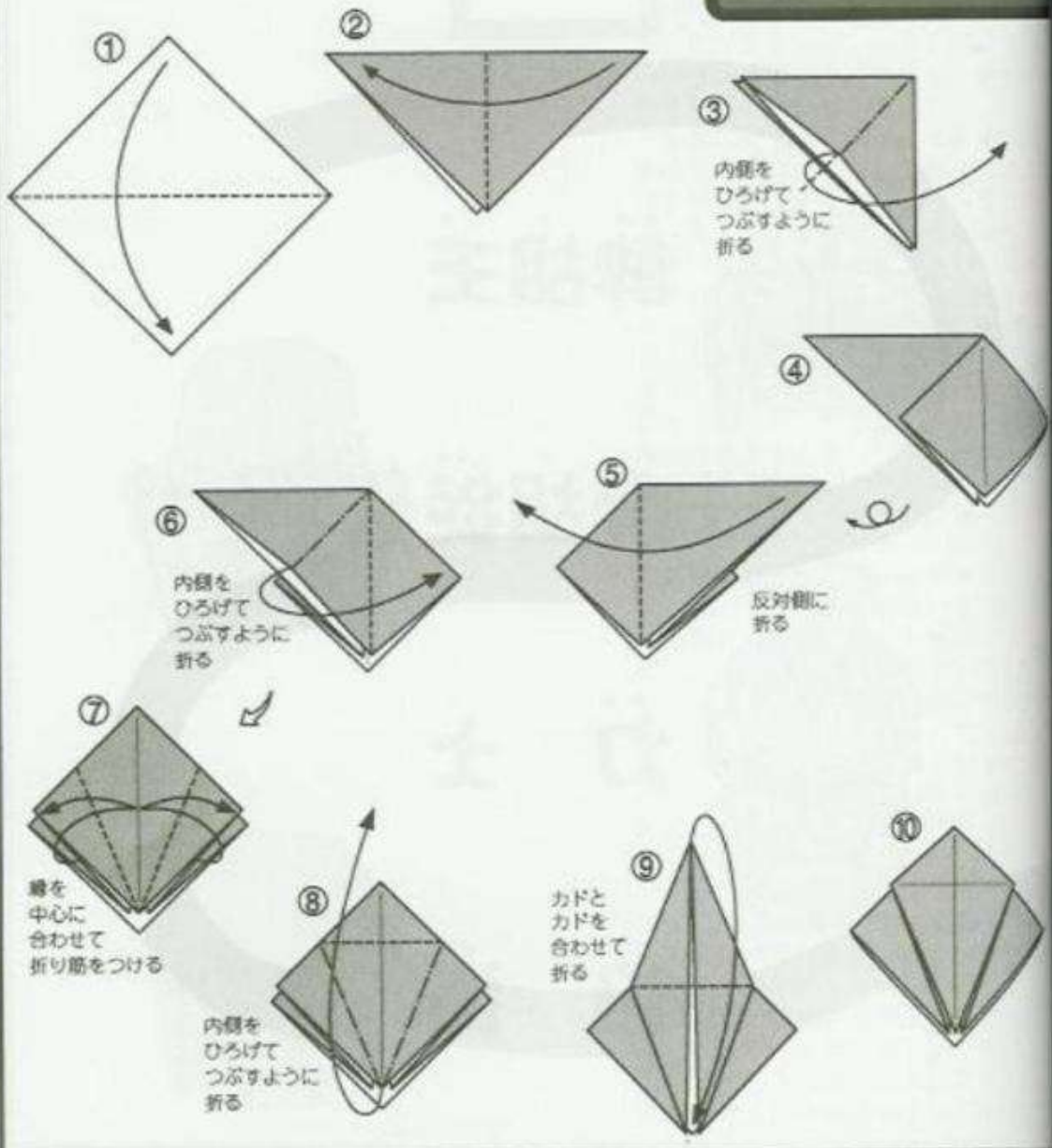
The Mask

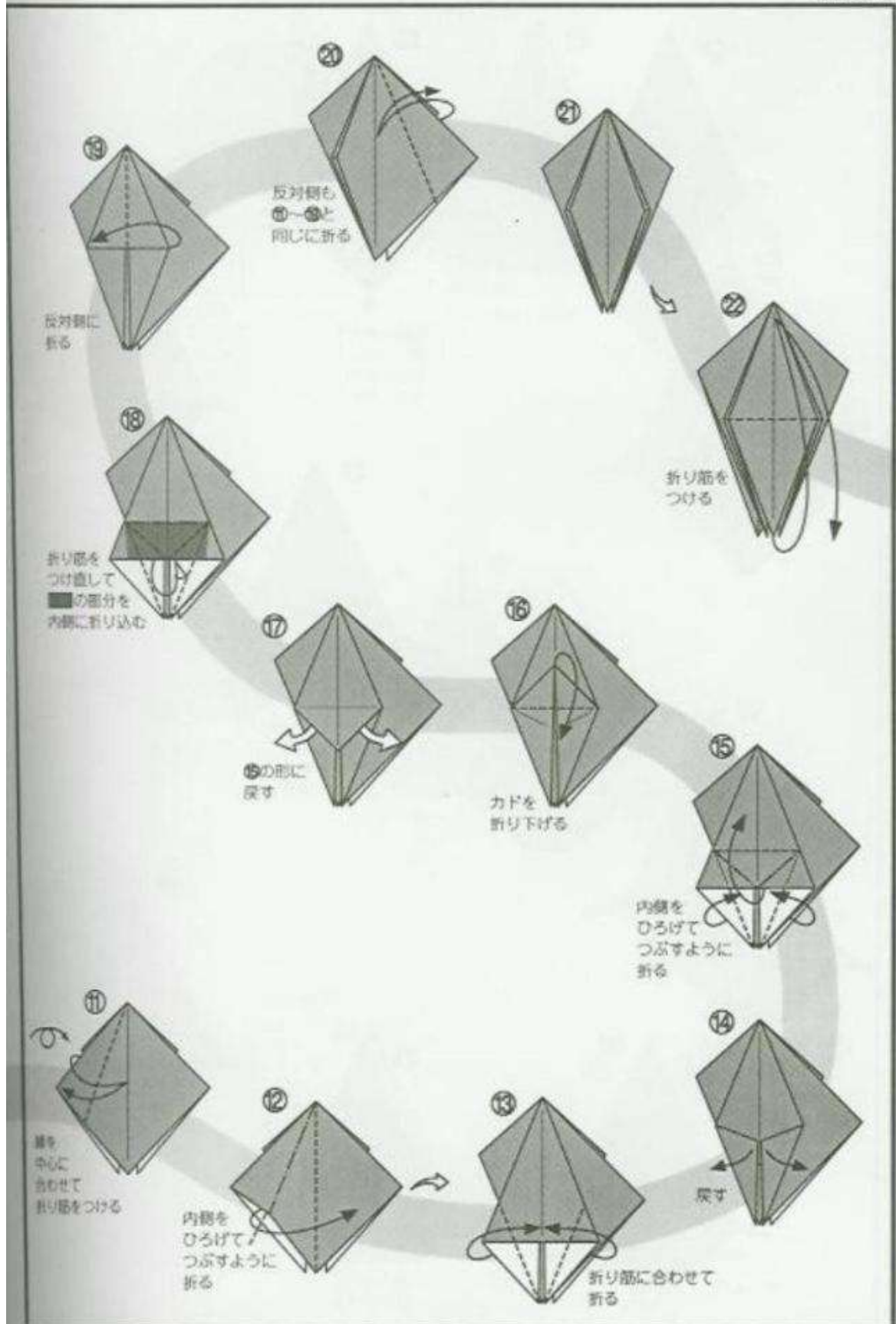
ORIGAMI  HOUSE

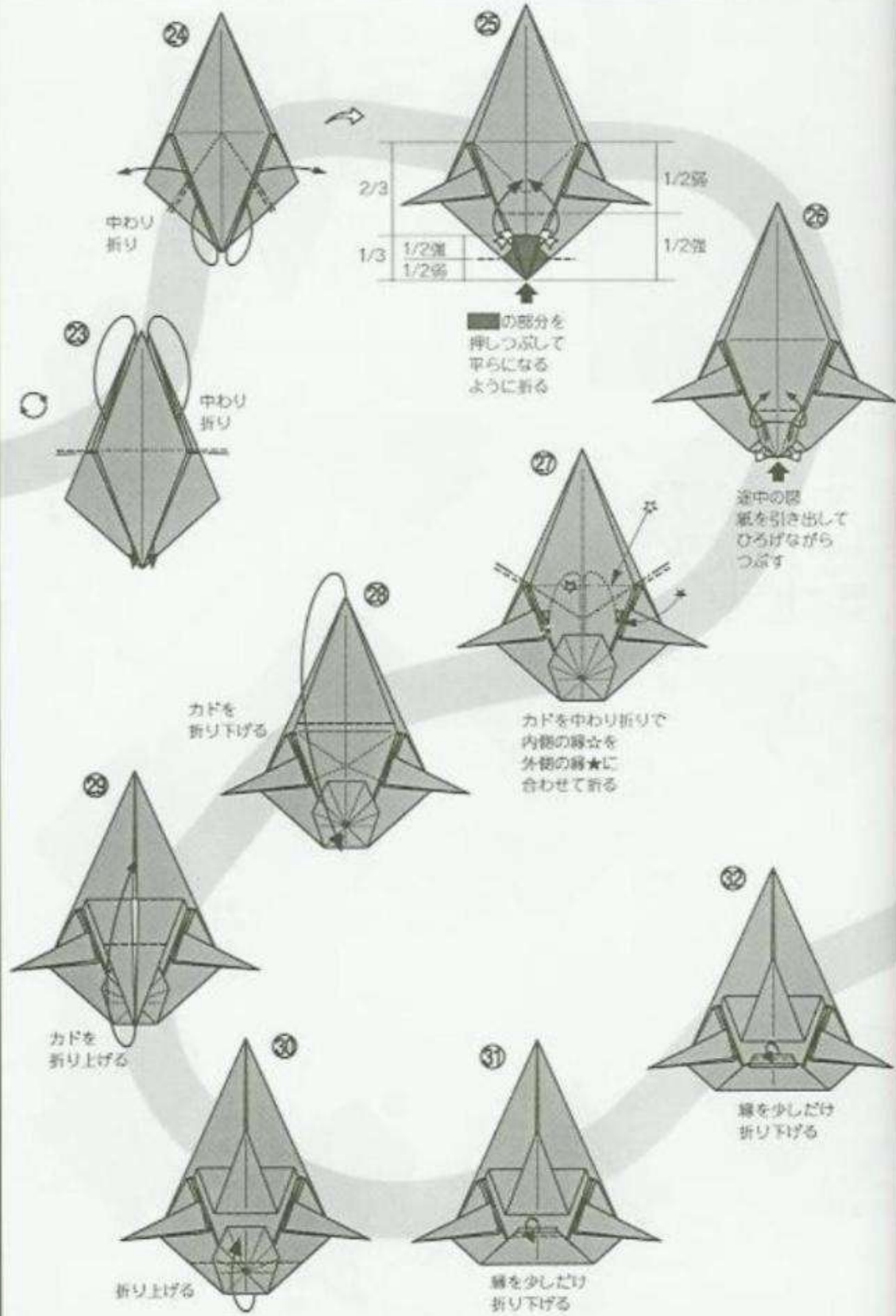
定価 ¥4,000

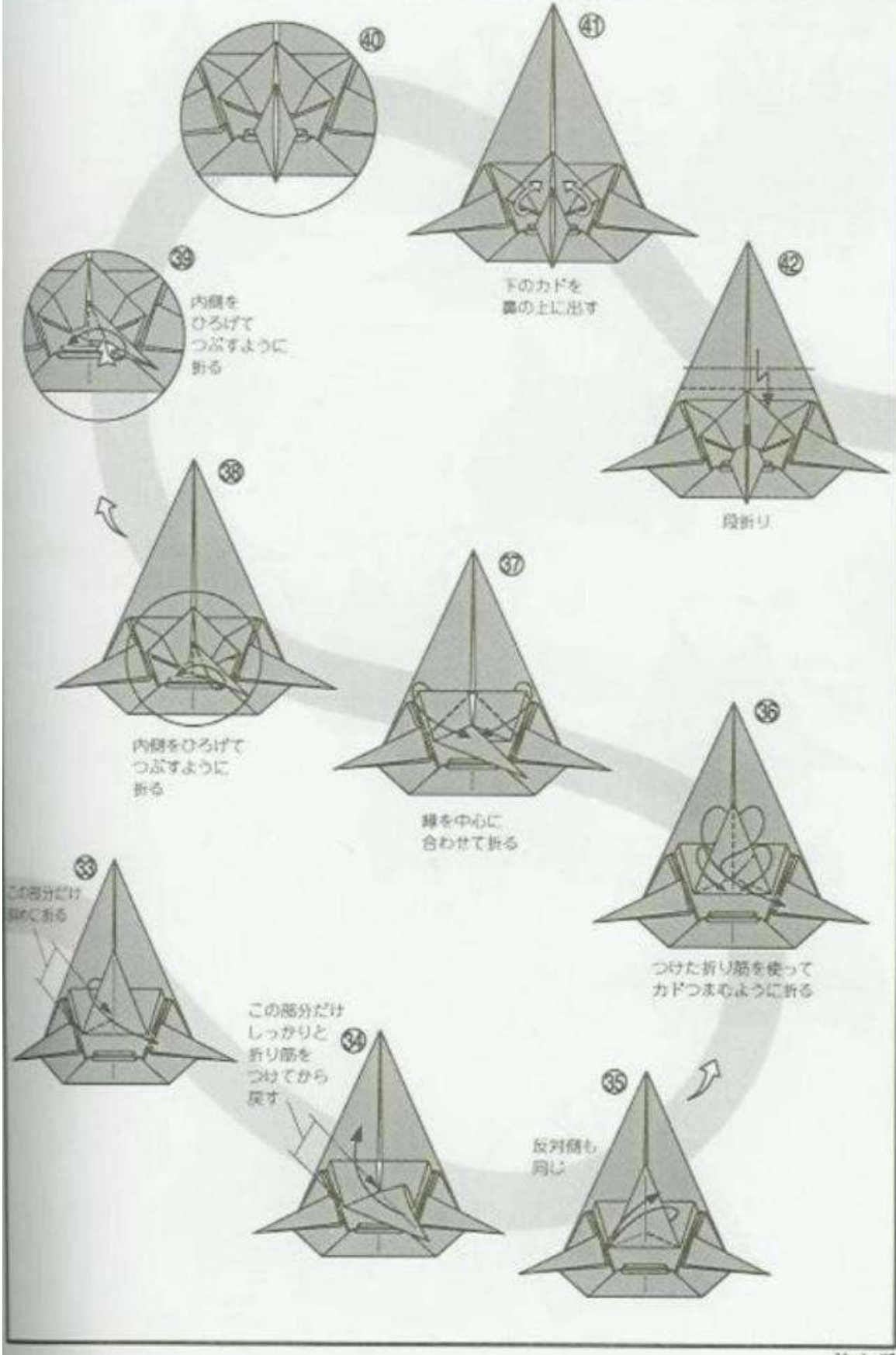
すいごお 酔胡王

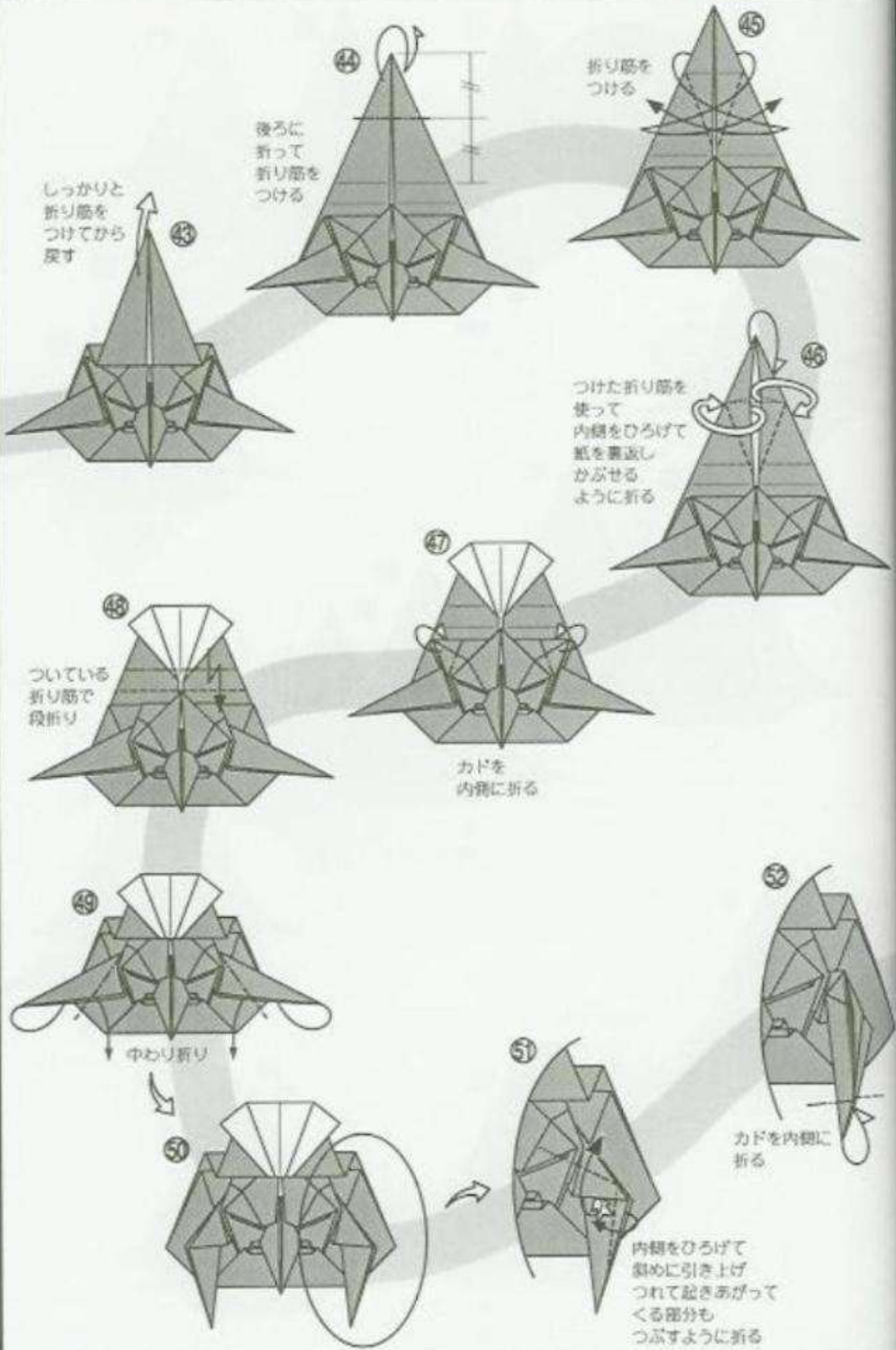
酒に酔って顔を赤く染めた胡人の王様。伎楽の最後に酔胡従を引き連れて登場する。この面は手順の25、口の折り出しがポイント。目安の分量を参考に気に入ったバランスを見つけ出してください。

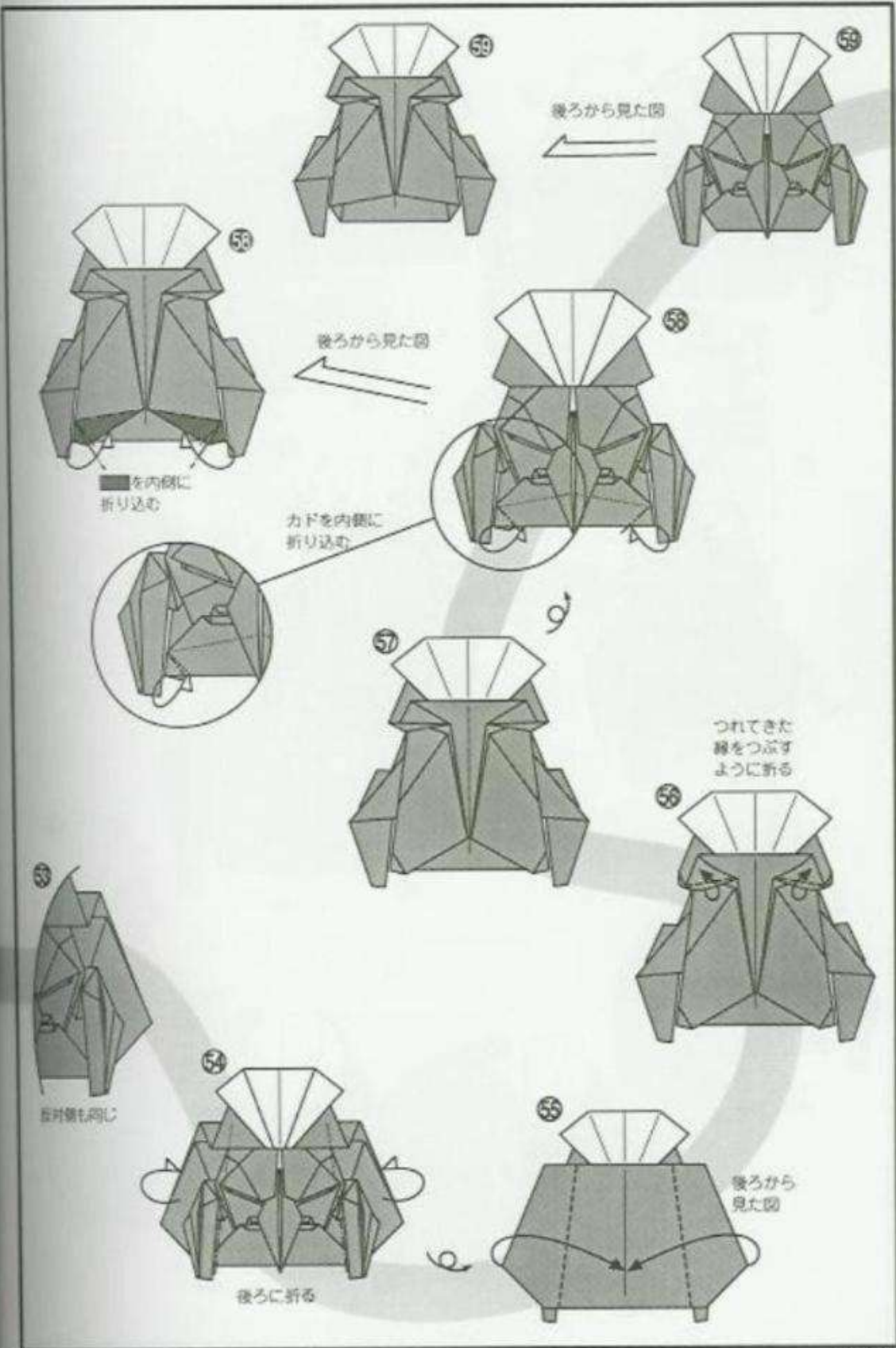


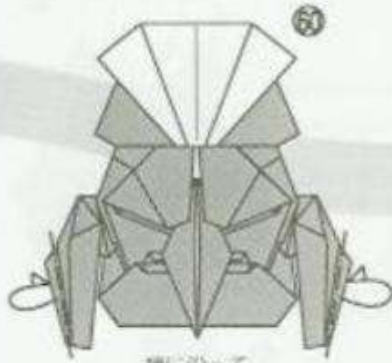




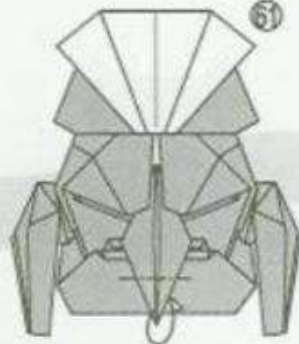






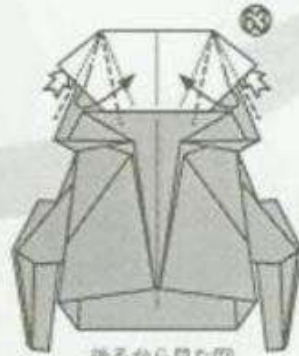
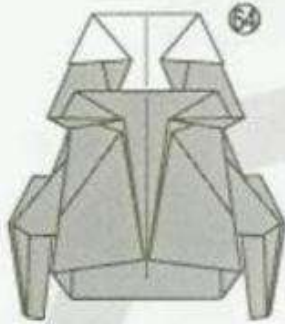
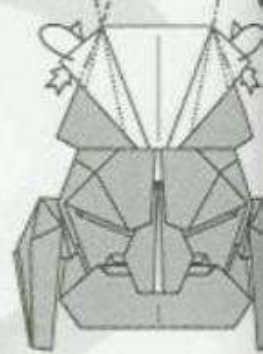


51
線に沿って
カドを後ろに
折る

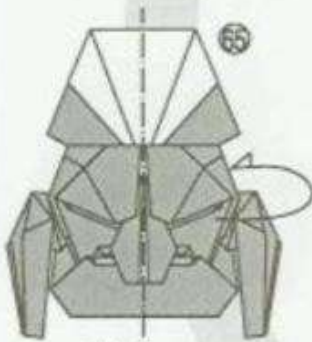


52
カドを
後ろに折る

内側をひろげて
後ろに引き寄せる
ように後ろに折る



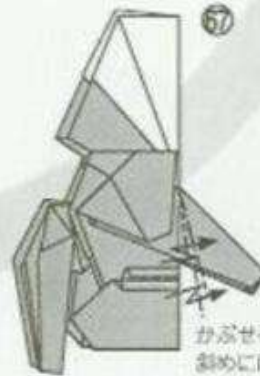
55
後ろから見た図
内側をひろげて
引き寄せる
ように折る



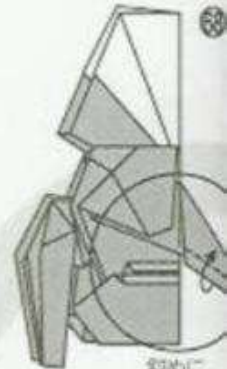
56
後ろに
半分に折る



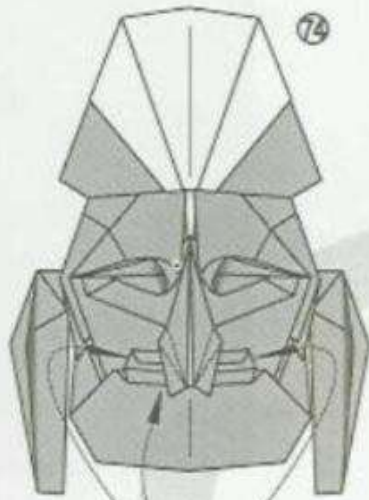
57
鼻を
つまんで
引き出す



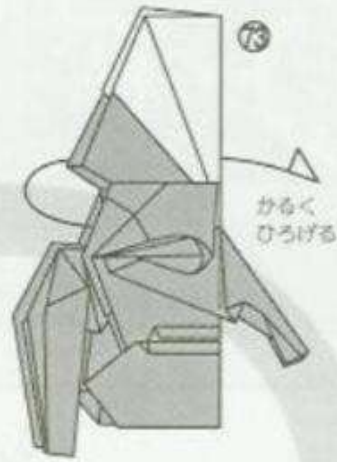
58
かぶせるように
斜めに段折り



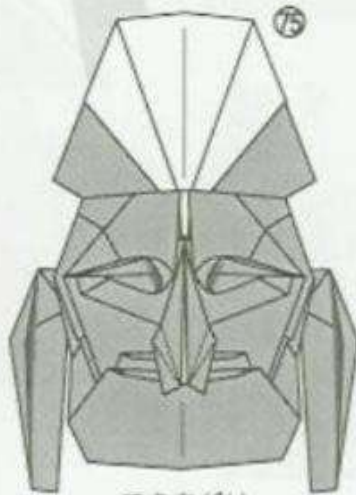
59
斜めに
折り上げ



唇を少し起こして
表情をつける

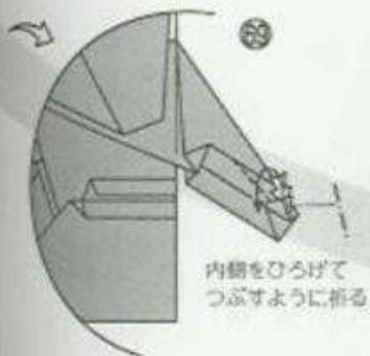
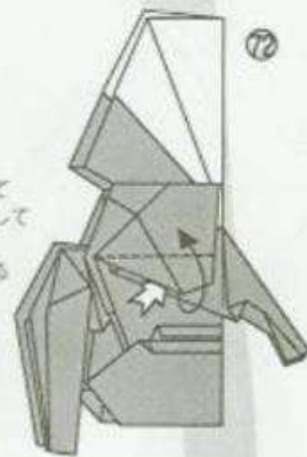


かるく
ひろげる

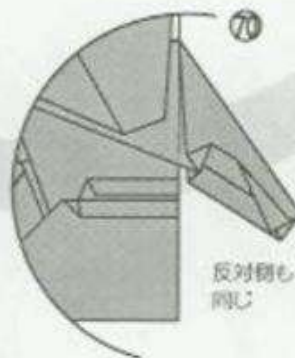


できあがり

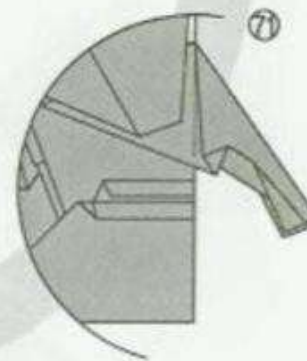
内側をひろげて
起こすようにして
立体的な
目の形をつくる



内側をひろげて
つぶすように折る

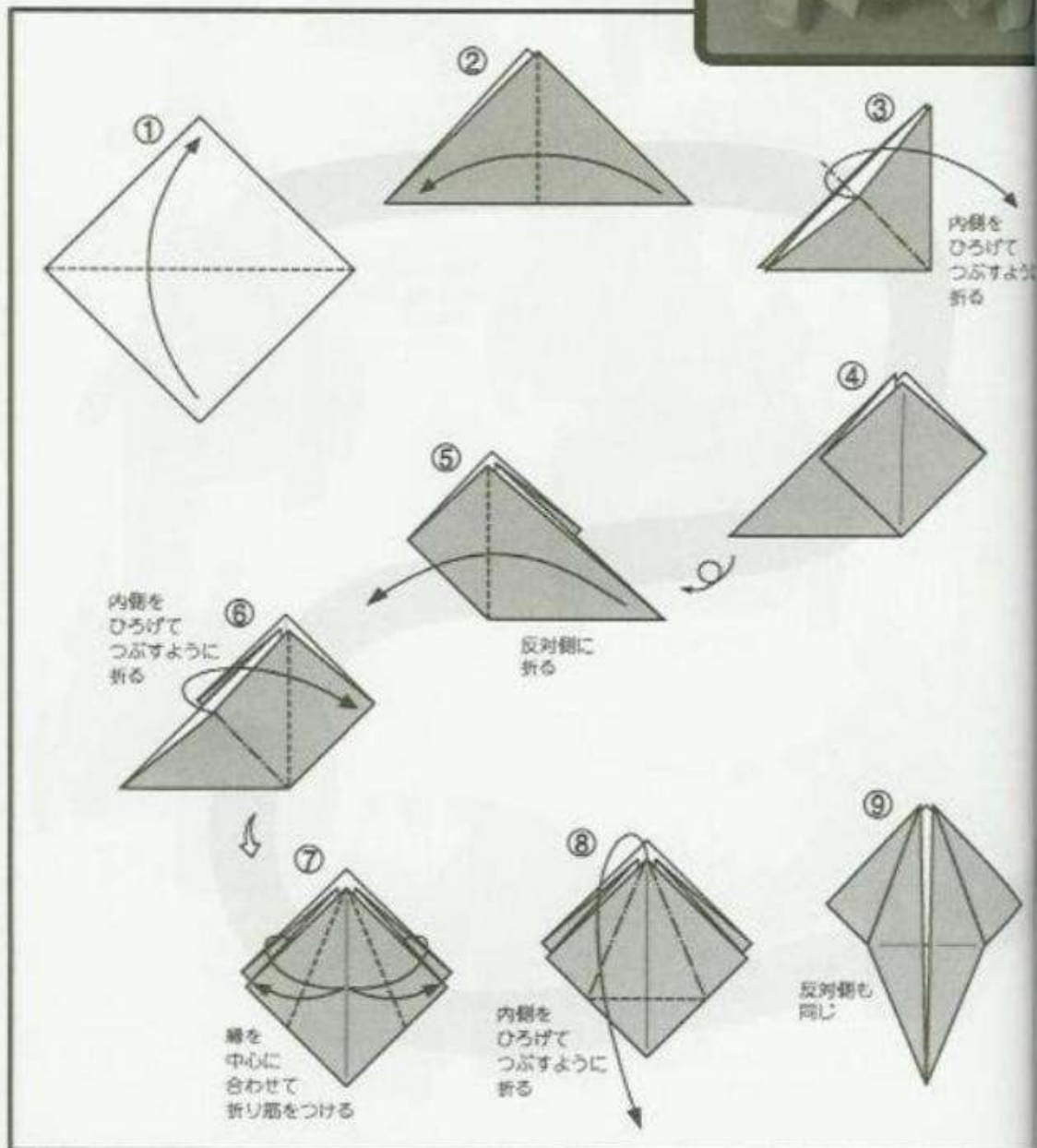


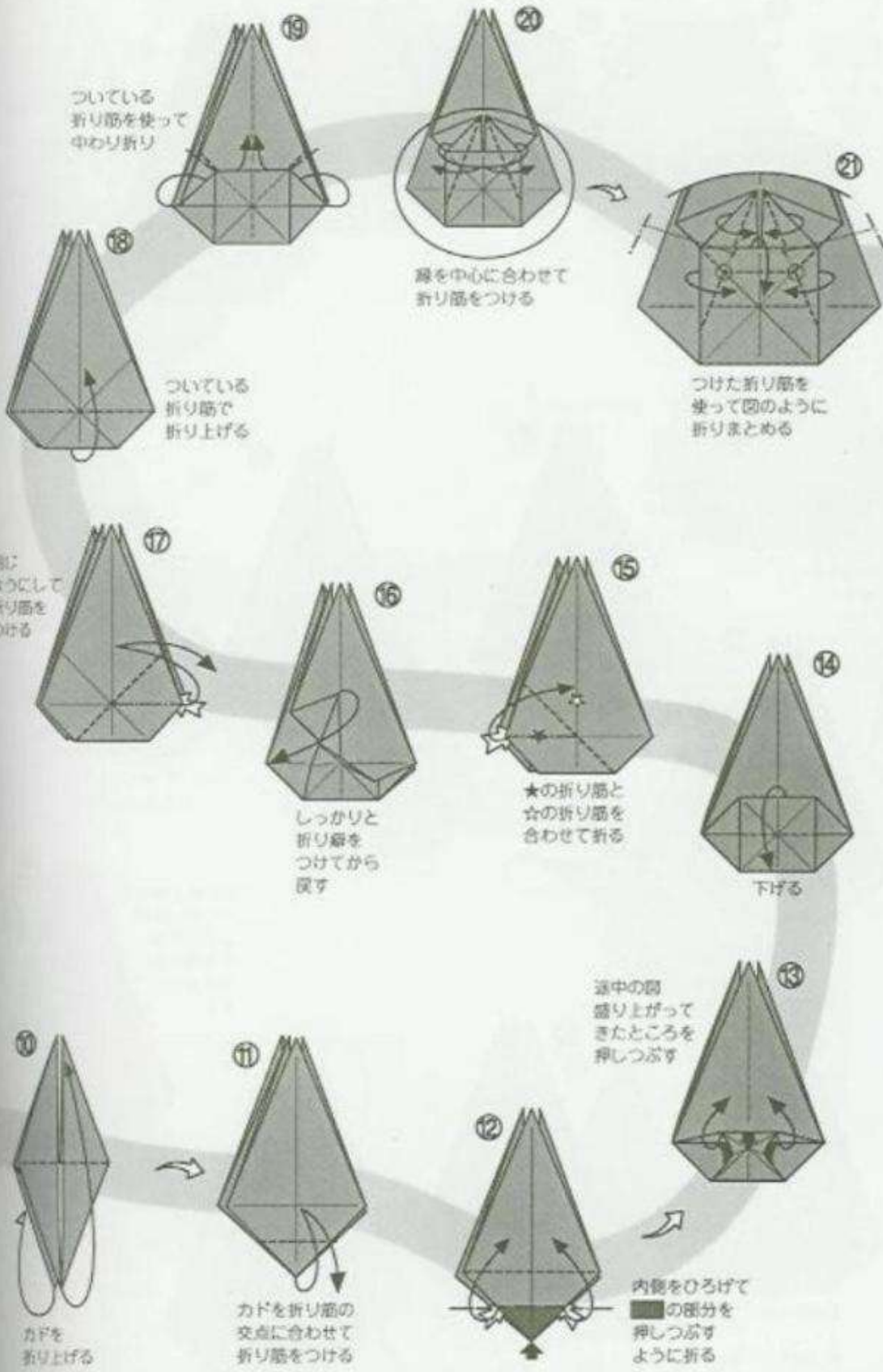
反対側も
同じ

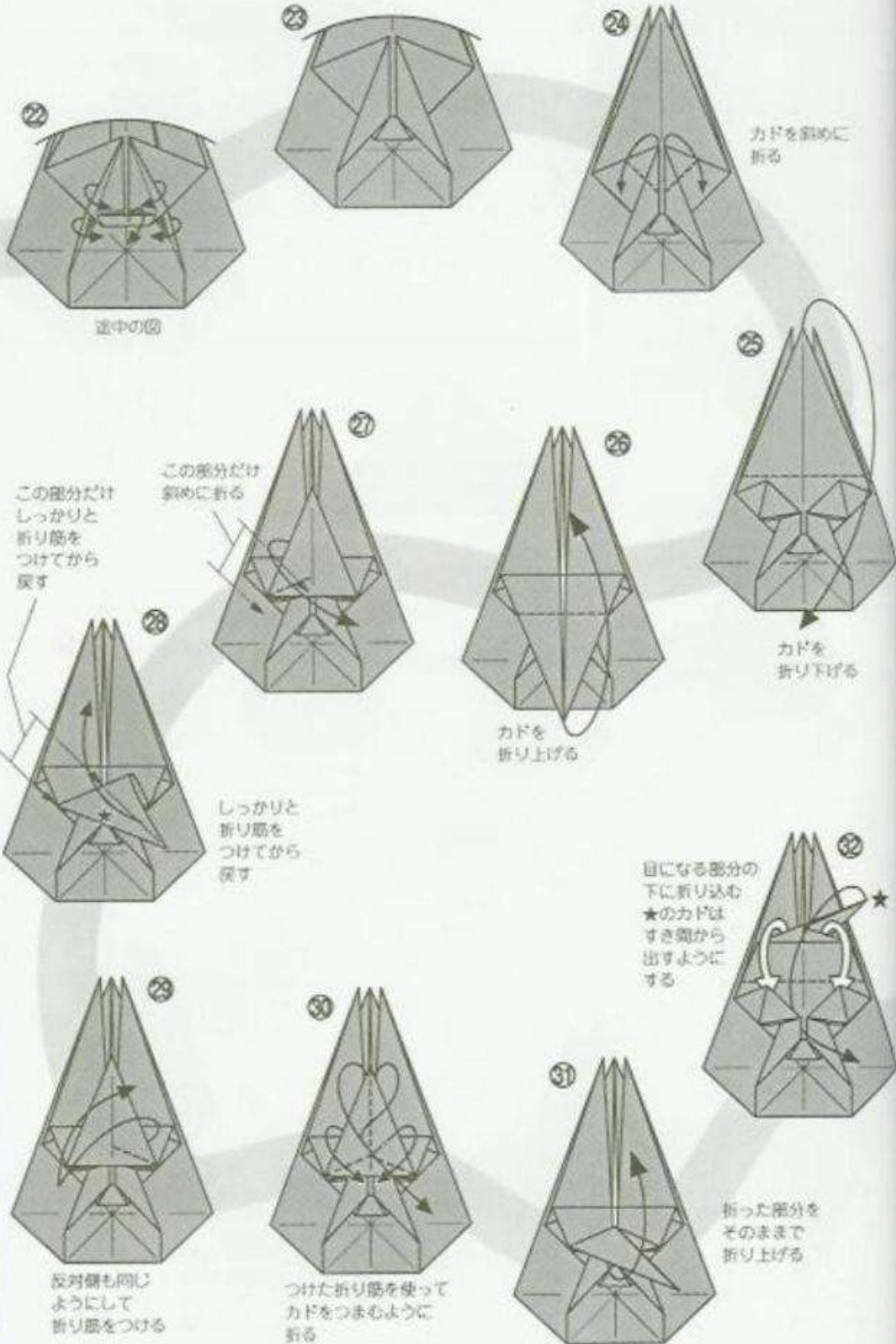


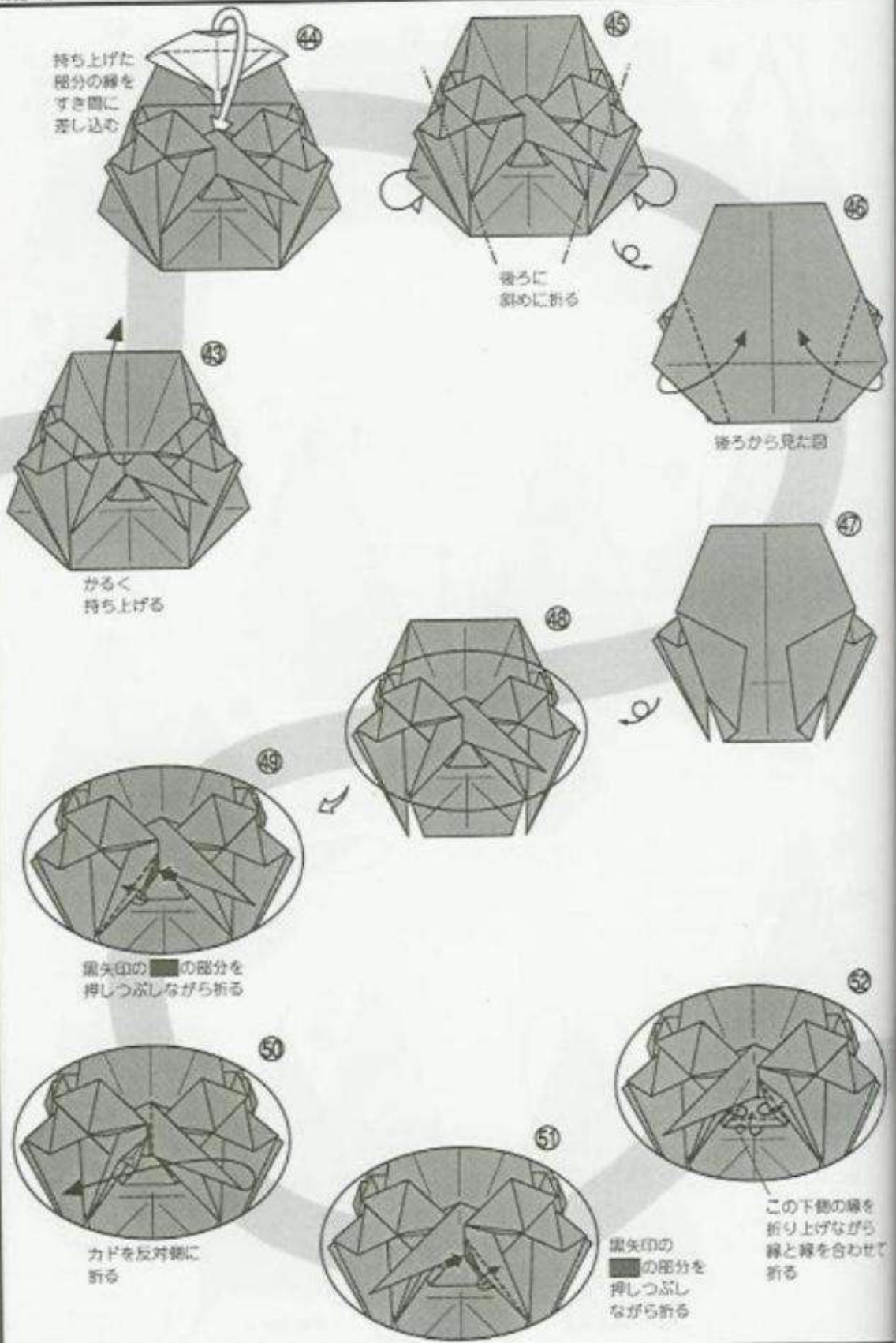
すし る じょう
酔胡従

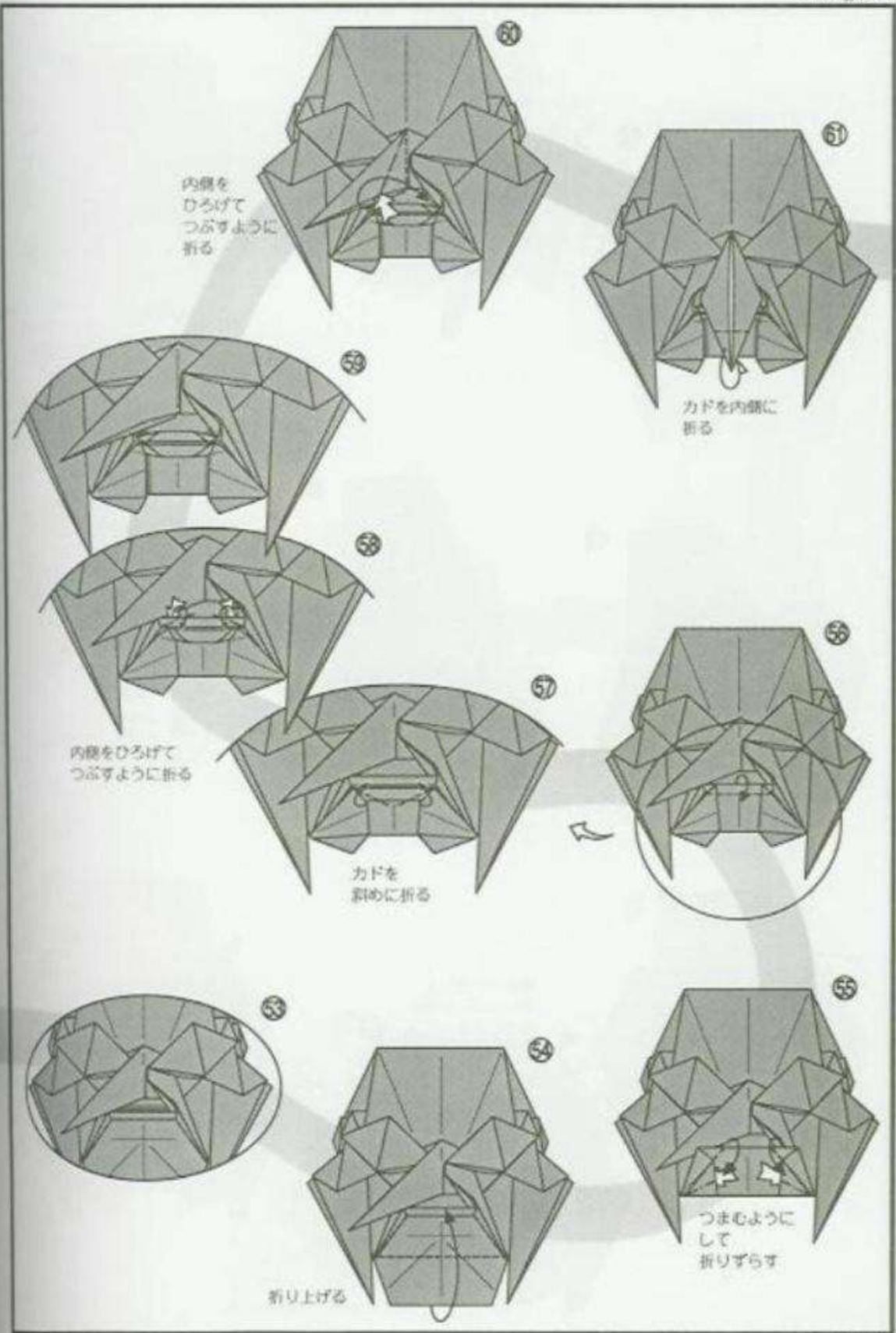
酔胡王につき従う酔顔の家来。酔って笑っている者、自ら酔いつつも酔様を苦々しく見ている者、若い年寄り、さまざまな酔胡従の面がある。鼻、耳、頭の折り出し分量で、ずいぶん印象が違ってくる。

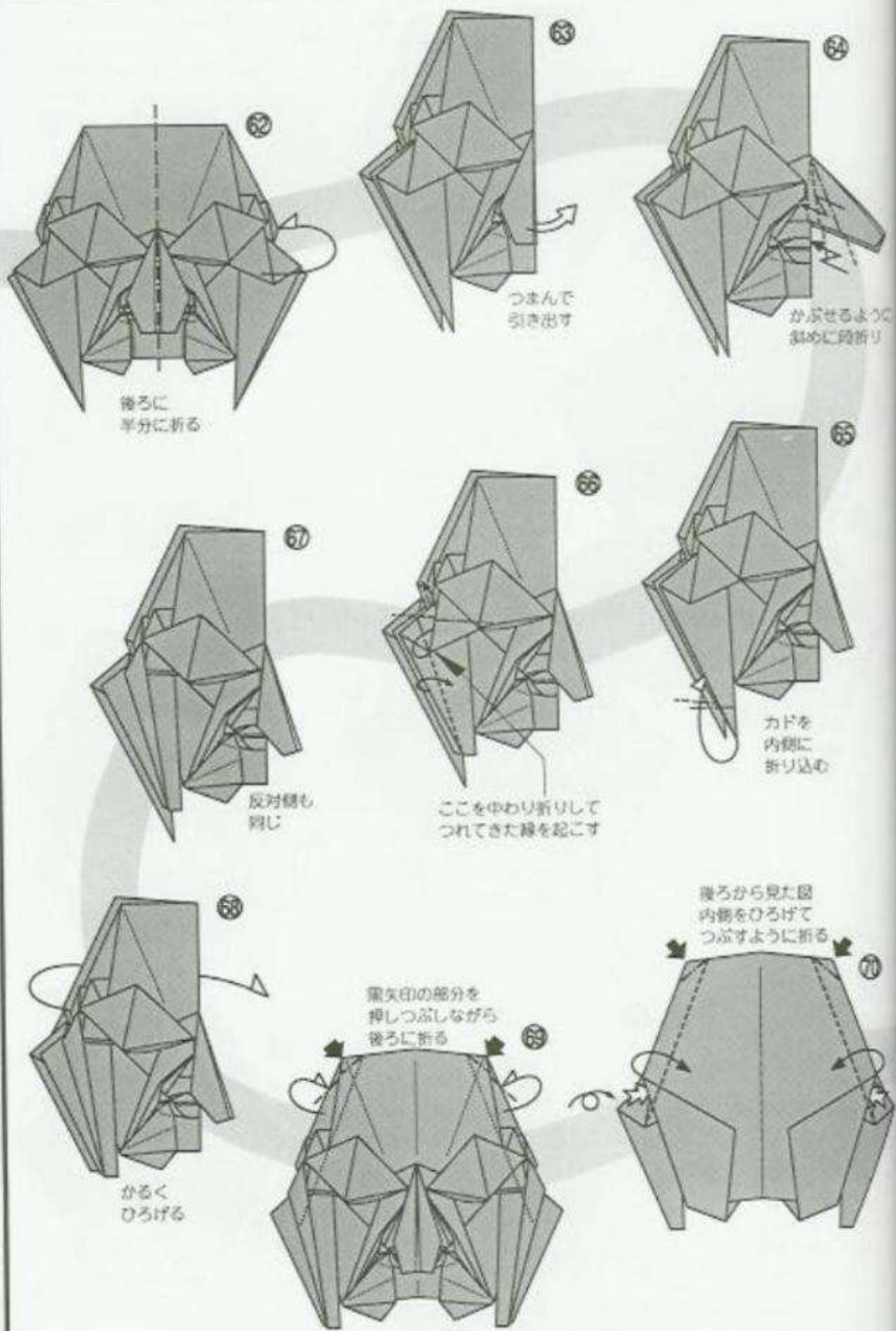


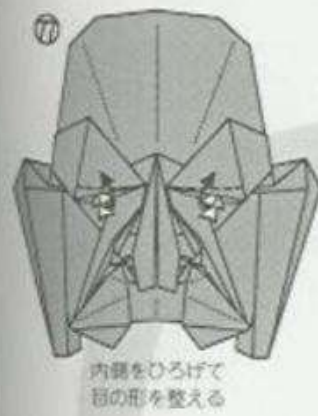




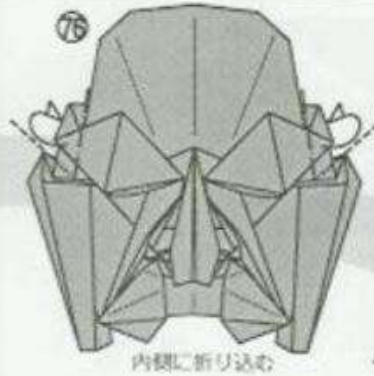




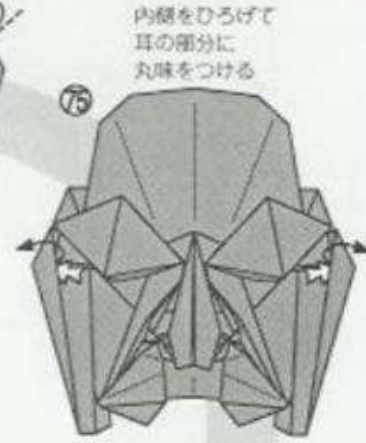




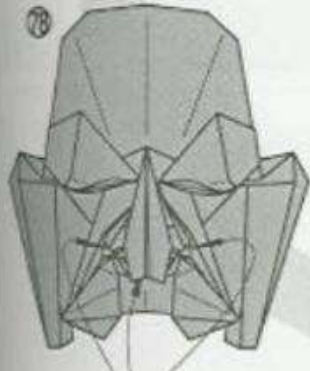
内側をひろげて
目の形を整える



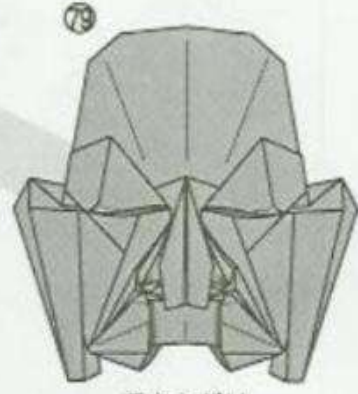
内側に折り込む



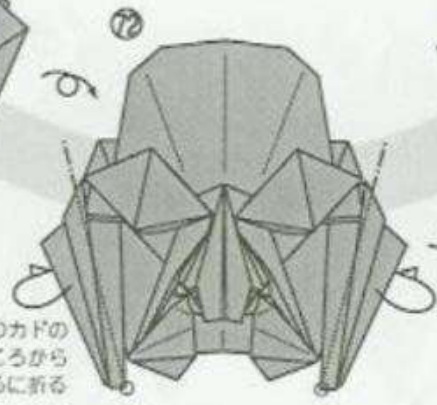
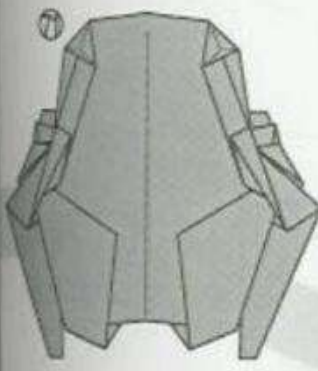
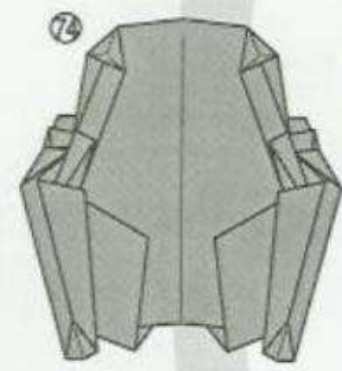
内側をひろげて
耳の部分に
丸味をつける



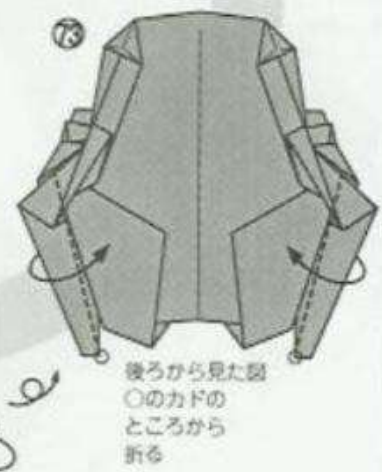
上、下の唇を起こして
立体的にする



できあがり



○のカドの
ところから
後ろに折る



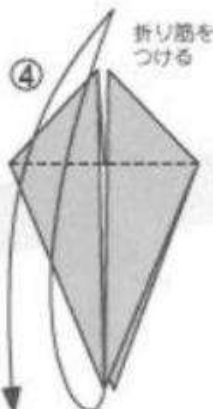
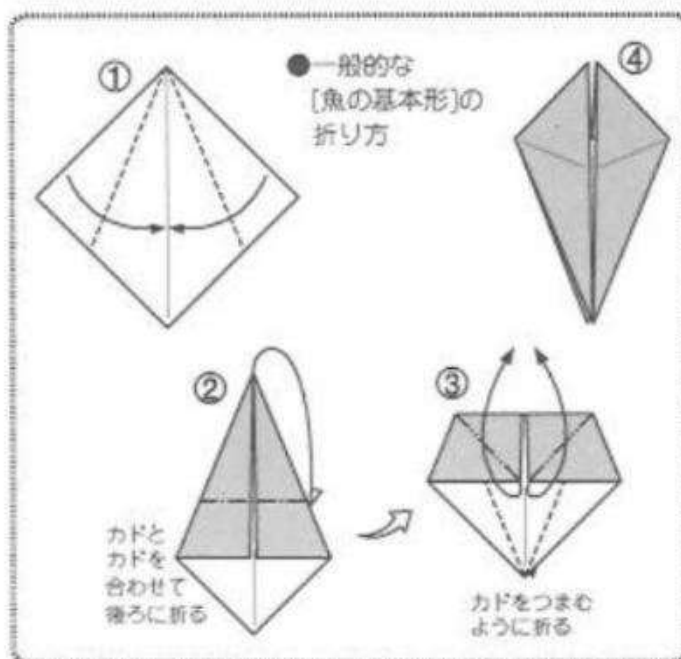
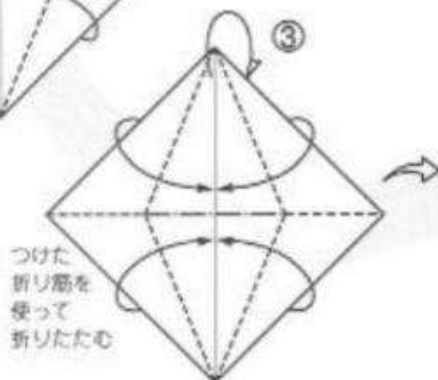
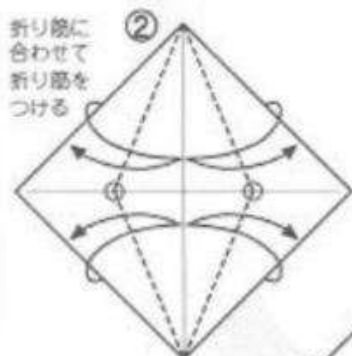
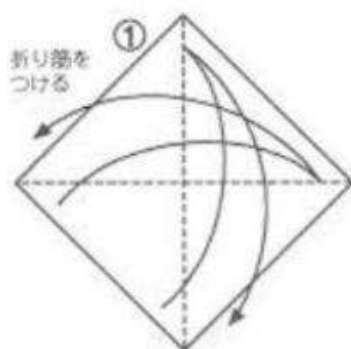
後ろから見た図
○のカドの
ところから
折る

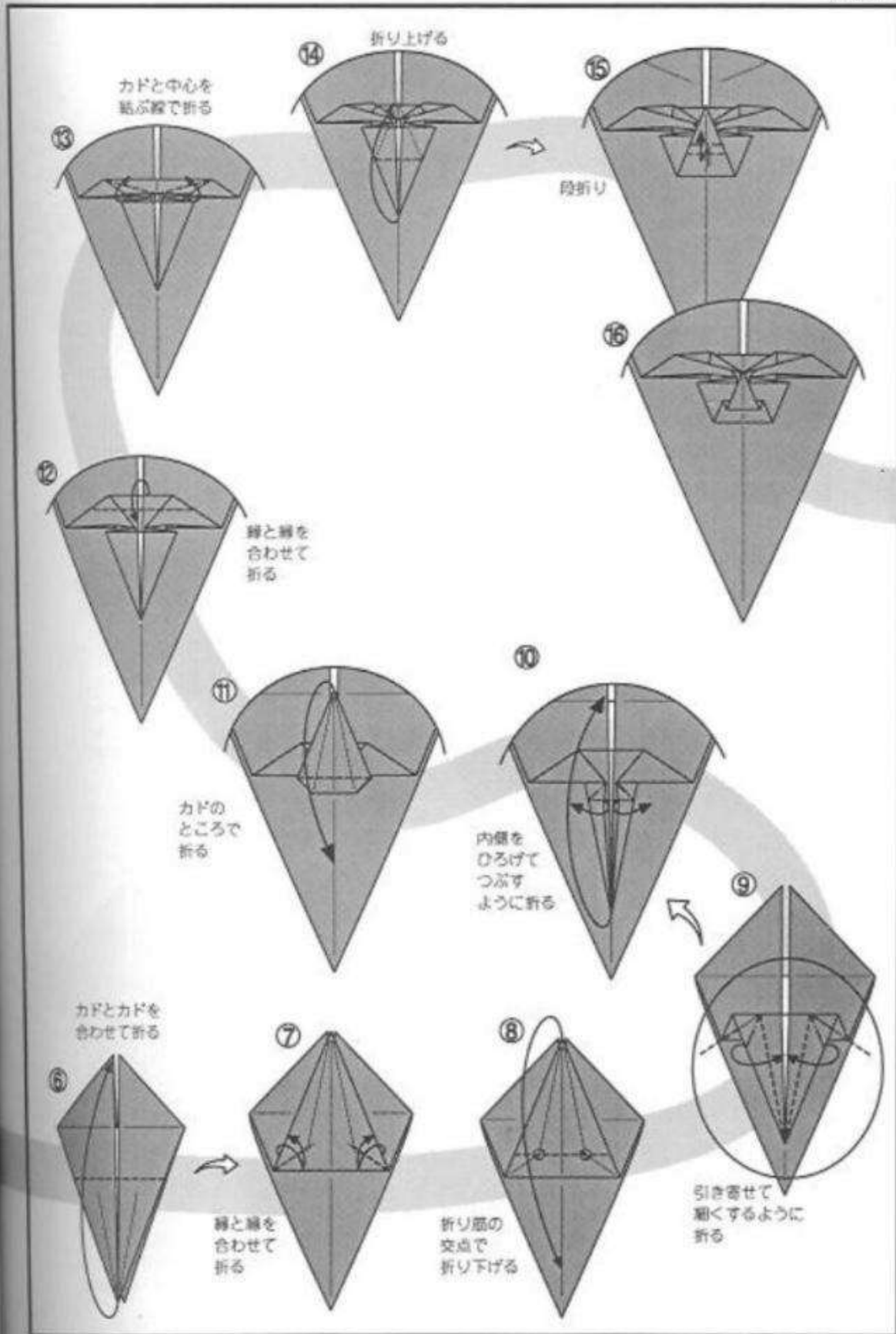


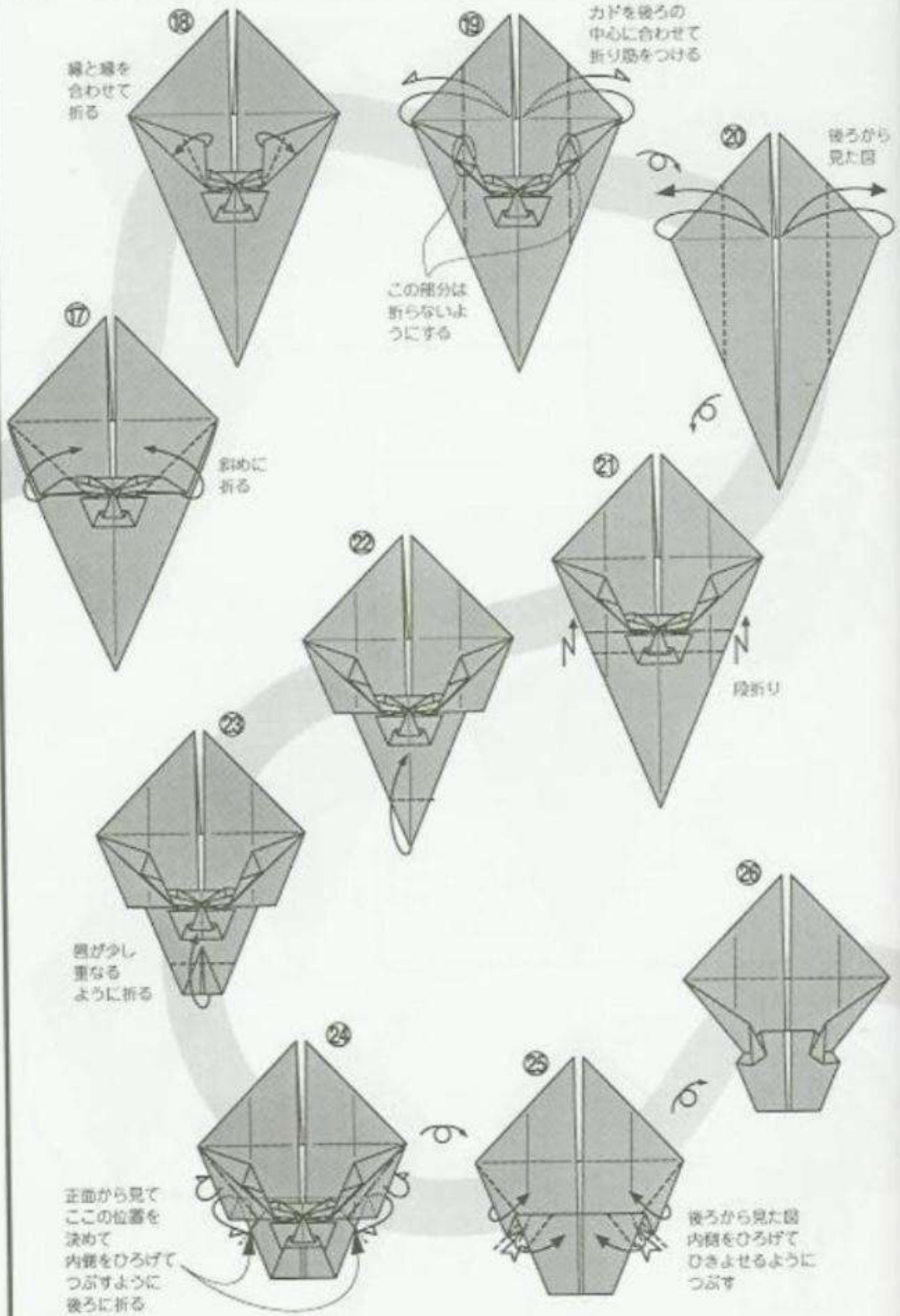
乙女に懸想した崑崙（こんろん；古く中国では黒人をそ
うよんだ）を打ち負かす役回り。かたく結んだ口と頬の
張りが特徴。したがって目の折り方と、21、25のあごの
折り方に留意。



●4までは、通常
[魚の基本形]のように
折ればいいのですが、
余分な折り筋をつけたく
ないで図に従って
折ってください。



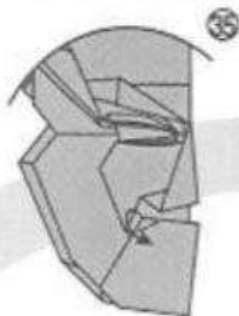




線を折って
目の形を整える
反対側も同じ



カドを少し折る



しっかりと
折り癖を
つけてから
おこすように
する



反対側も同じ



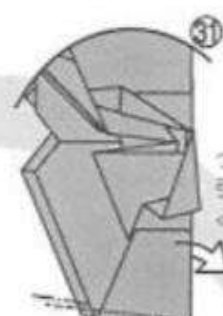
カドを内側に
折る
反対側も同じ



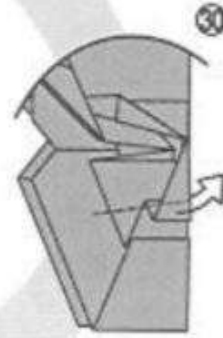
それぞれ
カドを少し
後ろに折る



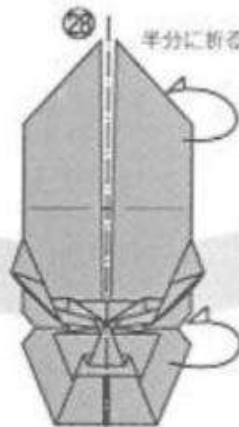
つまんで
引き出す
ように折る



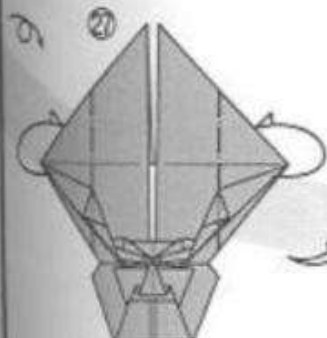
つまんで
引き出す
ように
折る

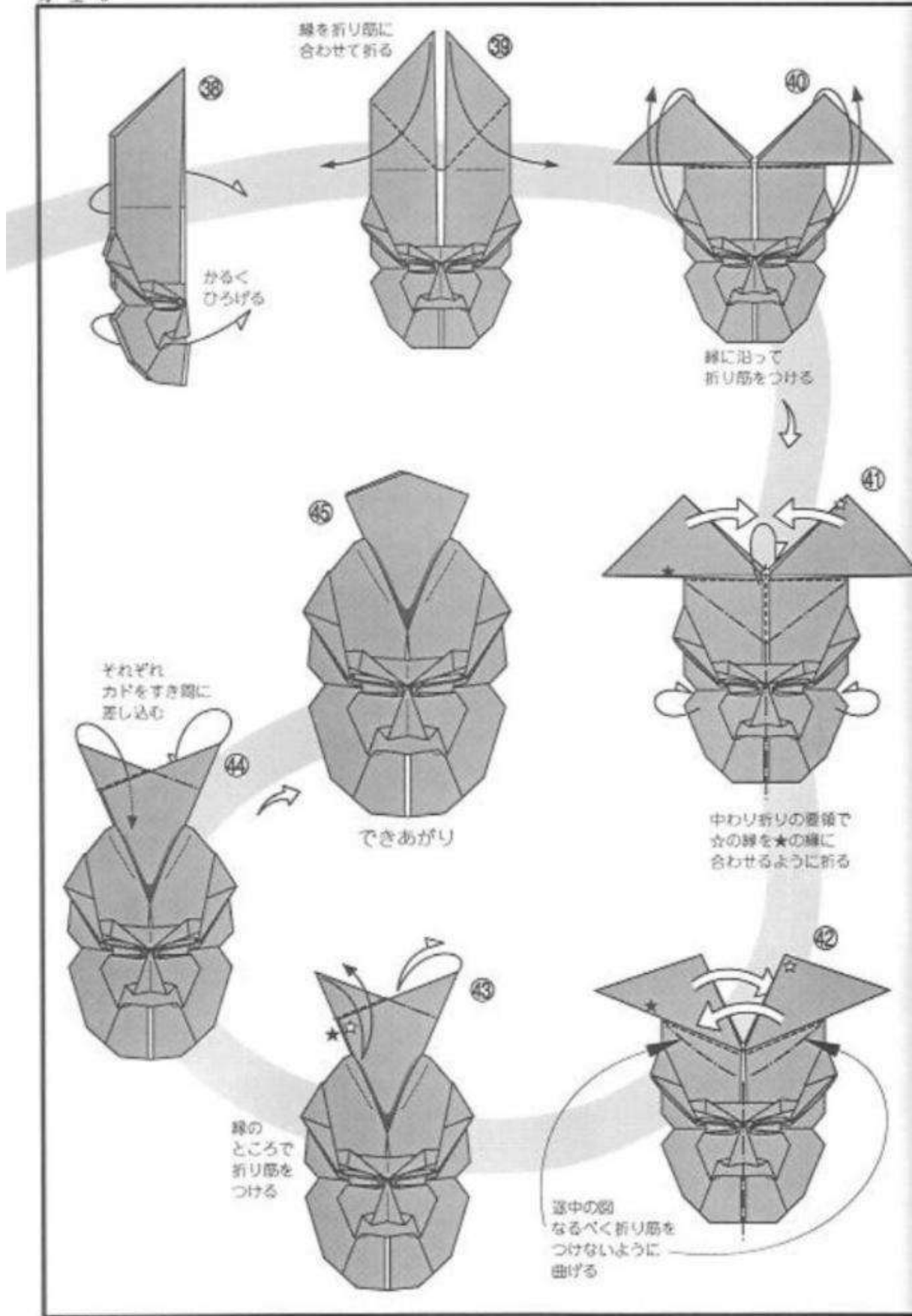


半分に折る



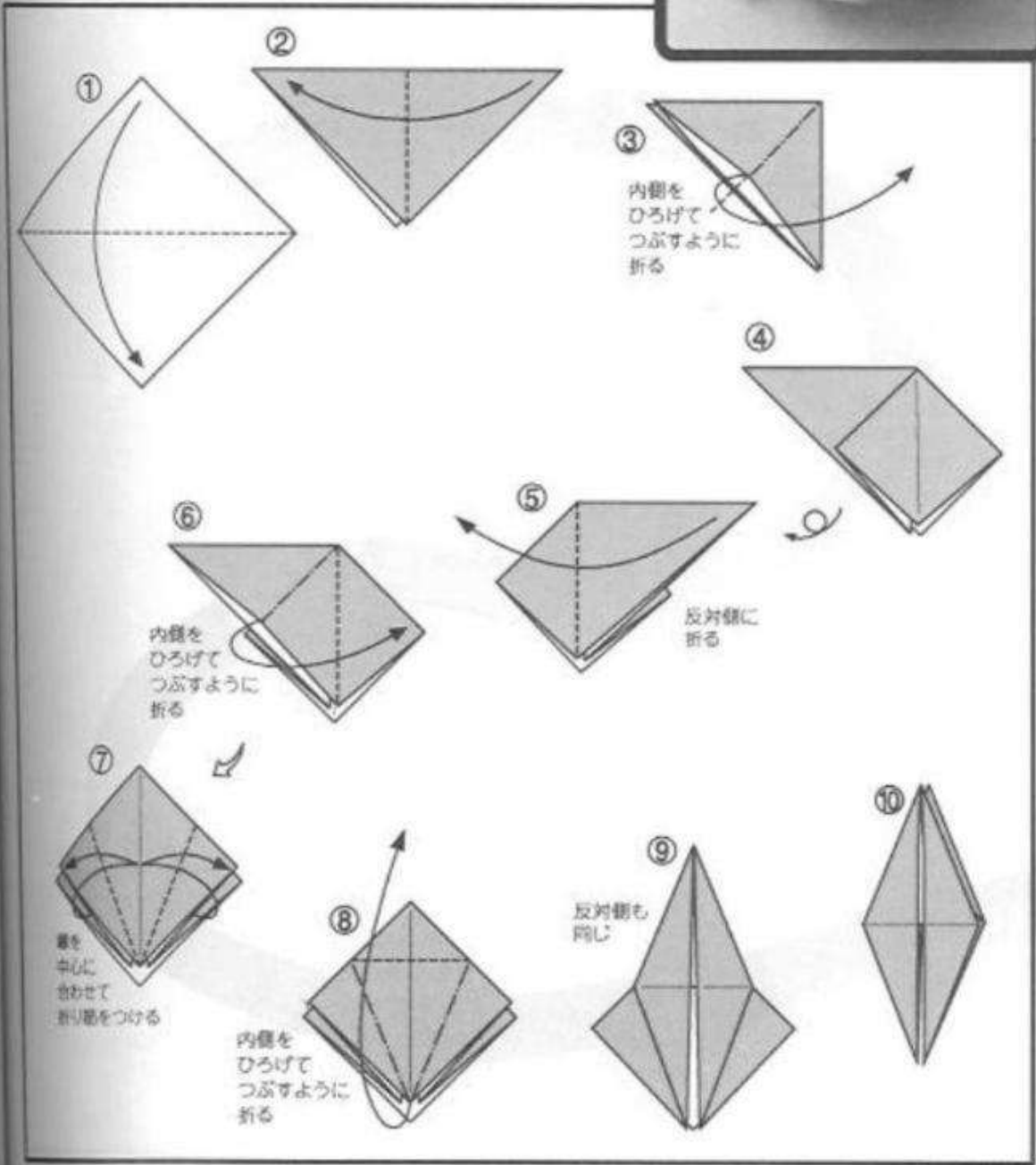
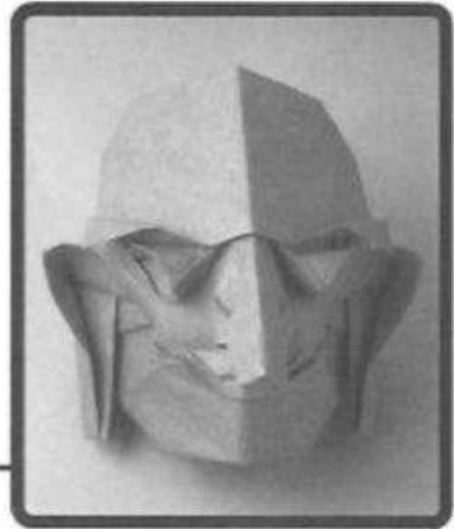
折り紙で折る

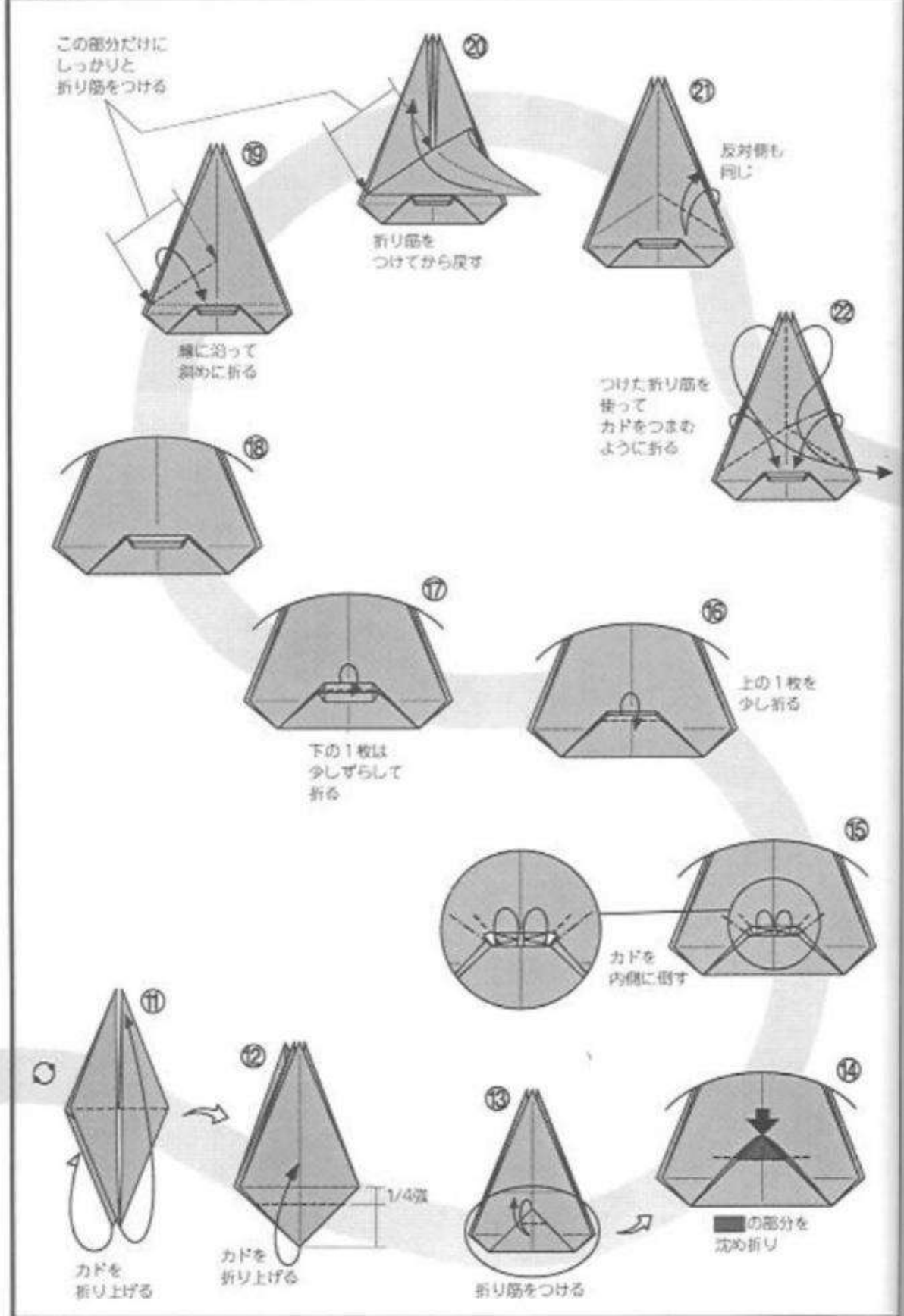


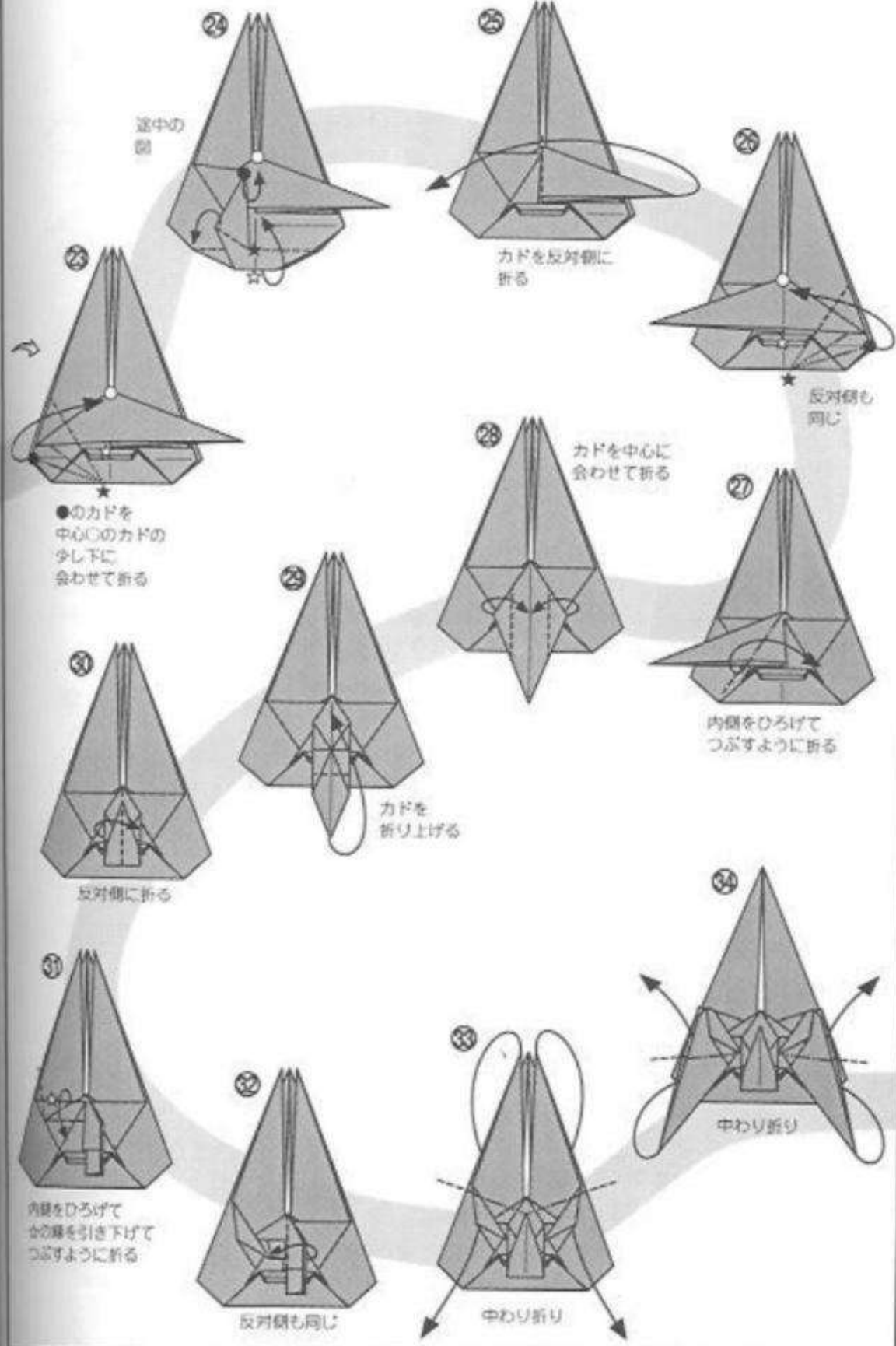


ち どろ 治 道

行列の露払いや先達の役目をもつ。
目をつりあげ気味にきりりとさせた。後世になって行列
の先頭にならぶ天狗や猿田彦はこうしたものから転化し
たらしいそうで、鼻は立派に仕上げた。



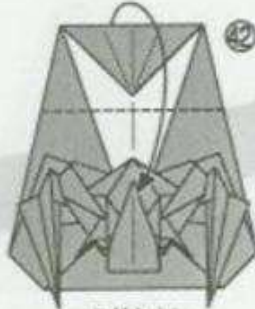






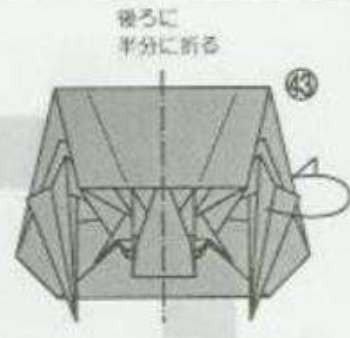
カドのところで
折り下げる

39



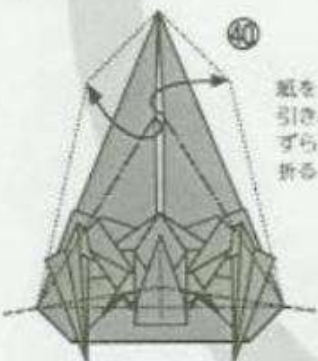
カドを少し
かぶせる
くらいに
折り下げる

40



後ろに
半分に折る

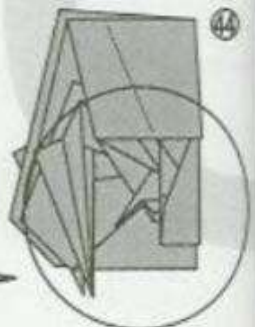
41



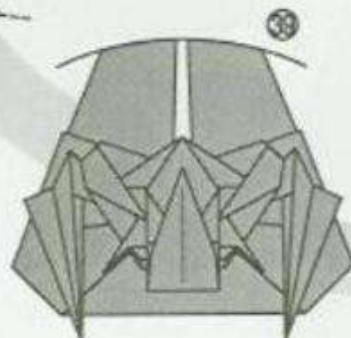
紙を
引き出して
ずらすように
折る

42

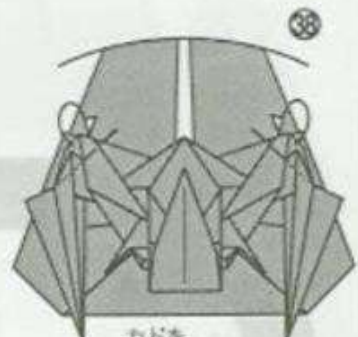
半分に折ると紙の
厚みで、すでに41
のようになる場合が
多いのでそのときは
ここで、ひたいと
裏を折る



43

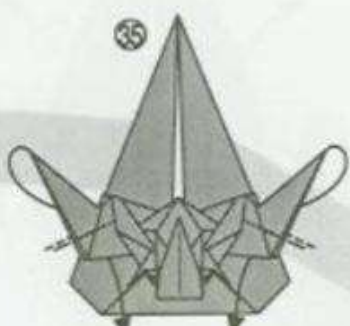


44



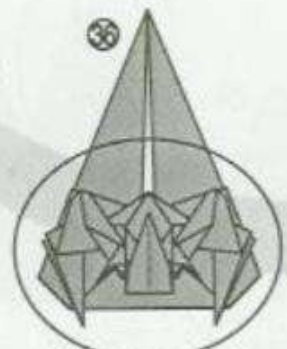
カドを
後ろに折る

45

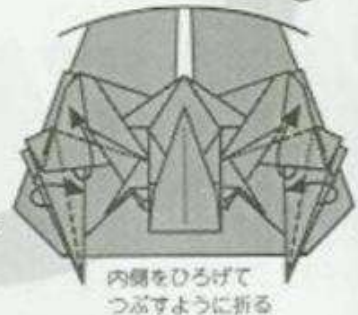


中わり折り

46

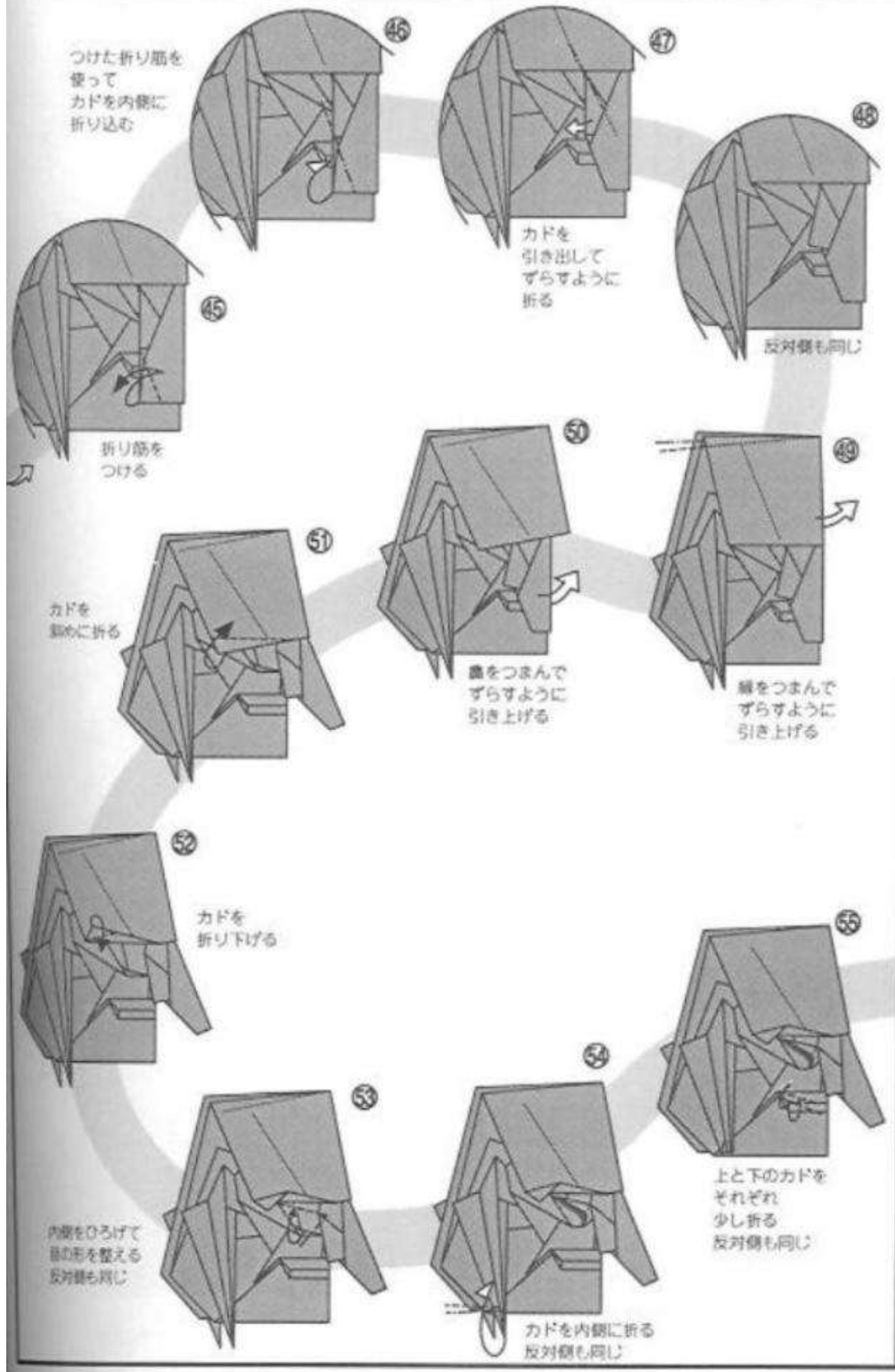


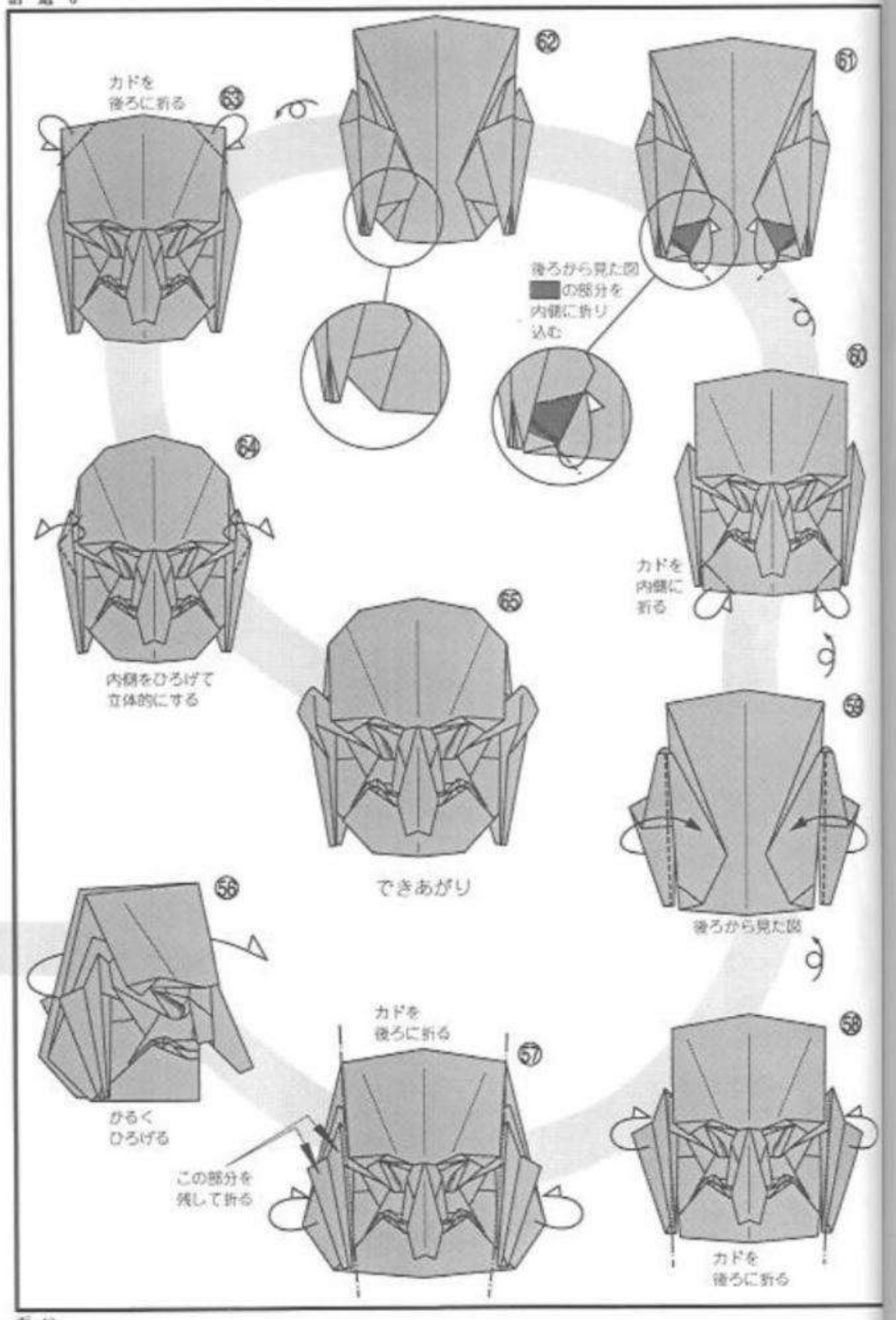
47



内側をひろげて
つぶすように折る

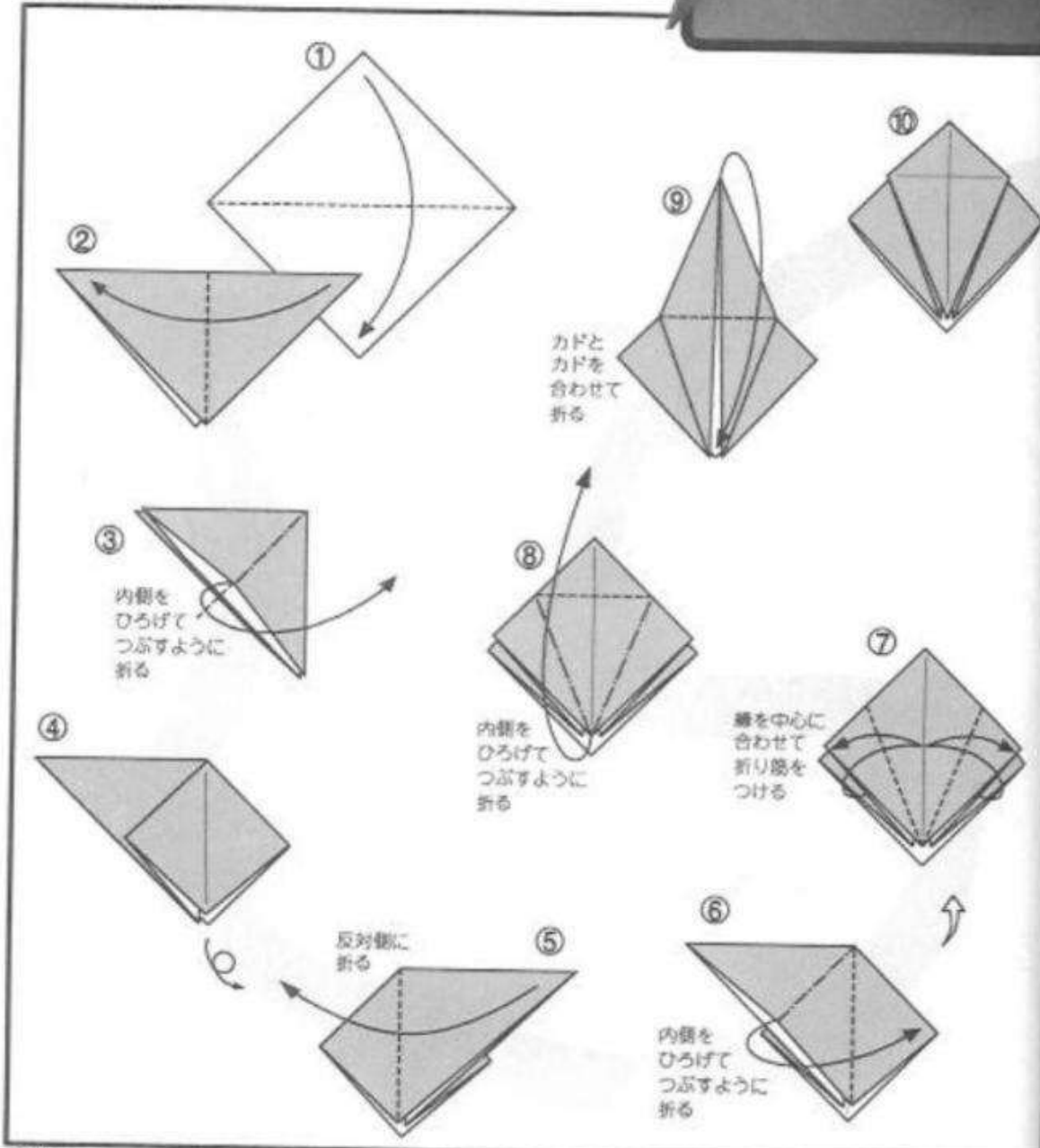
48

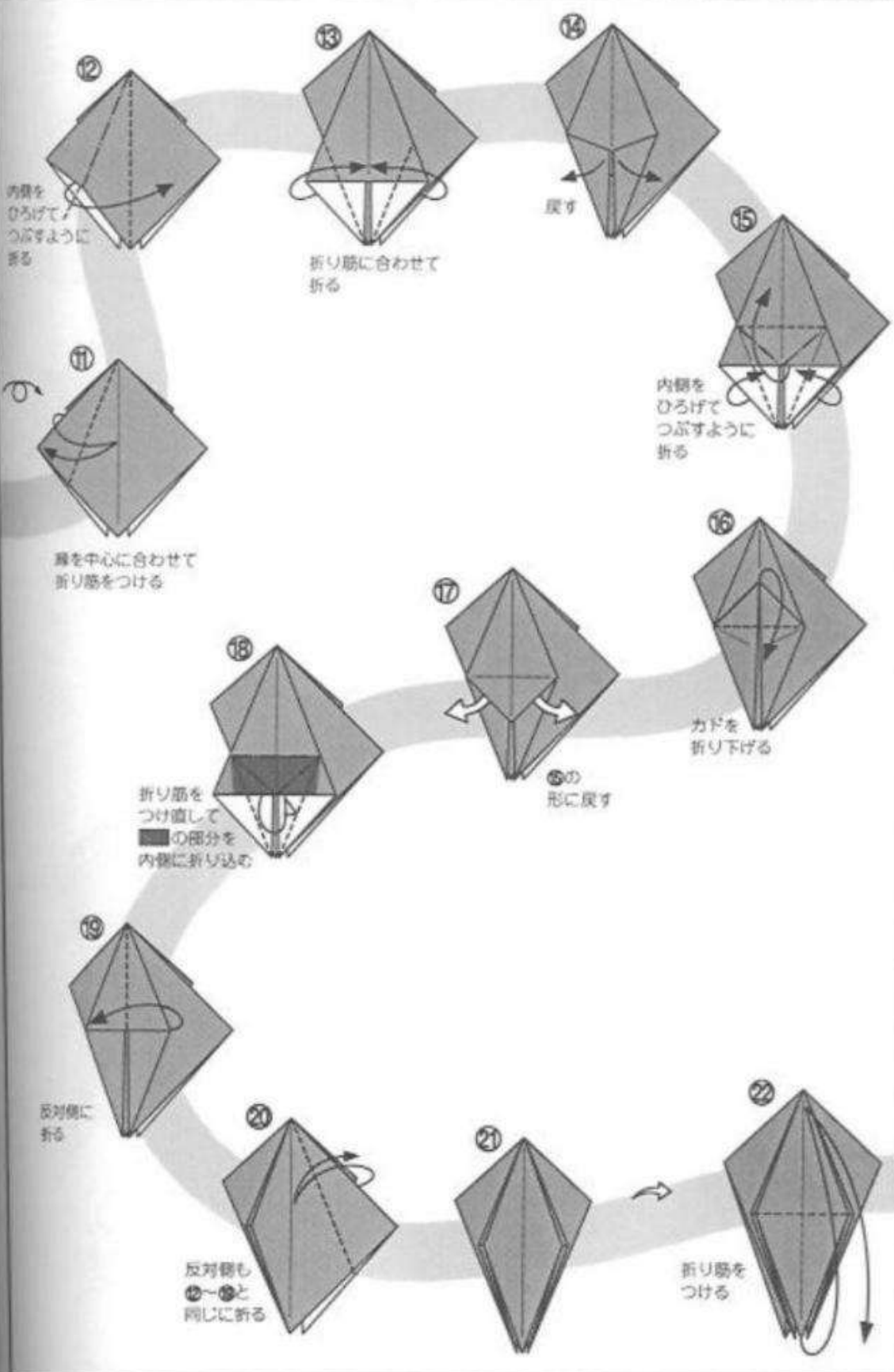


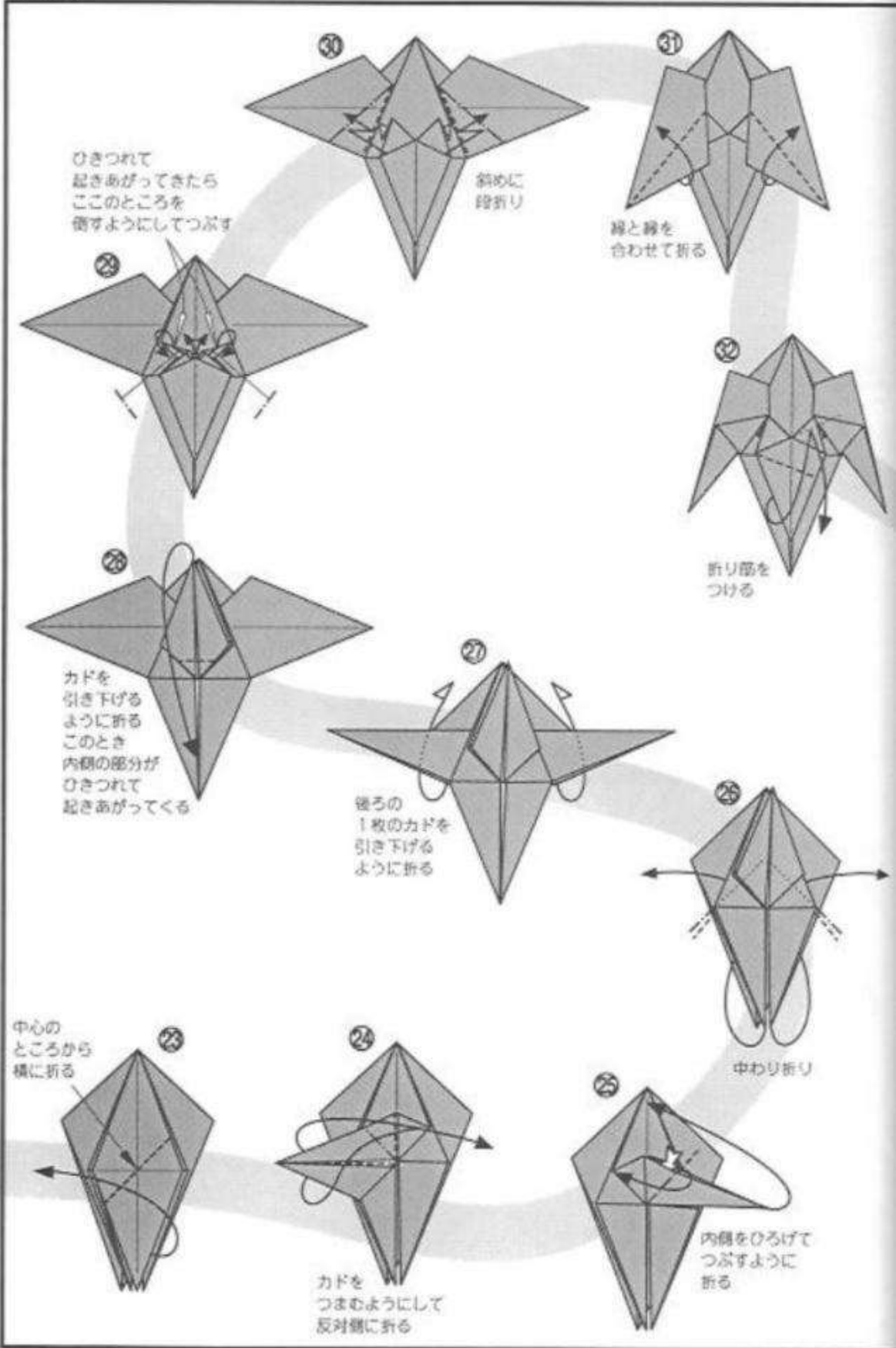


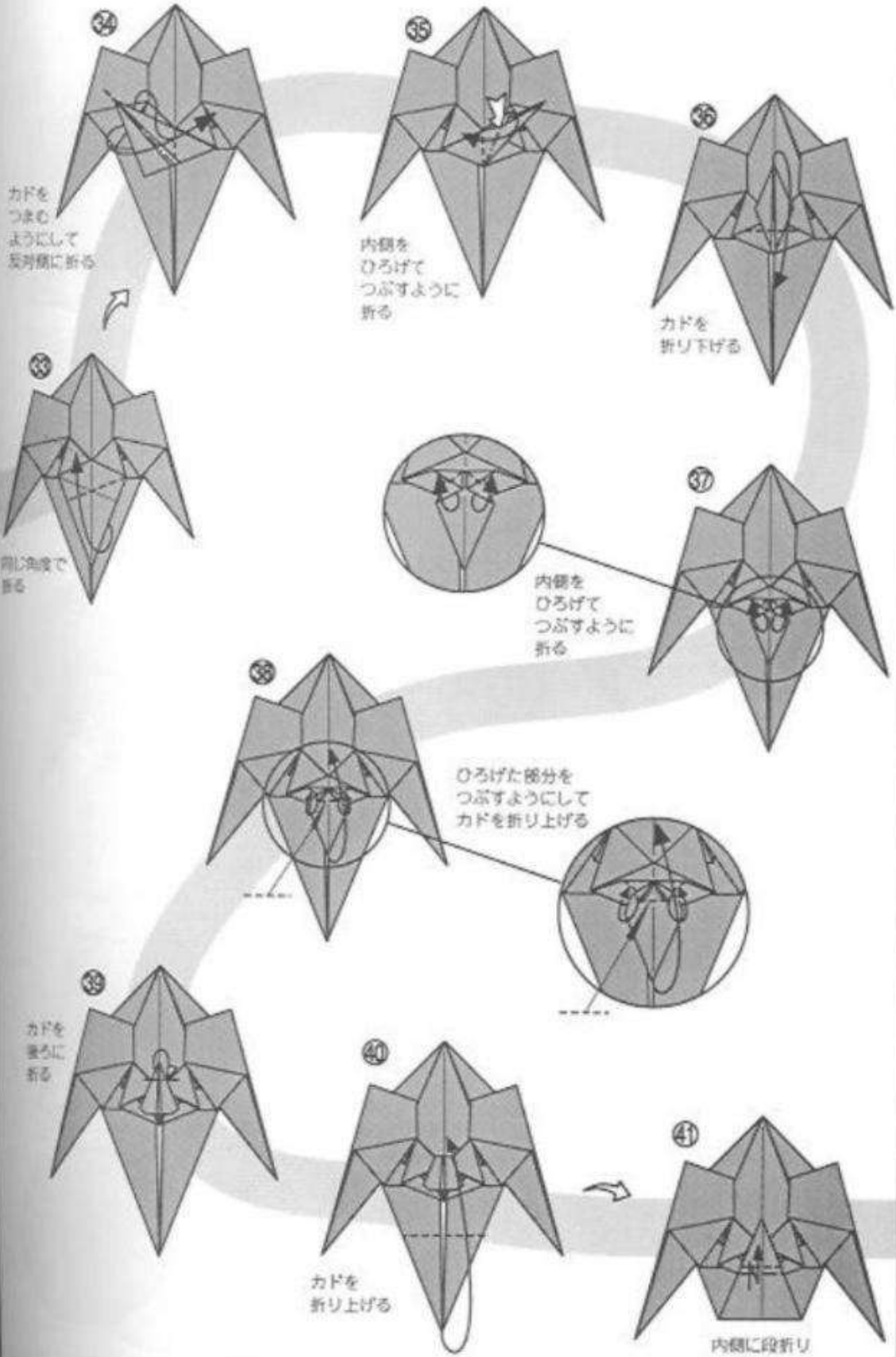
は とう 抜 頭

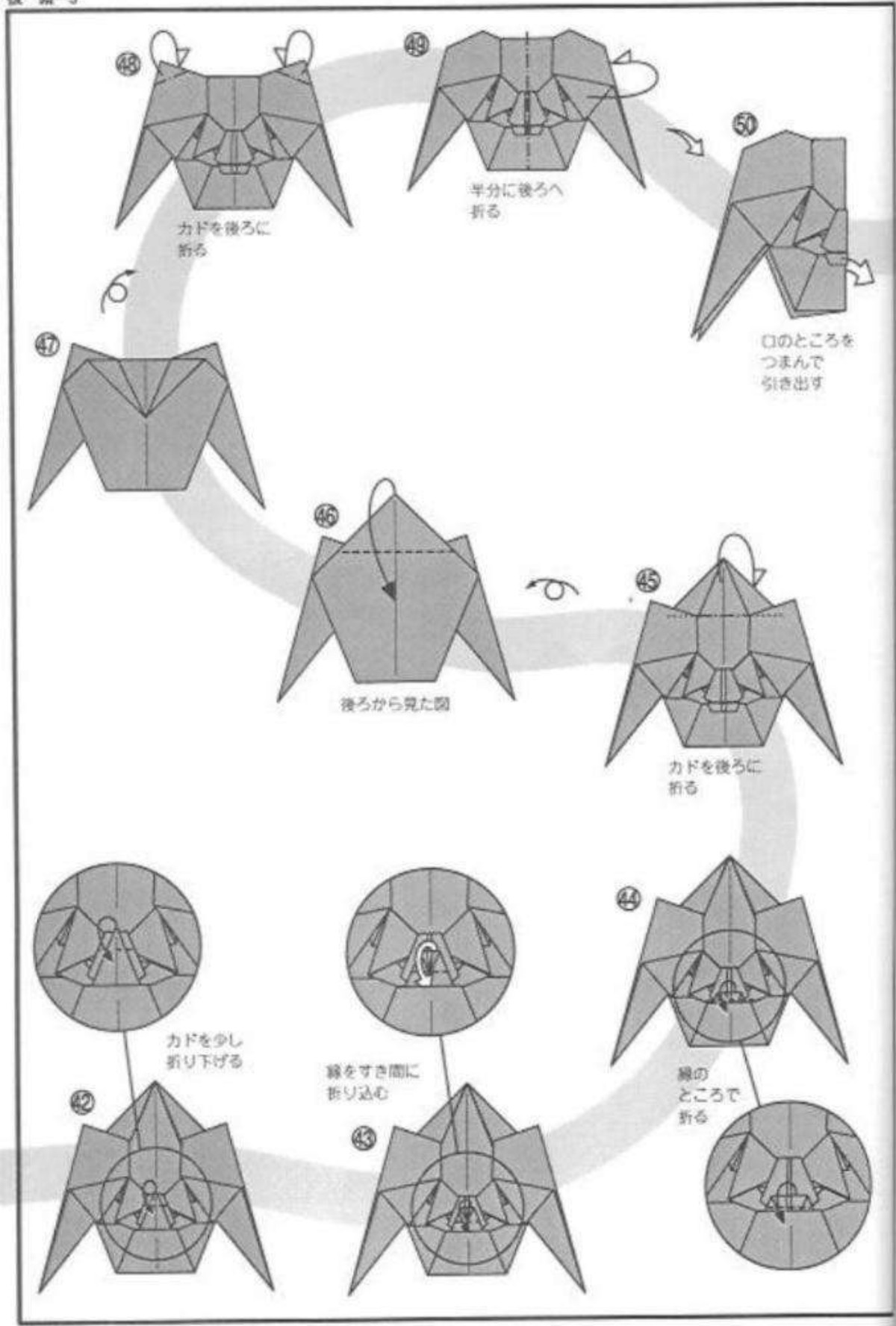
父を猛獣に殺された胡人がその仇を討ち、山道をかけ下りてくる様を写したという。興奮した力感のある顔を、目や口元になるべく単純に表現し、振り乱した髪も左右に象徴的に表わした。比較的折りやすい面。

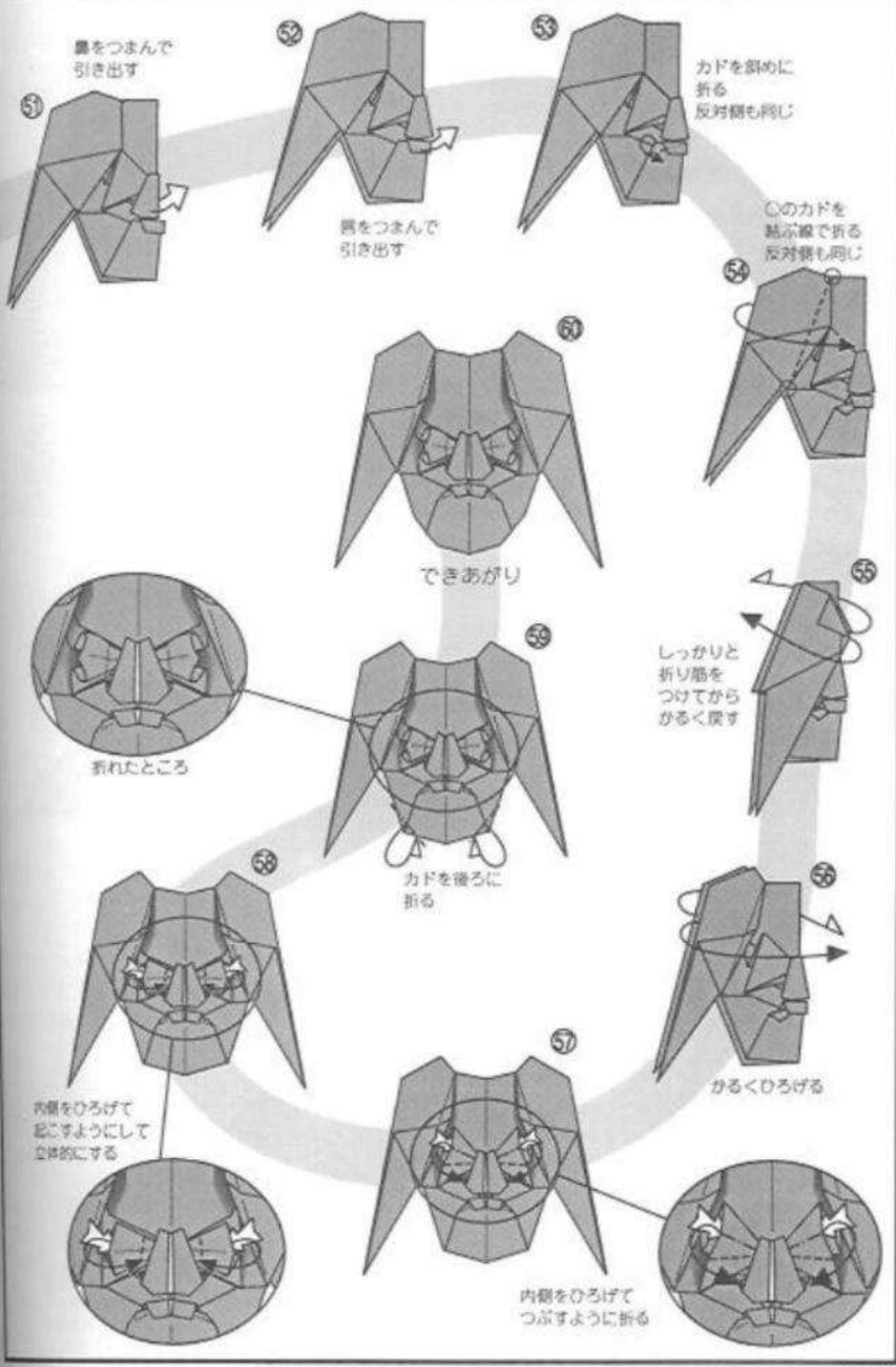












さん じ
散 手

竜頭の冠をつけ剣鋒を帯びた勇壮な武舞いに用いる朱色の面。本物を見たとき鼻の高いのに驚いた。つりあがった厳しい目を表現するのに複雑な技法を使ったが、目以外はおおぶりに仕上げた。

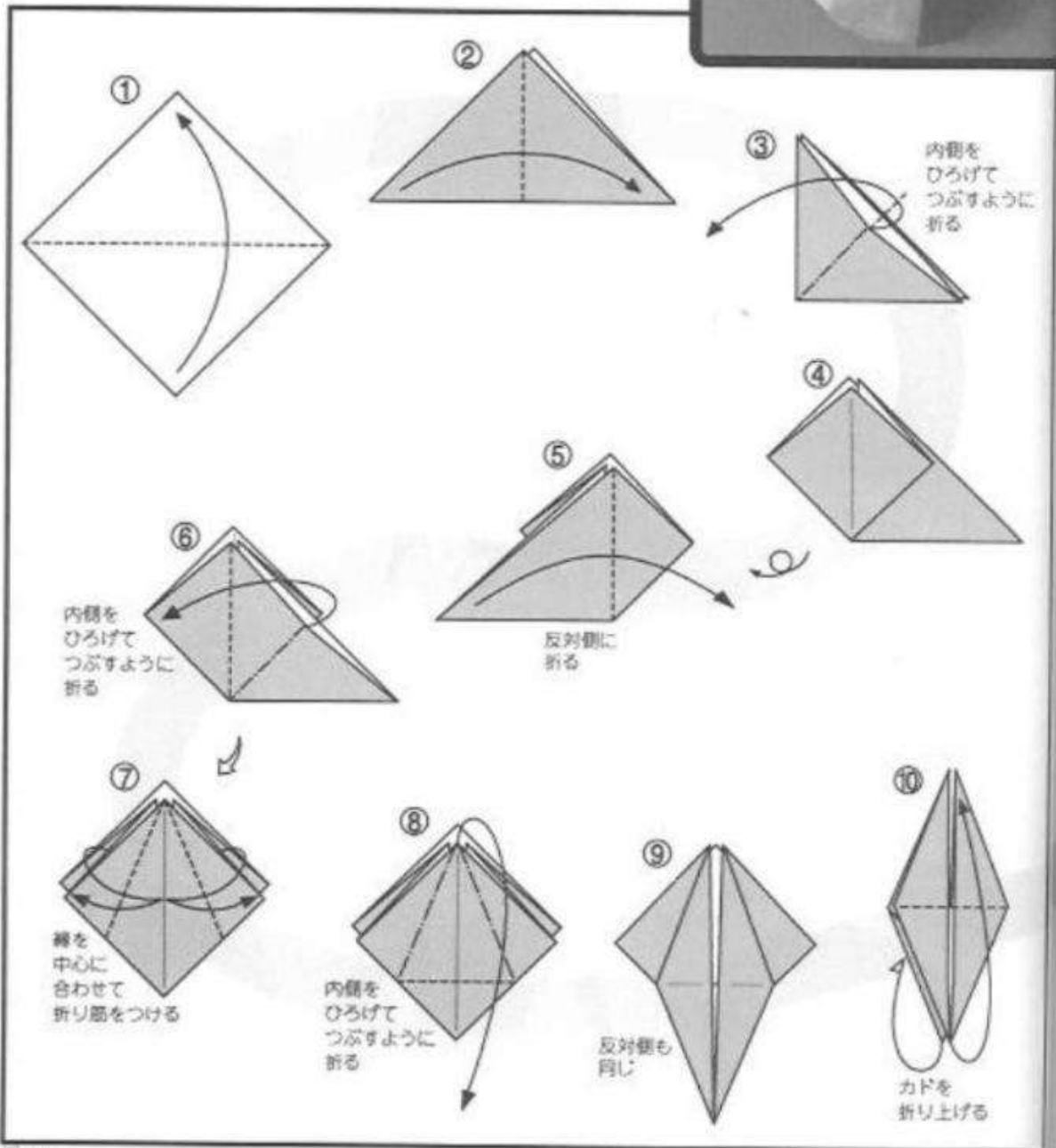
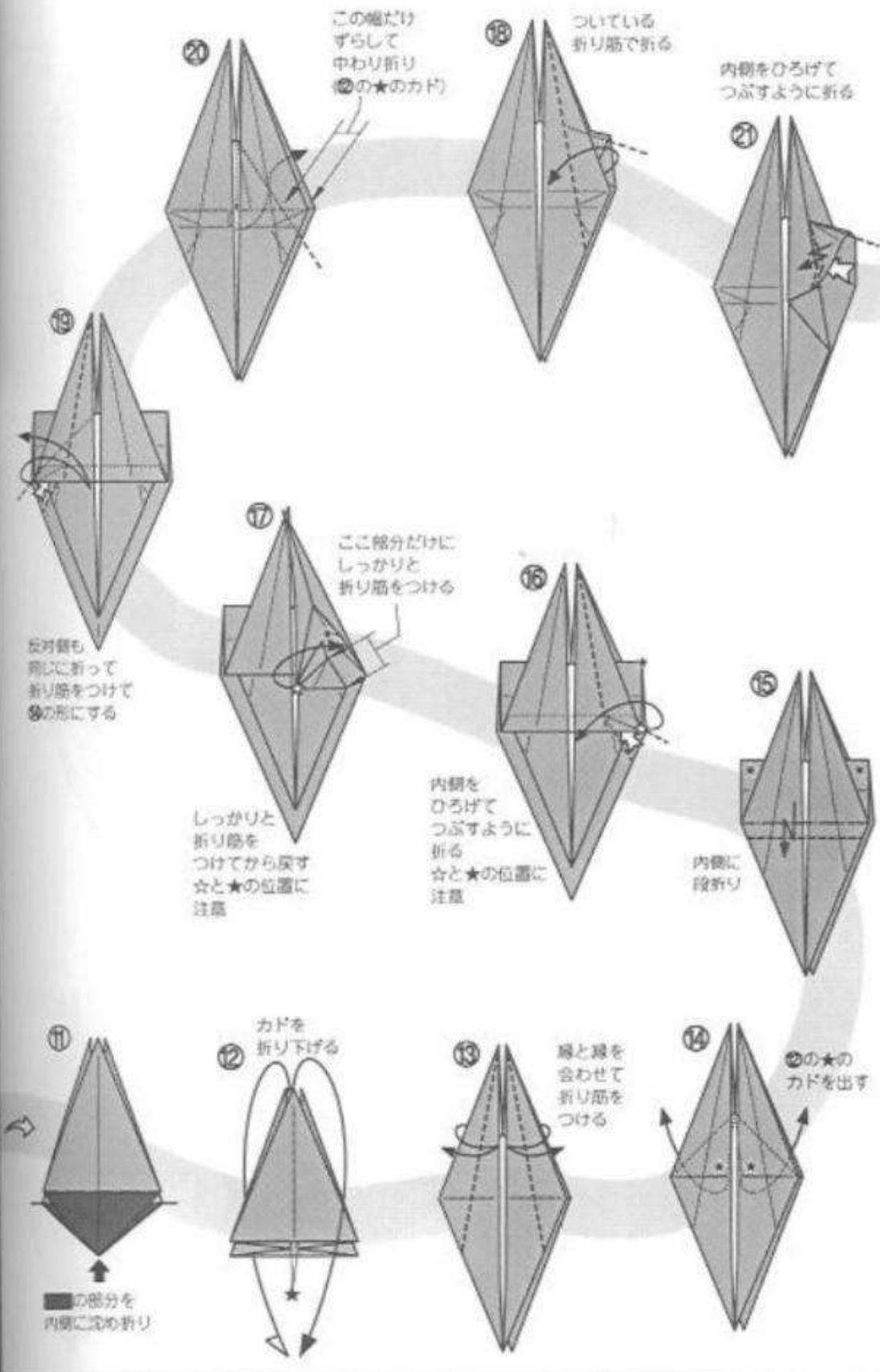
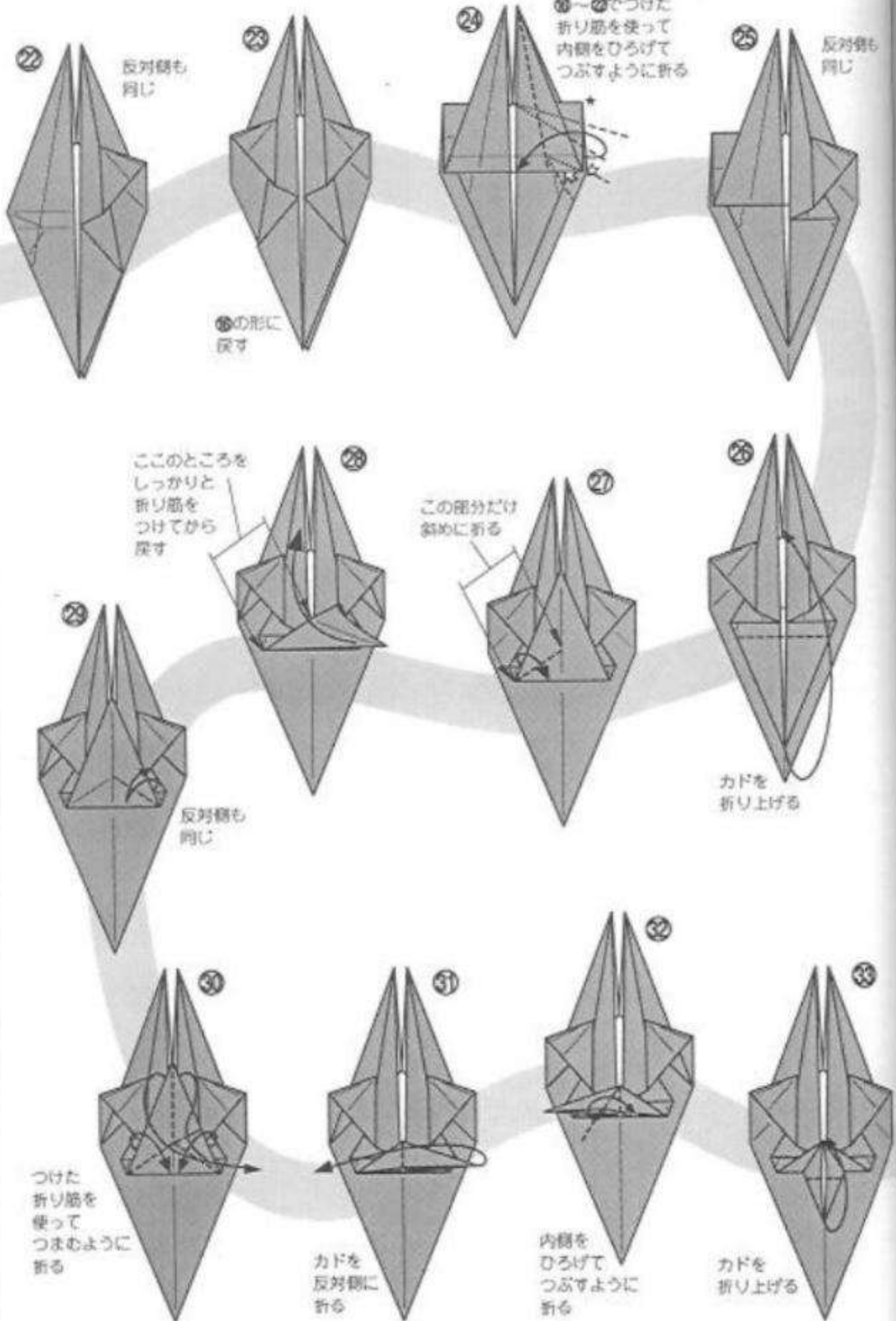
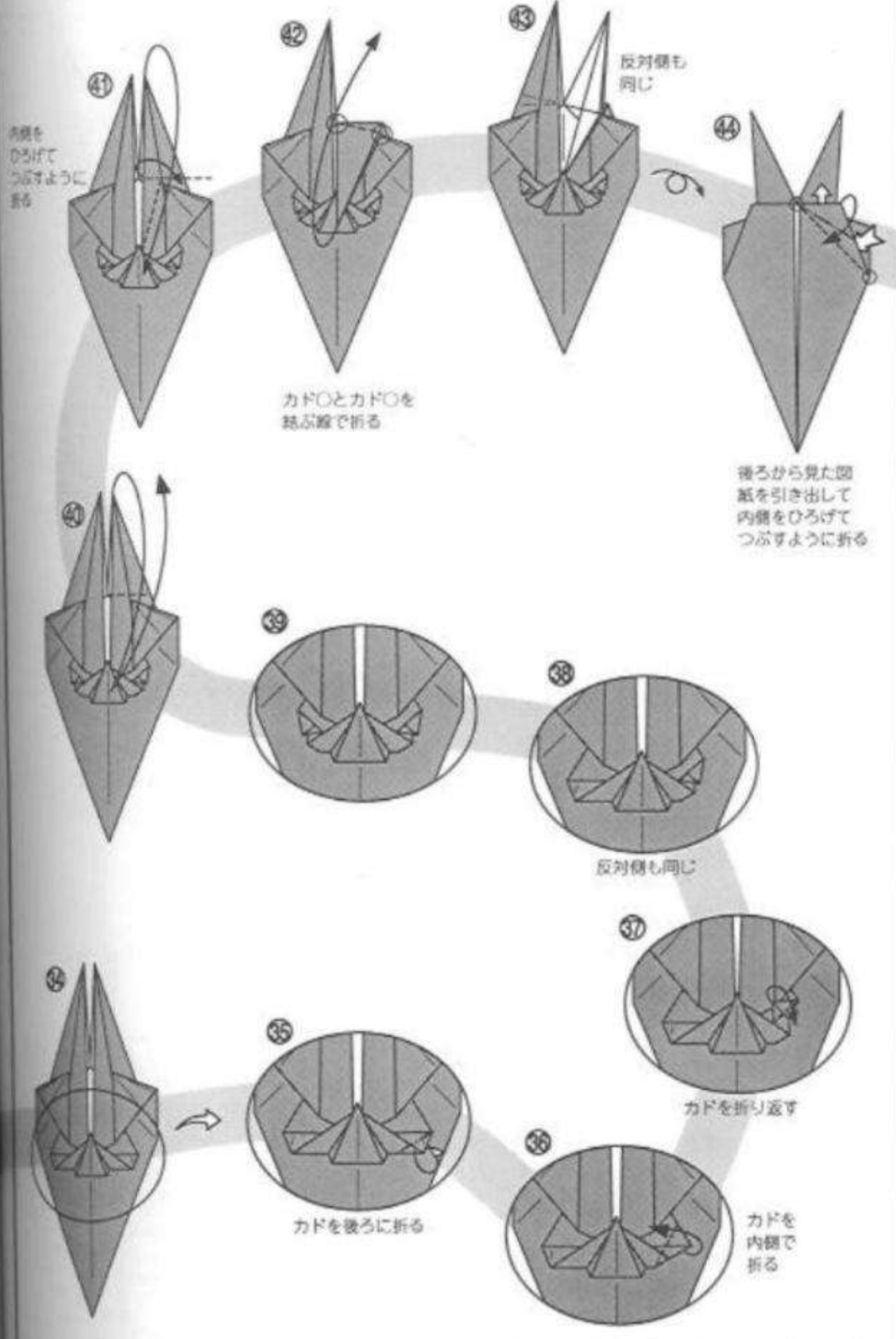
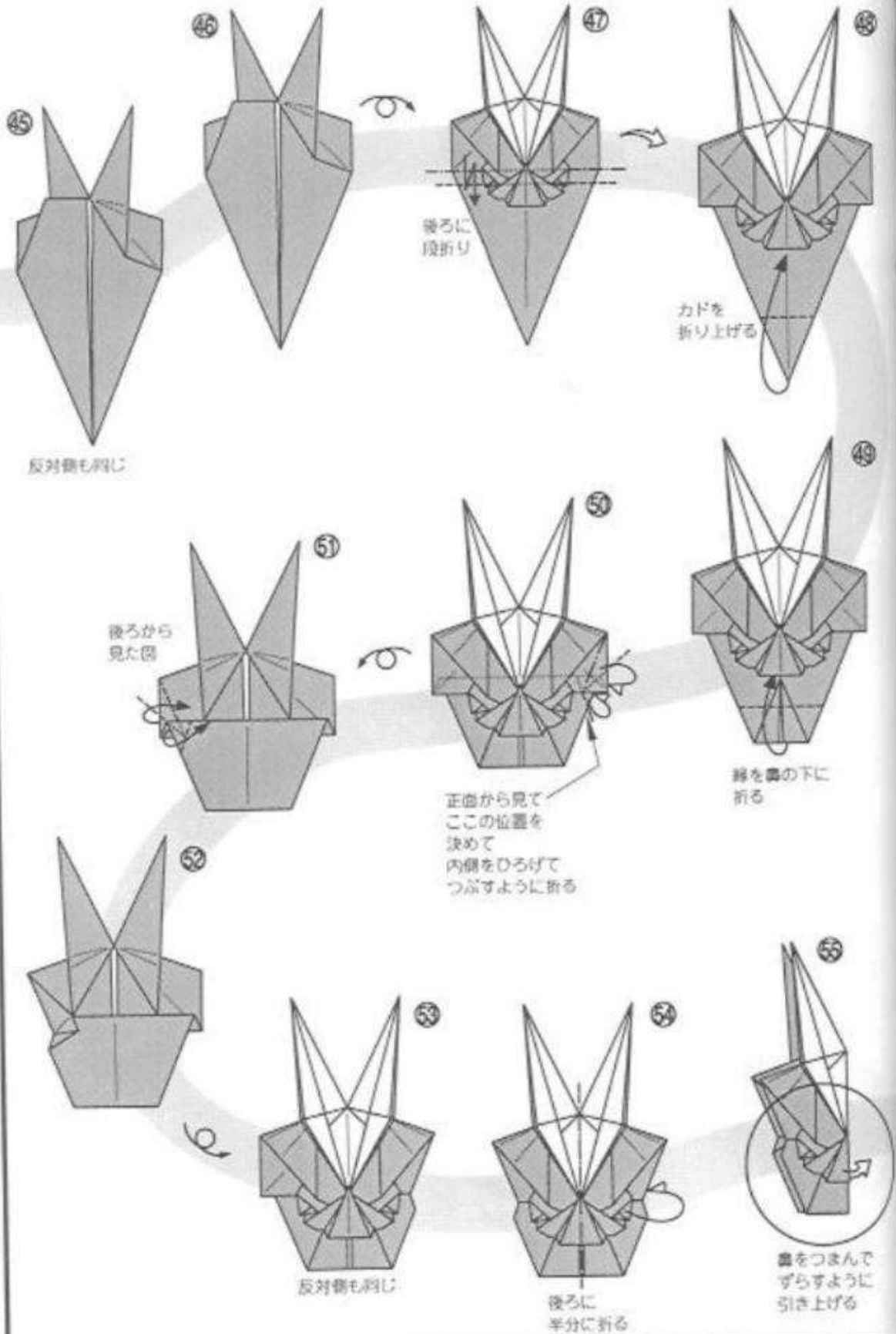


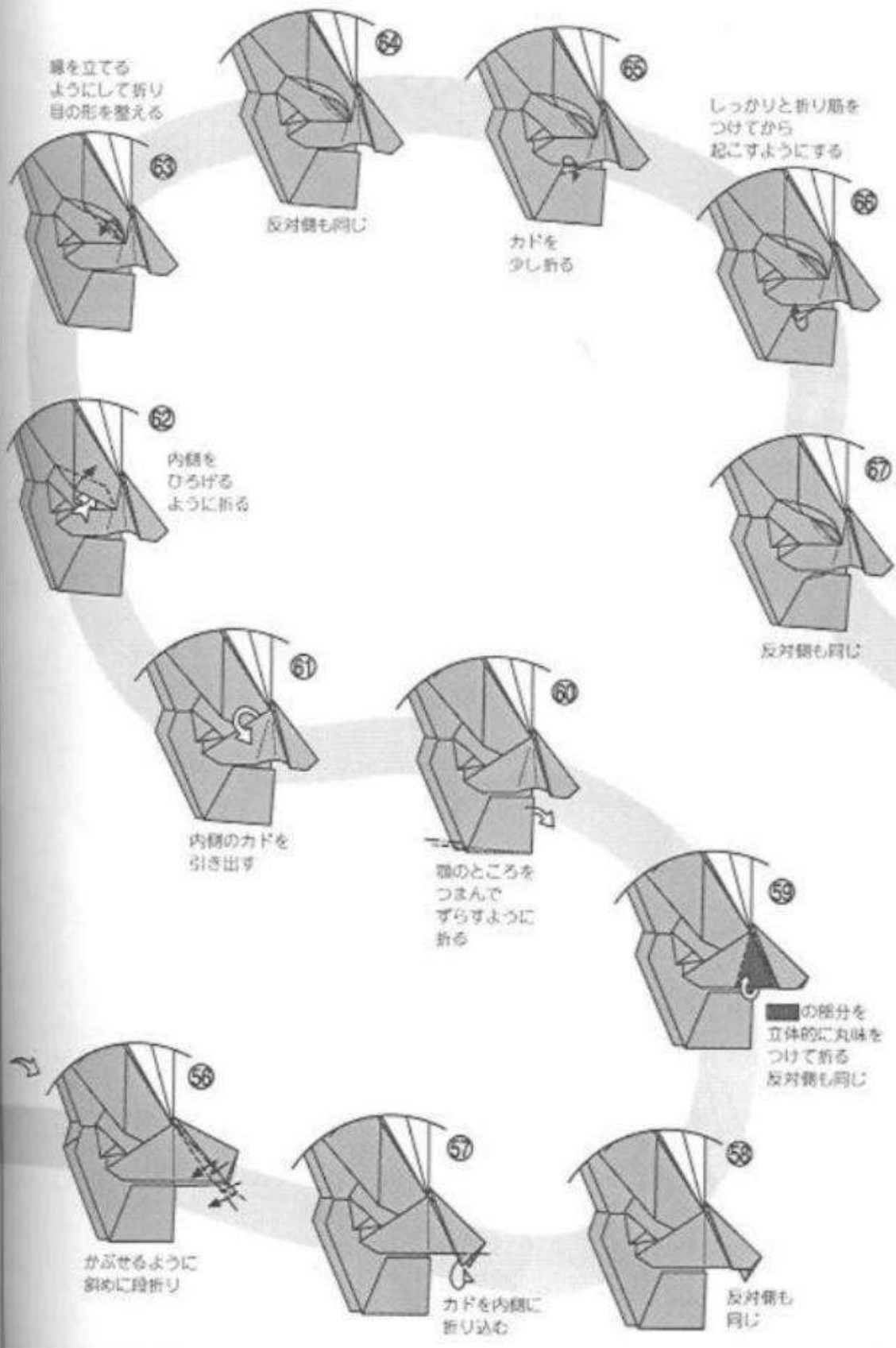
図-56











⑥で折ったカドの
すき間に差し込む
ように折る



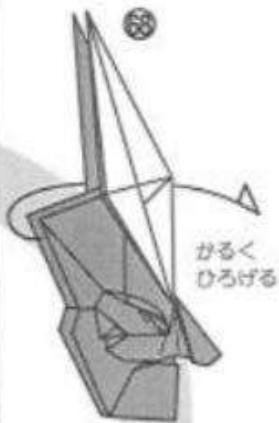
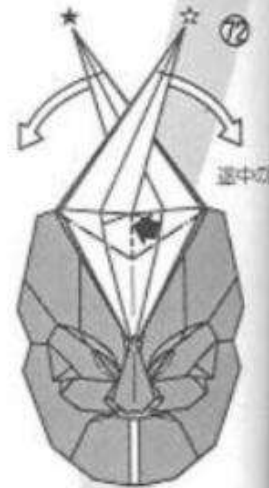
カドを
後ろに折る



線に沿ってカドを
後ろに折る

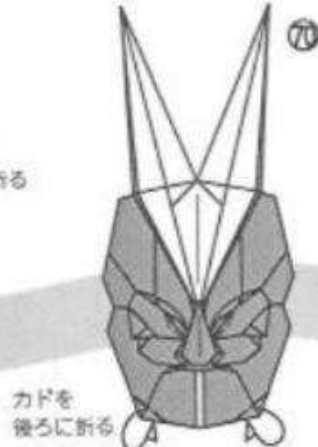
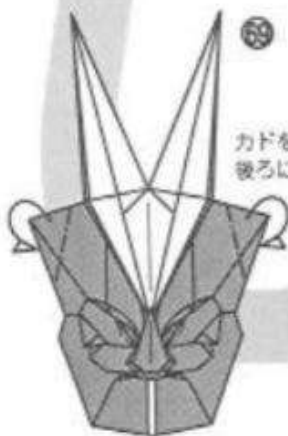


できあがり



星の印のところが
凹ますように
☆のカドと
☆のカドを
合わせるように

カドを
後ろに折る

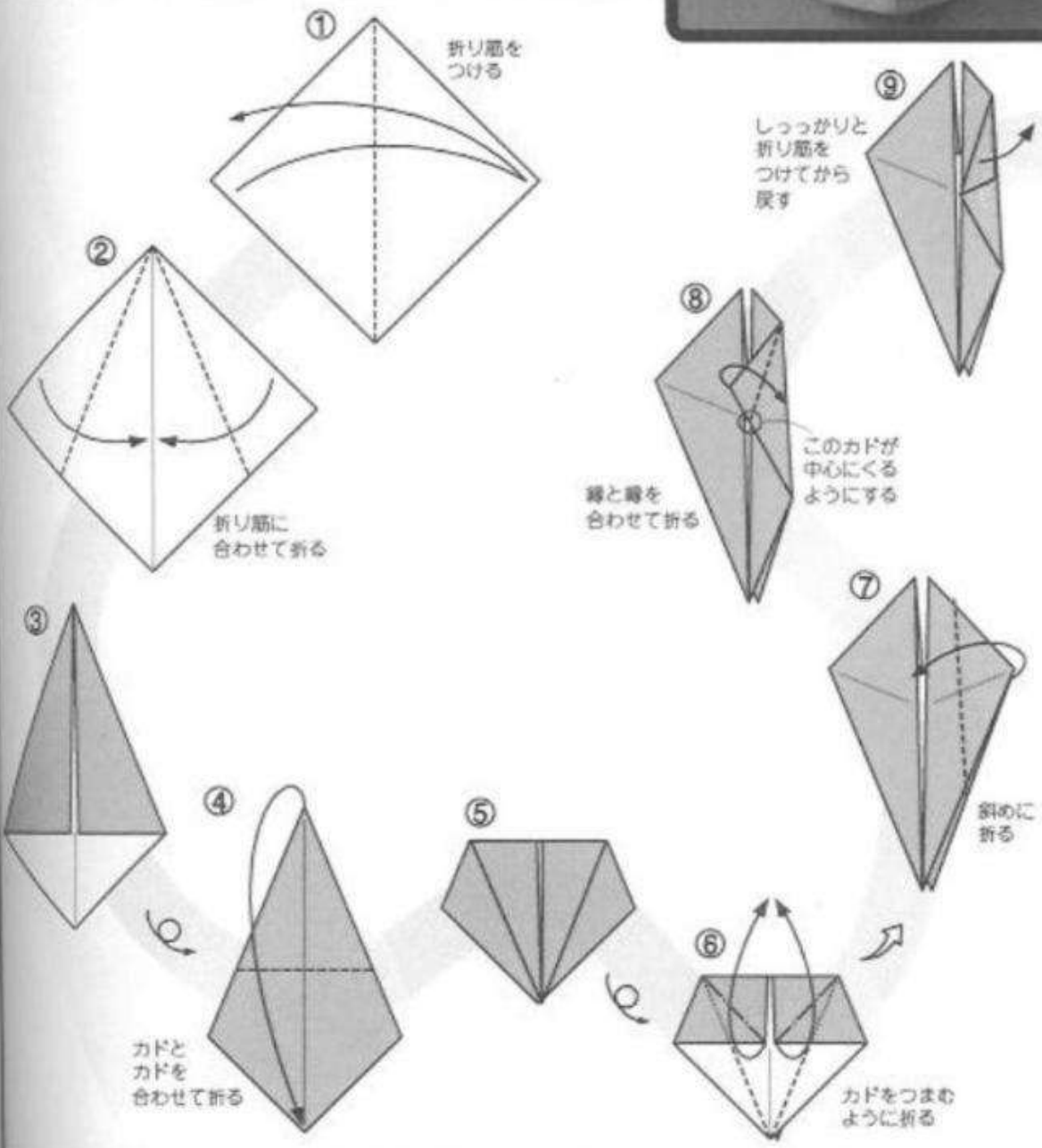


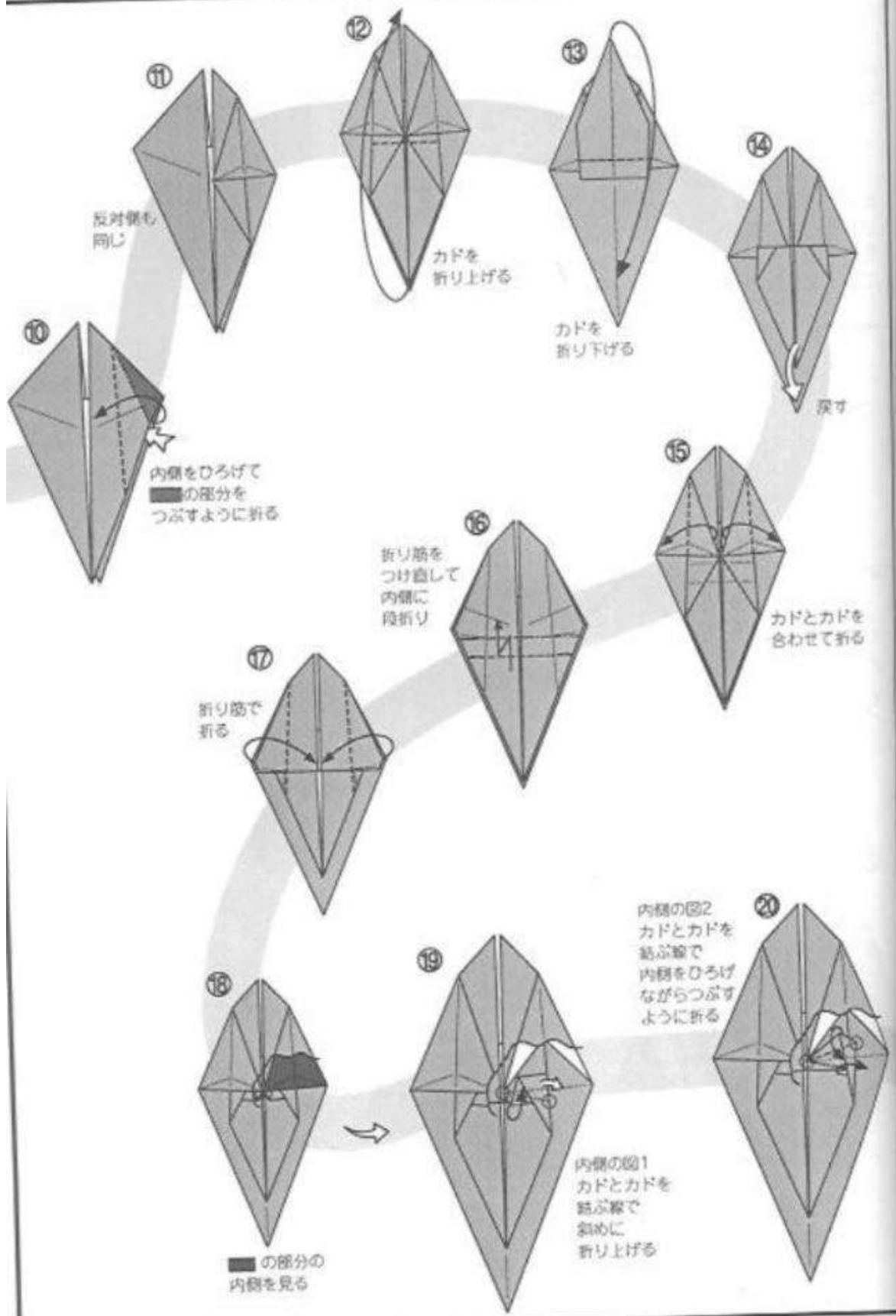
カドを
後ろに折る

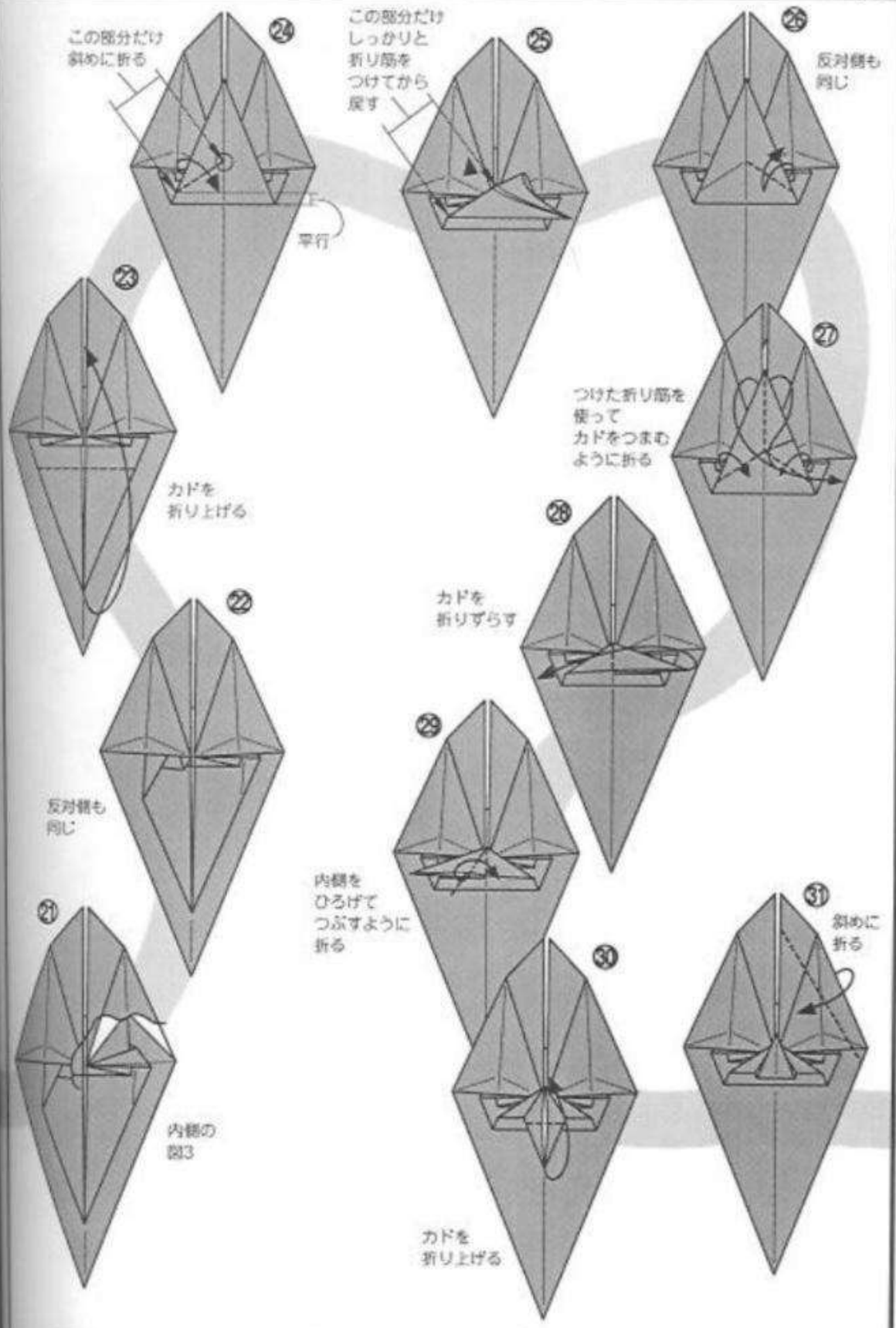


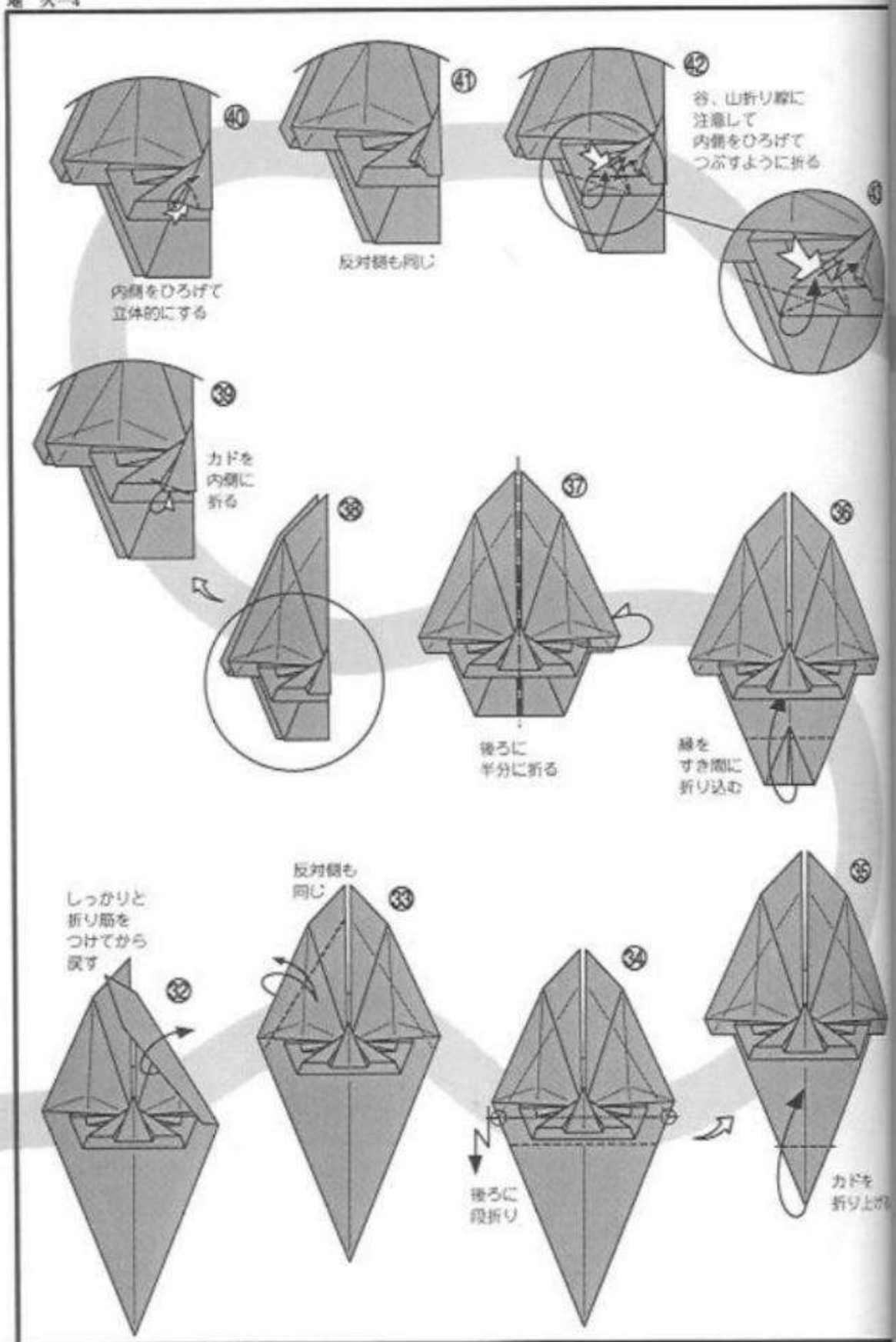
地久

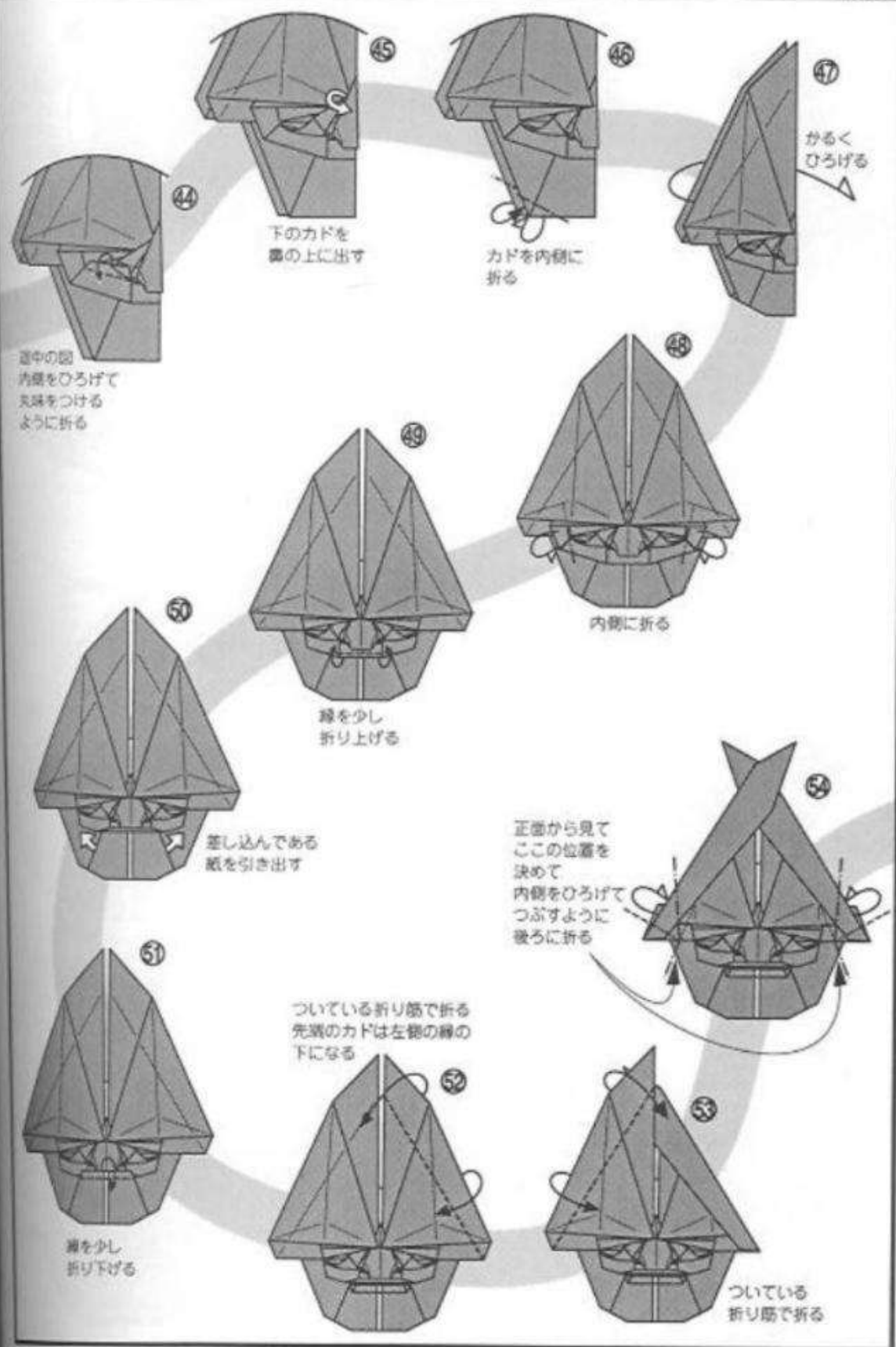
長地久をことほぐめでたい曲。赤顔で鼻高の面。
 柔らかでのびやかな面を、と願いながら制作した。微
 笑をたたえた口元、柔らかなカーブを描く目、ゆったり
 た顎の線。全体のバランスがむずかしい。

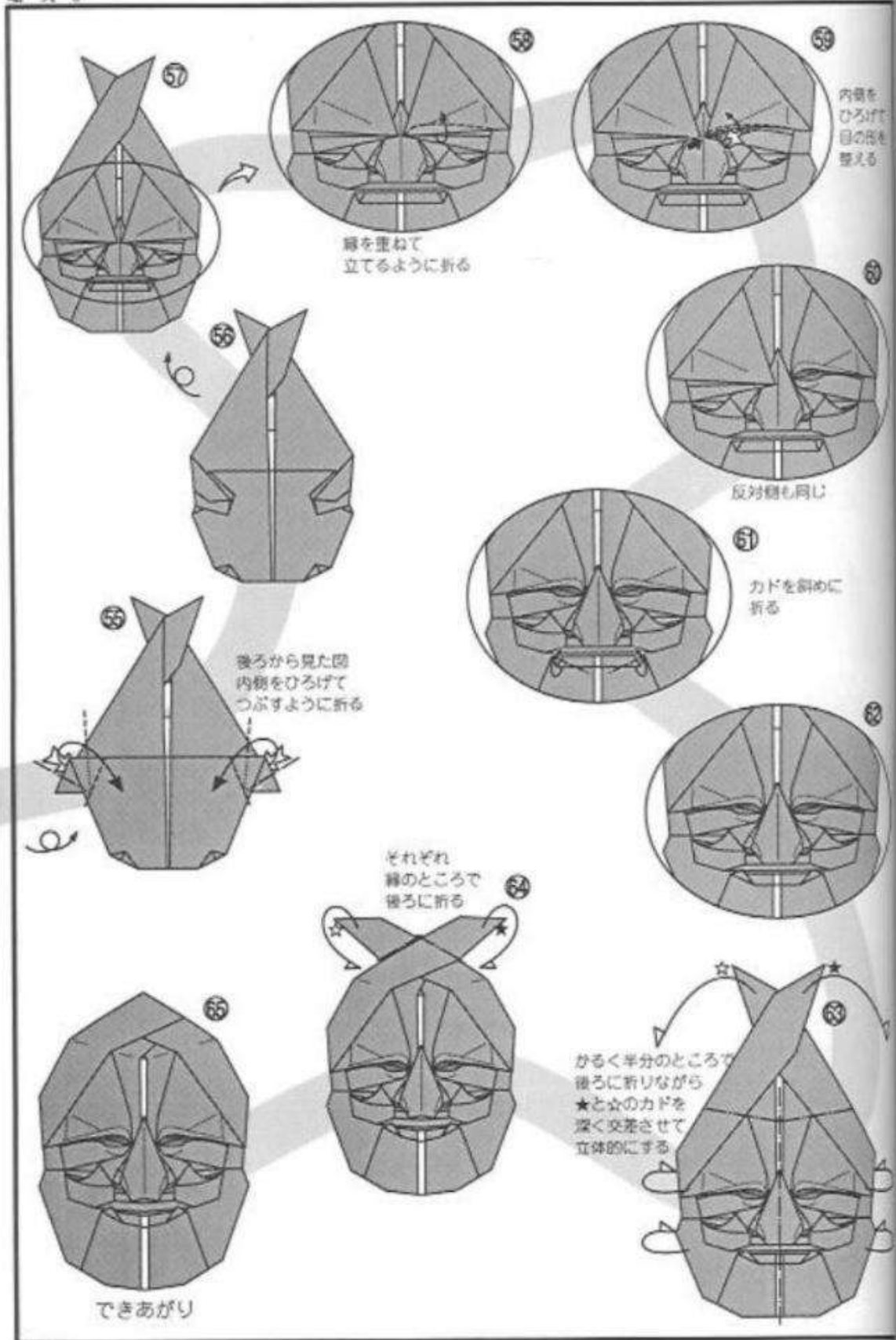






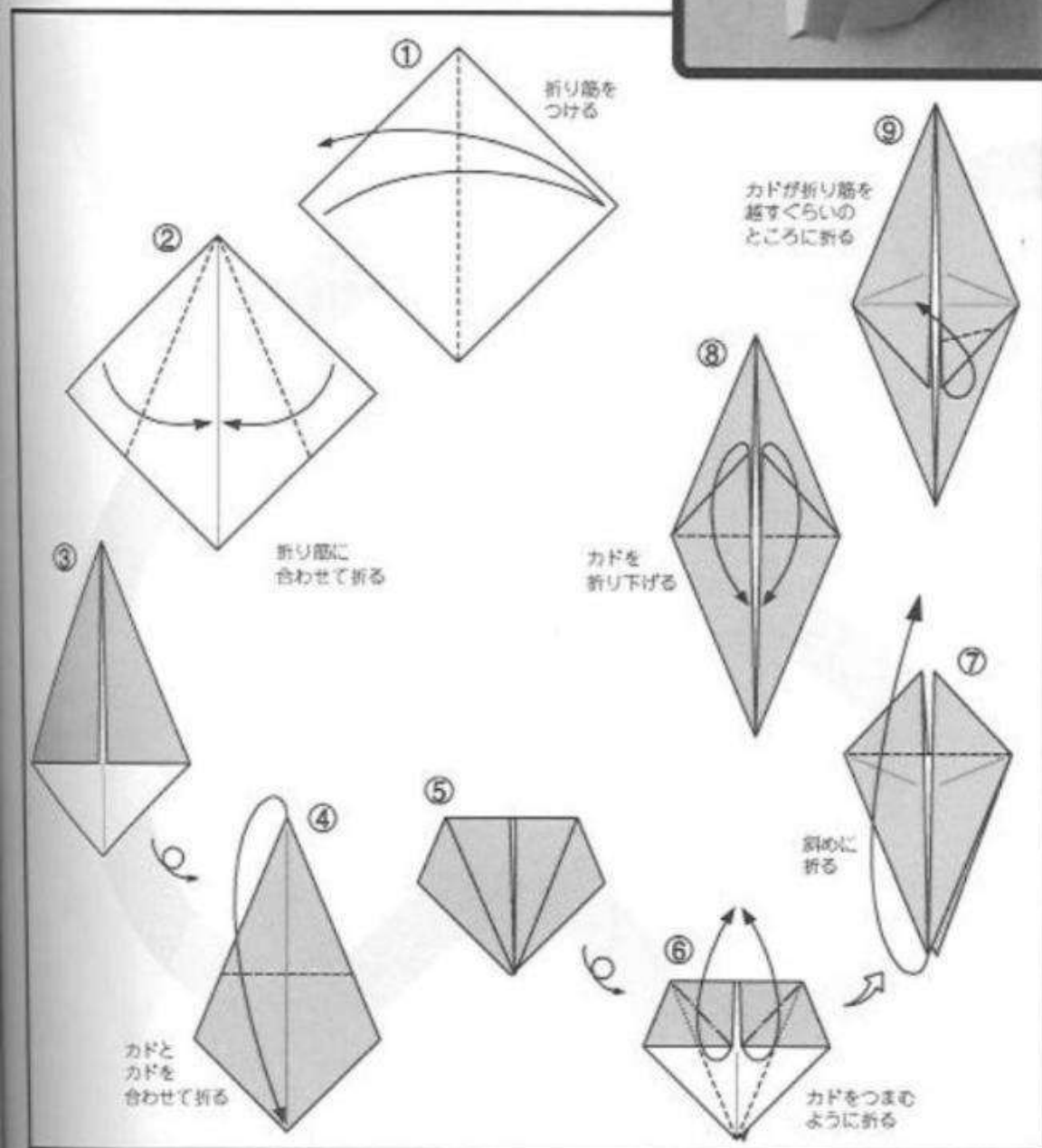
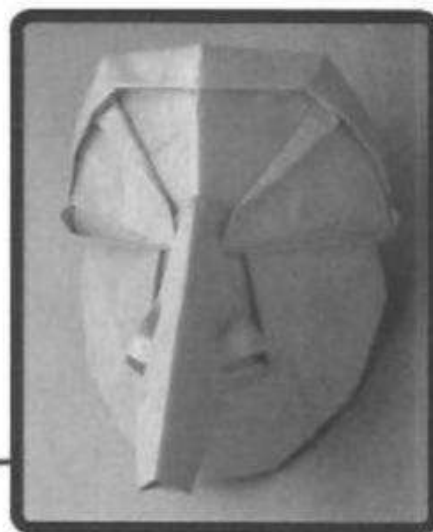






胡徳祭

酒に浮かれた胡人の酔態を演じる。6人の人物が登場する。そのうち鼻がぶらぶら動くのが3人。これはその鼻が動く面を写したもの。細めた目、笑っているような口元、仕上げのカーブで表情が決まる。



Mask-69

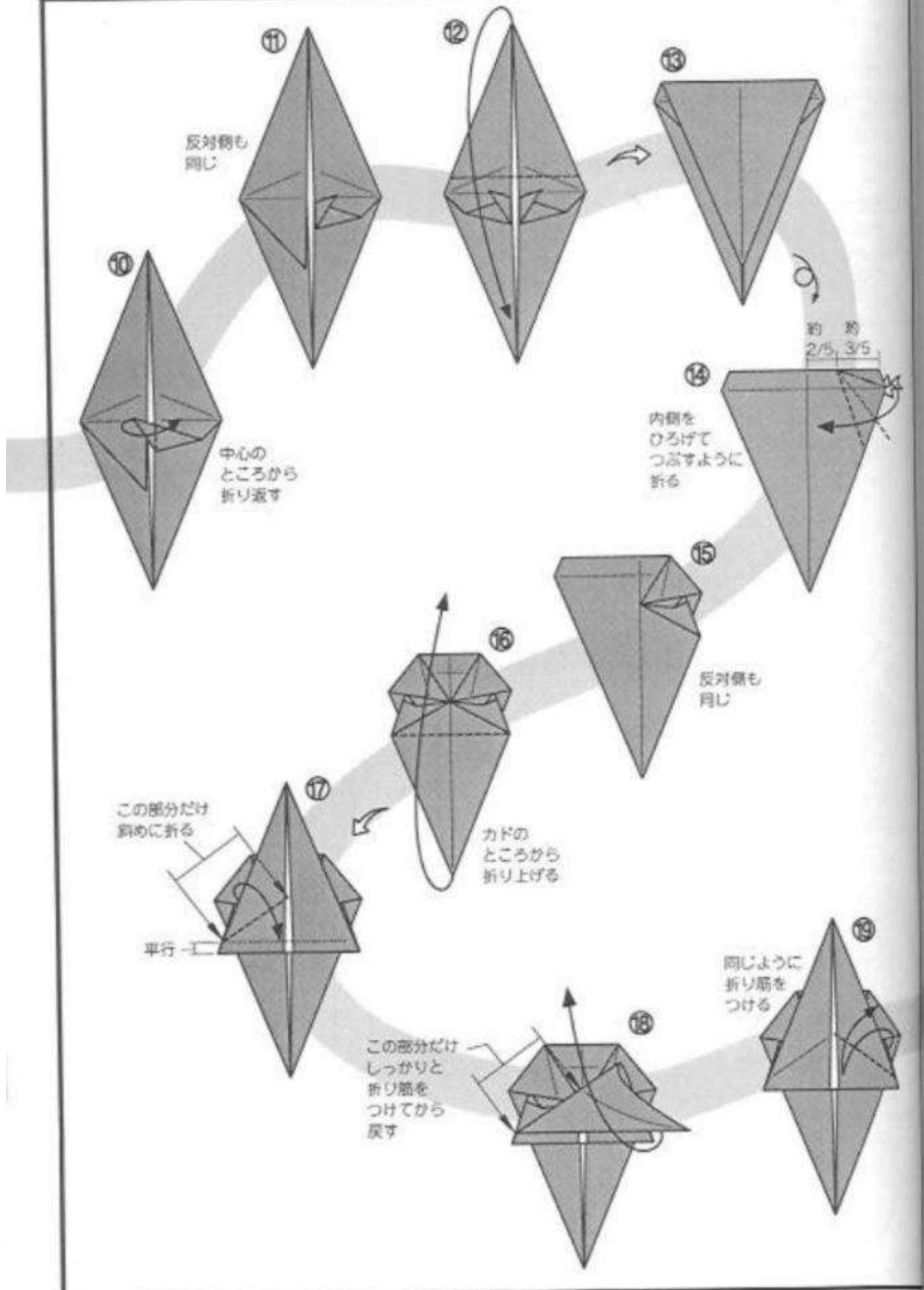
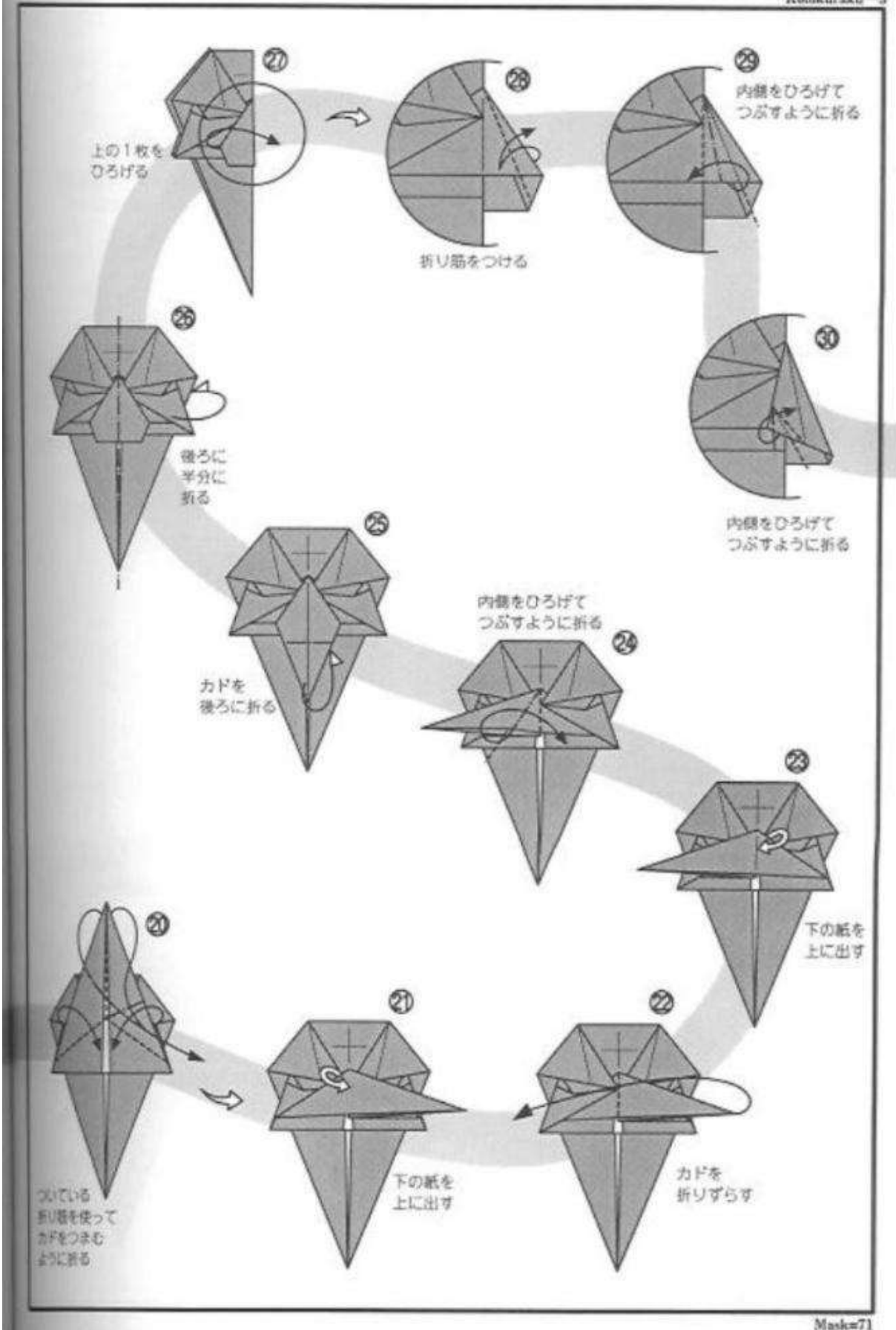
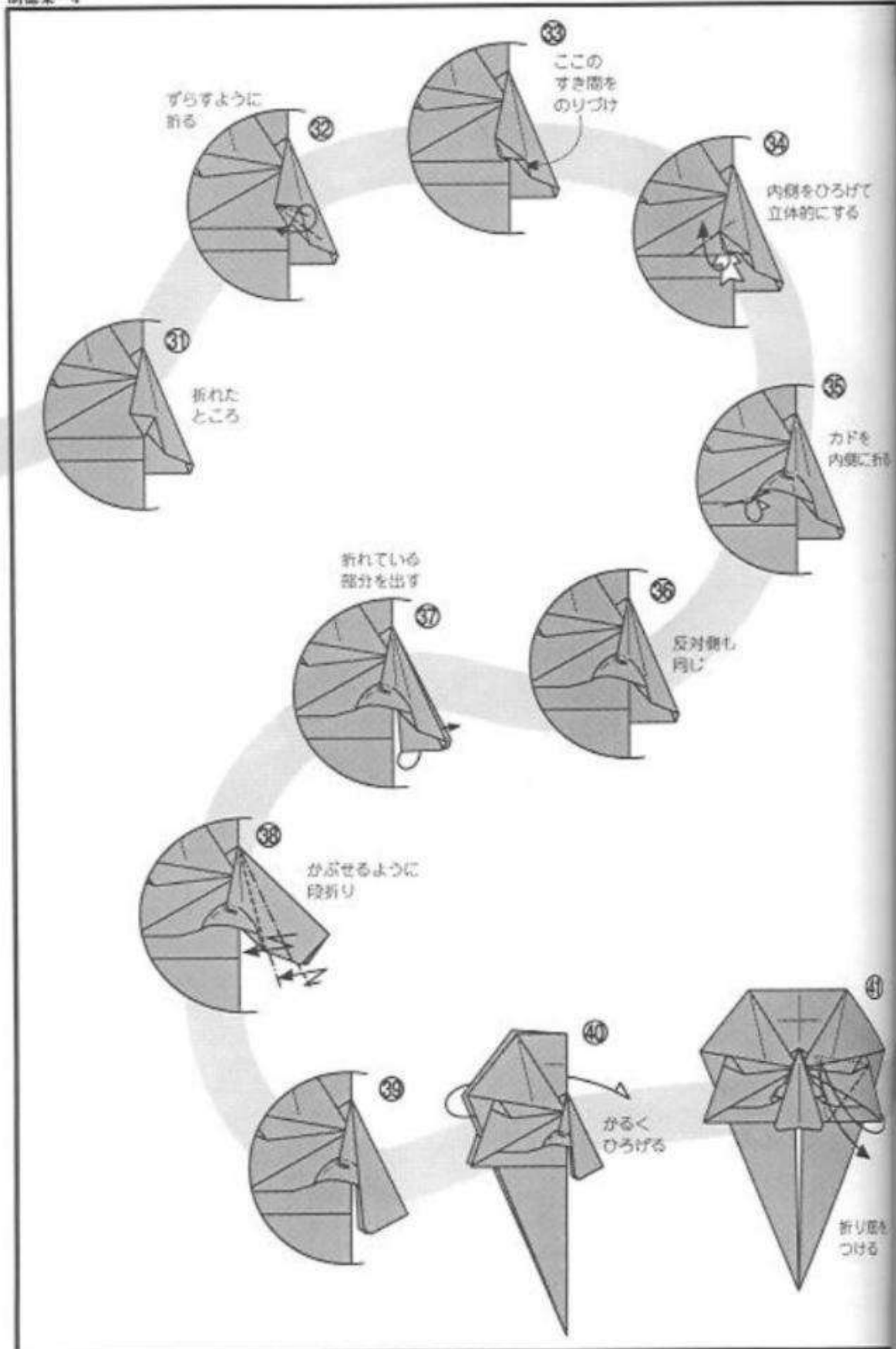
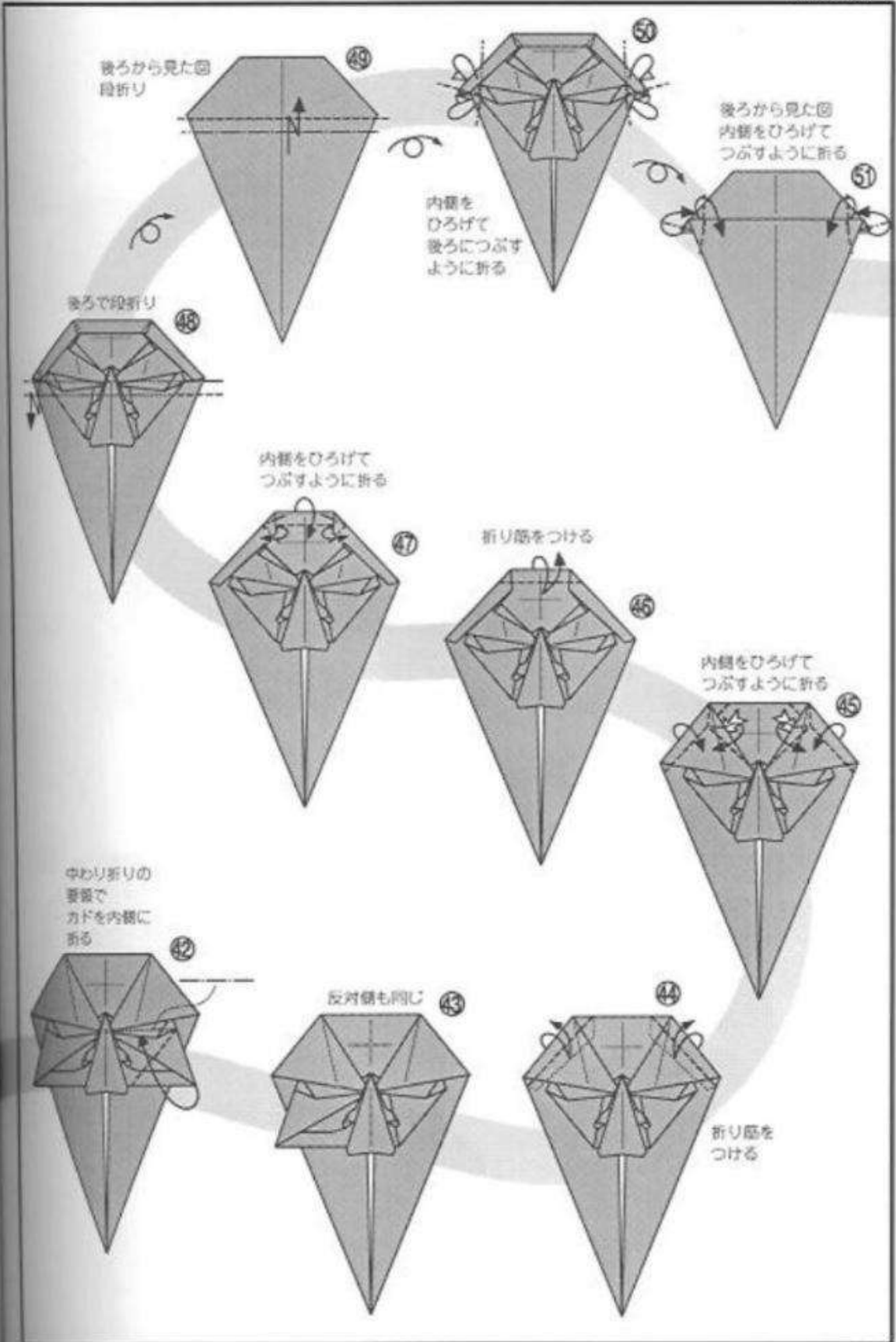


図70







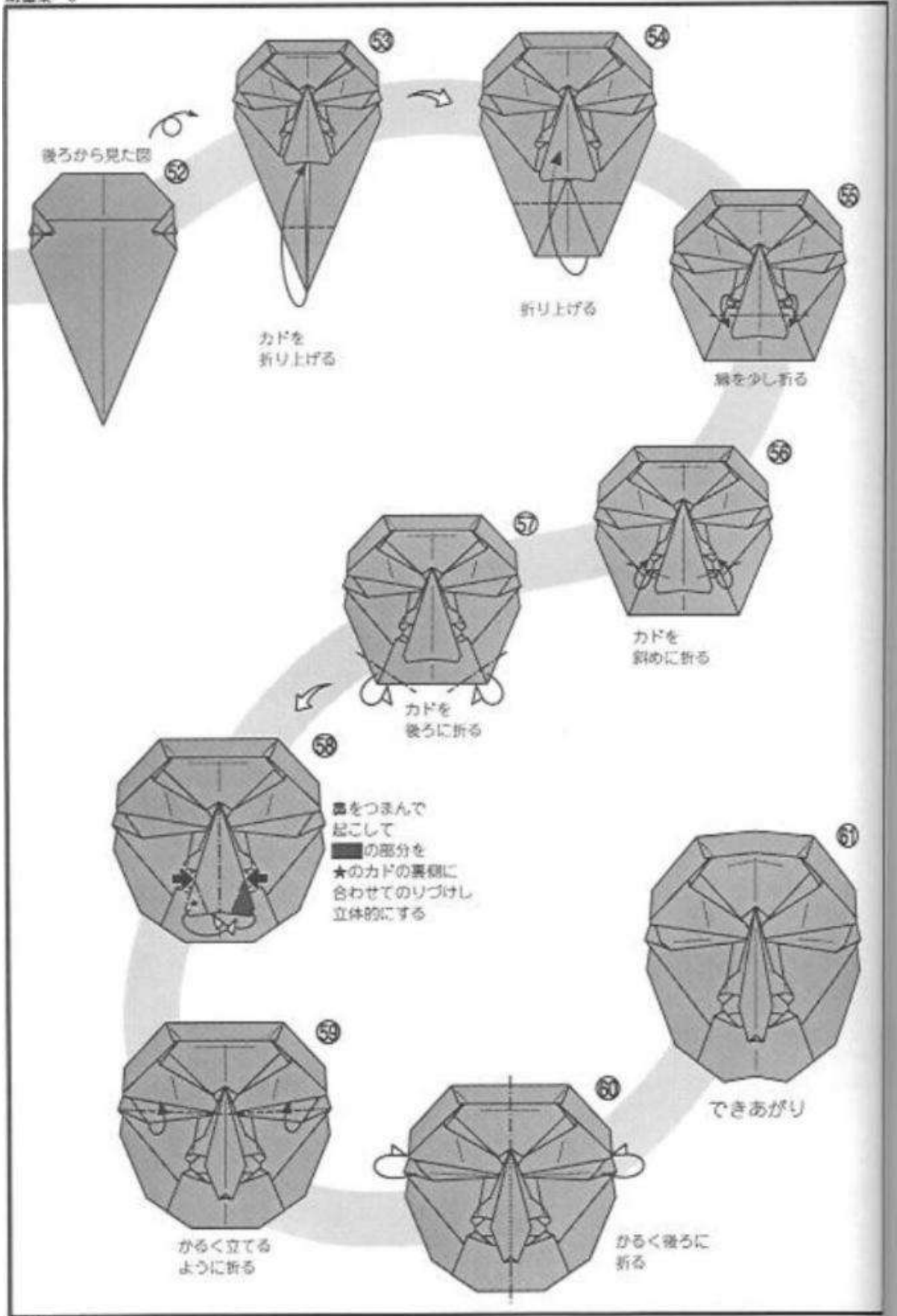
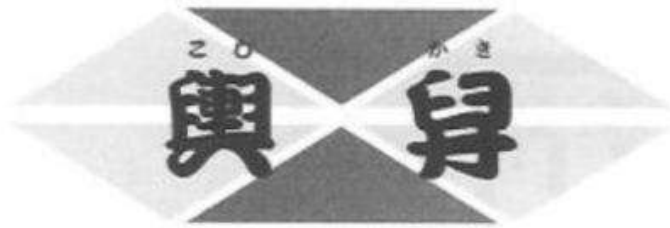
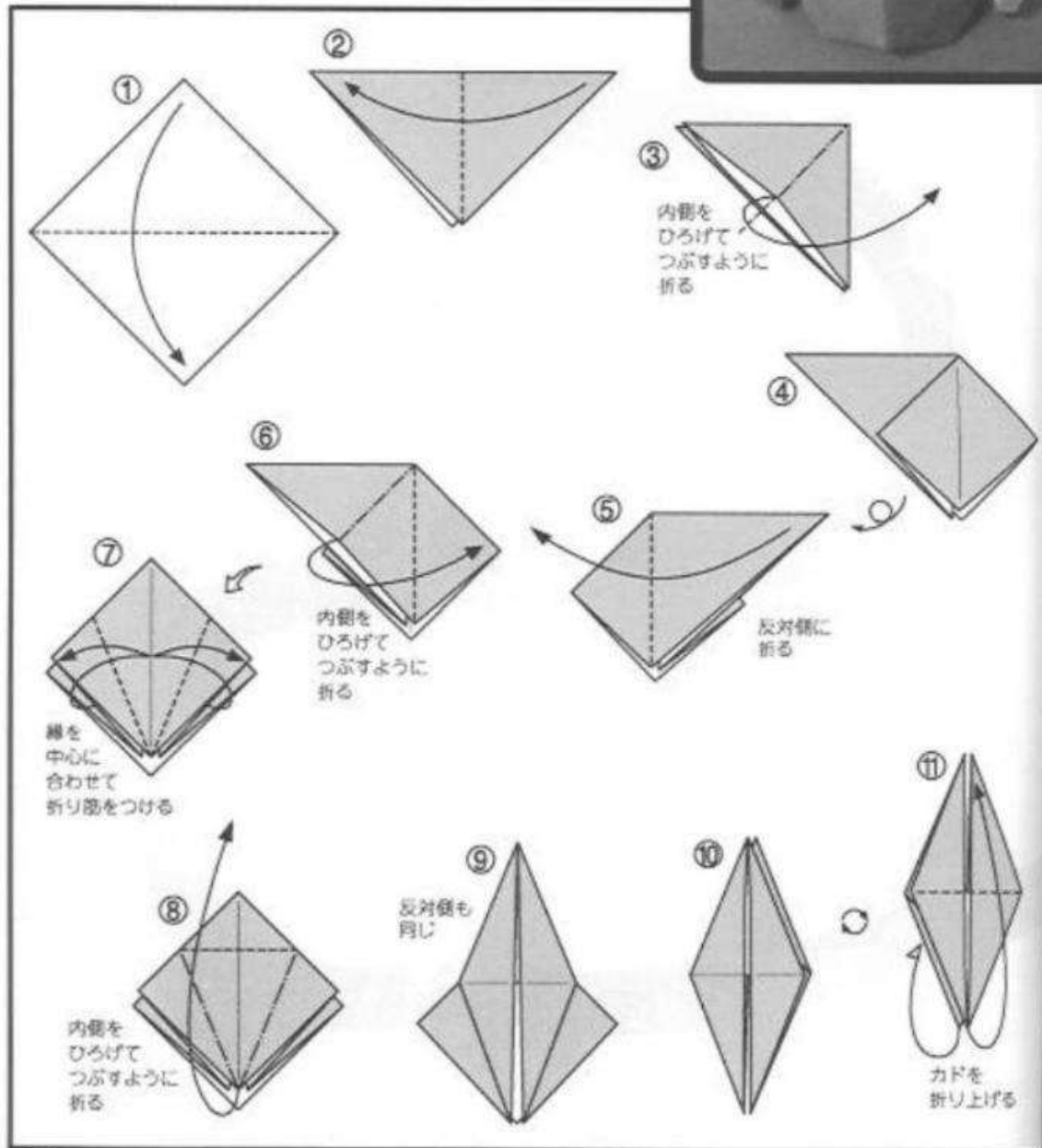
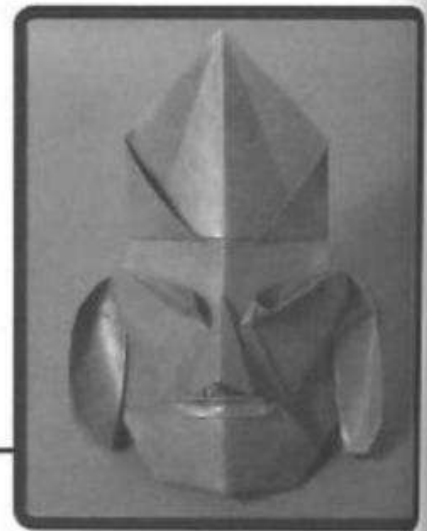


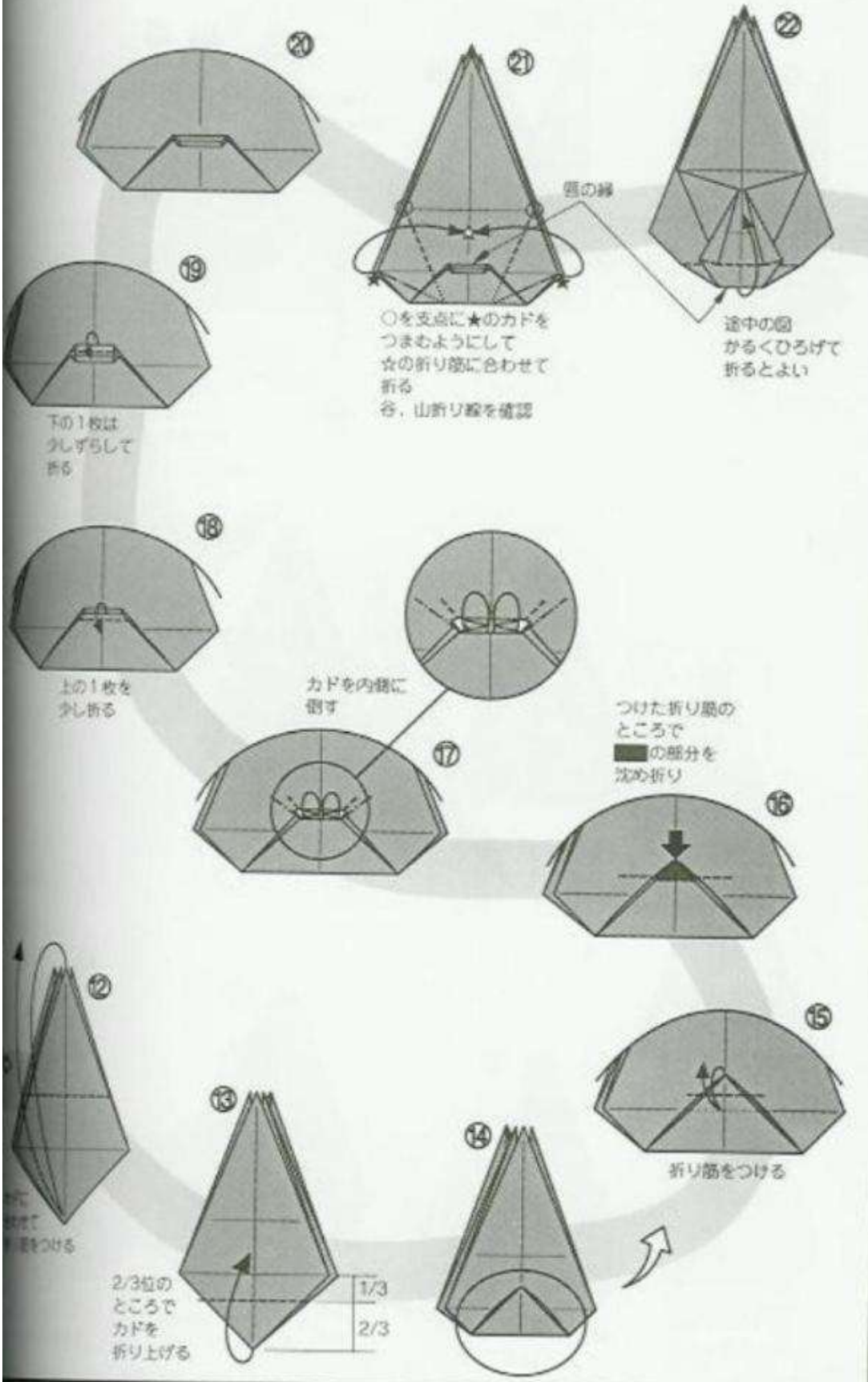
図74



奥をかつぐ人。
 法隆寺の聖霊会（しょうりょうえ）の行列に使われたと
 いう面を写した。どちらかといえばおとなしい表情であ
 るが、張りのある顔にしたいと思って制作した。



図=76



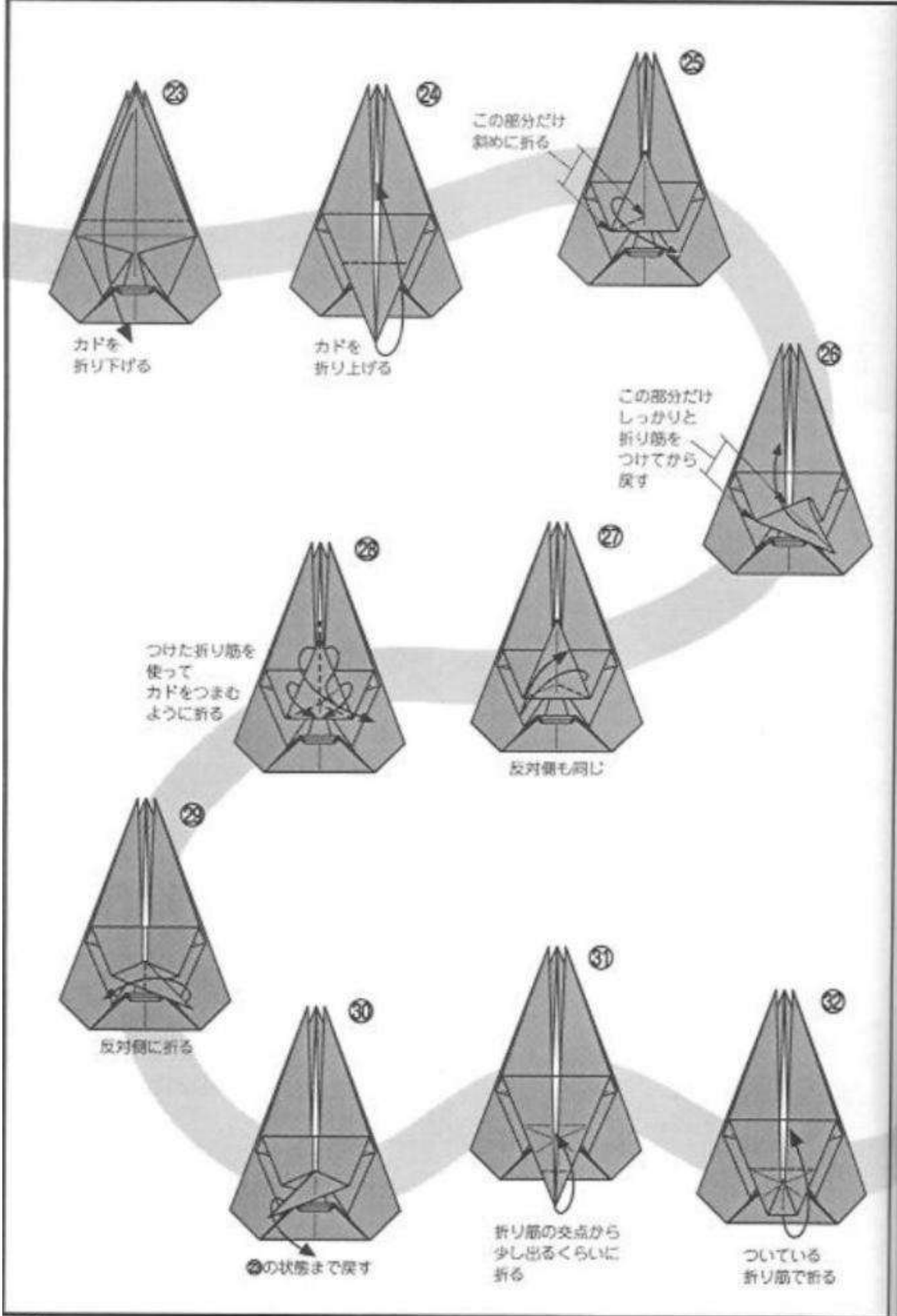
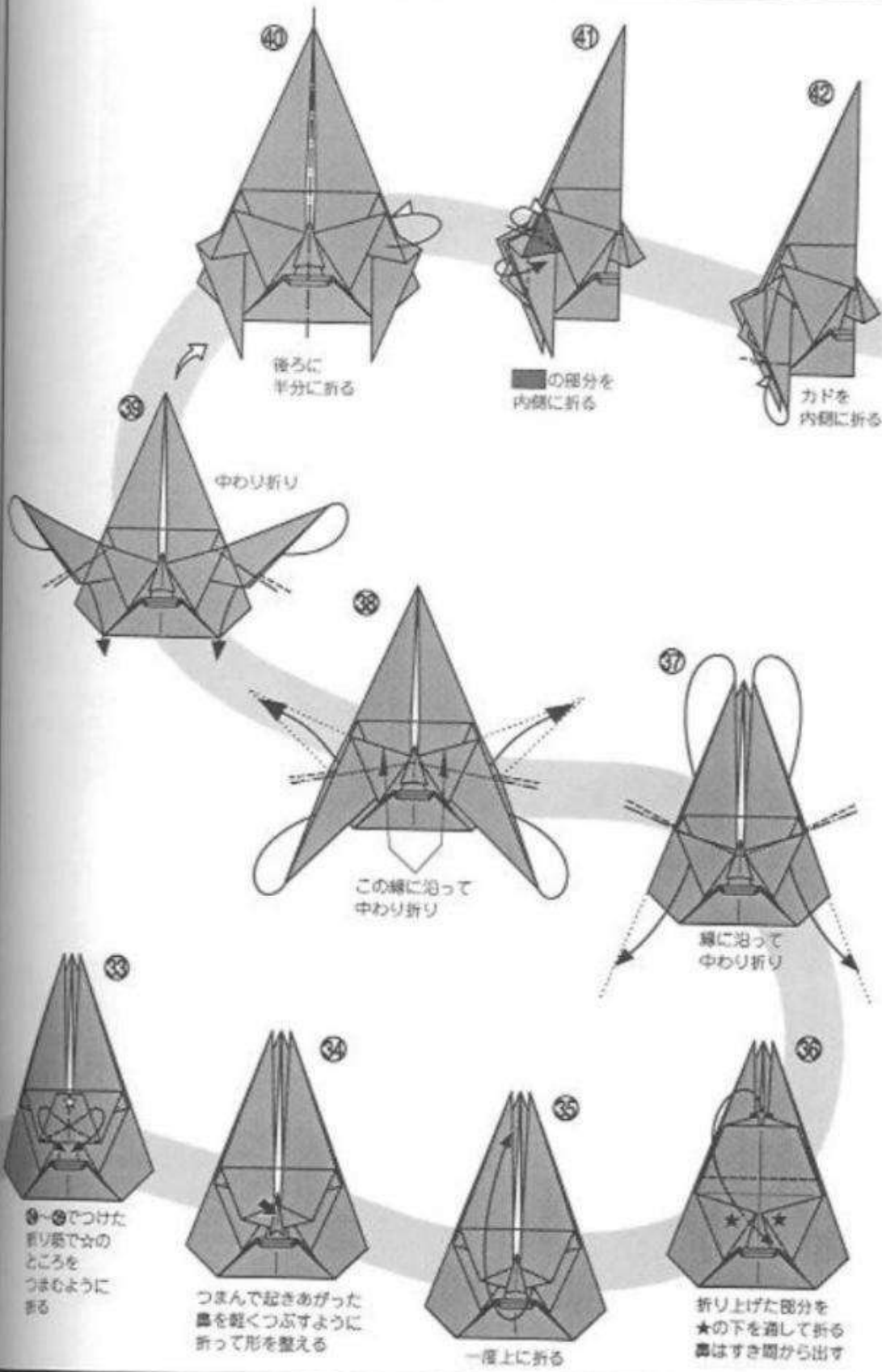
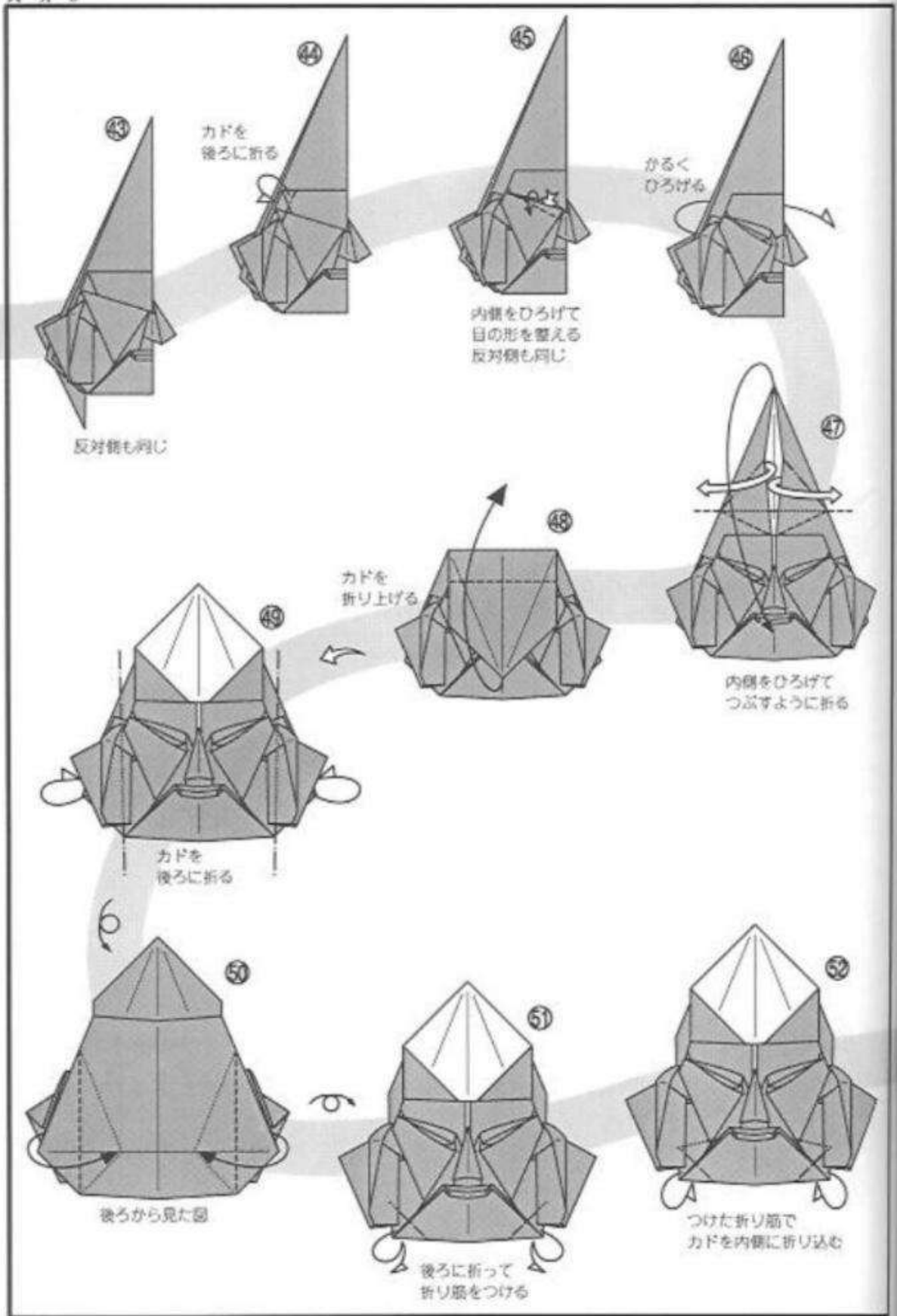
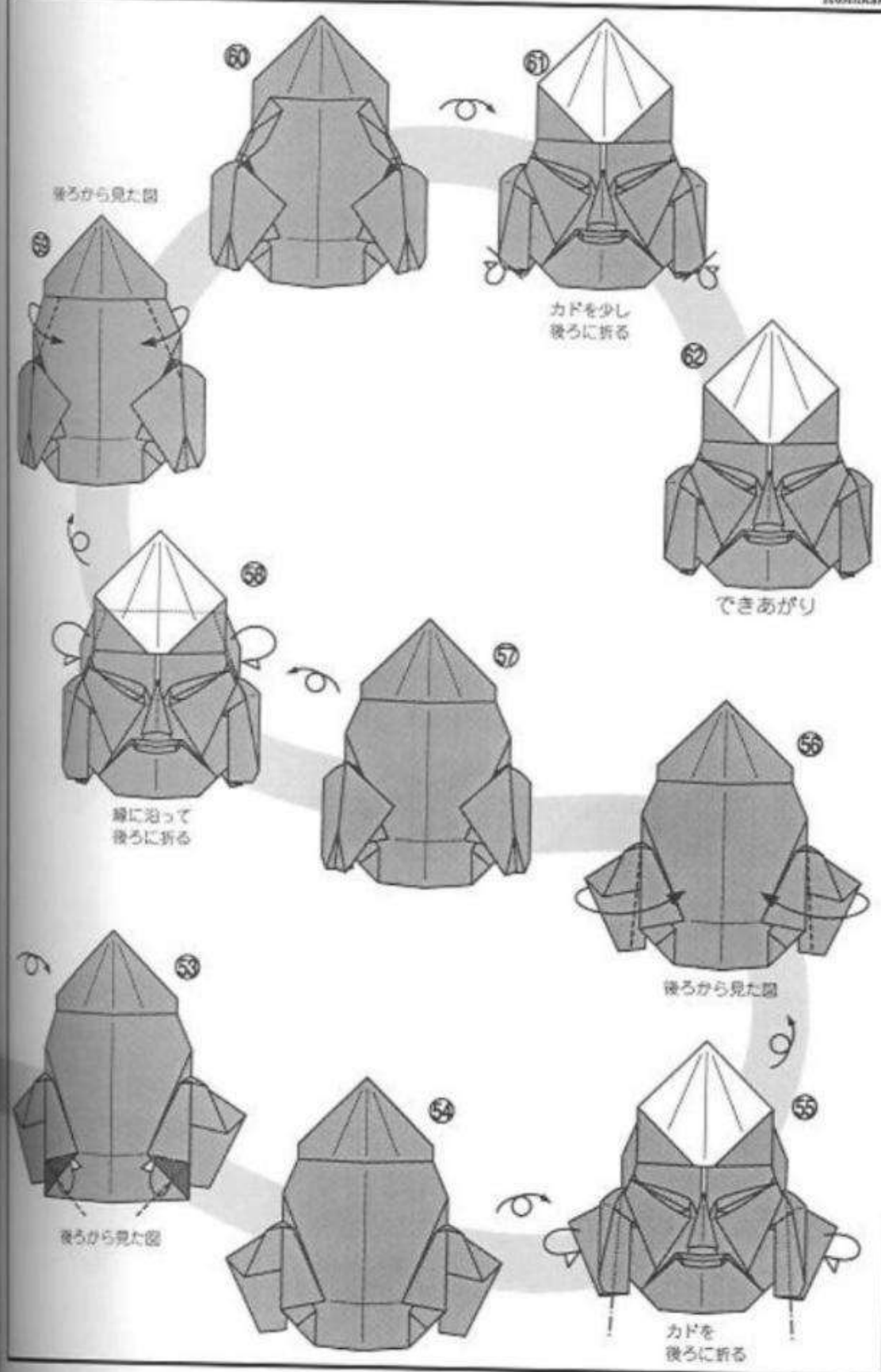
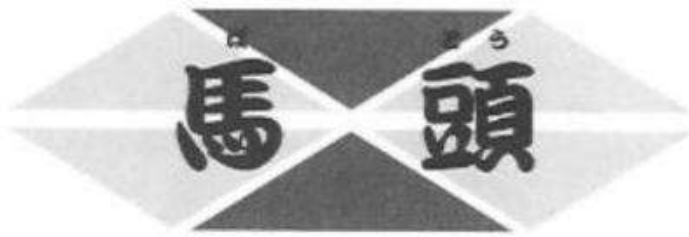


図-73

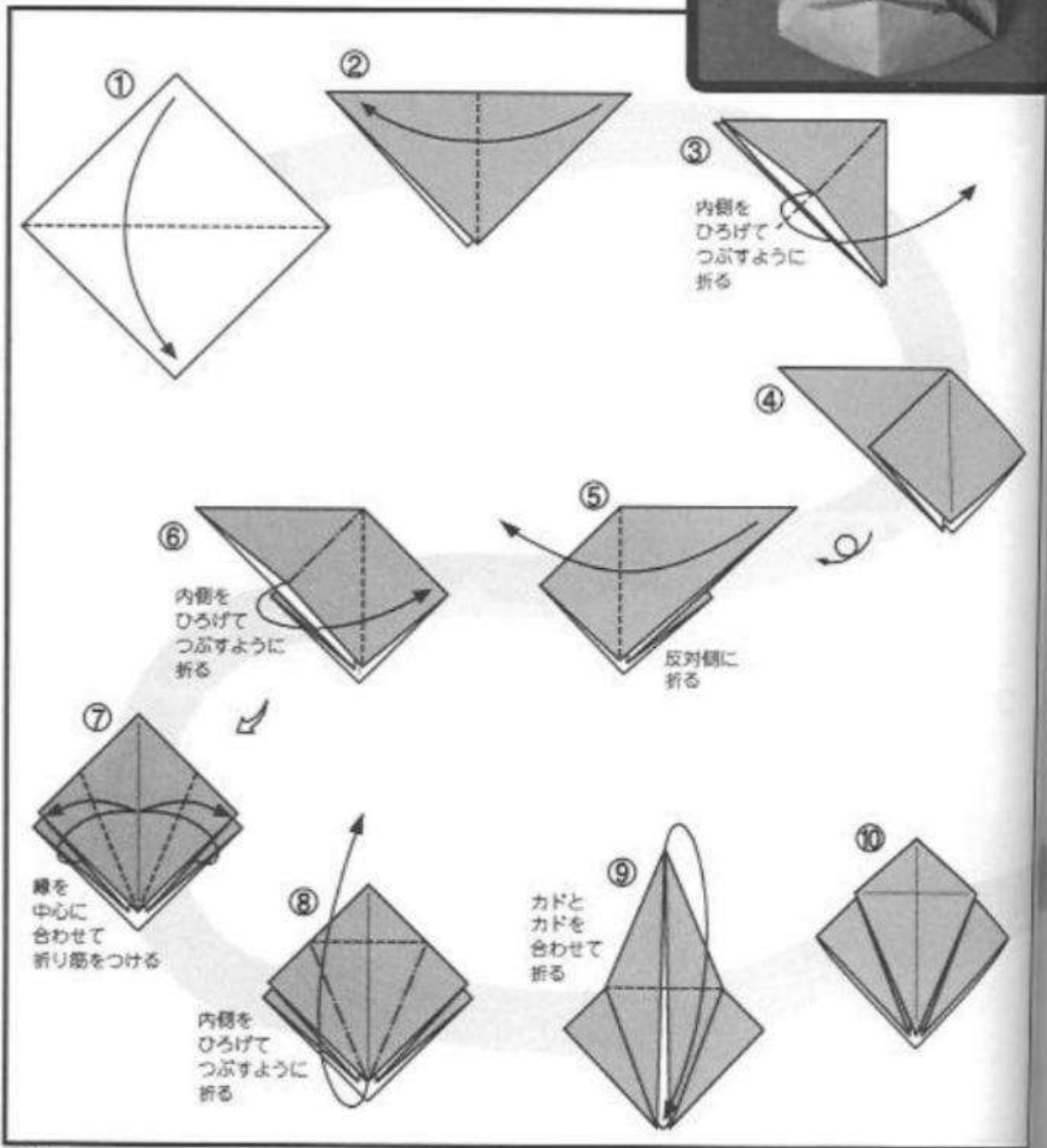
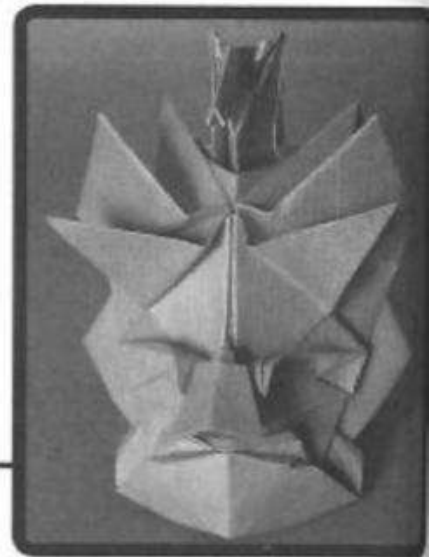




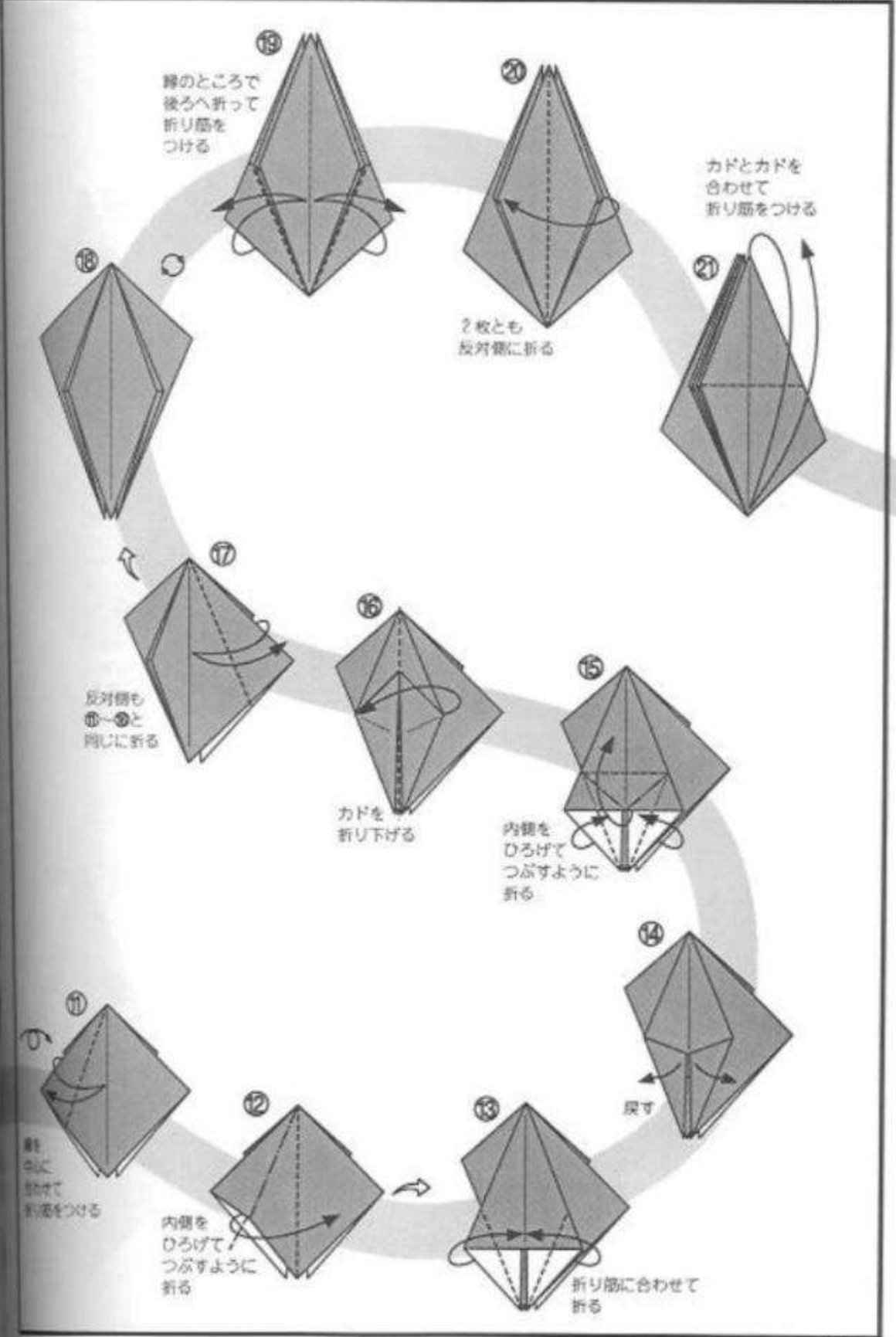


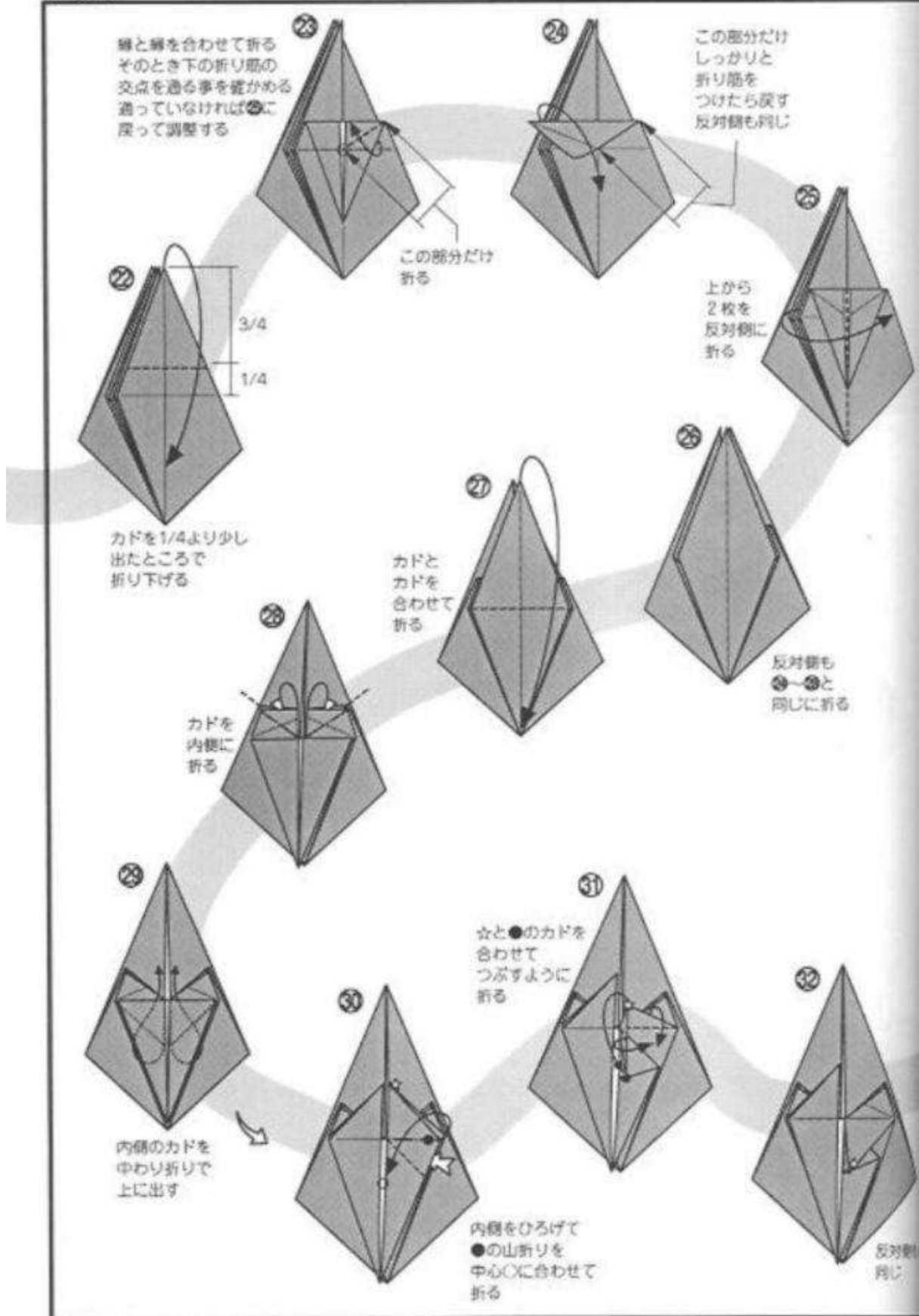


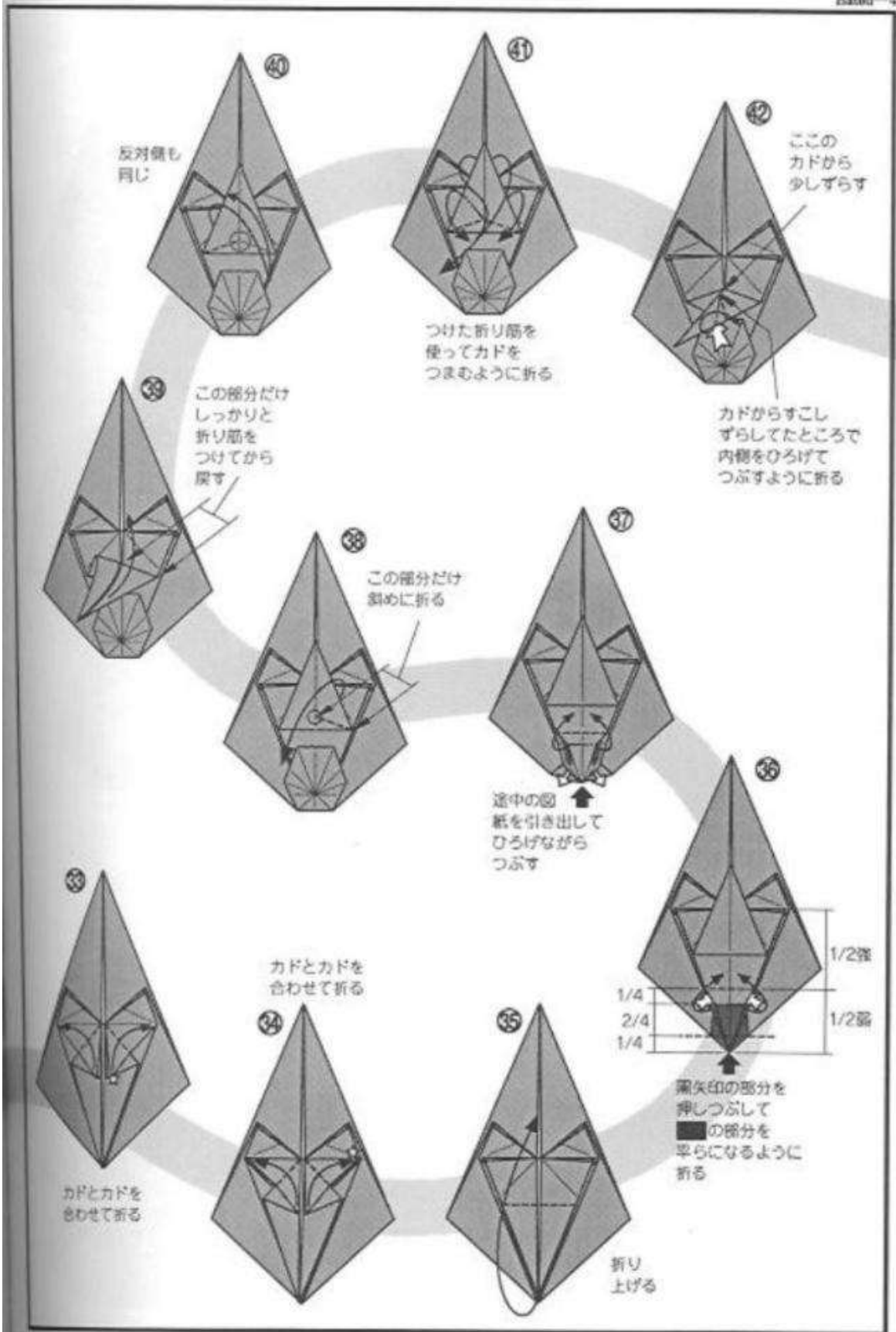
頭上に馬頭をいただいて分怒の相をした面。馬頭観音菩薩ではなく、千手観音のけん属として行者を擁護する二十八部衆のひとつといわれている。この折り紙面は少し怒りの表情が足りないかもしれない。

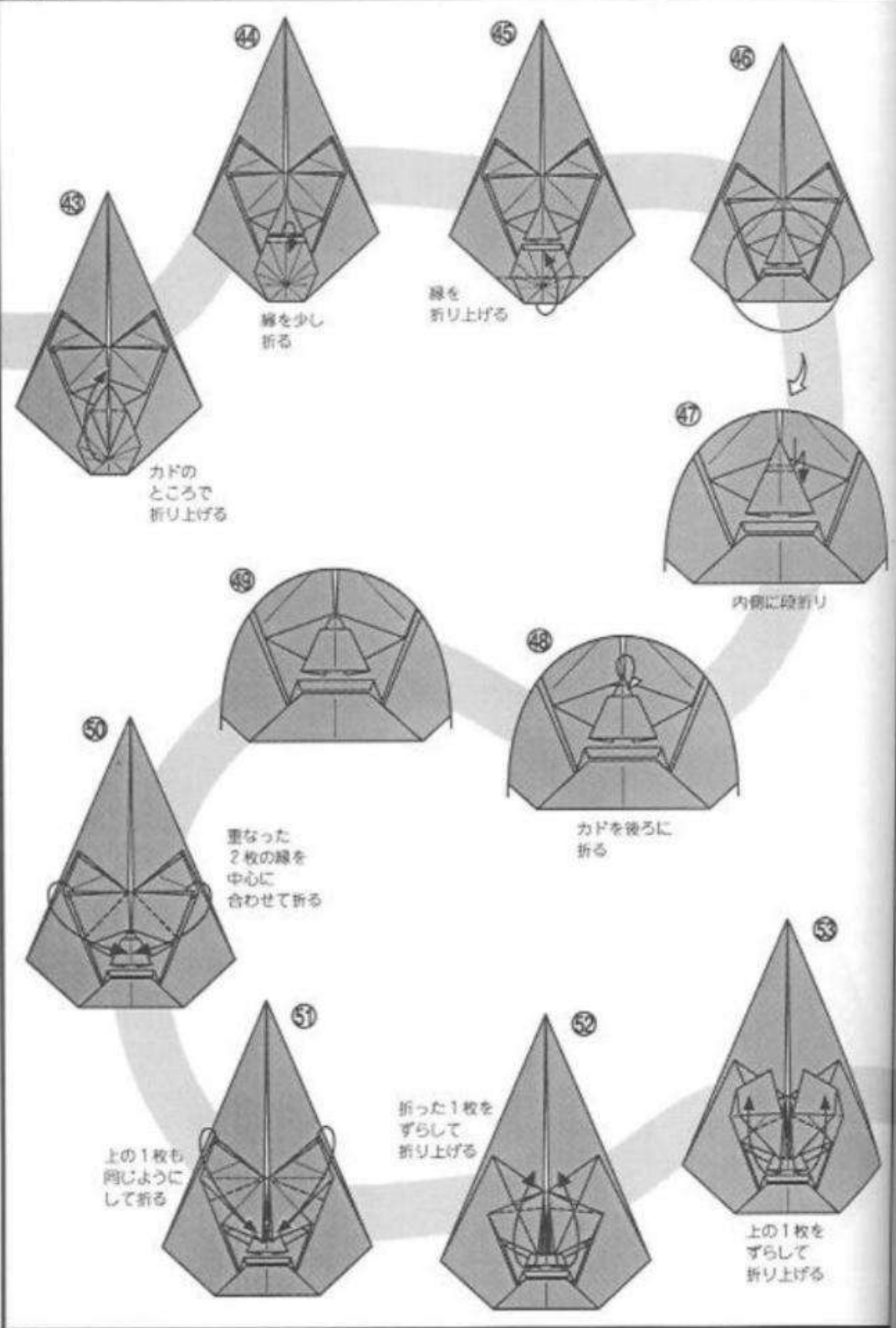


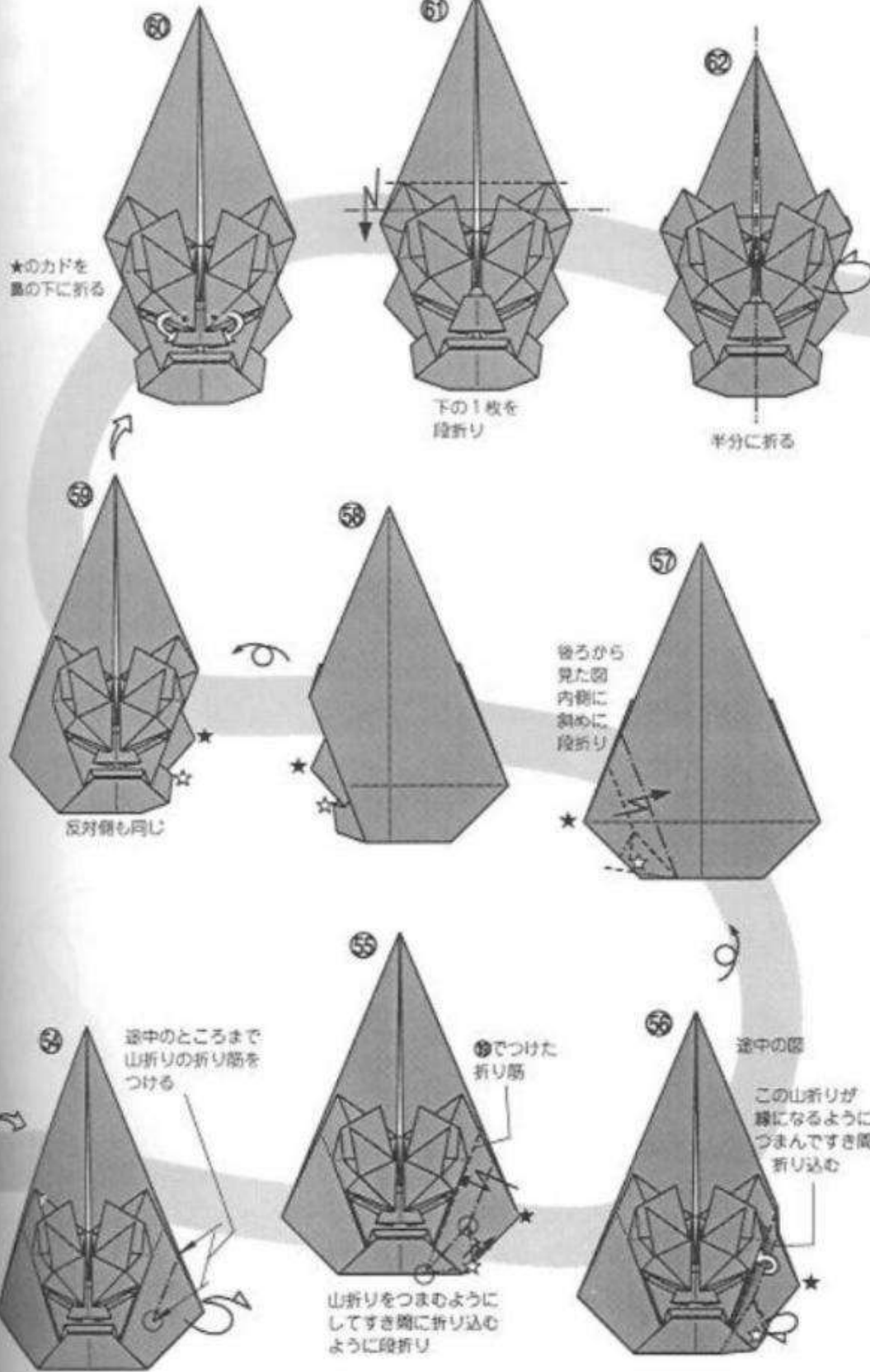
画-82

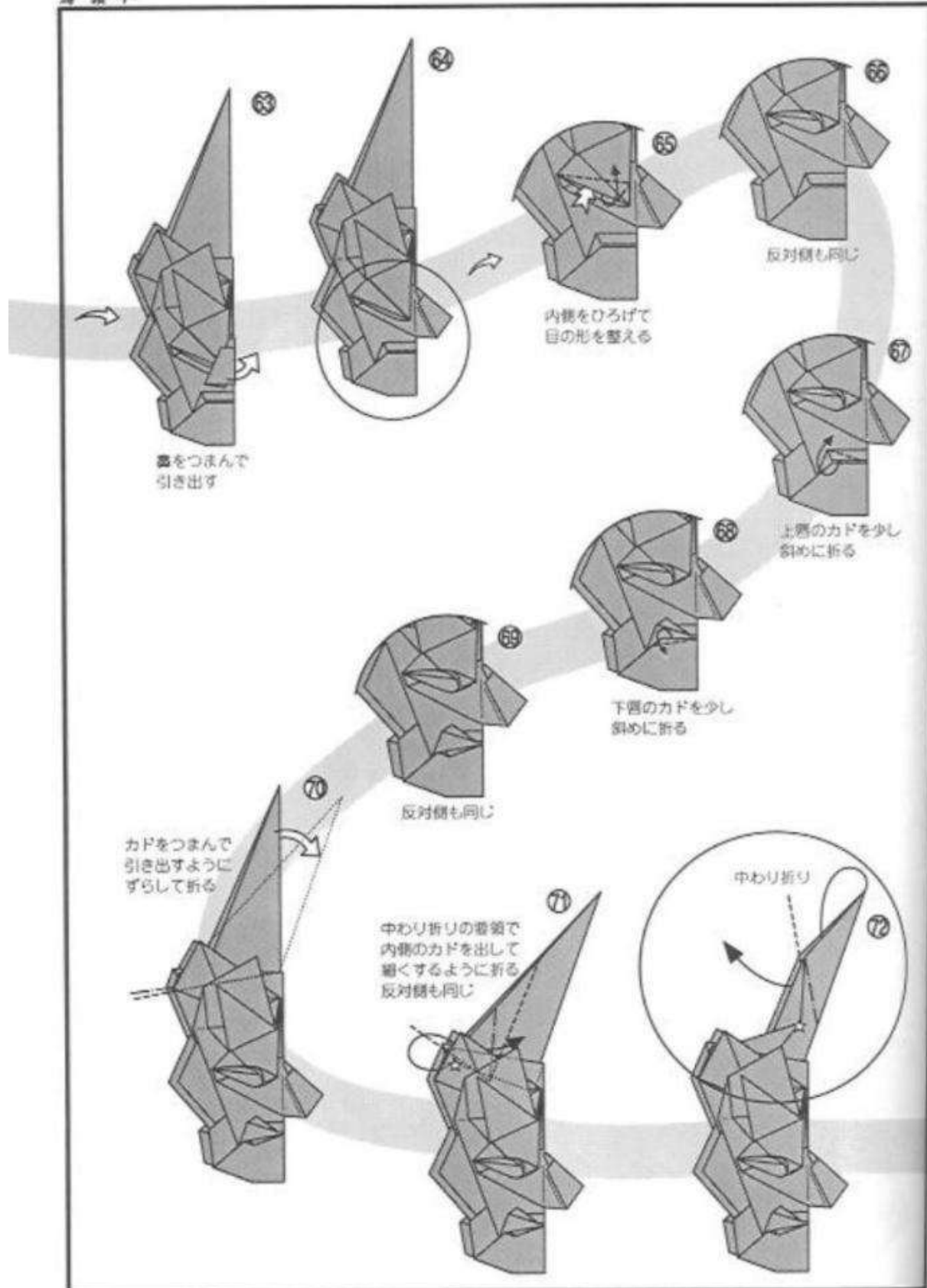


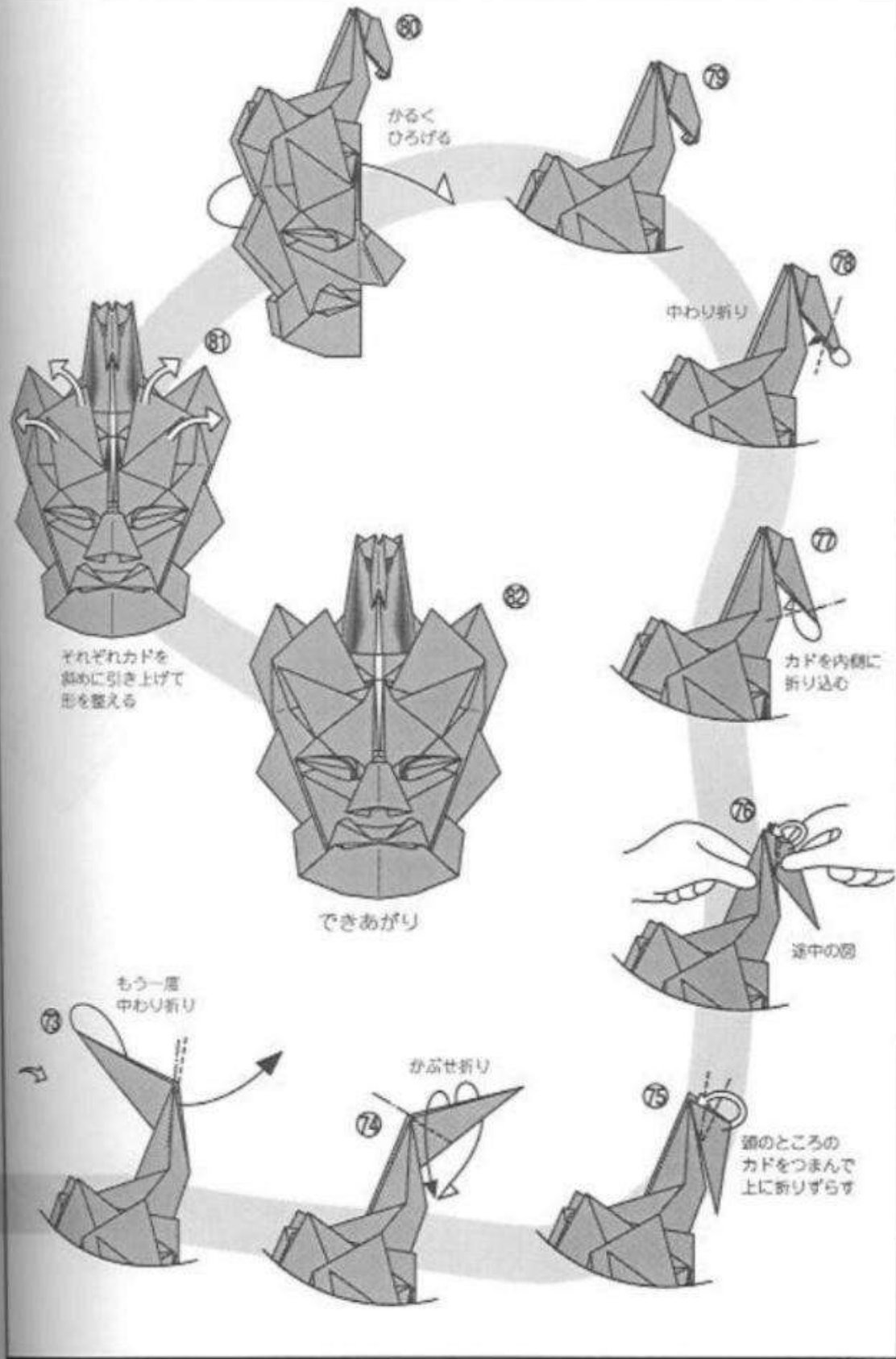












かるくひろげる

中わり折り

カドを内側に折り込む

途中の図

頭のところのカドをつまんで上に折りずらす

かぶせ折り

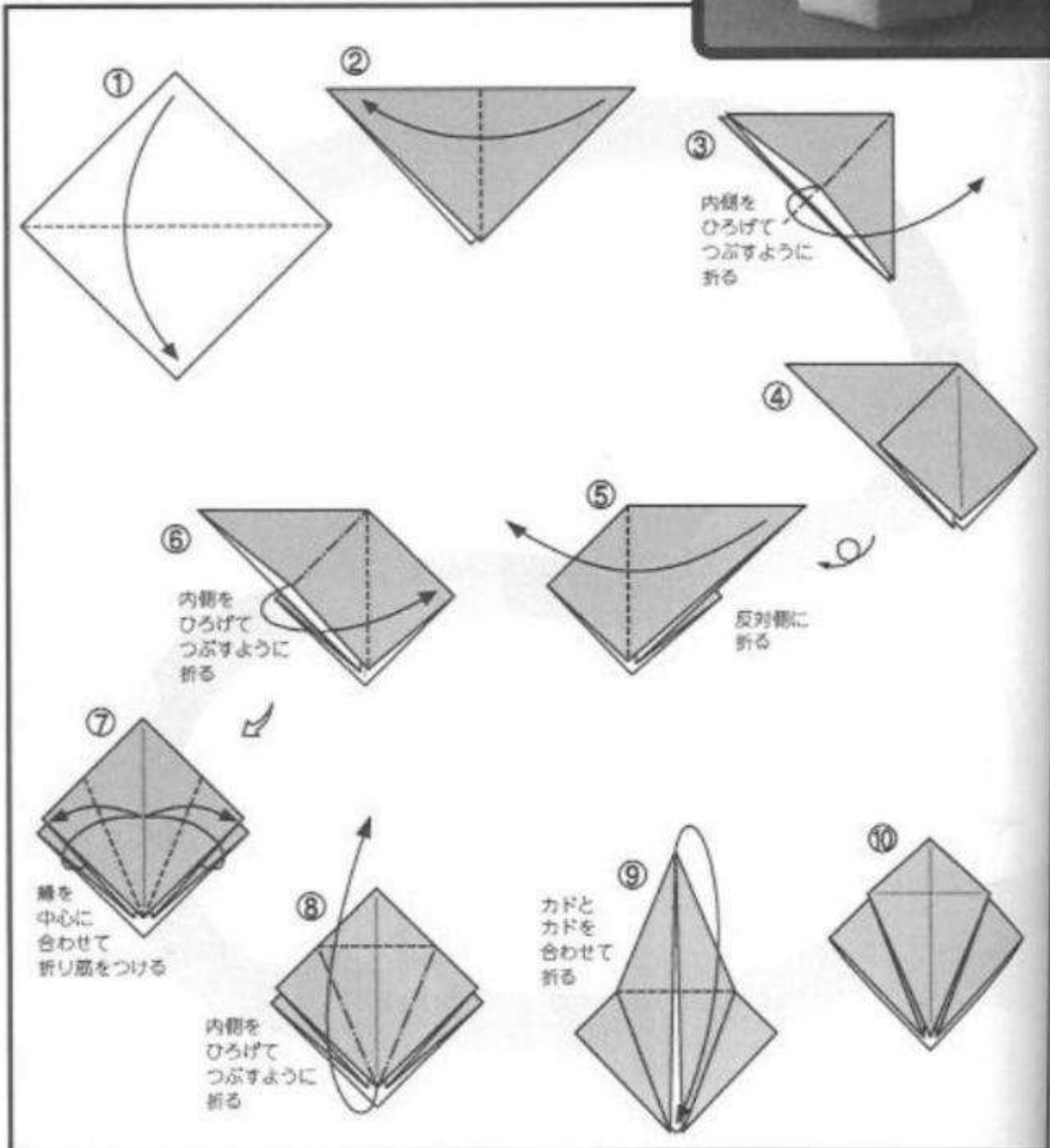
もう一度中わり折り

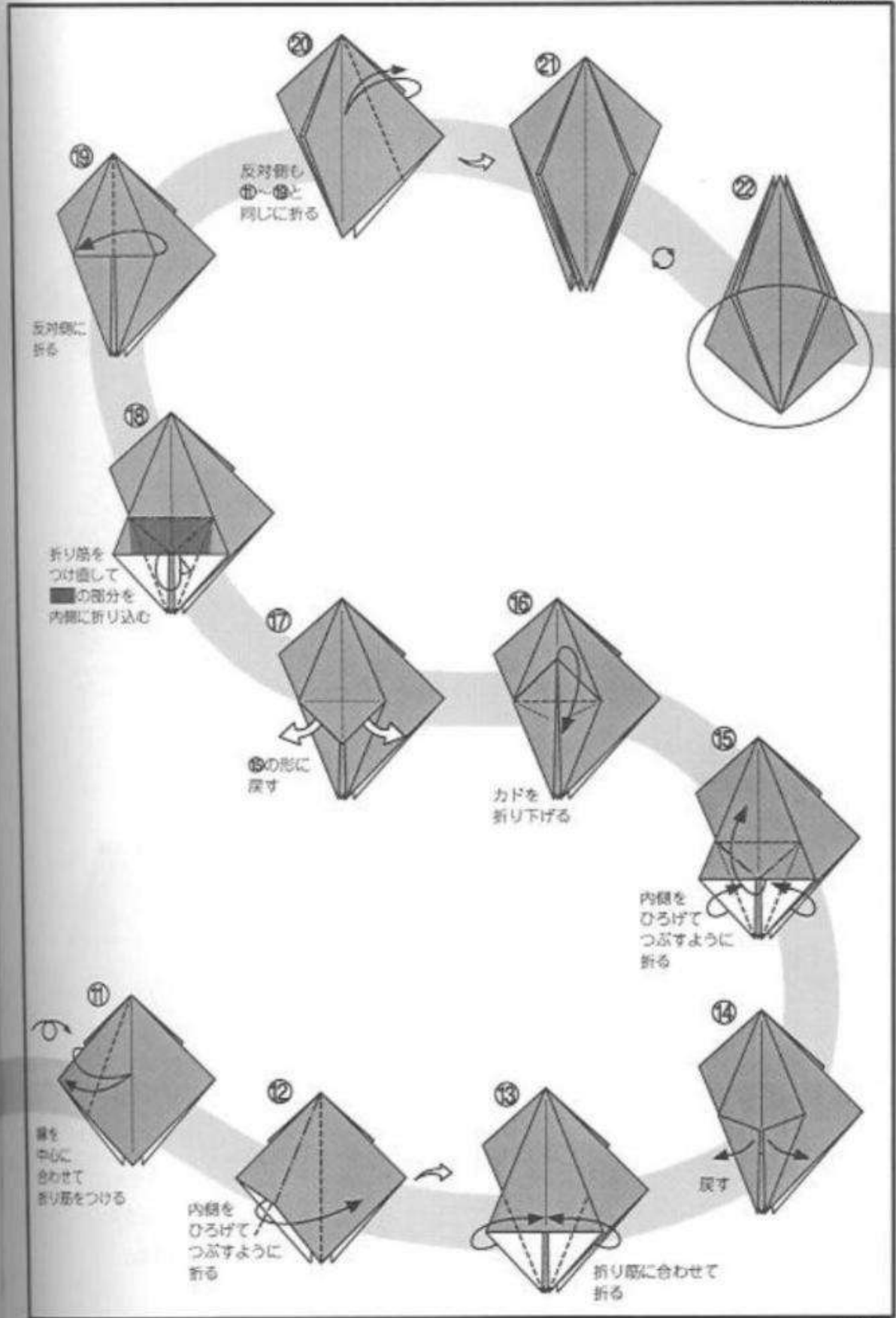
それぞれカドを斜めに引き上げて形を整える

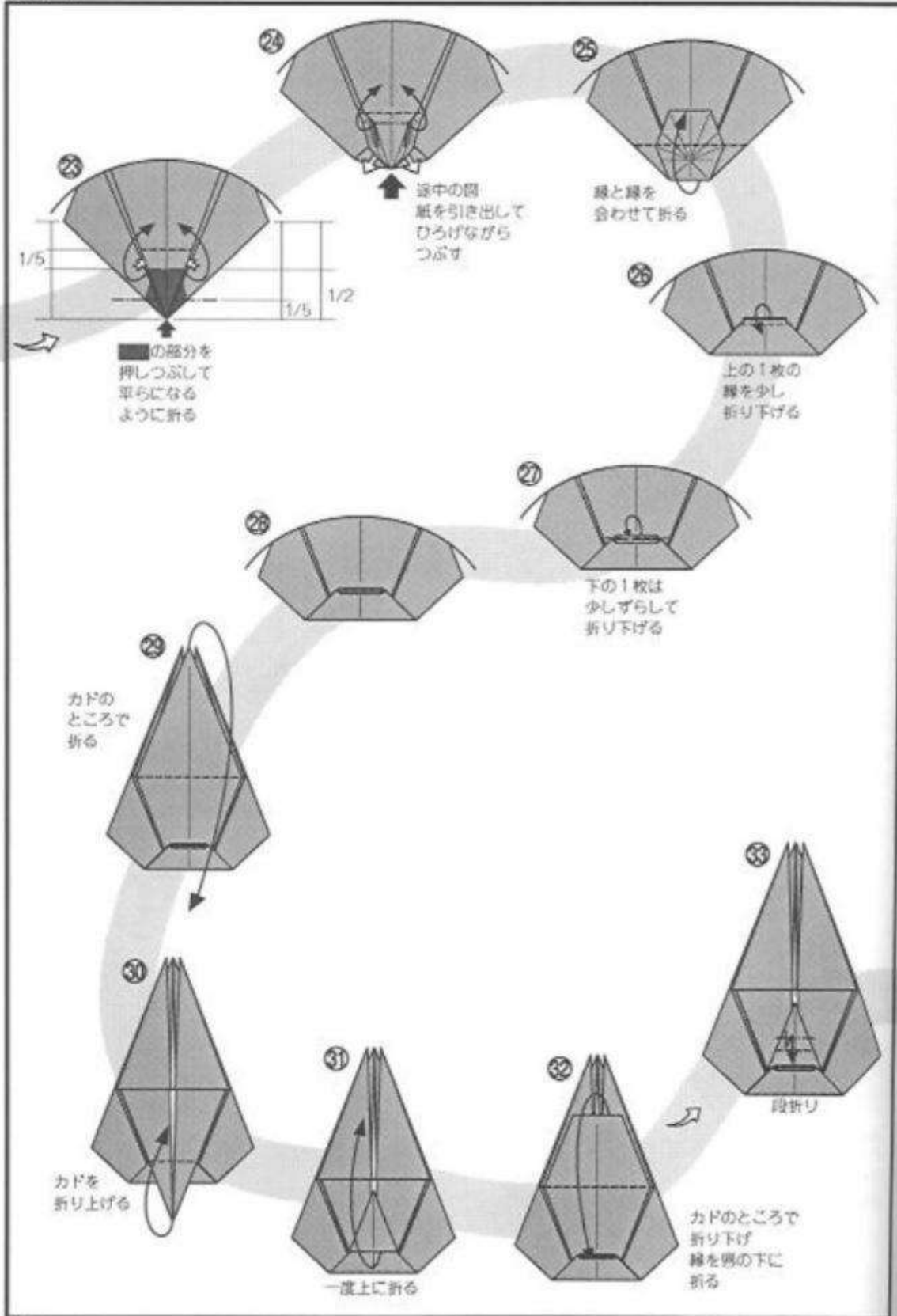
できあがり

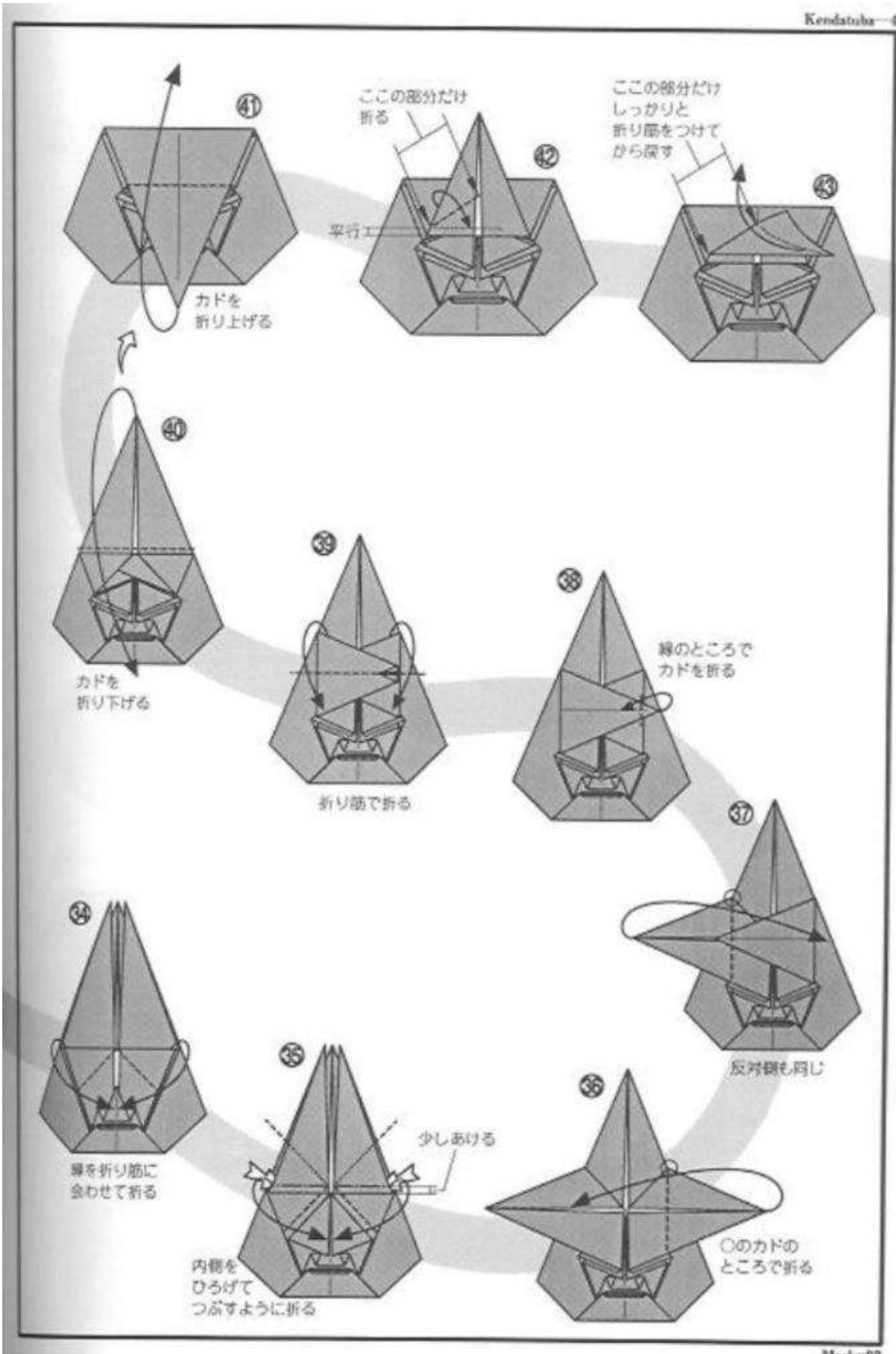
けんどうば 乾闥婆

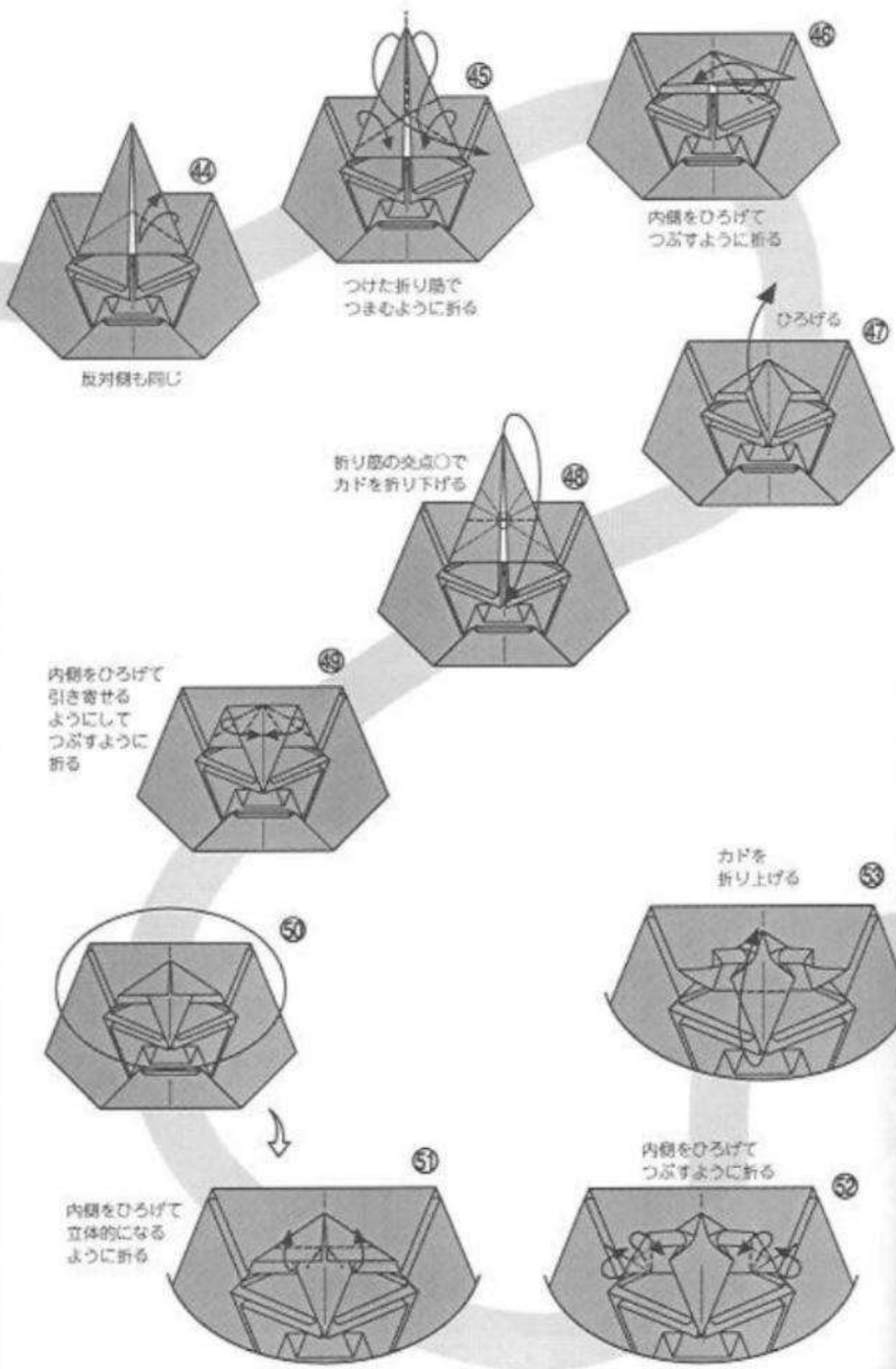
八部衆の一人。香を食し、虚空を飛しょうするという神。
行道では太子像の輿をかつぐ仕丁がつける面の一つ。
獣のかぶりものをつけた四眼の面。
元々が異様な面なので、ごたごたしないように気をつけた。

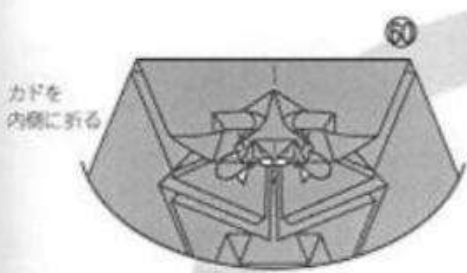








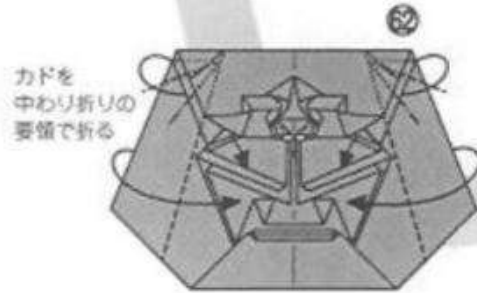




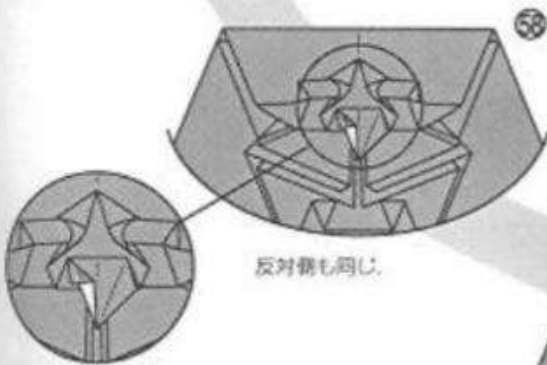
カドを
内側に折る



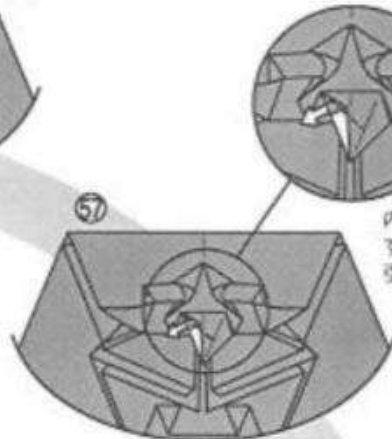
カドを
内側に折る



カドを
中わり折りの
要領で折る



反対側も同じ。



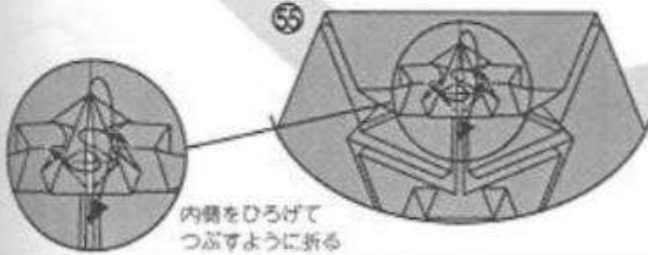
内側の部分を
ずらすように
引き出す



折り筋をつける

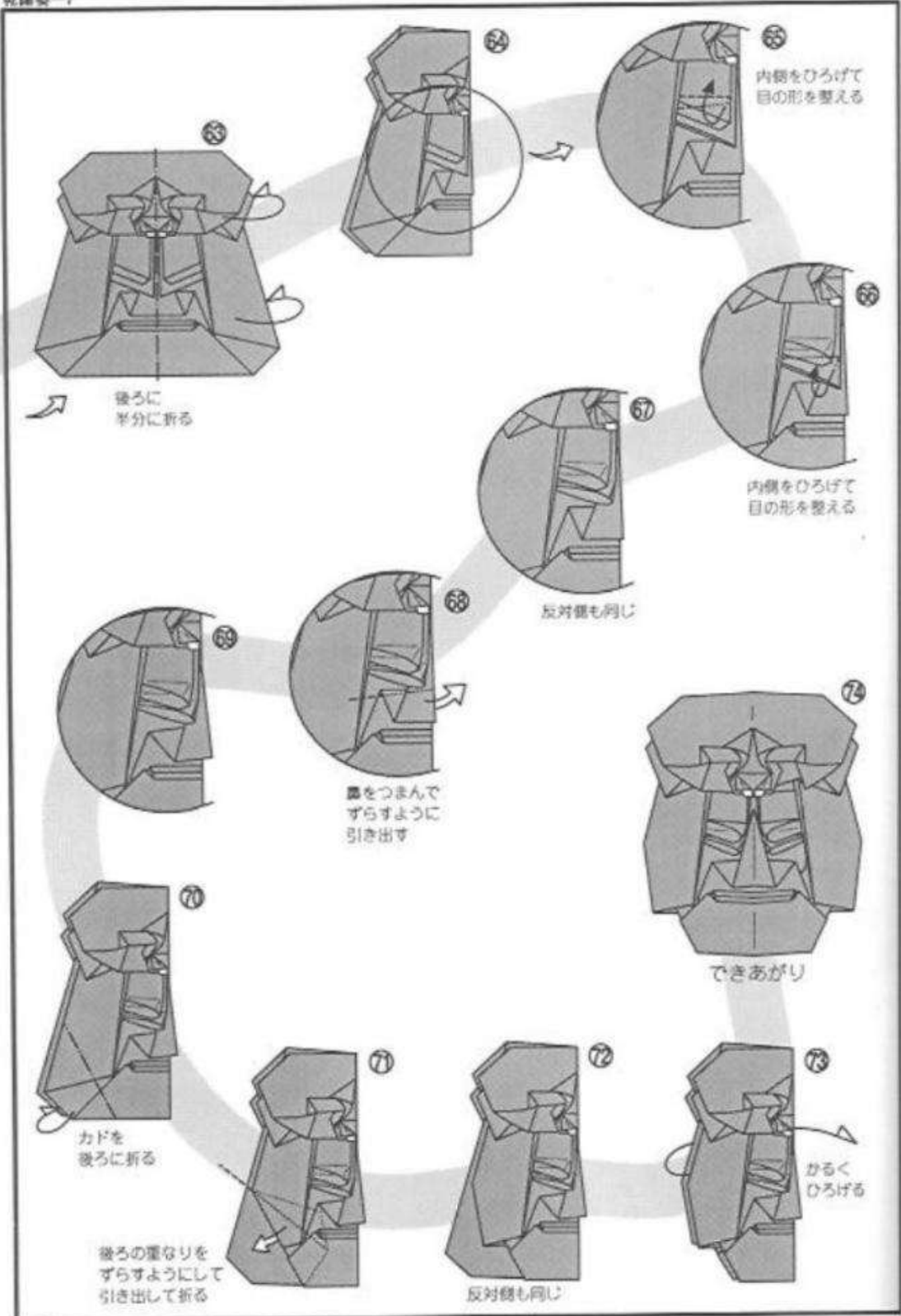


折り筋で折る



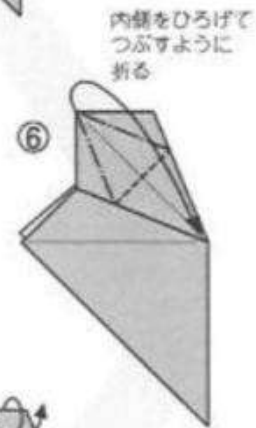
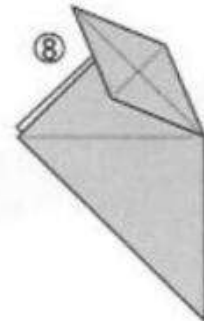
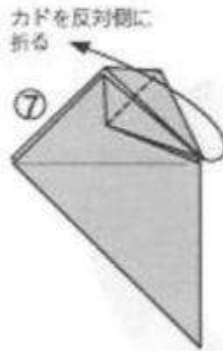
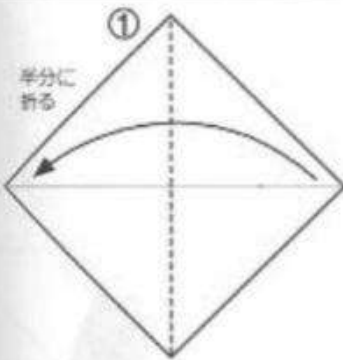
内側をひろげて
つぶすように折る

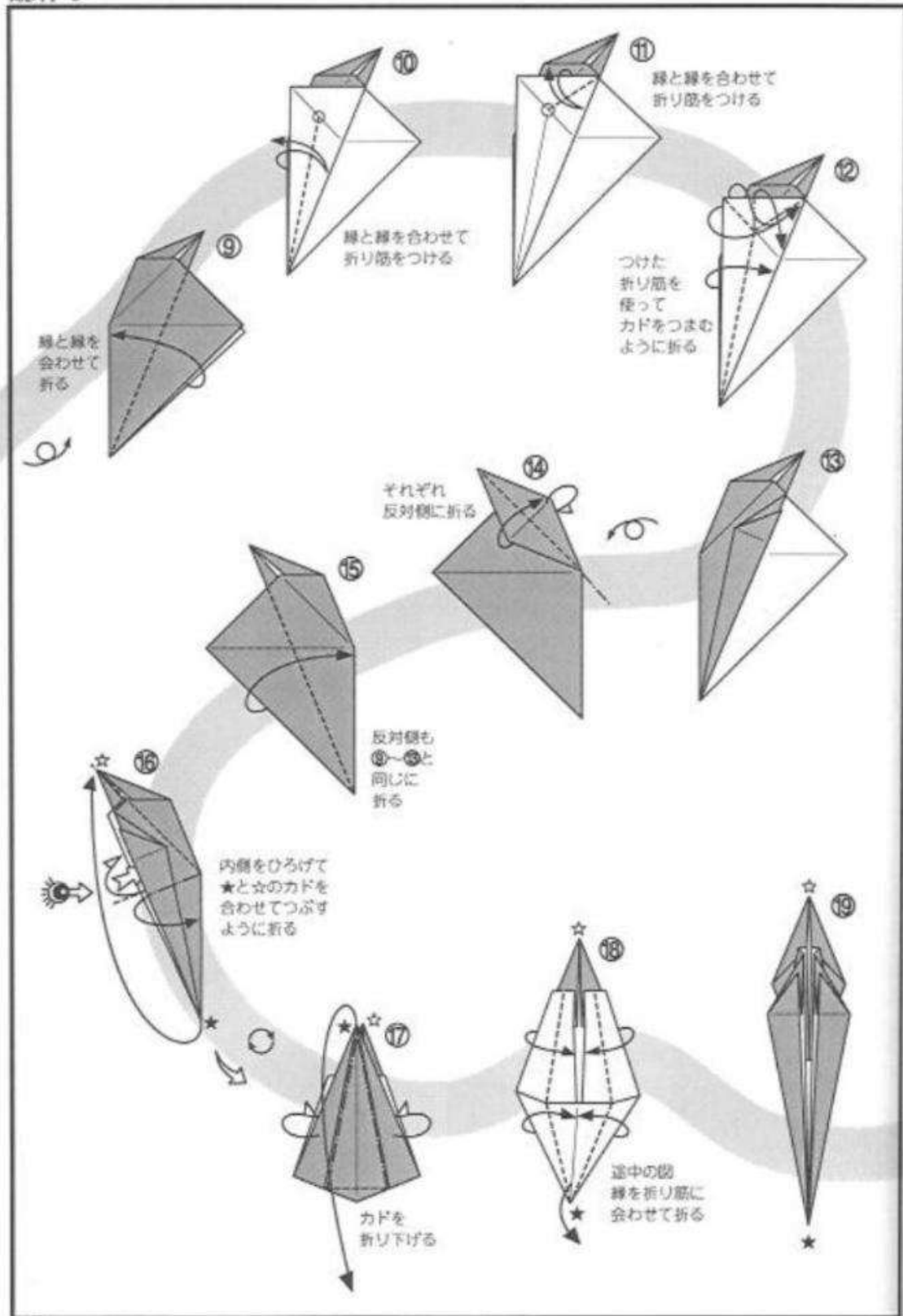


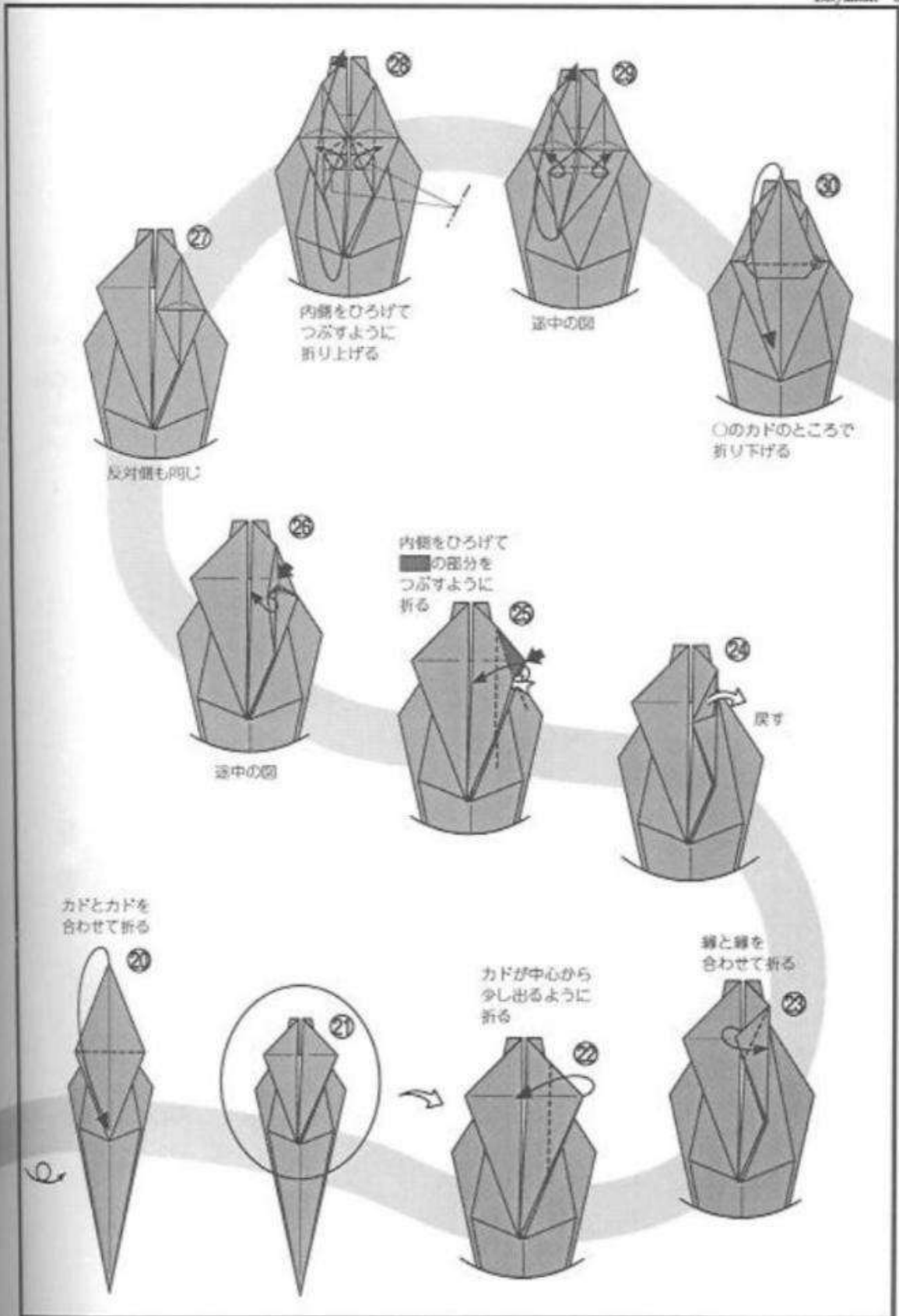


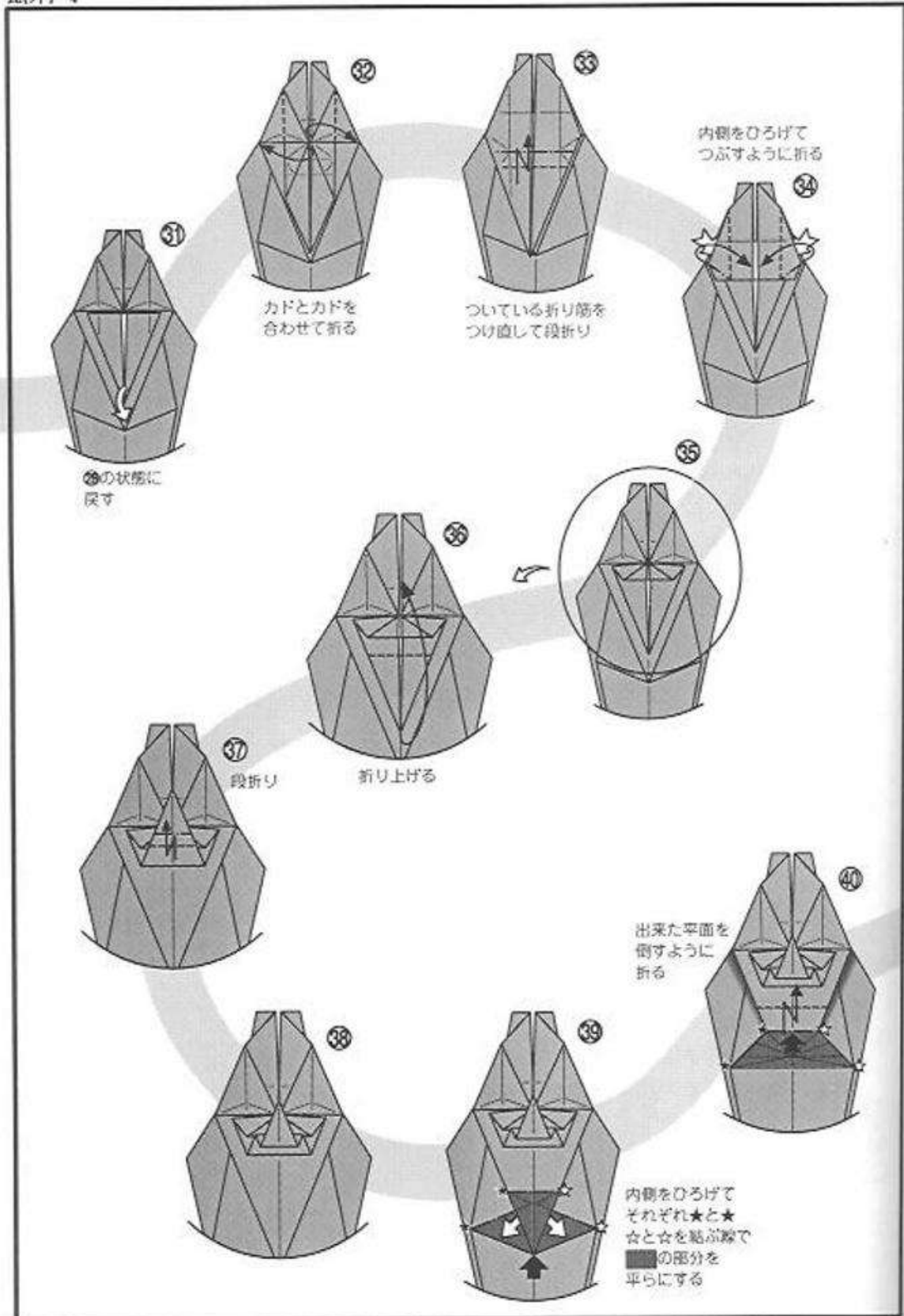
び ひゃ ん
毘沙門

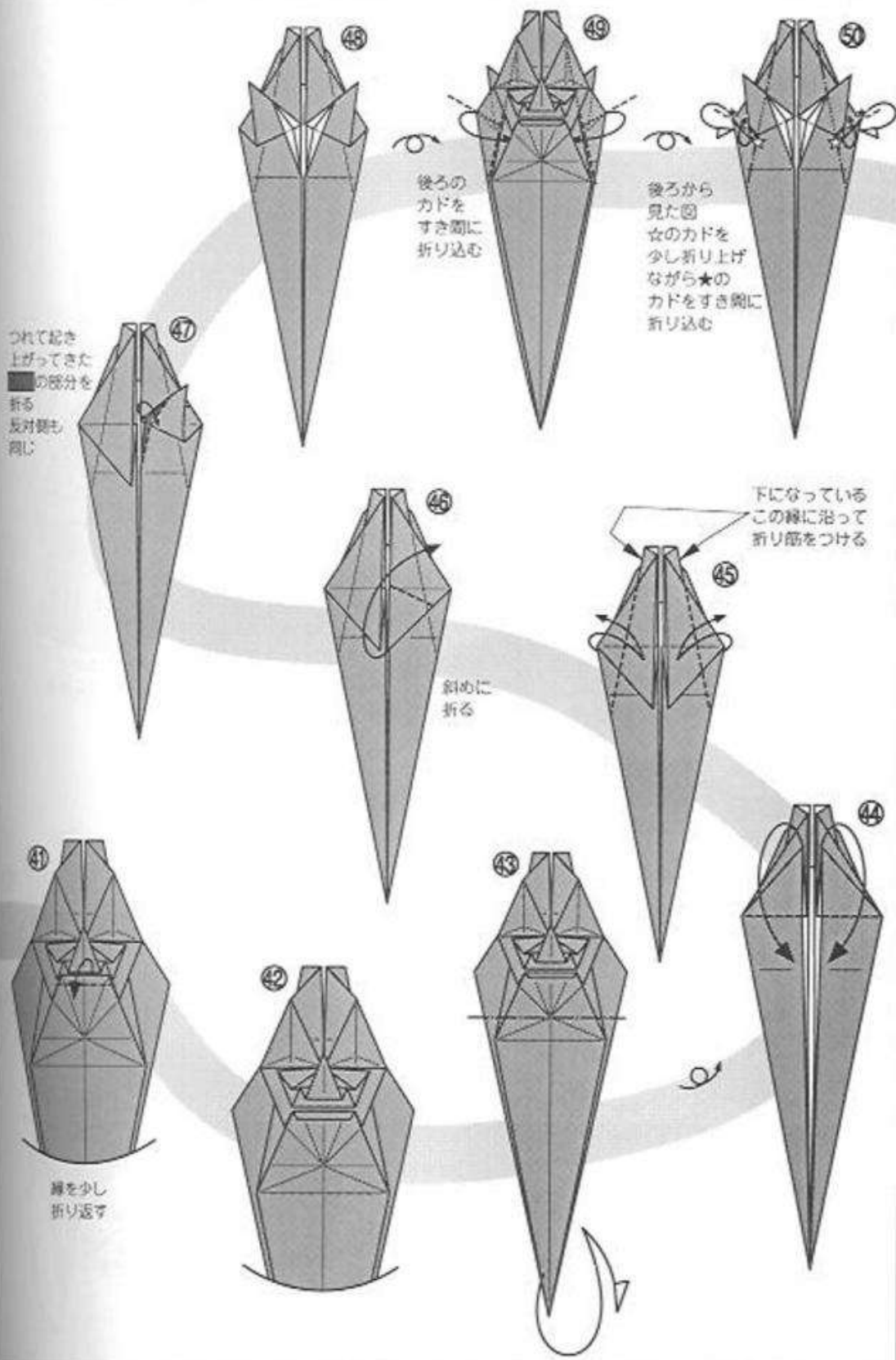
仏法守護神。四天王の多聞天が独尊になったときの名前。
他の折り紙面に比べて凹凸の少ないのっぺりしたでき上がりになるが、目よりもむしろ額や口に力がこもるようにと制作した。

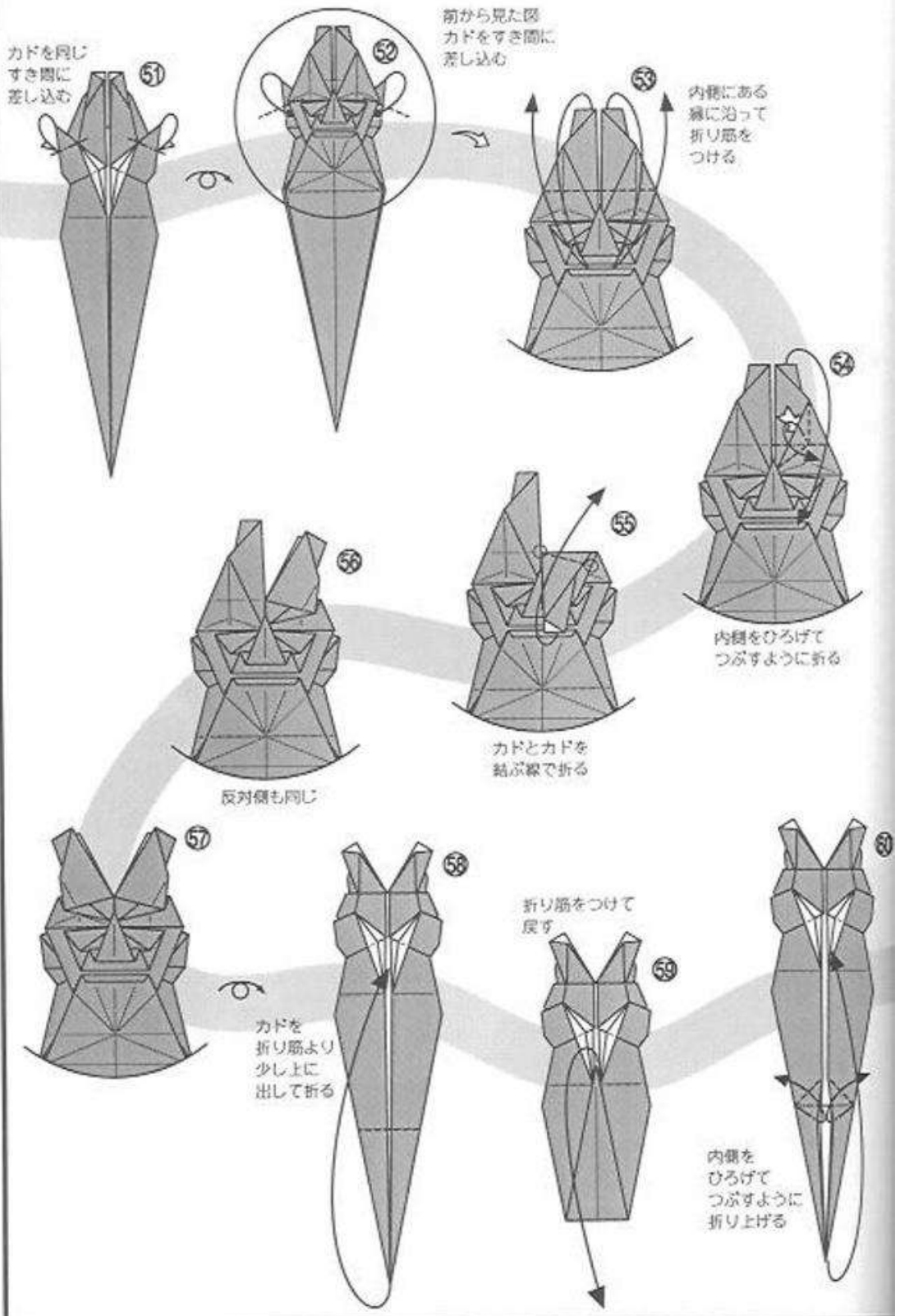


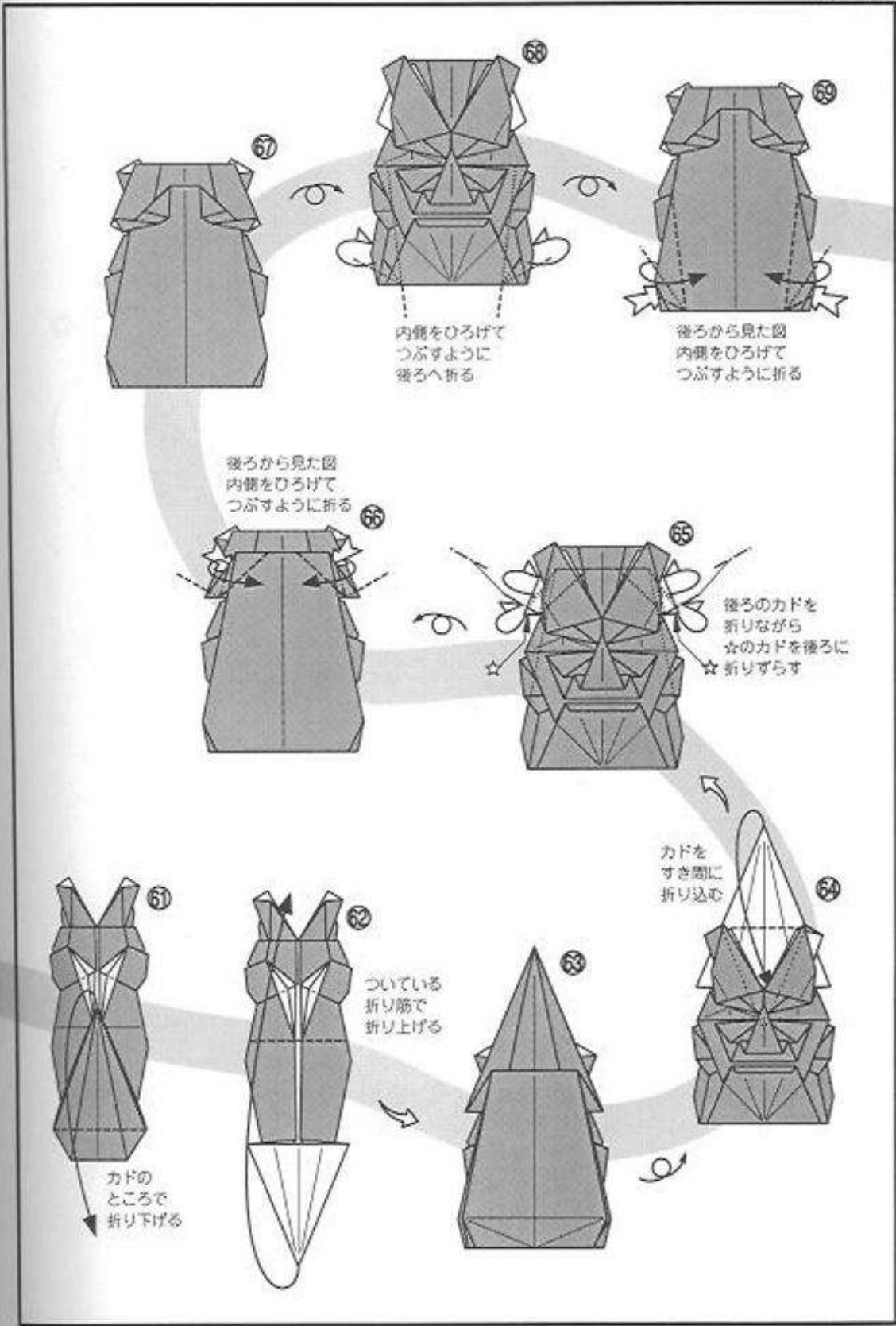


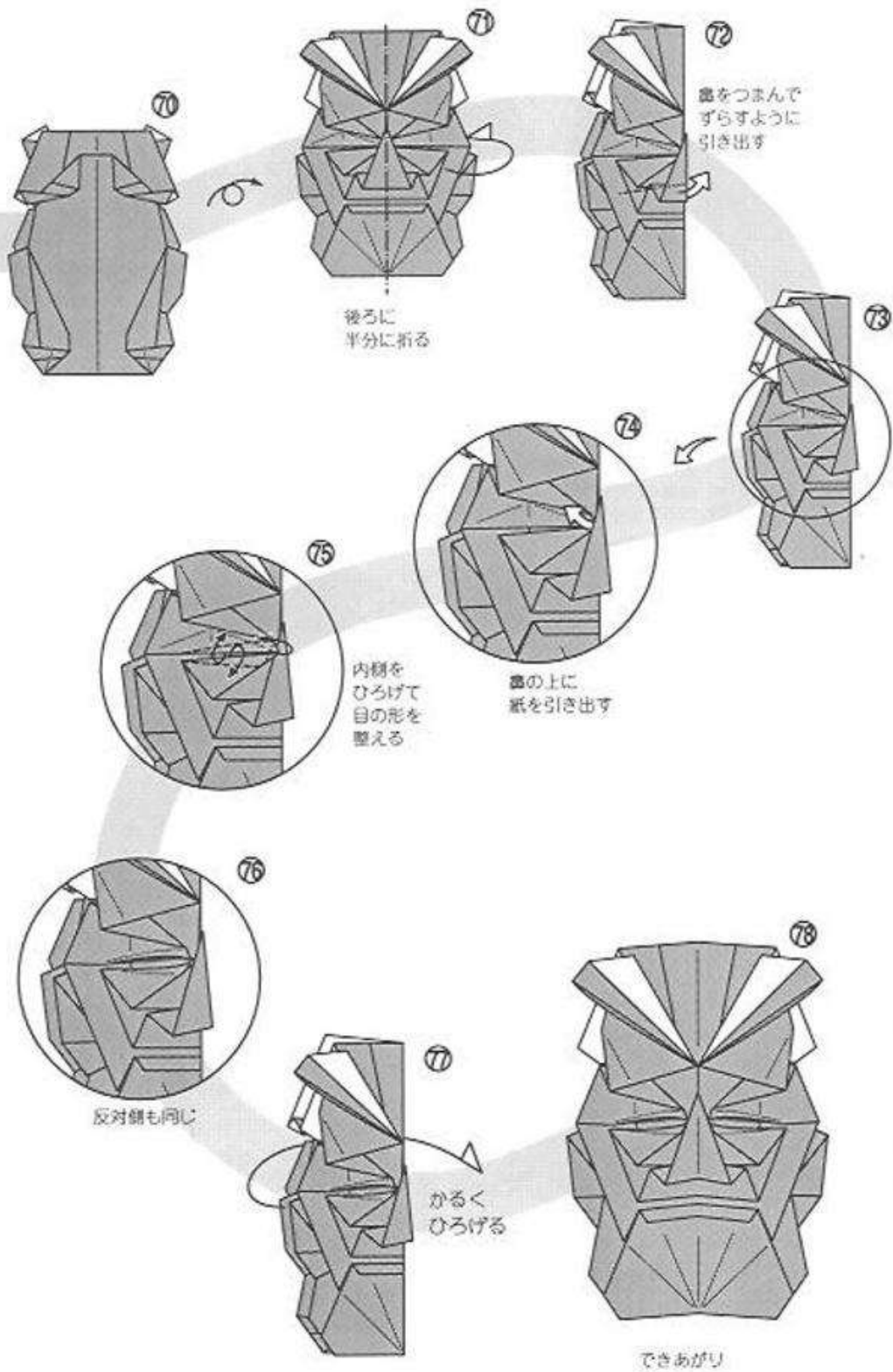






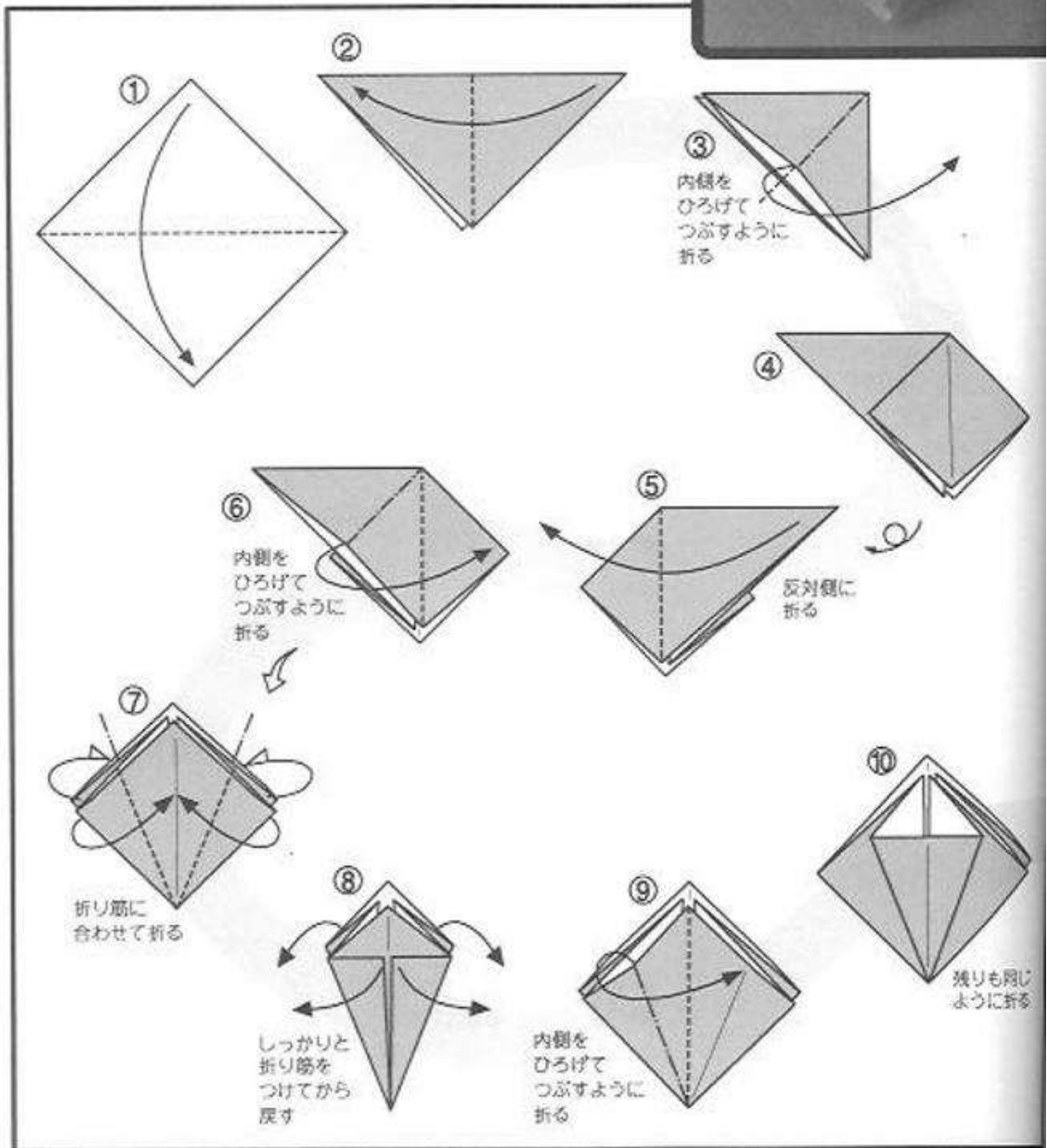
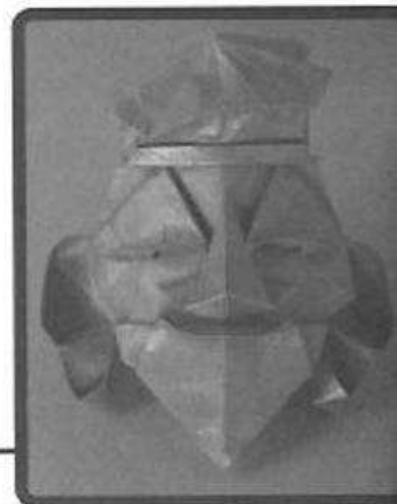


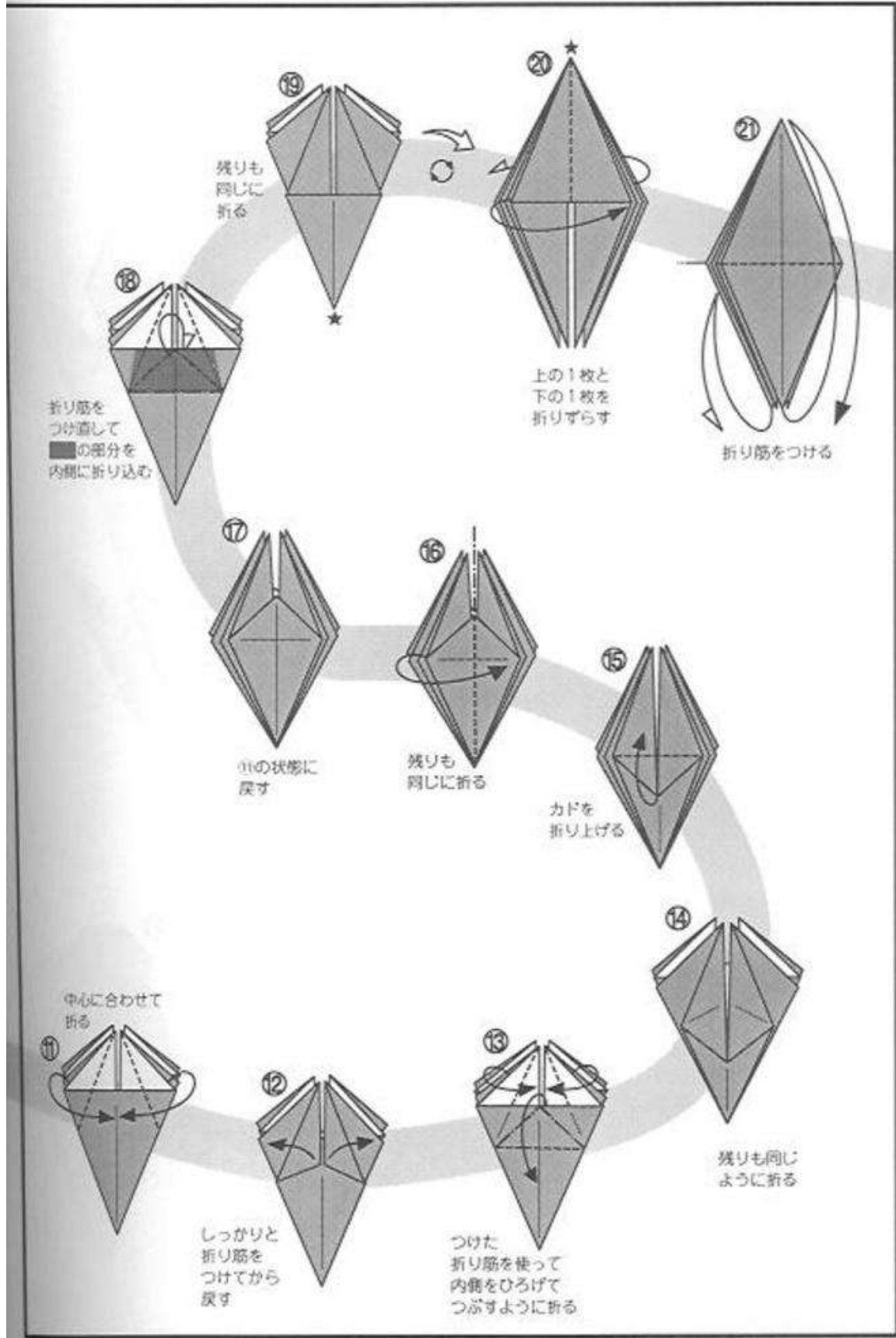


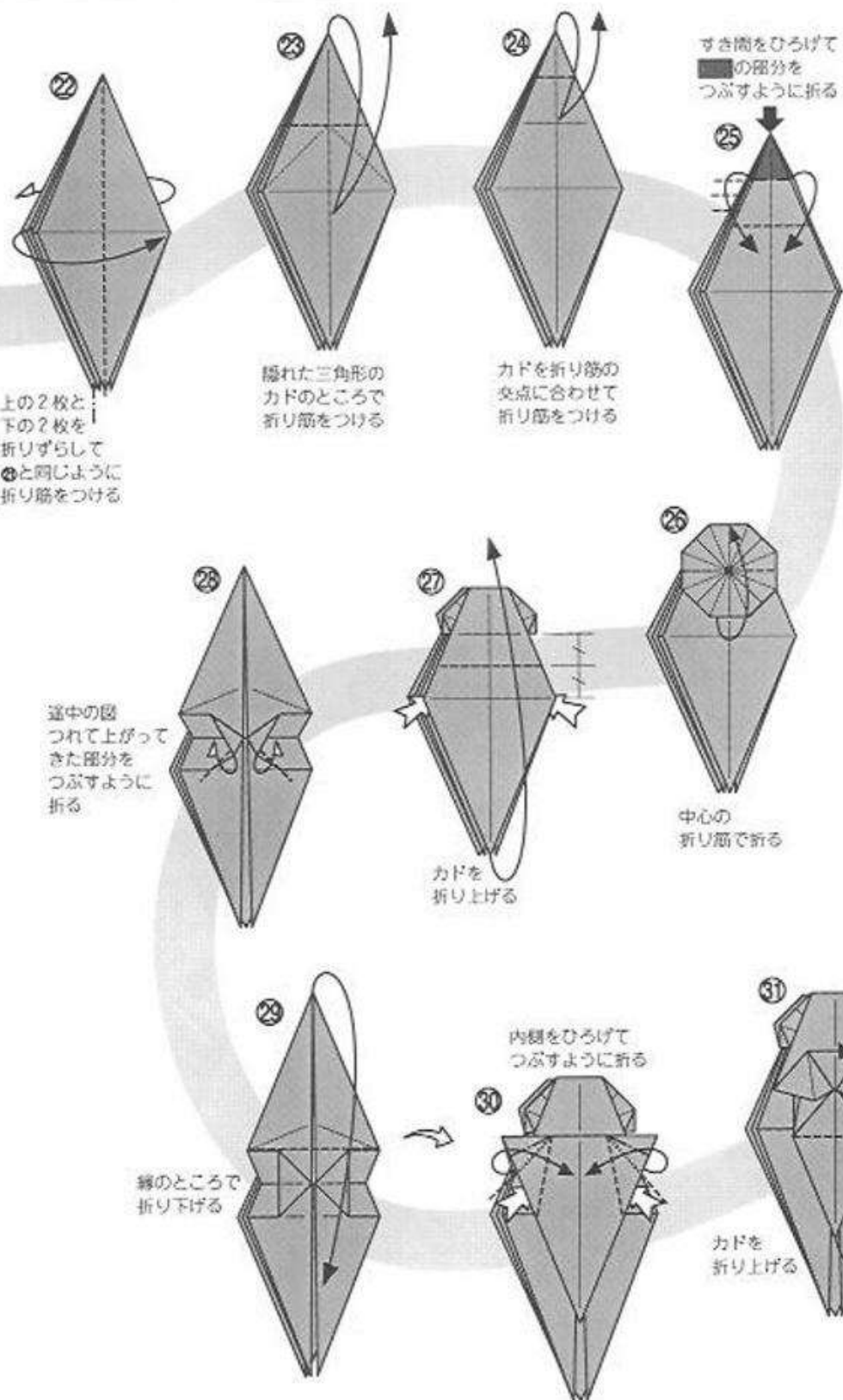


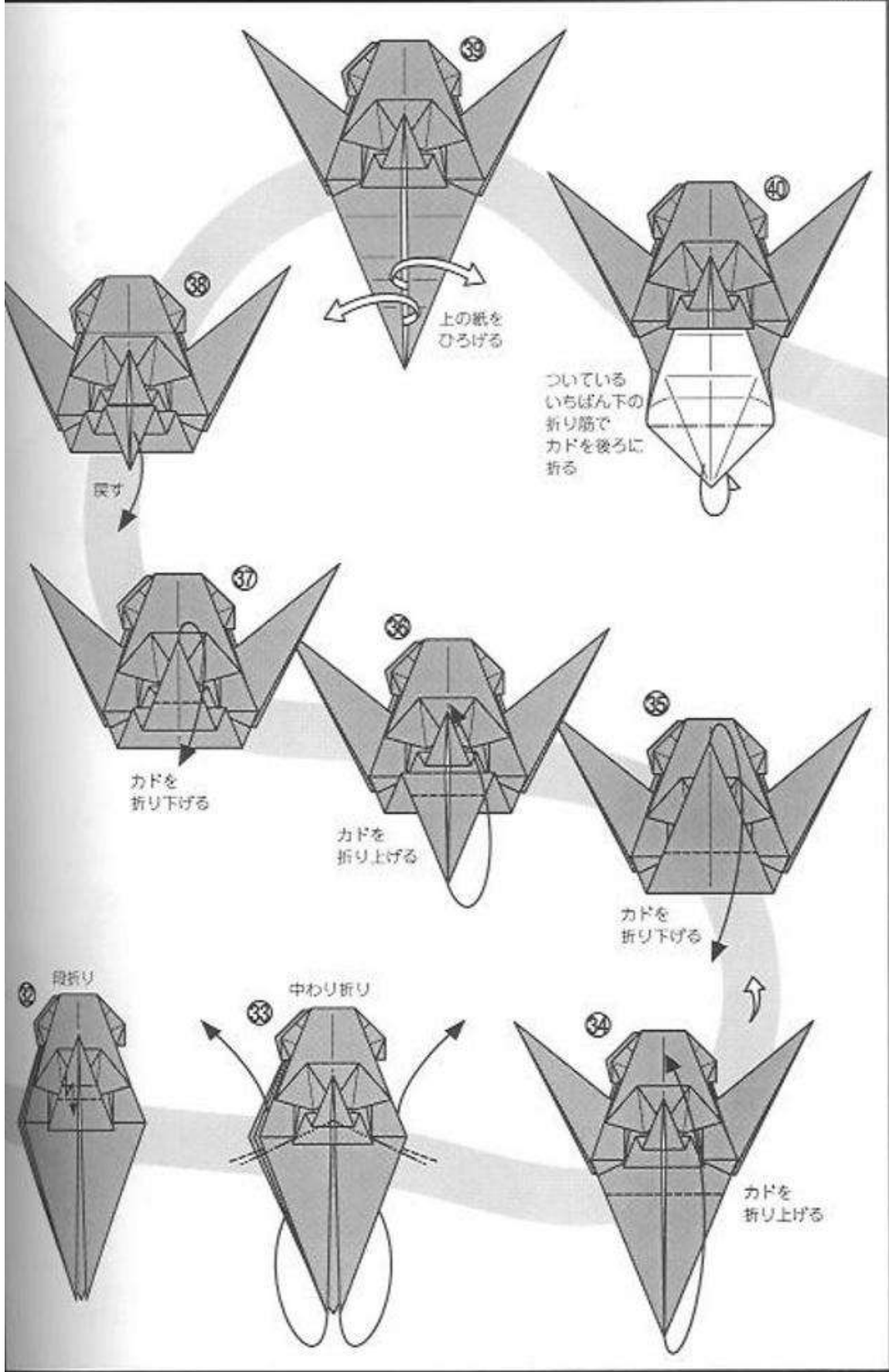
恵比須

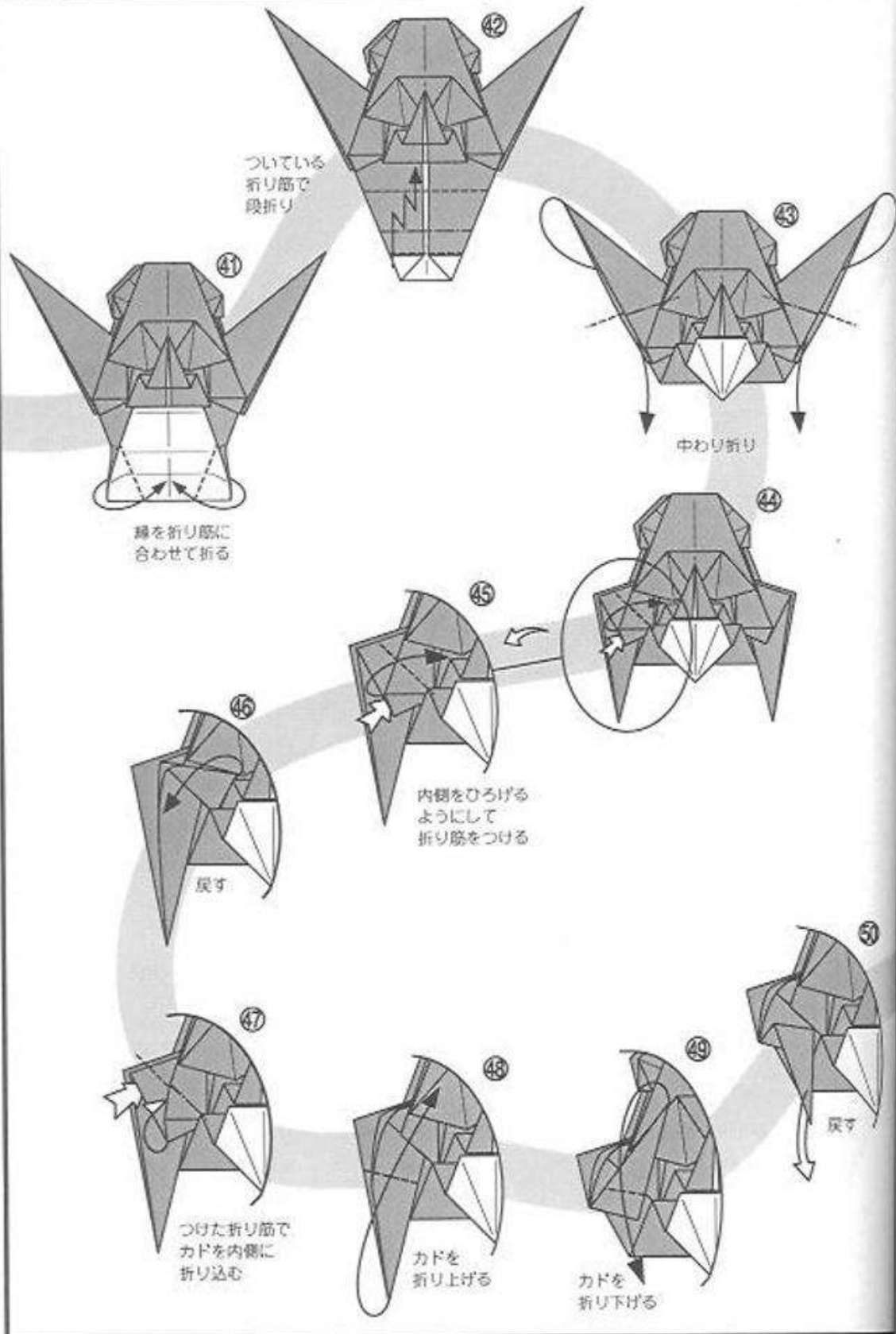
豊漁の神。七福神の一人。
えはしを形よく仕上げることで、目鼻の折り出し分量がポイント。耳は福々しく大きくした。

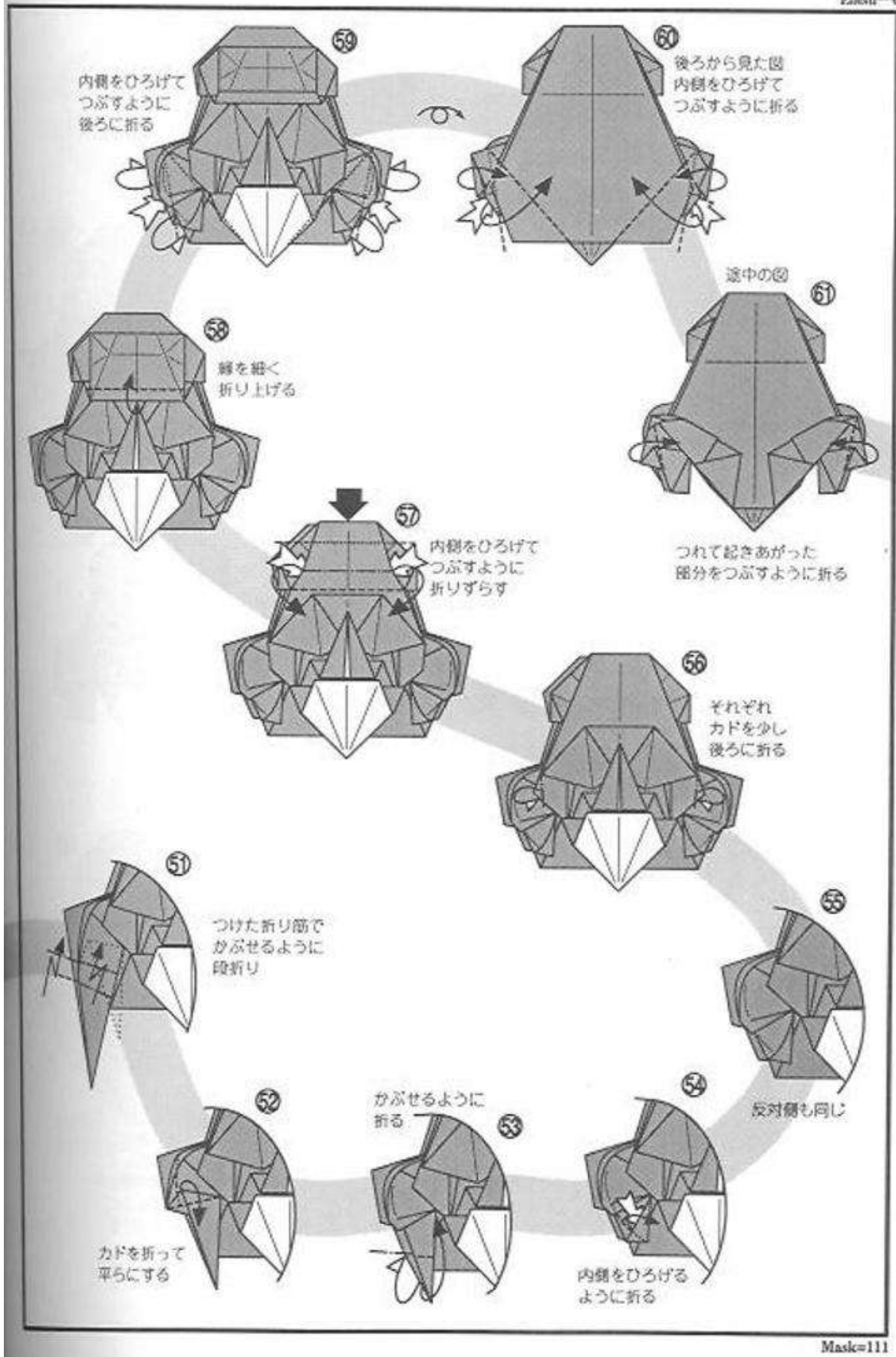


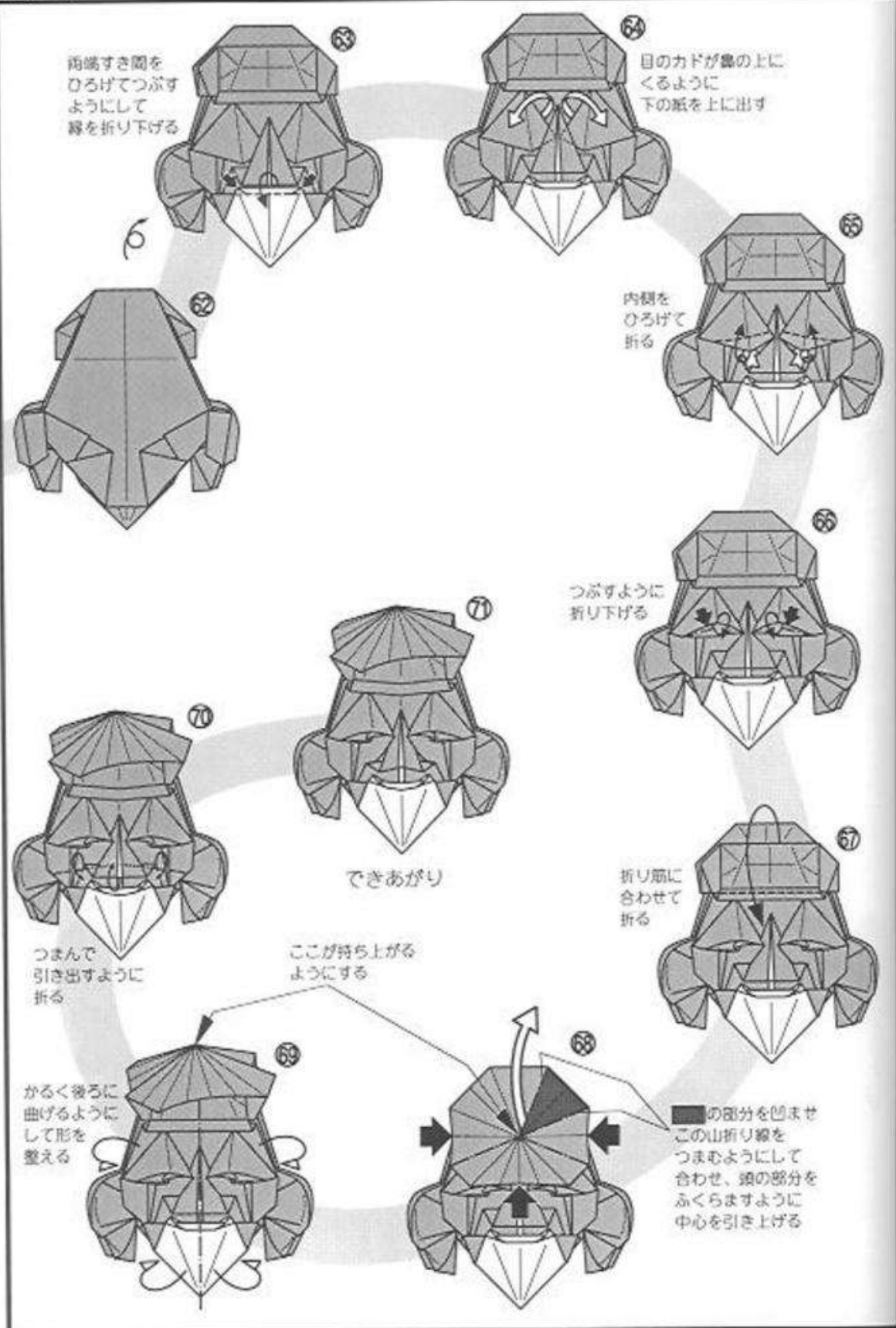


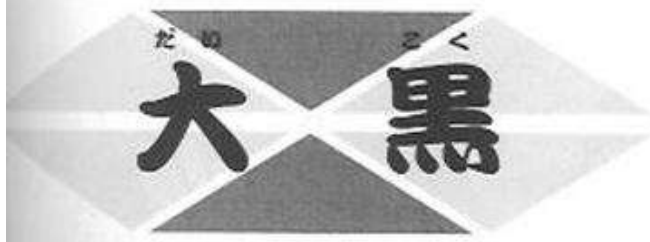




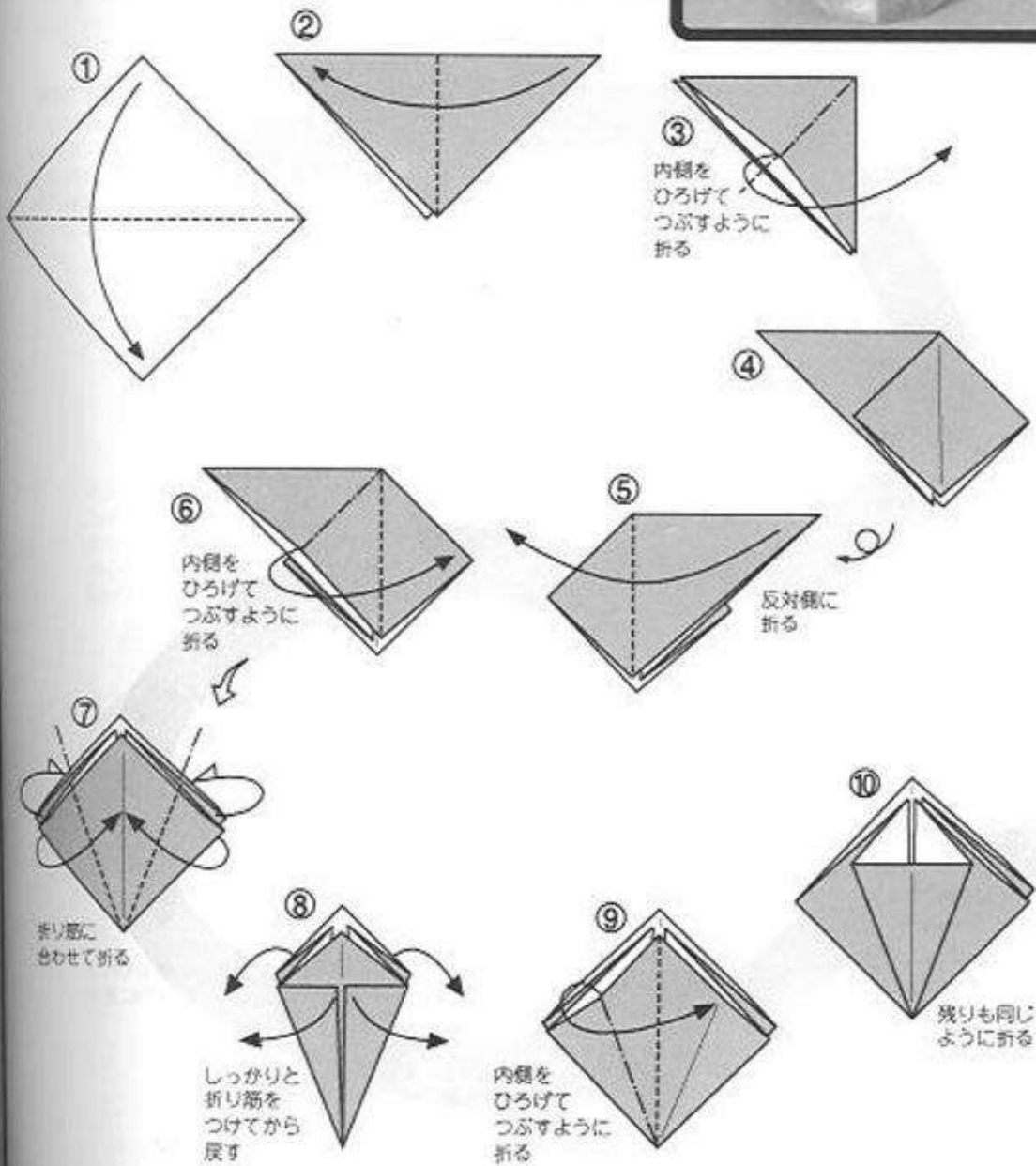


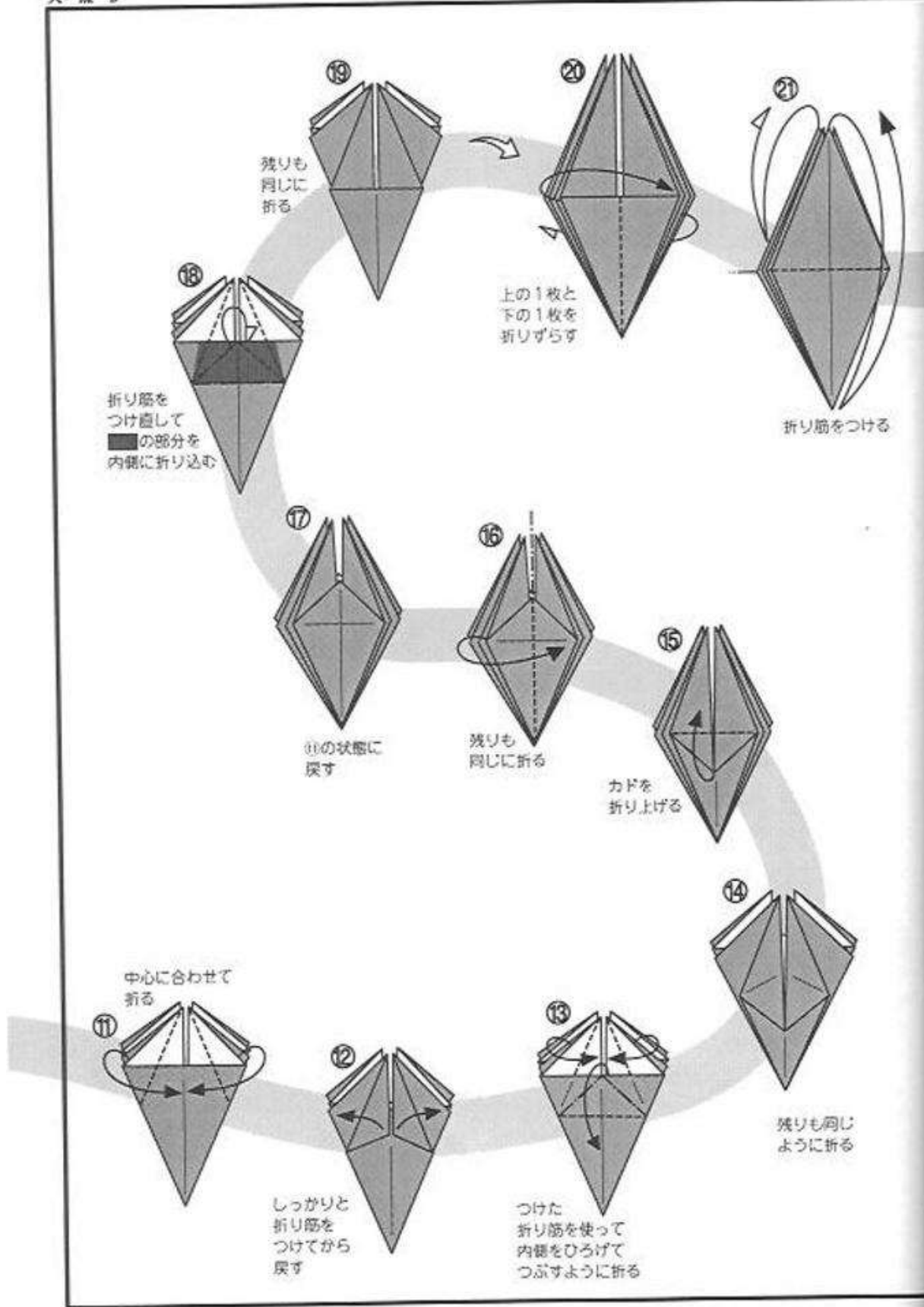


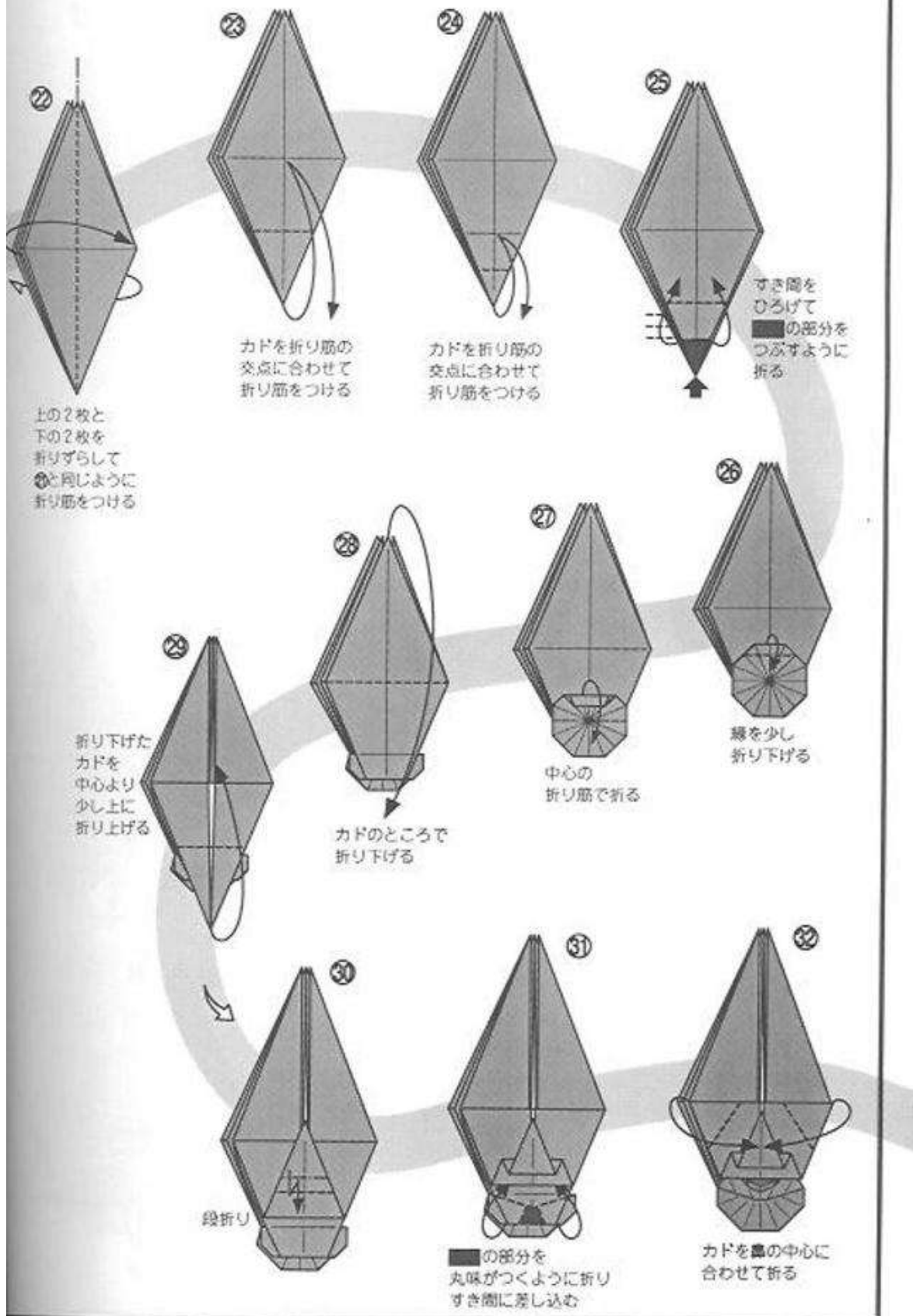


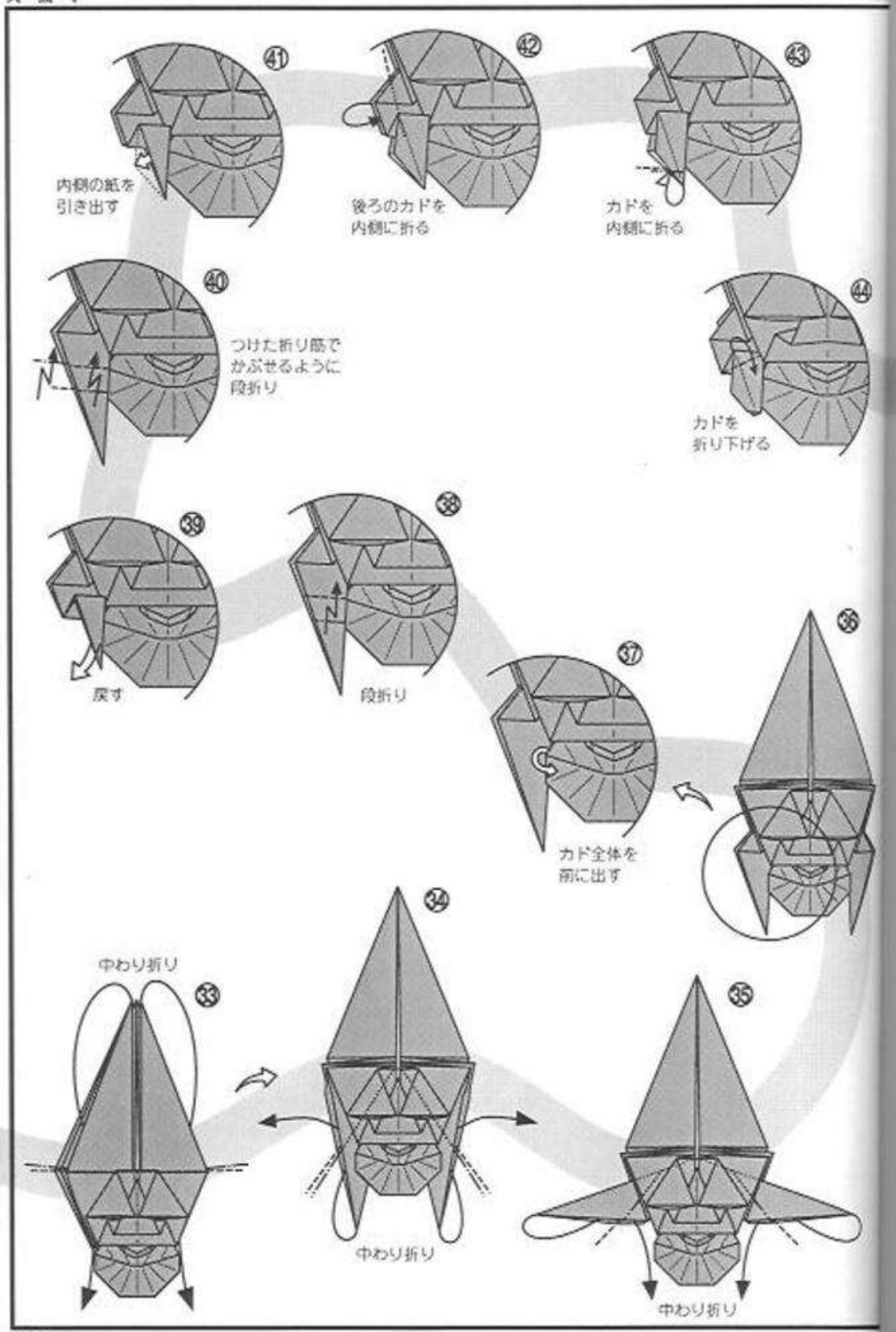


徳の神。七福神の一人。
 比須でえぼしになった部分が、ここでは口と顔と髷に
 なる。口元と目元を、最後にゆったりと、にっこりとカ
 プをつけて仕上げる。

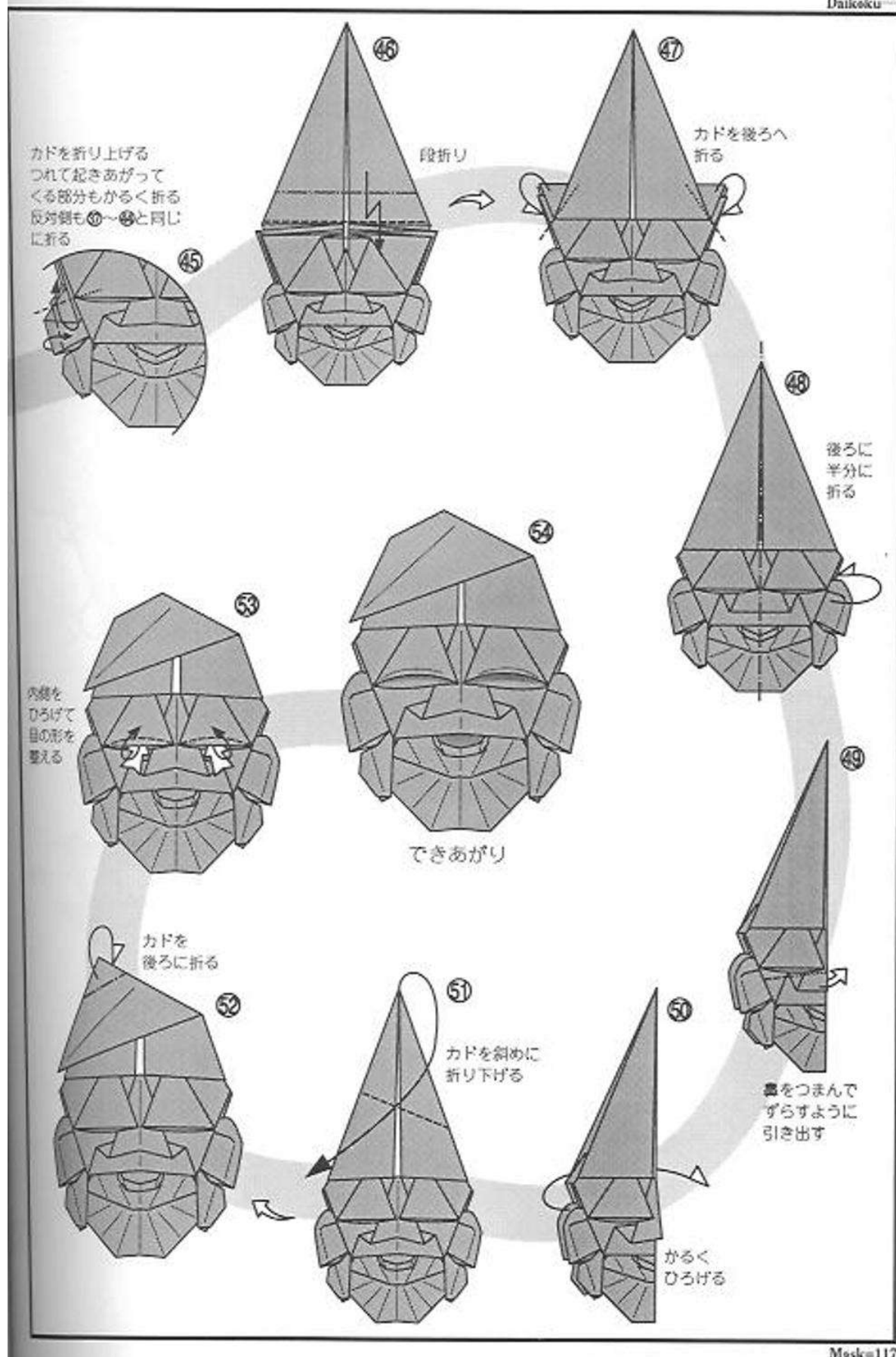






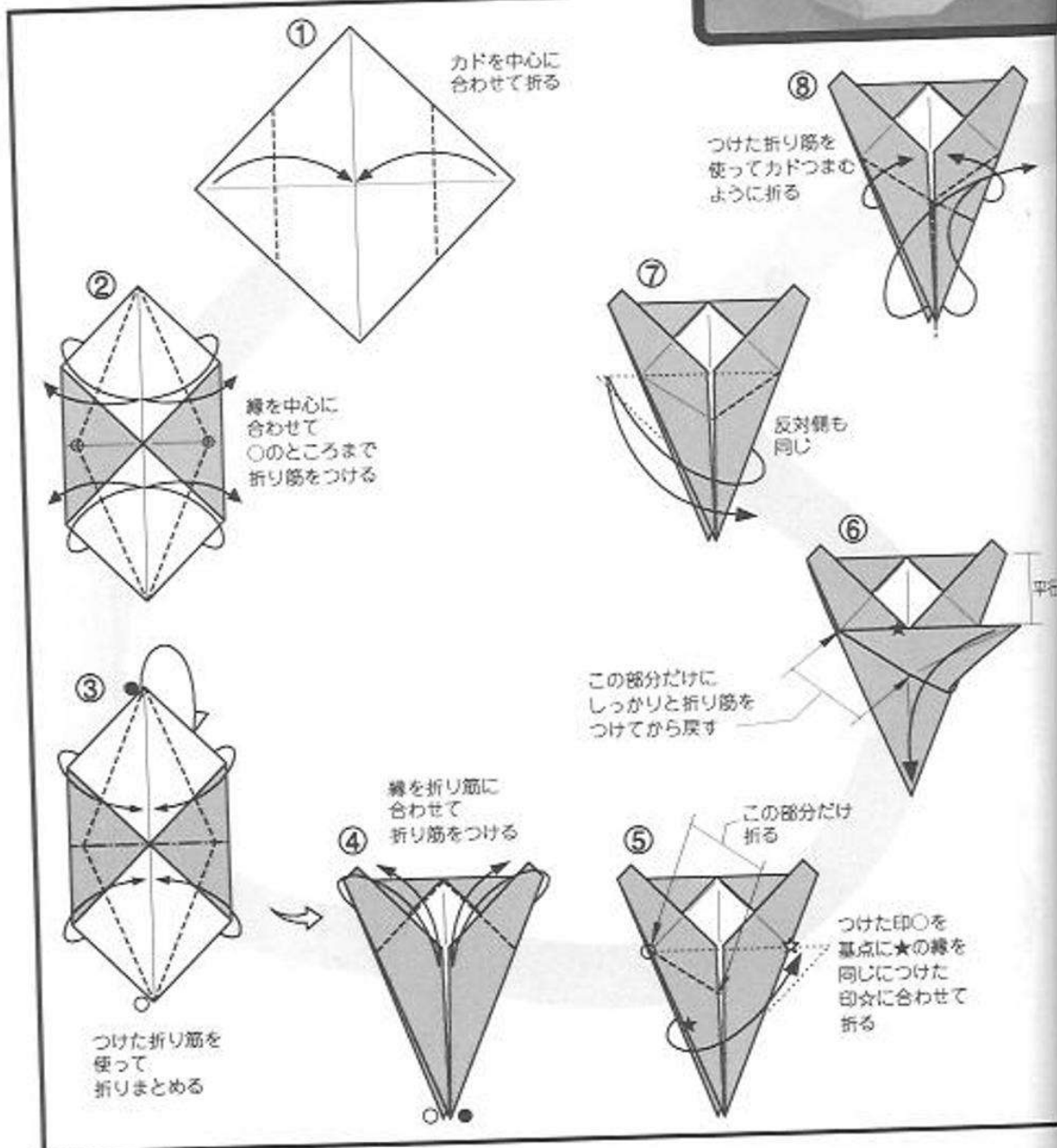


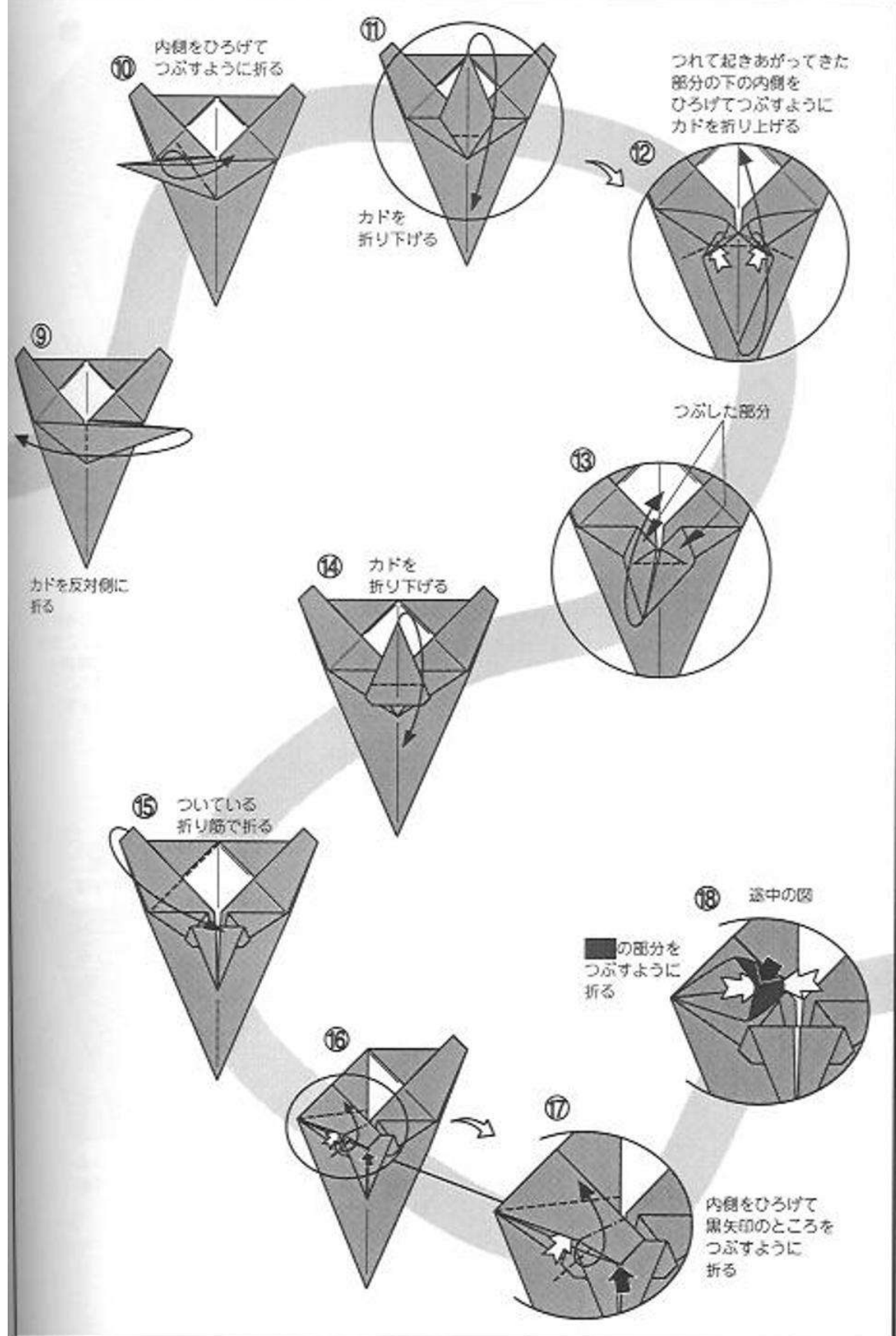
面=116

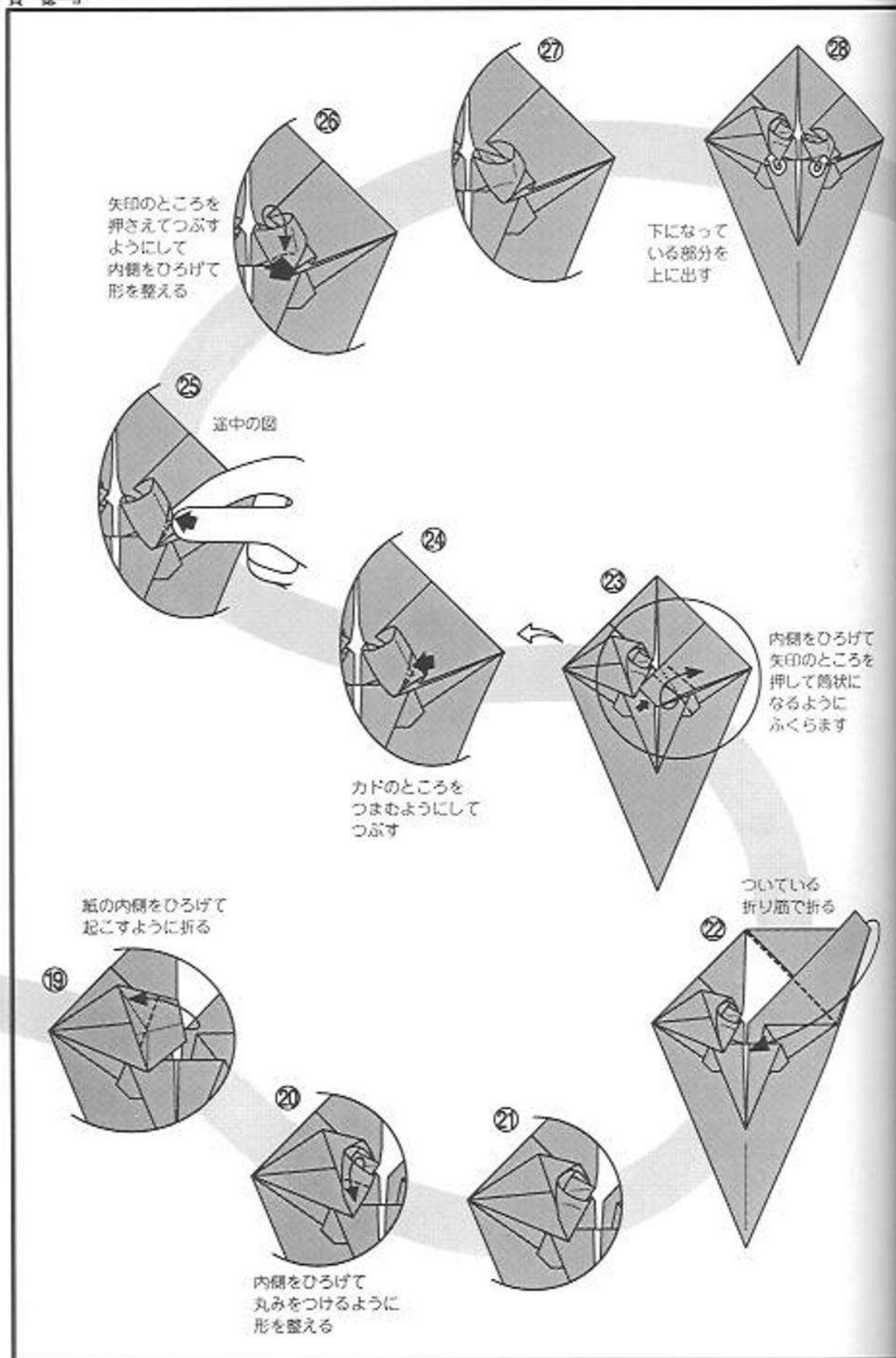


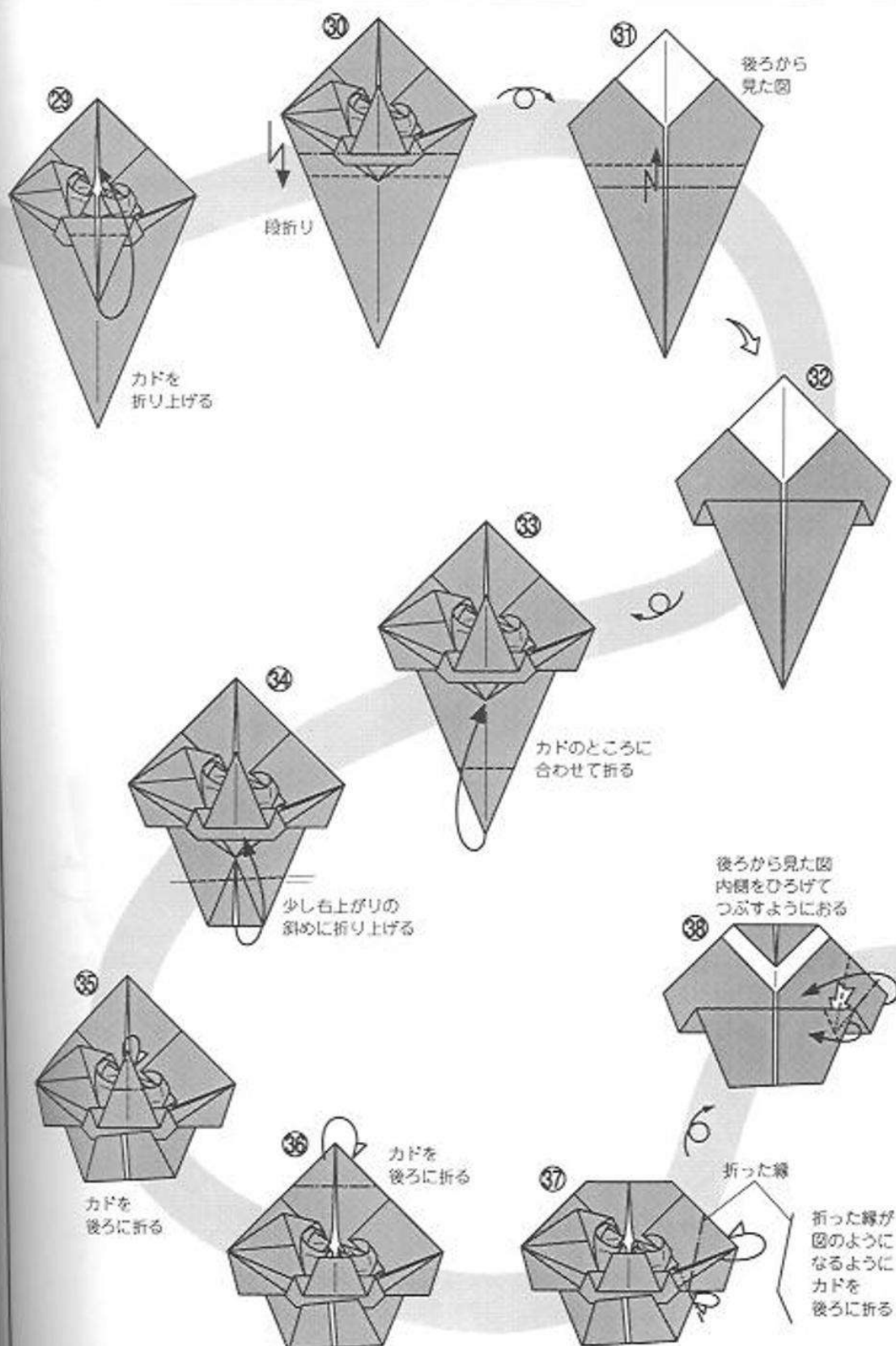


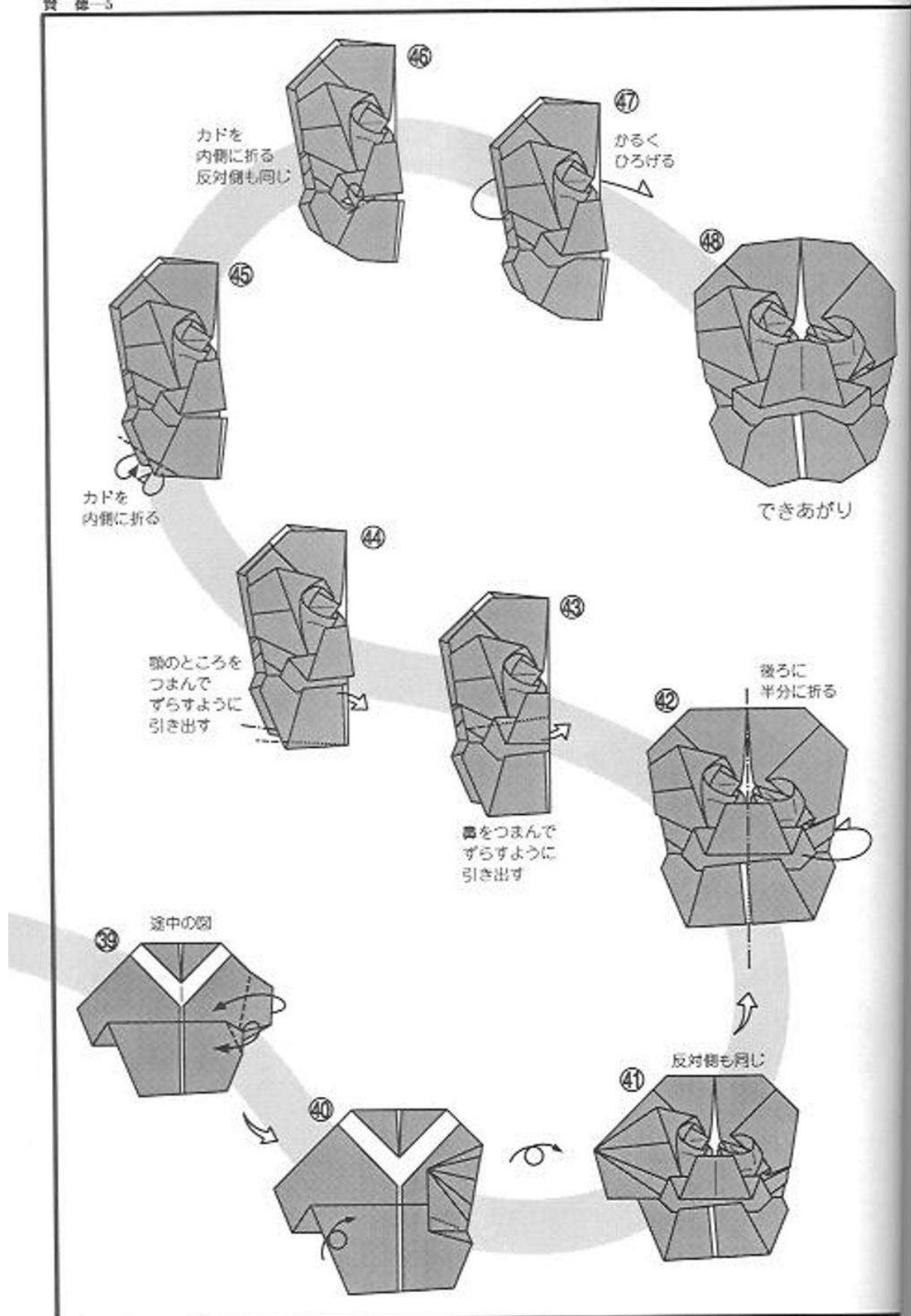
馬、牛、犬、蛸などをあらわす場合に使われる。
あちこちを向いた目、「うへっ！」というように結ばれた口など、面の独特の表情に引かれて、それを折り紙面へ象徴的に写すべく制作した。

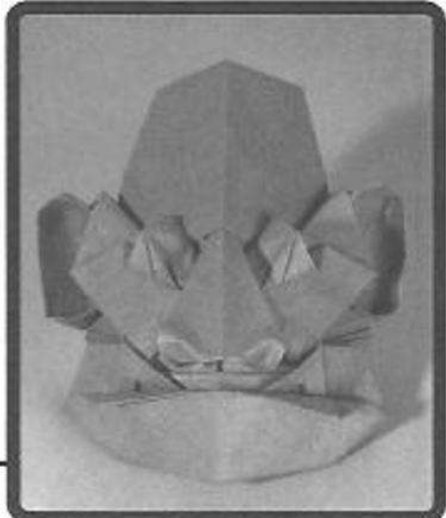




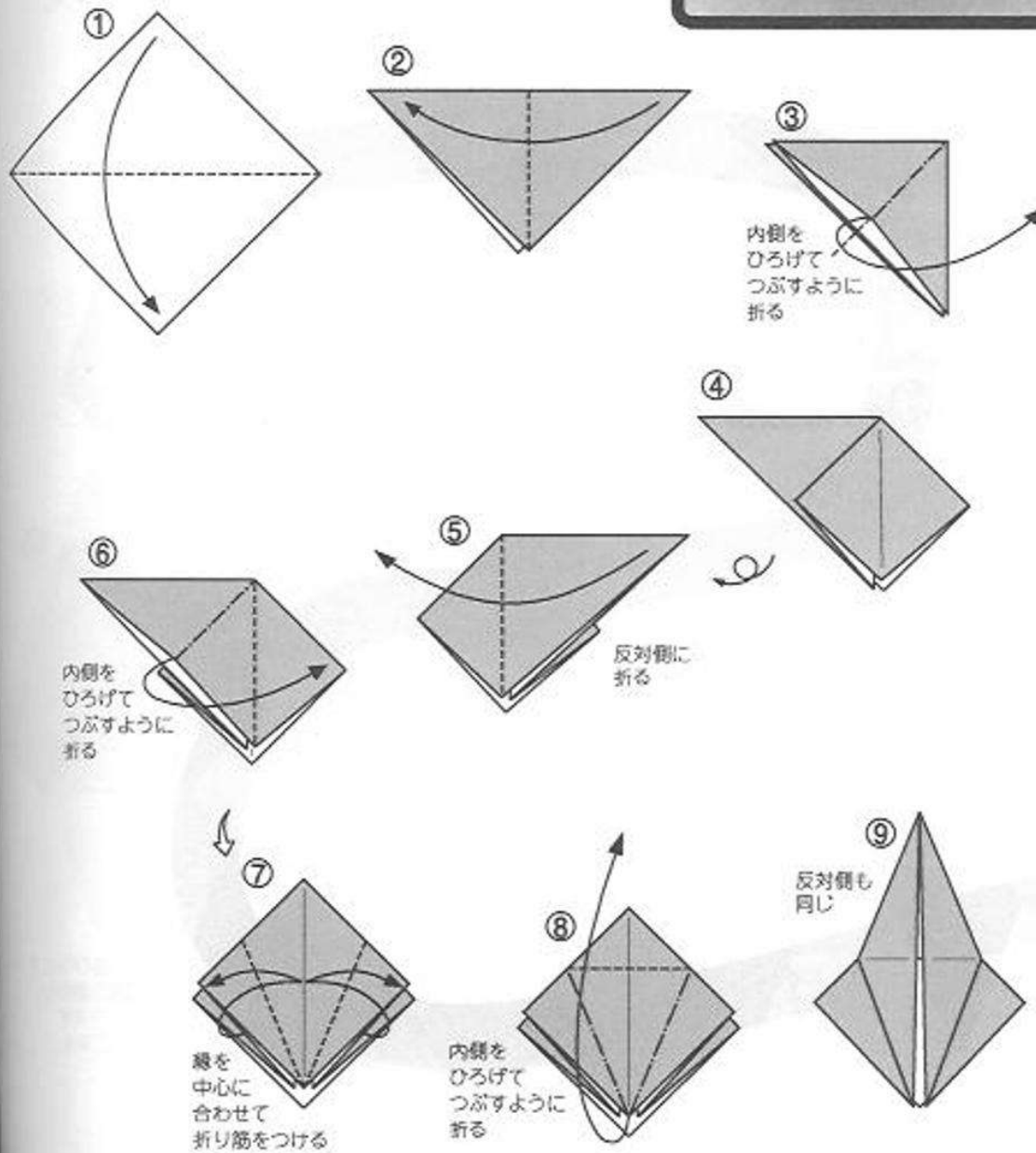




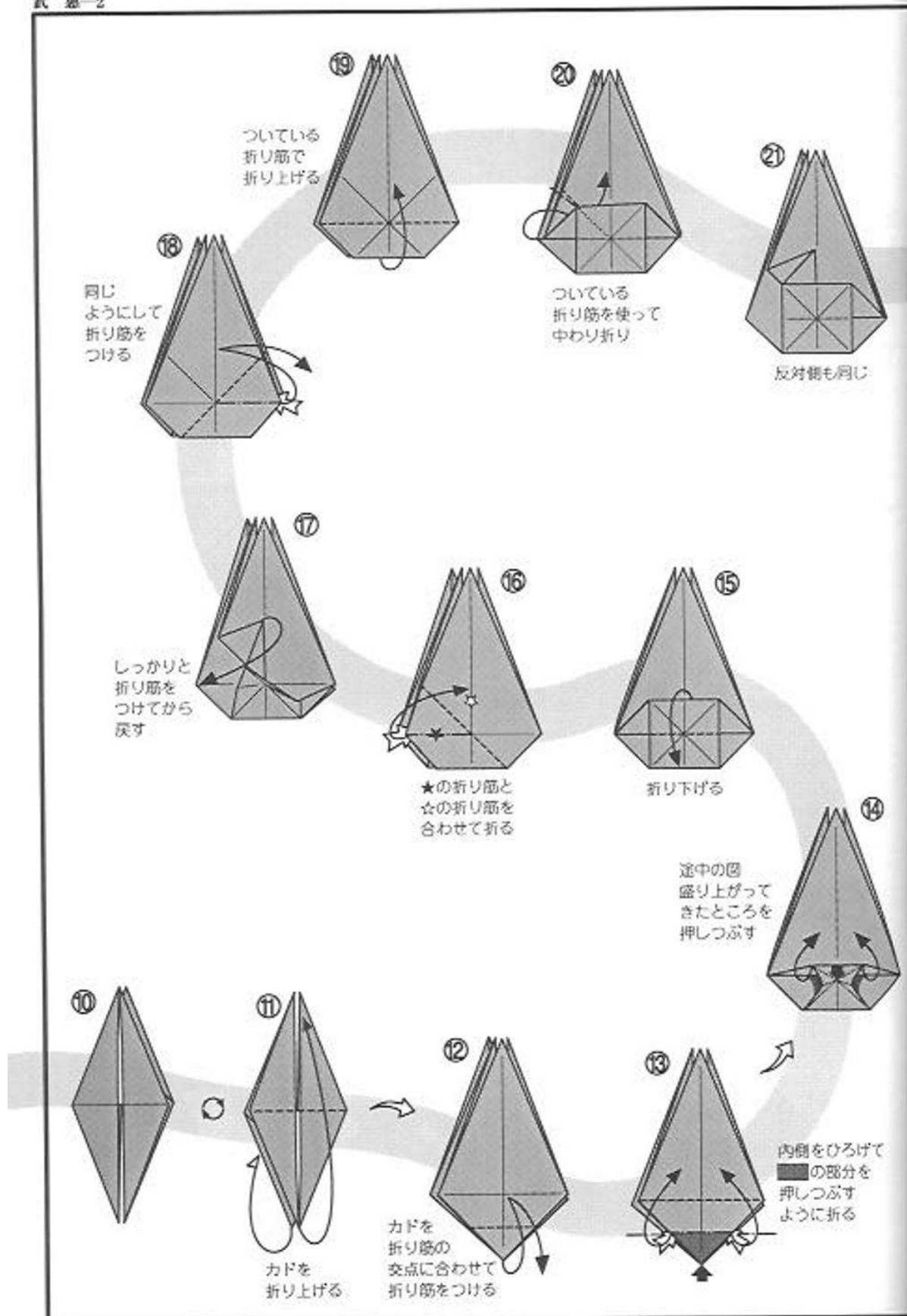


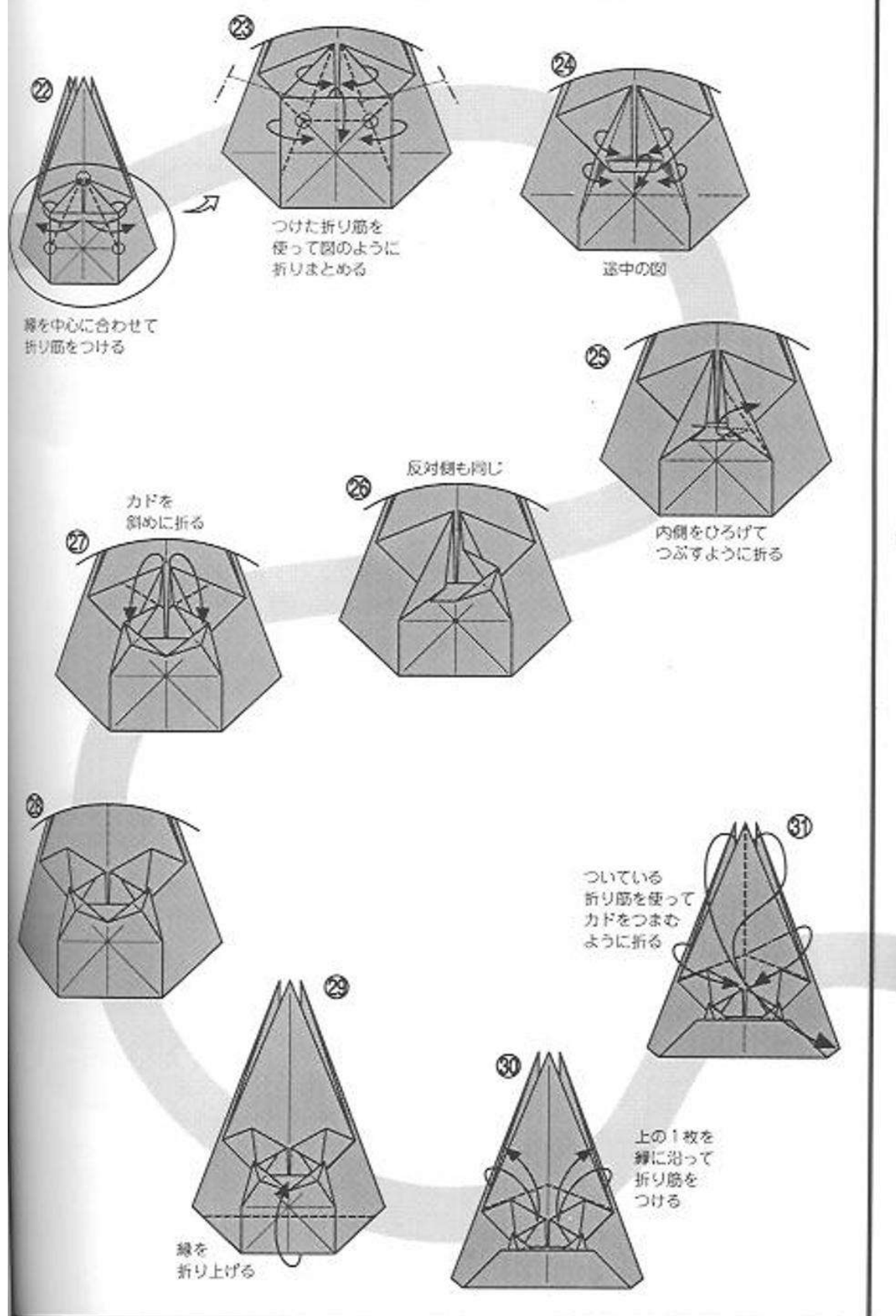


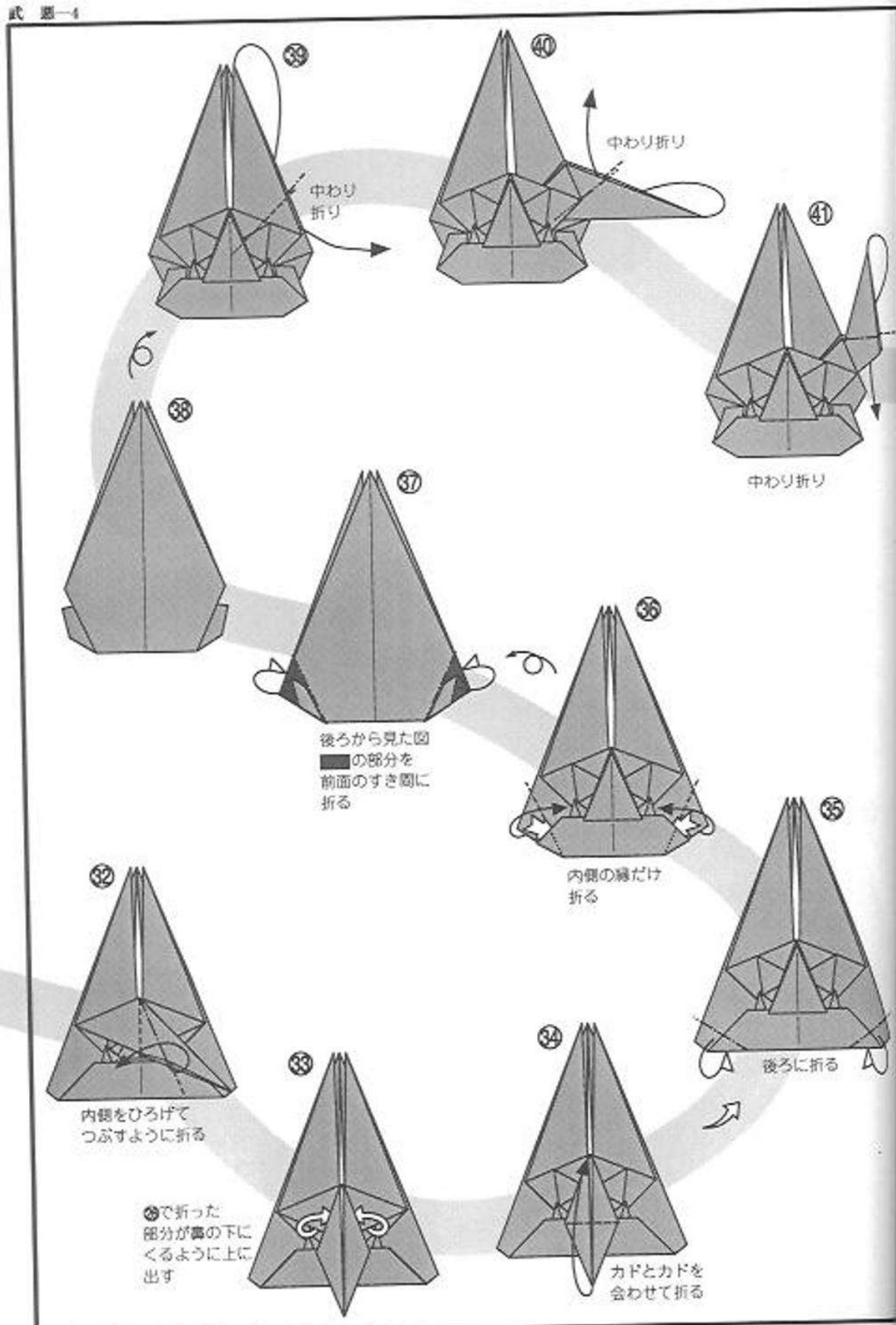
滑稽味のある鬼の面。
 そうでいてどことなく抜けている滑稽味を出したかったが、何だか立派になってしまった。他より折りやすい面だと思う。ポイントは顎と口。

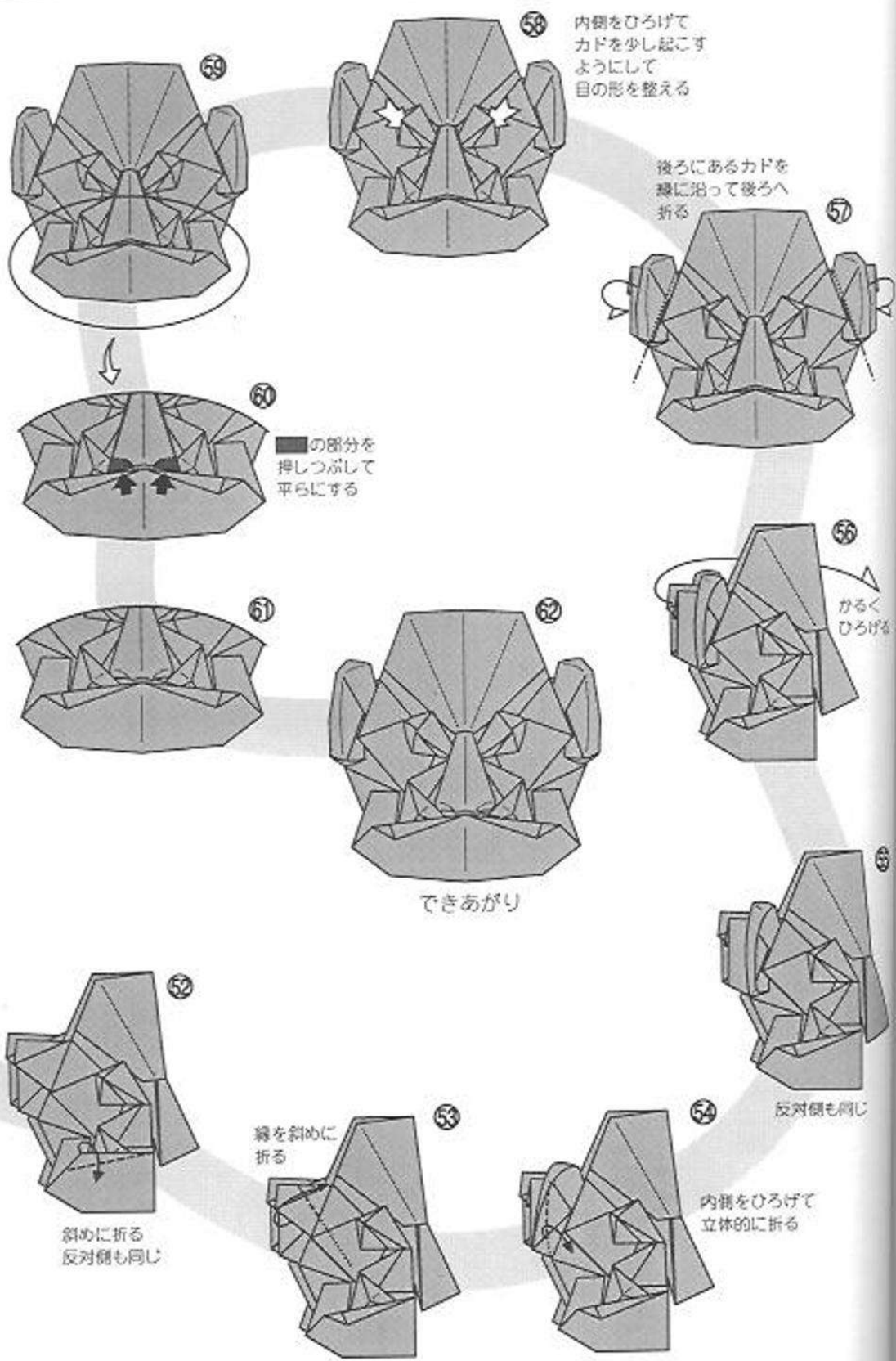


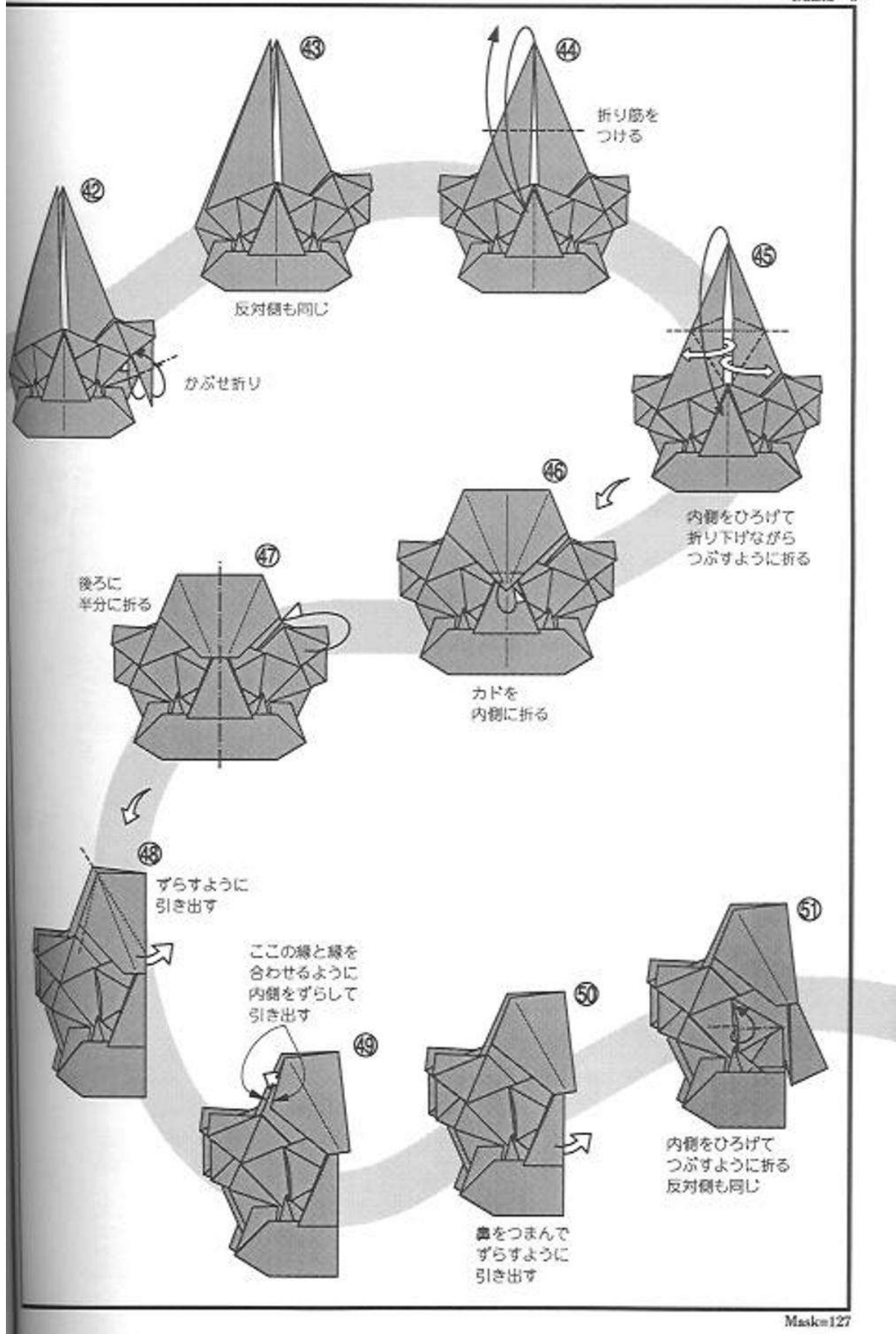
Mask=123





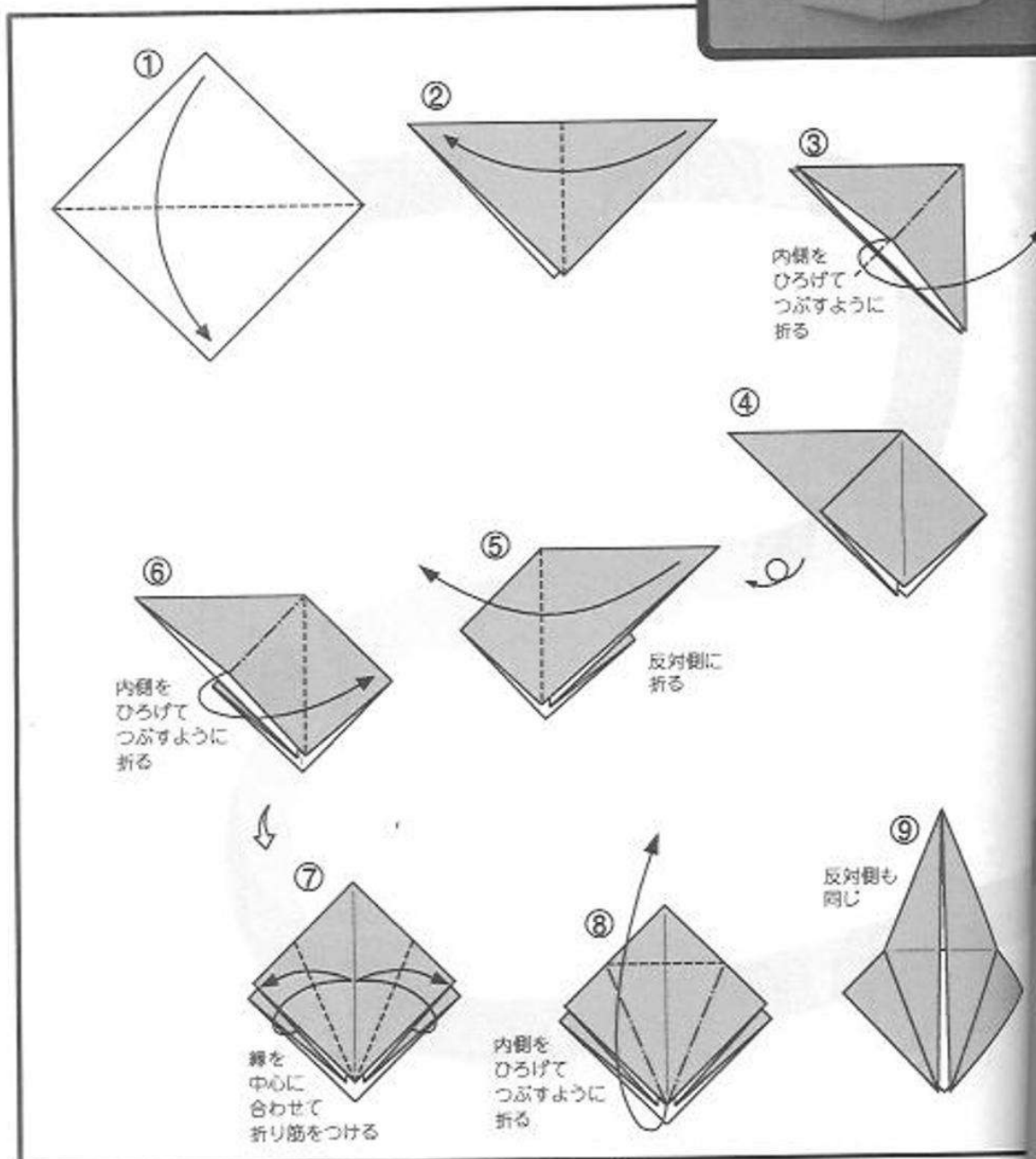


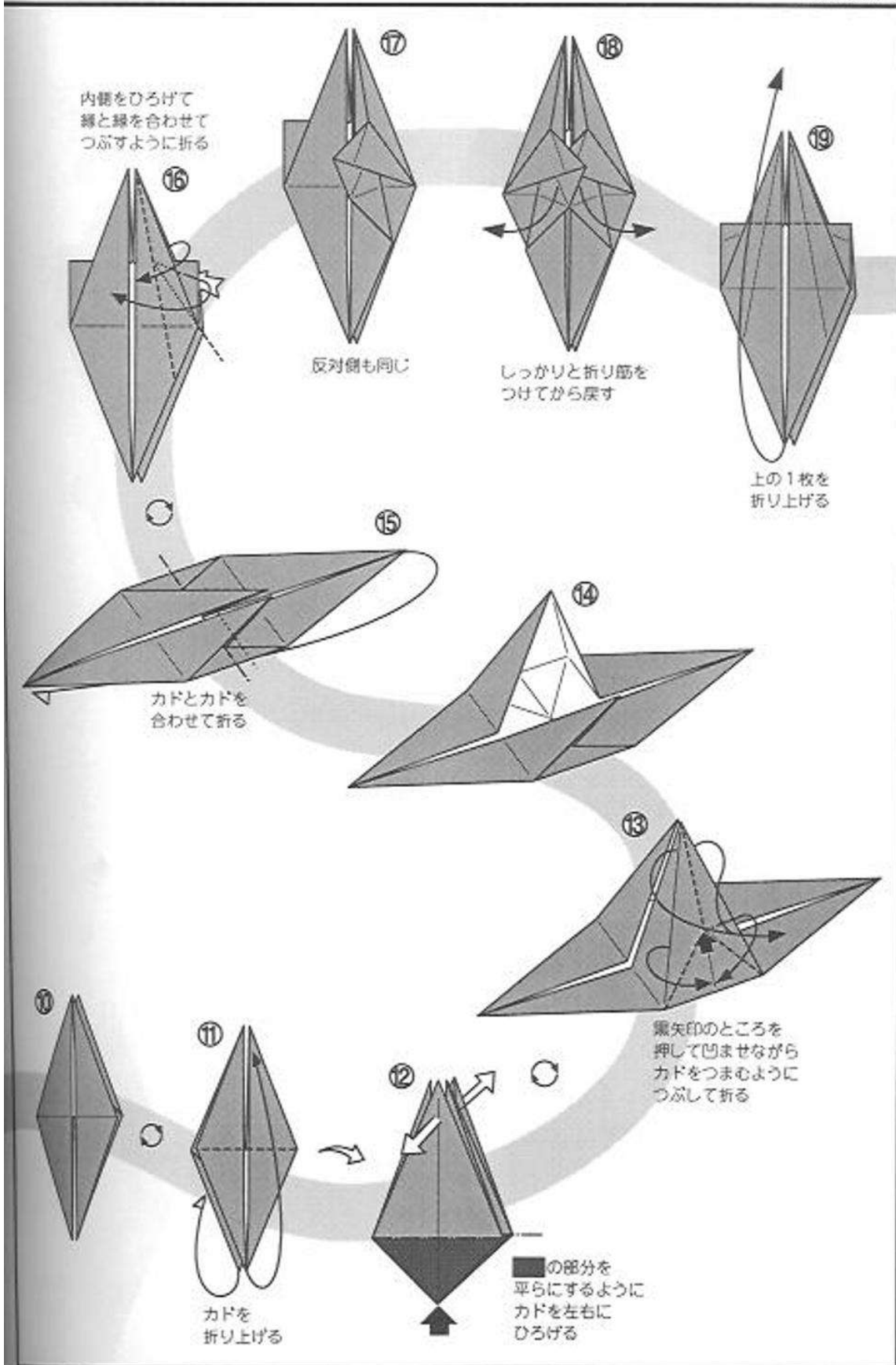




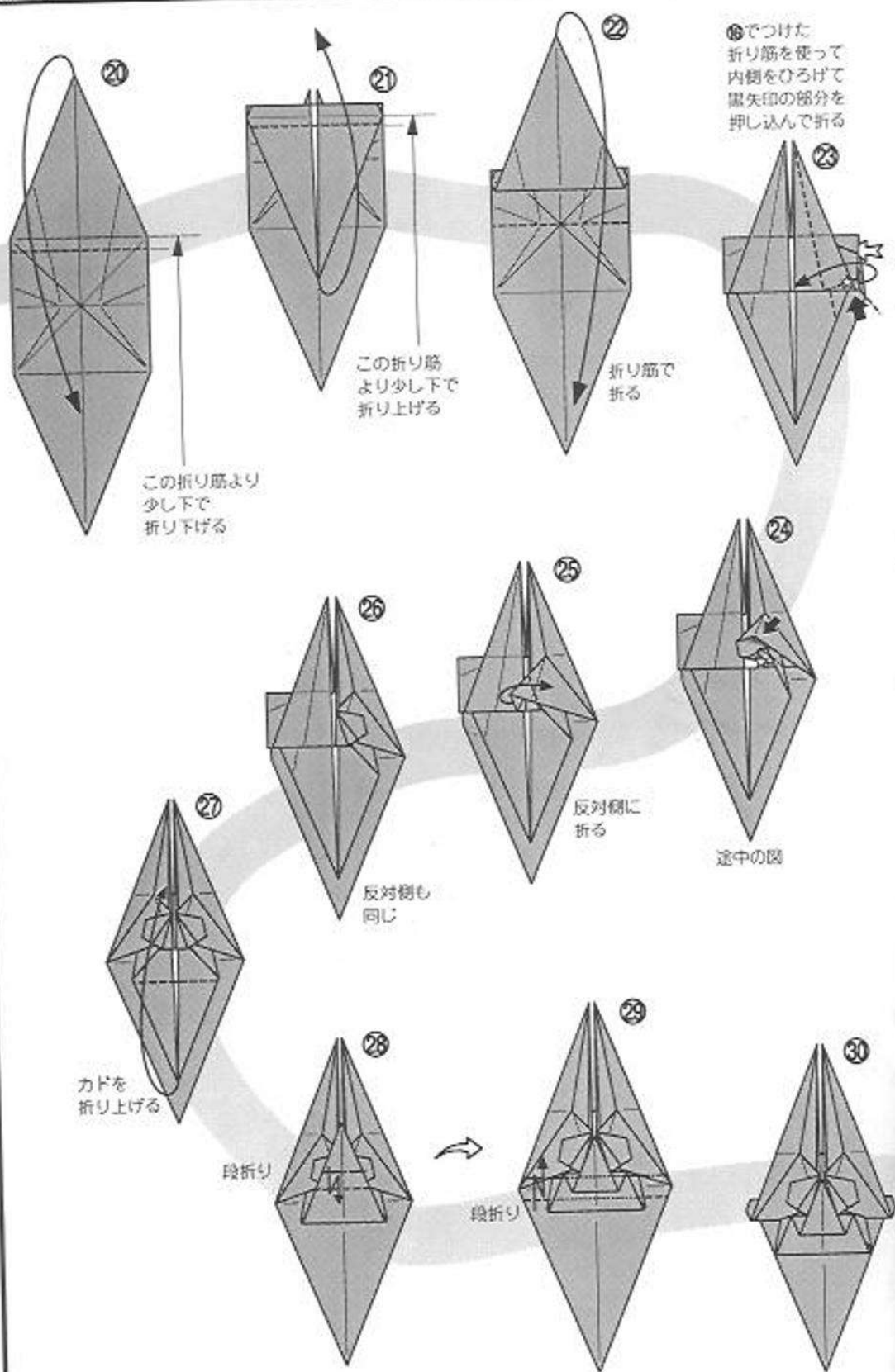
お お へ り み
大 穂 見

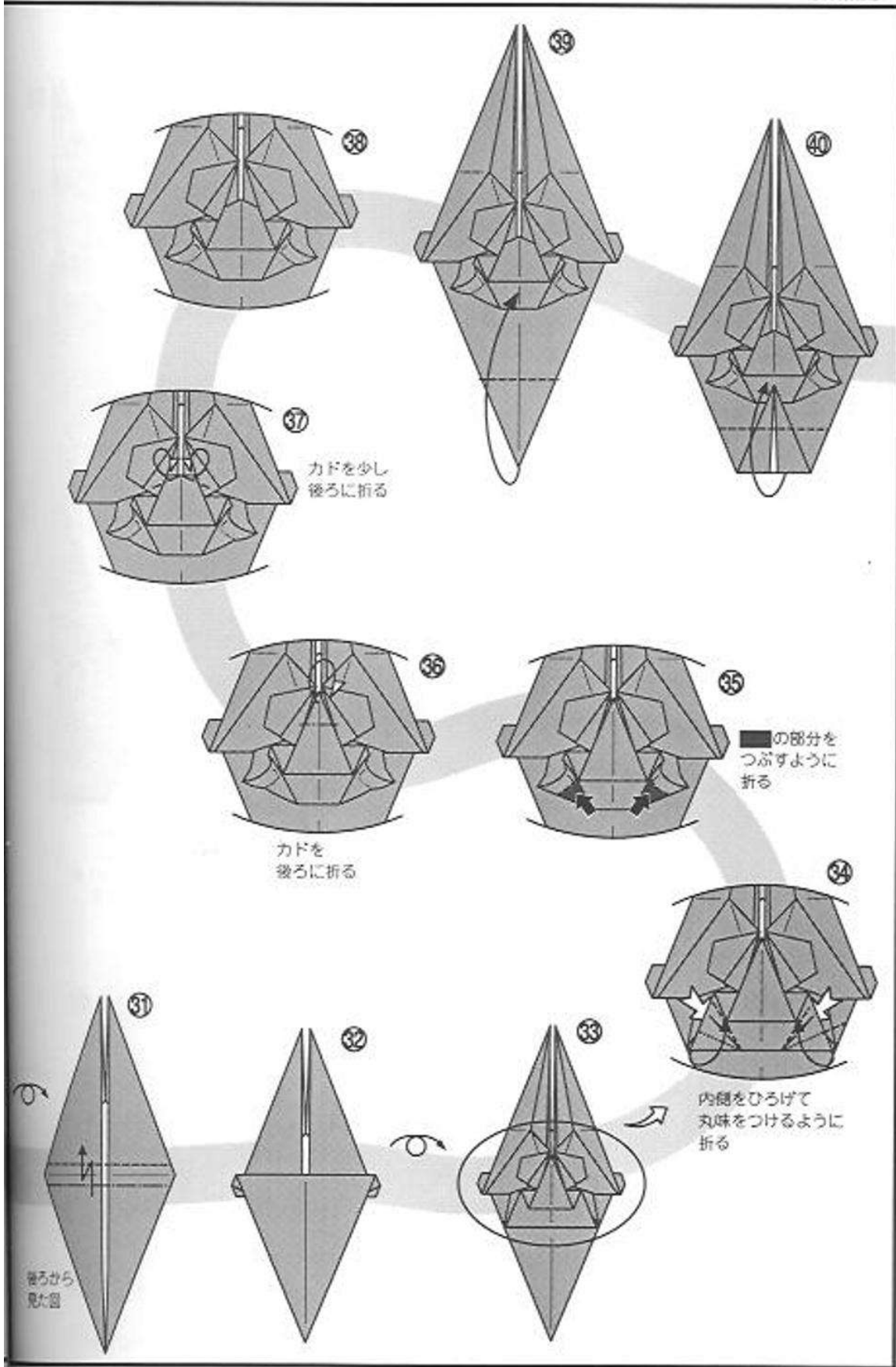
下顎に力をいれ、口をぐっと結んだ鬼神。天狗。
 増長慢の滑稽味がある面をお手本としたが、目はどちらかといえば能面の「大飛出（おおとびで）」になってしまったきらいがある。

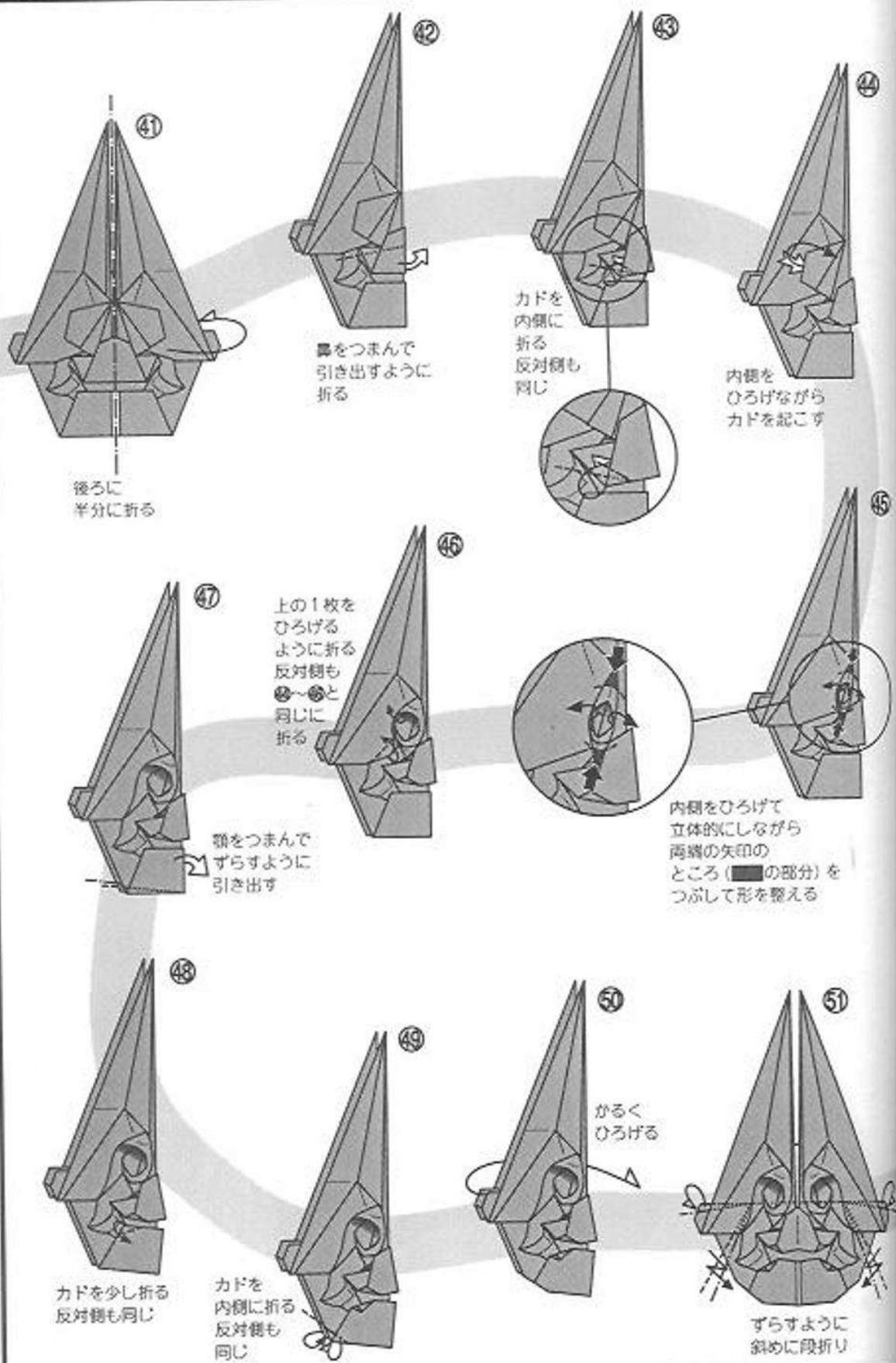


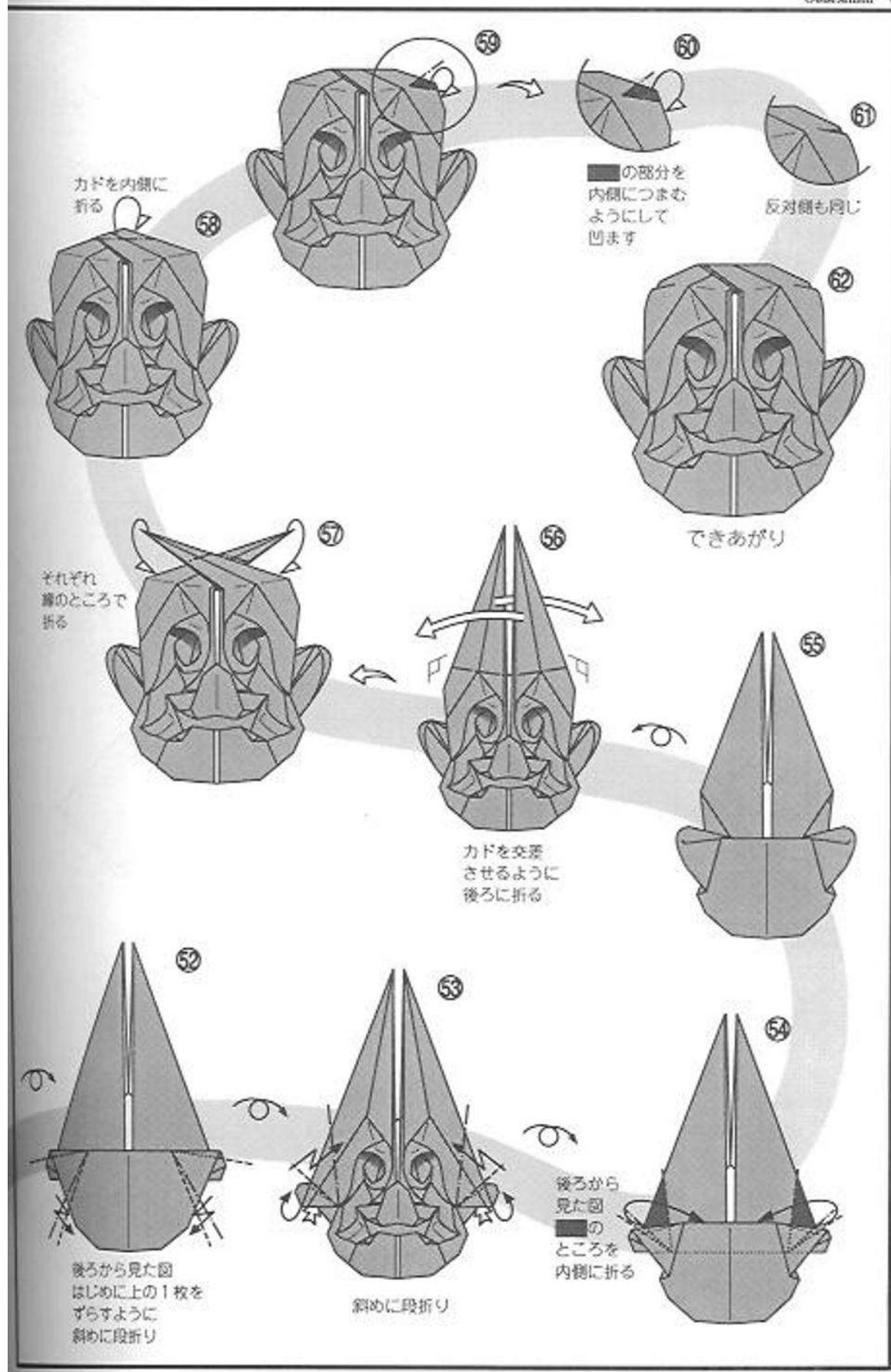


Mask=131



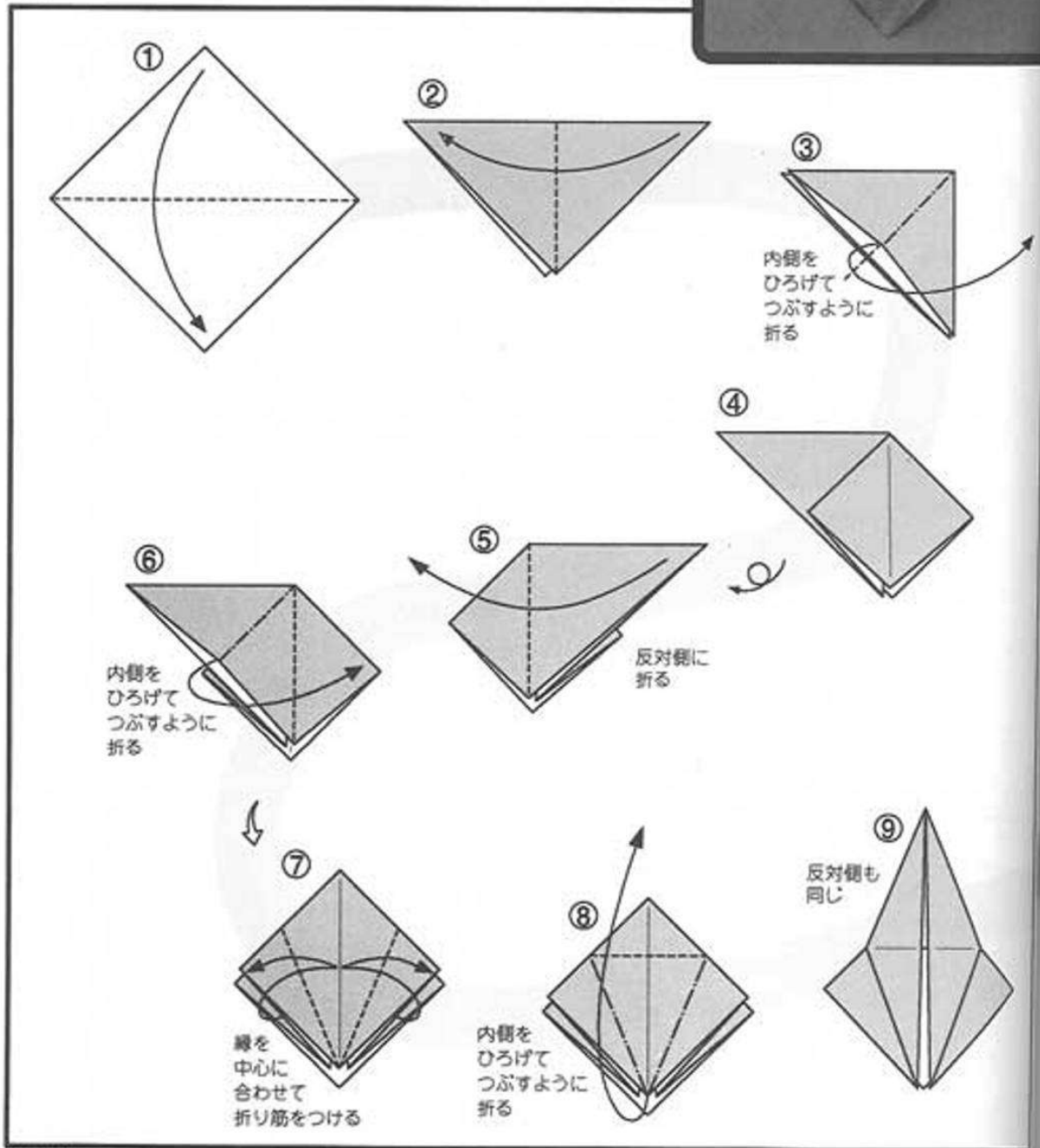


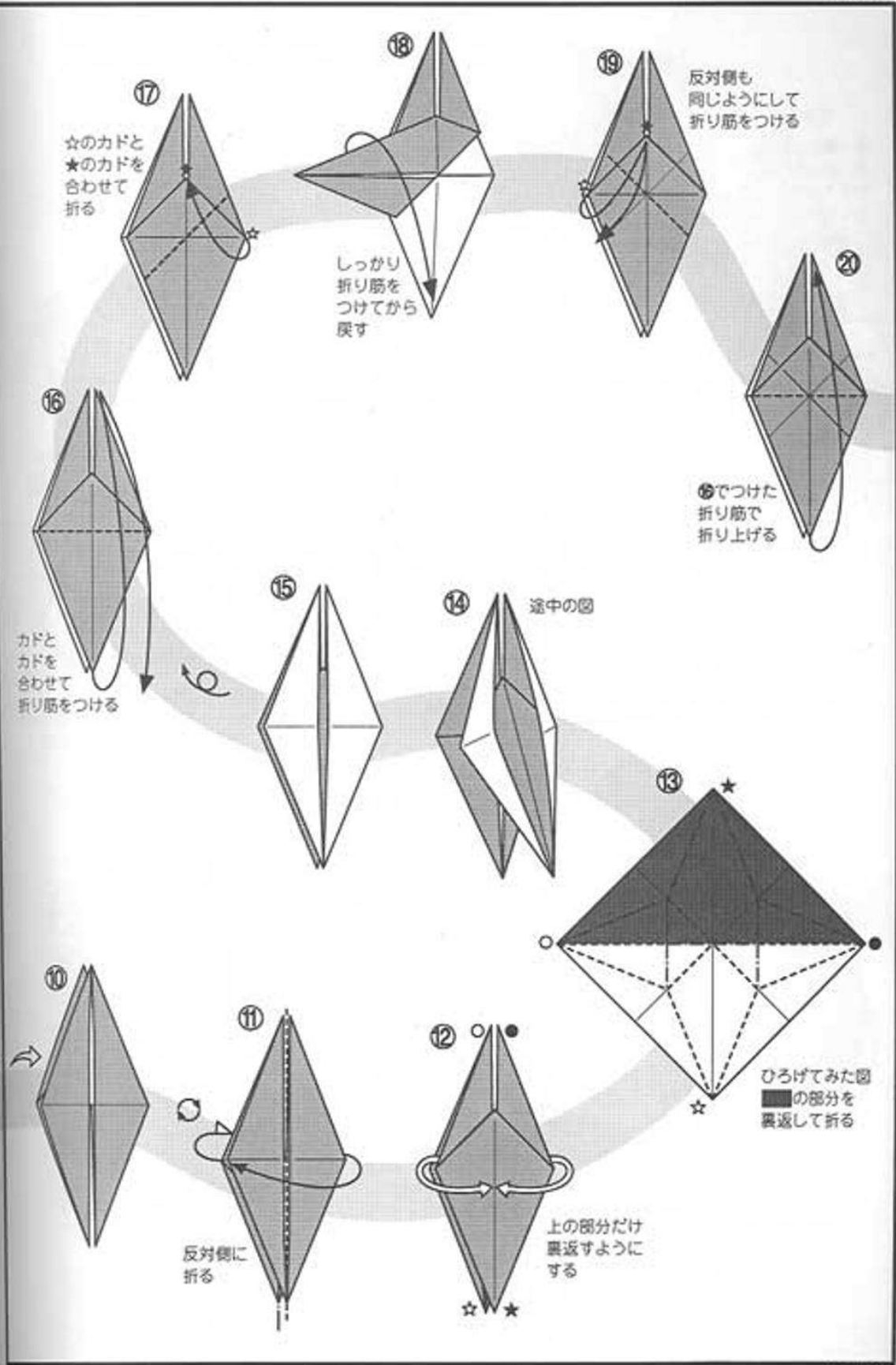


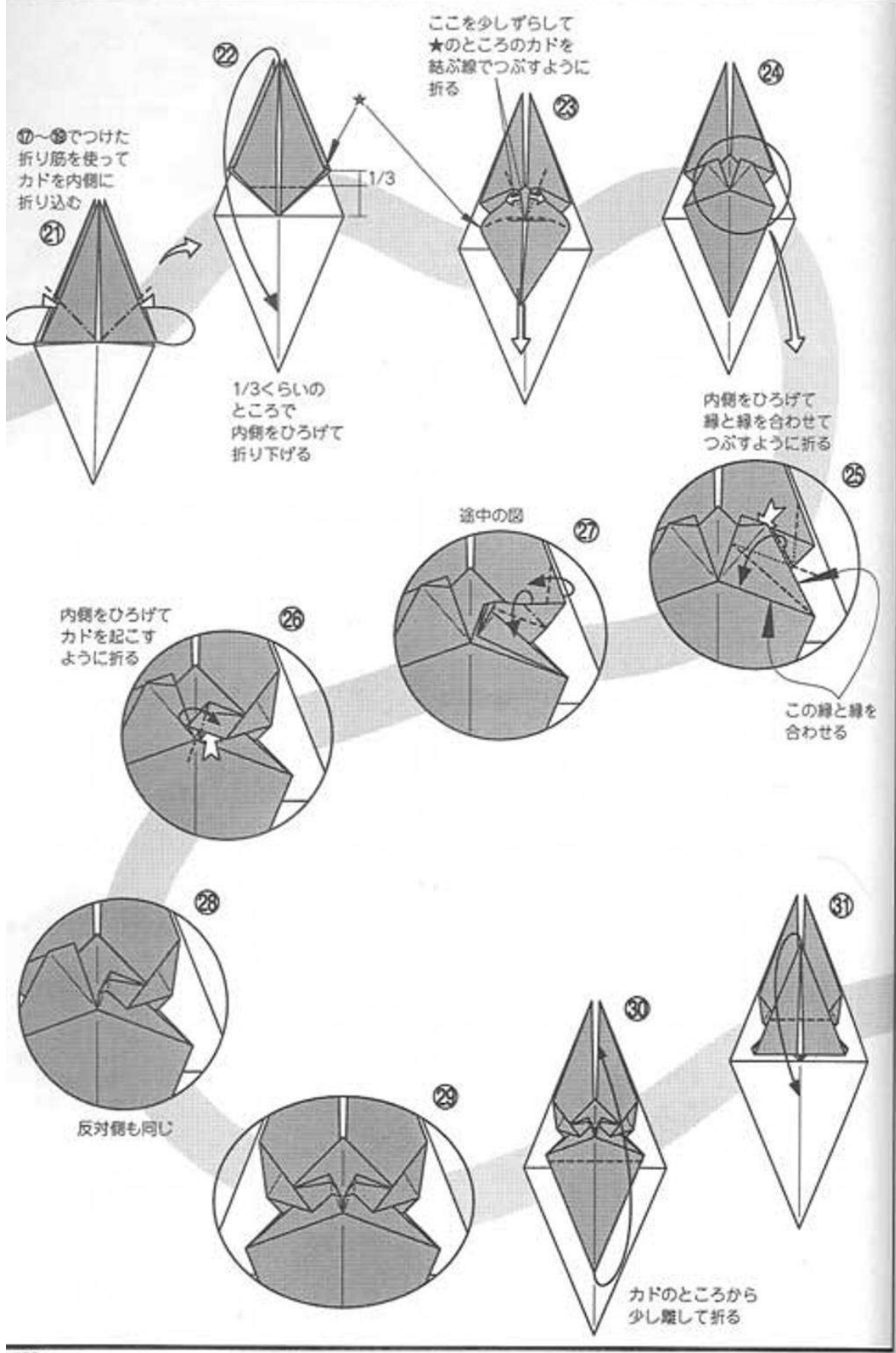


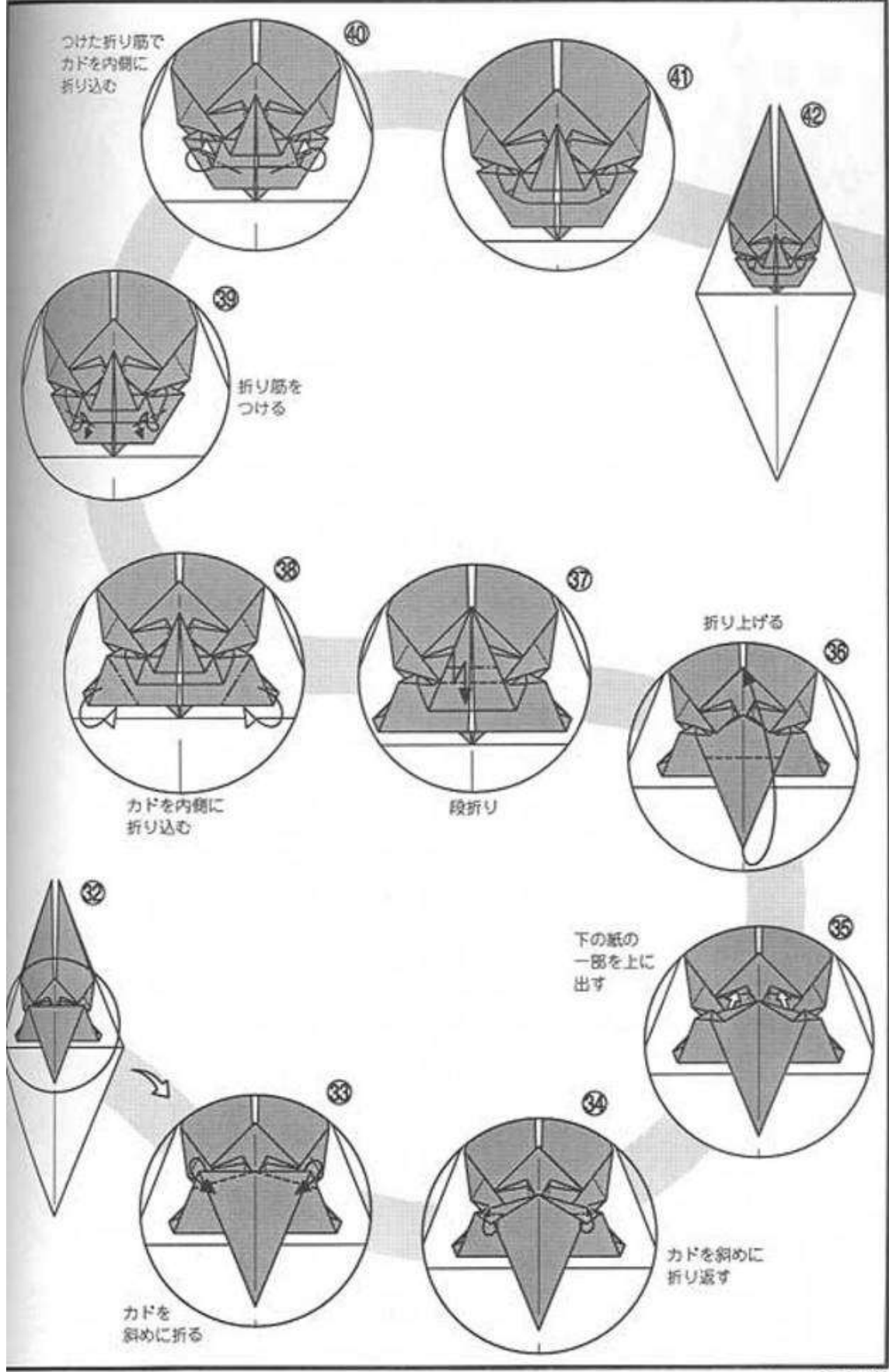


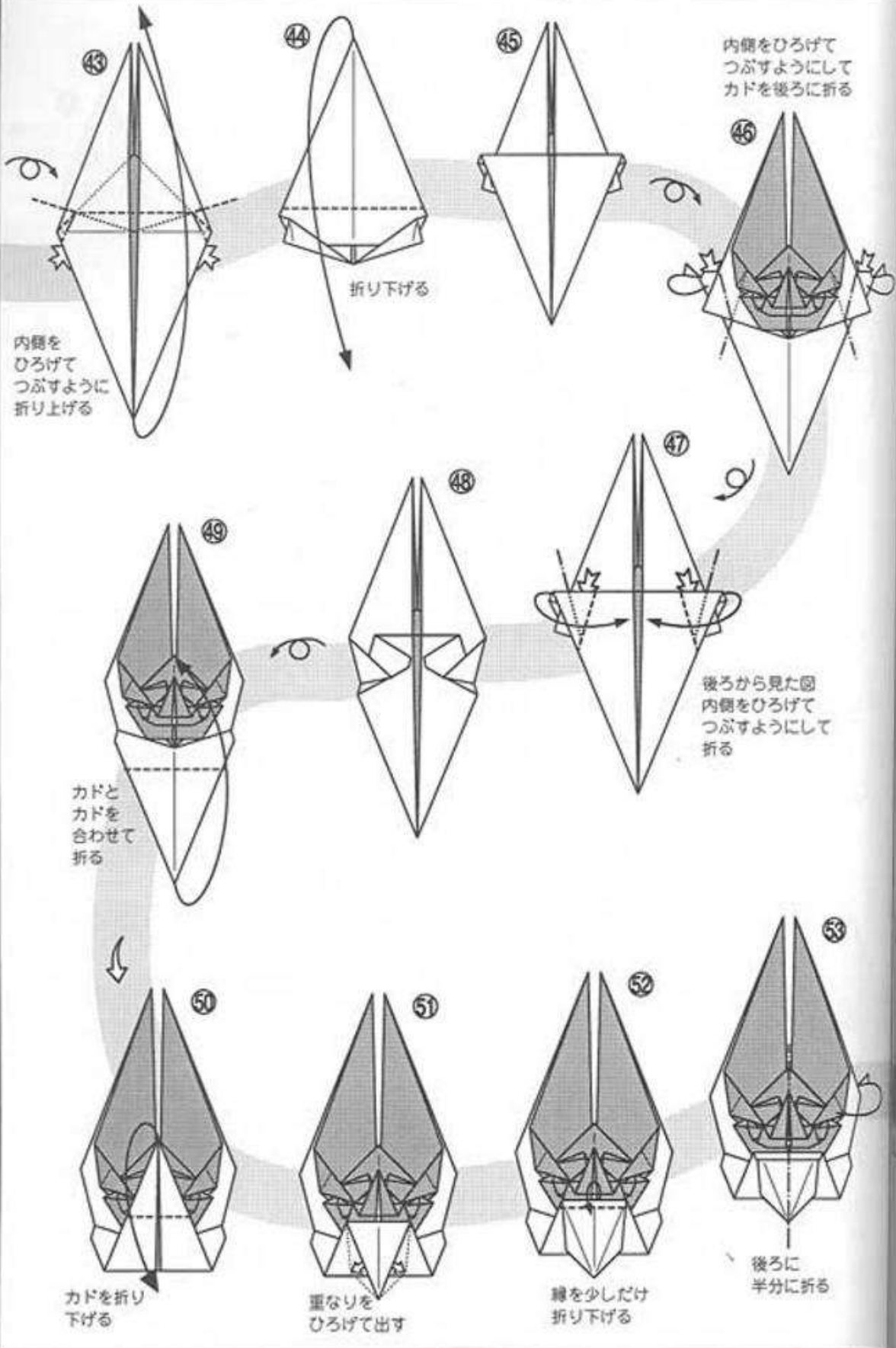
翁は神曲として特別に扱われ、面は舞台で進行中につけられる。そして神霊的存在となり天下泰平、五穀豊穰を祈願する。皺の刻まれた顔に、えもいわれぬ笑みをたたえた気品。紙の裏が出るので、紙選びにも配慮をされたい。

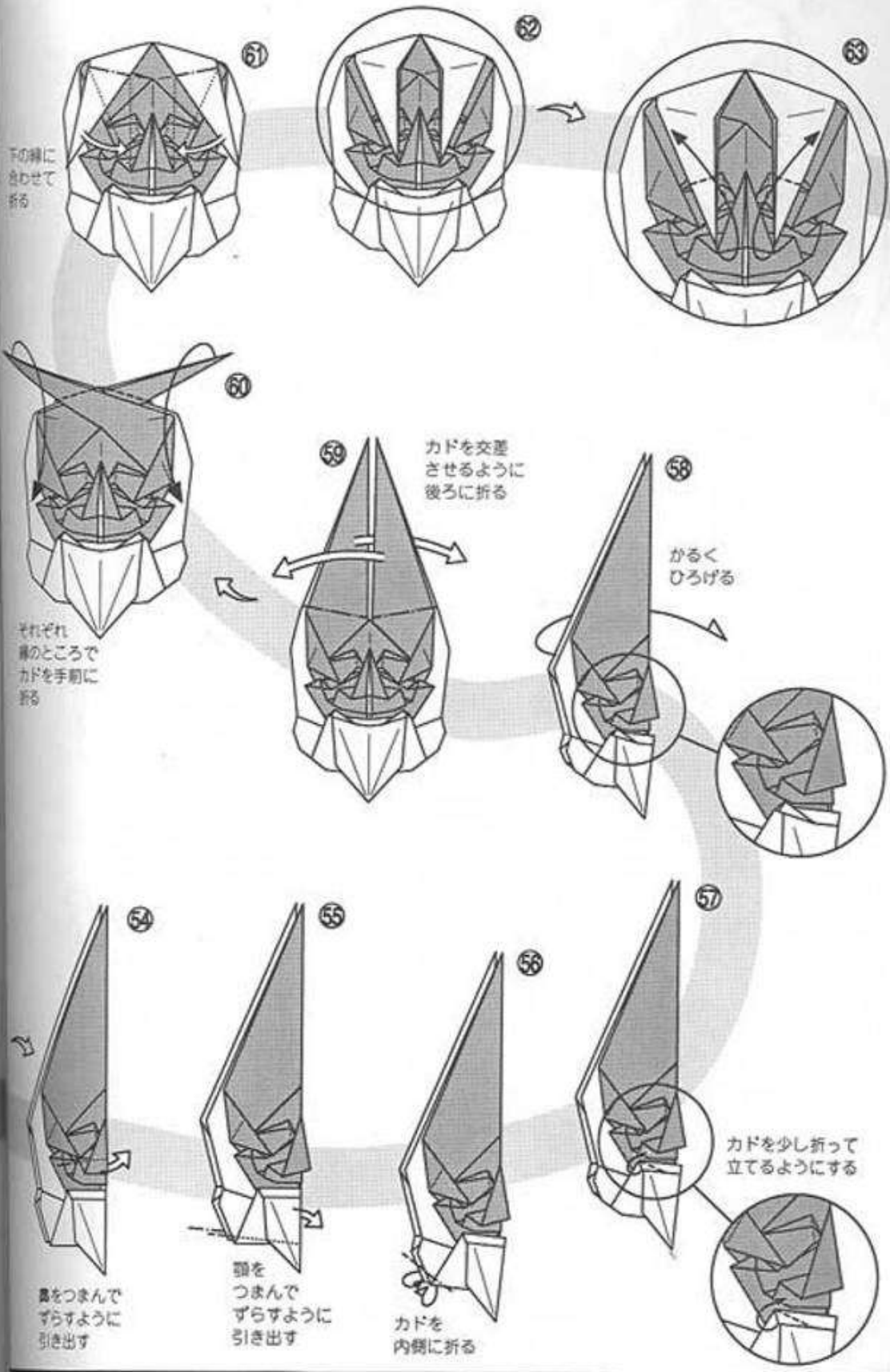


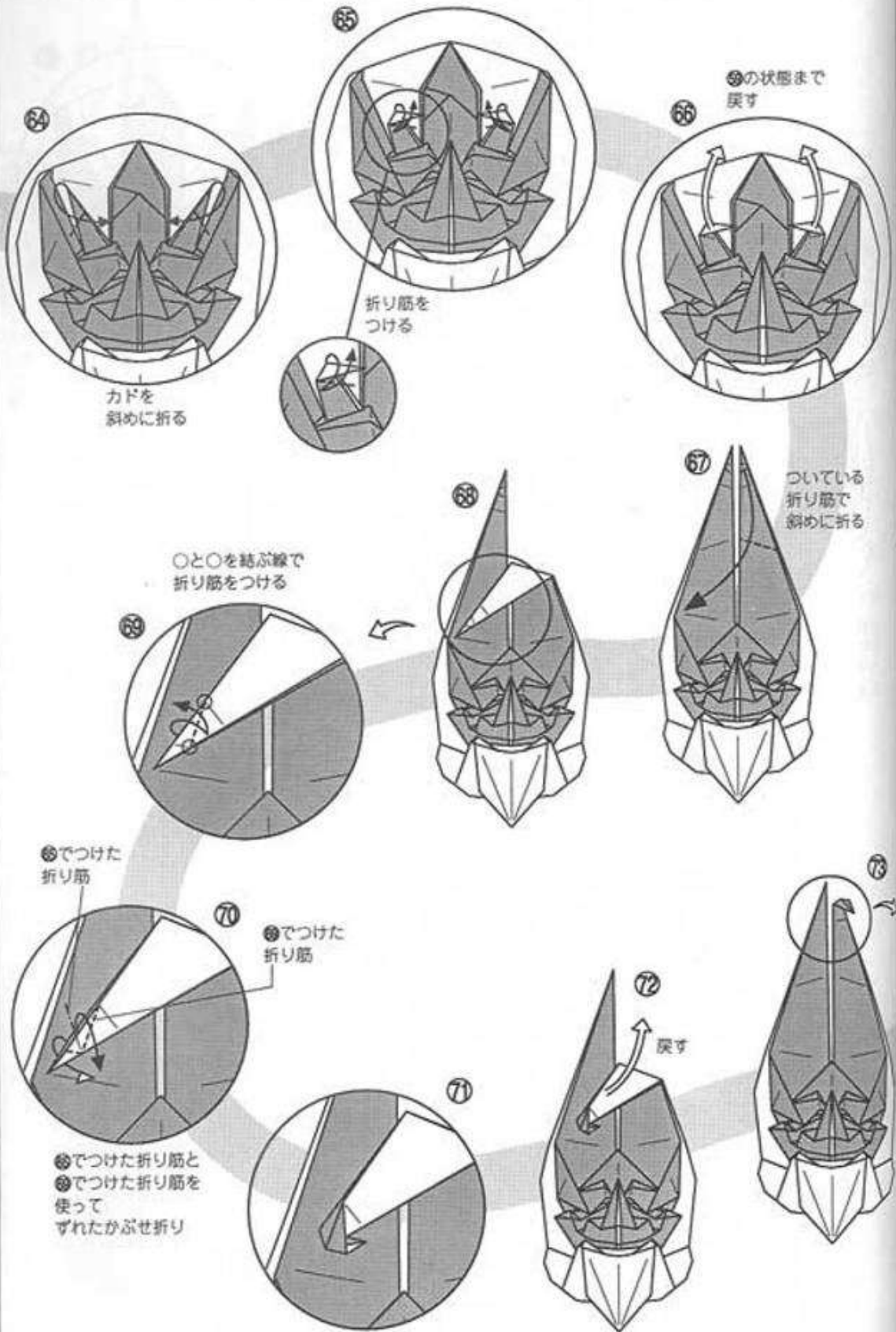


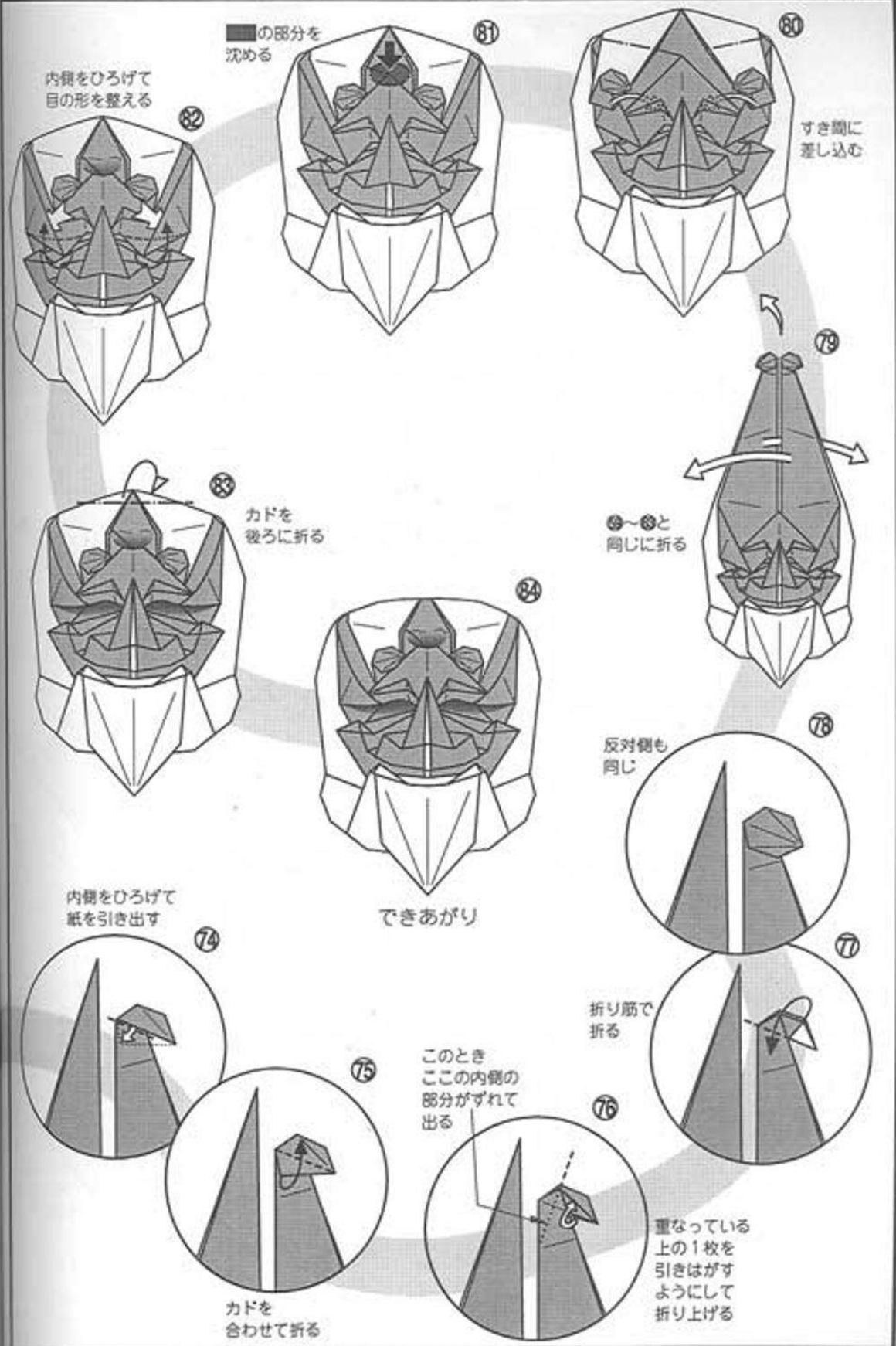






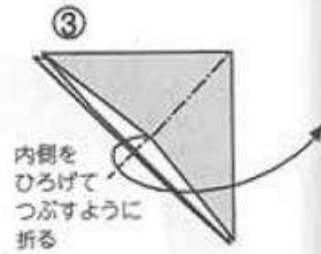
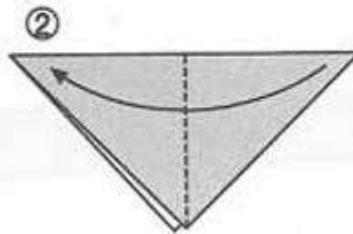
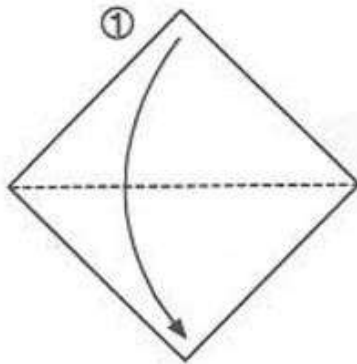




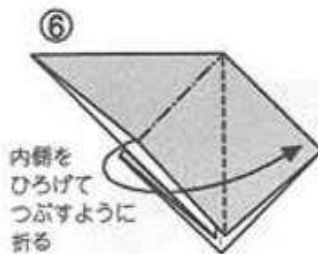
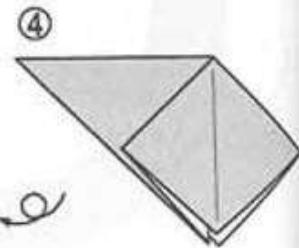




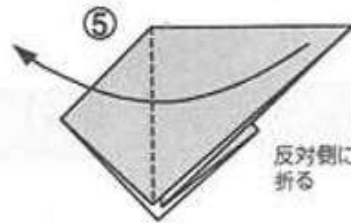
眉を寄せ、牙をむき出した凶悪な鬼神。顔をしかめる、また獅嘴から出たという。折りやすい面だが、口元をもっと力強くしたほうが、より凄味が出たろう。



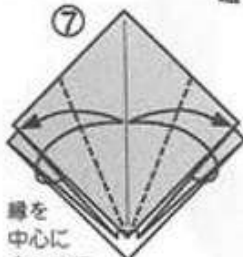
内側をひろげてつぶすように折る



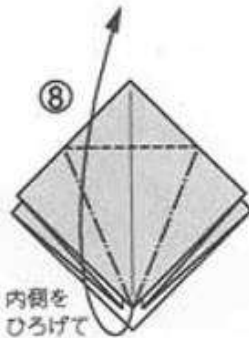
内側をひろげてつぶすように折る



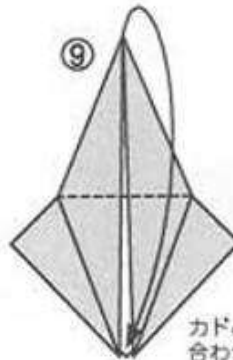
反対側に折る



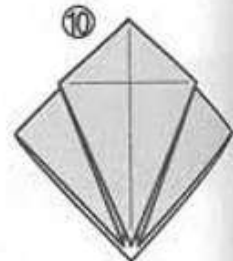
縁を中心に合わせて折り筋をつける

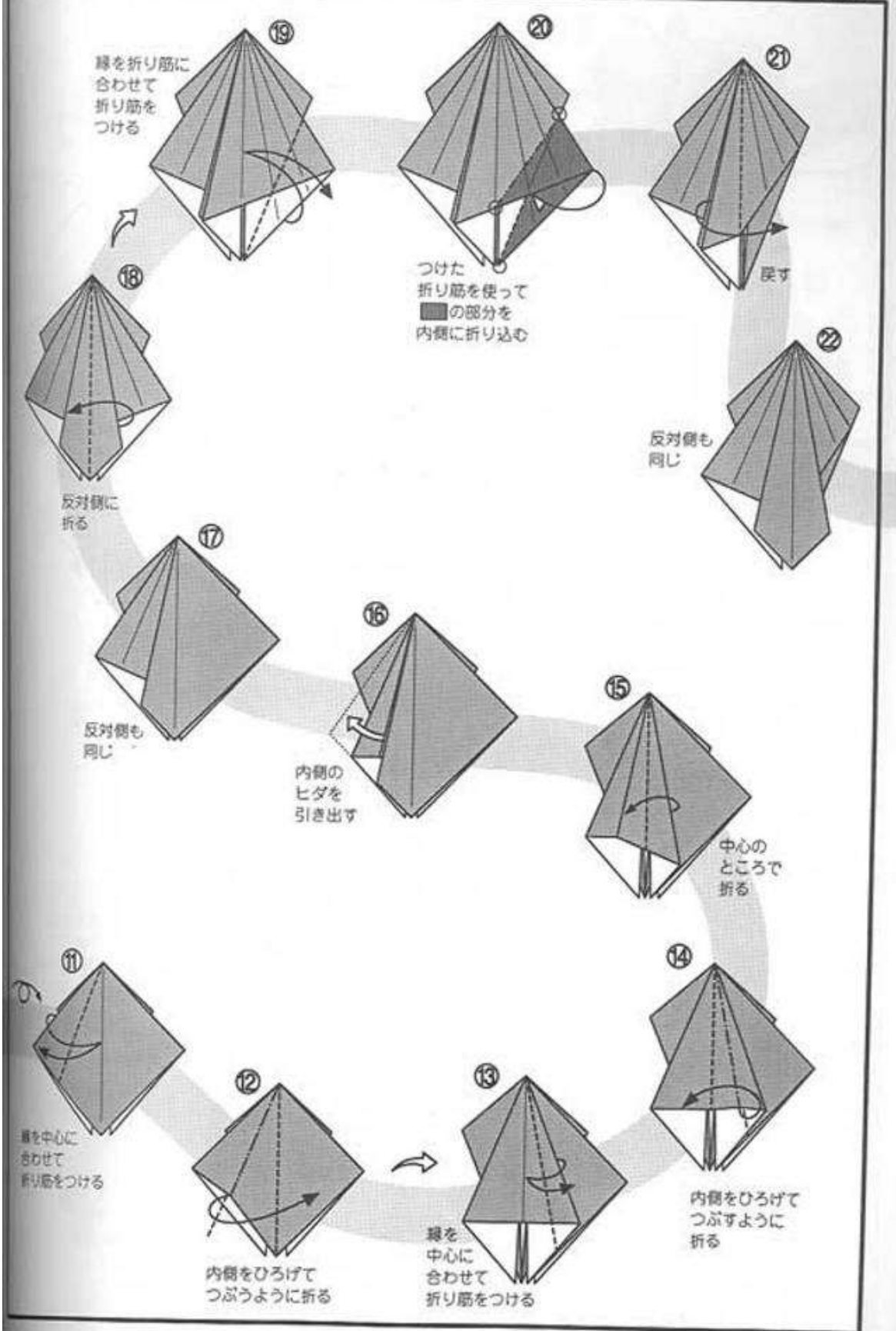


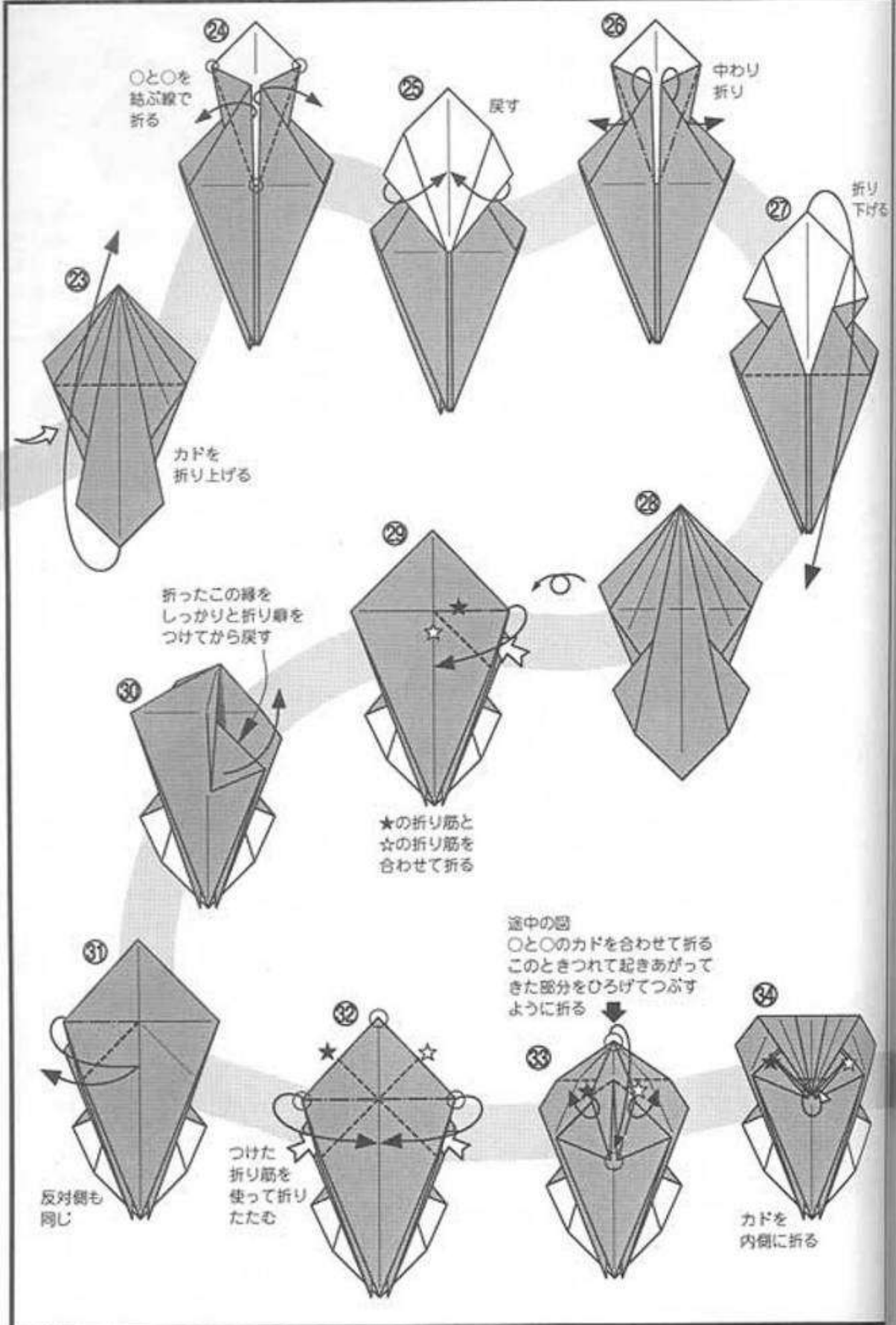
内側をひろげてつぶすように折る

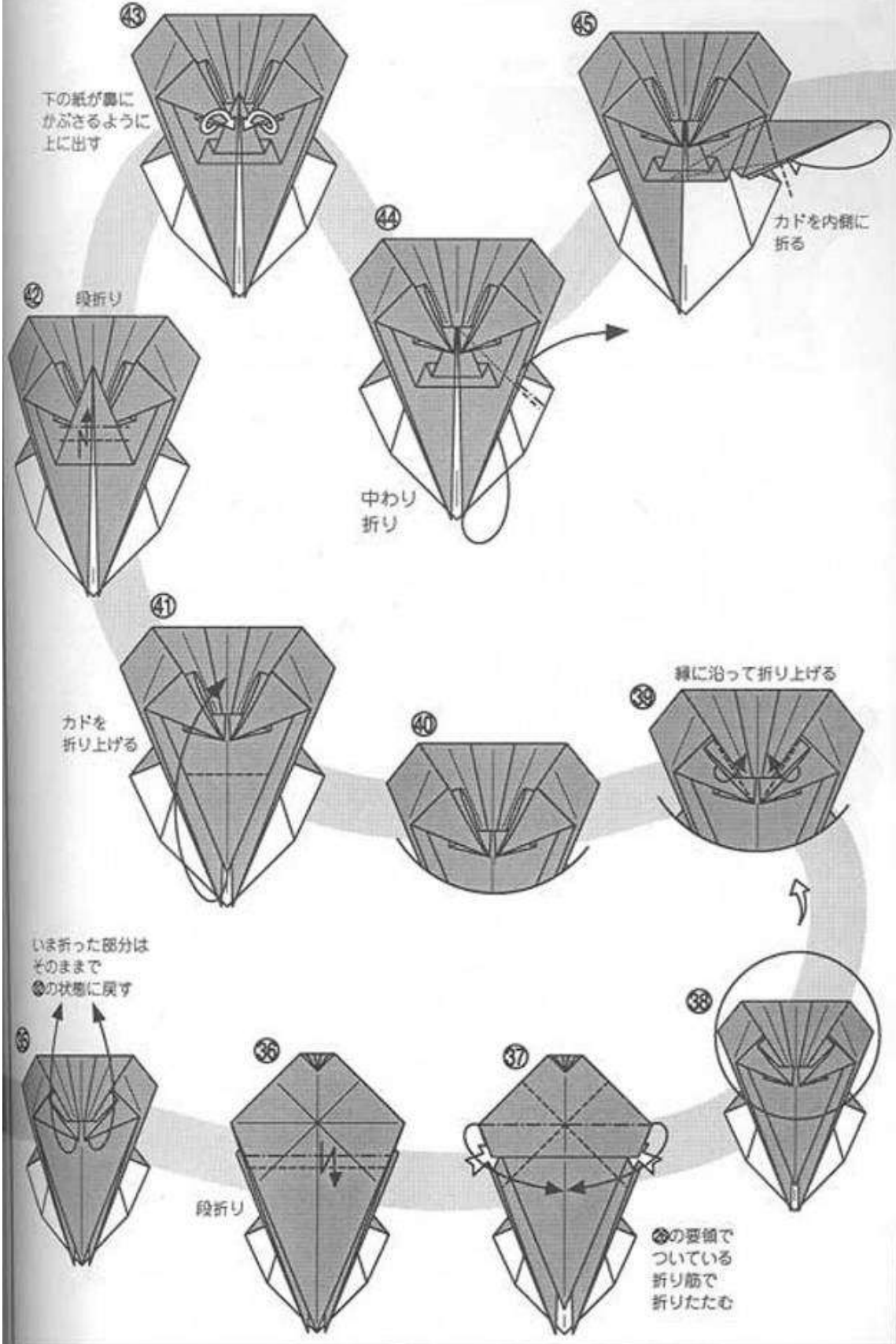


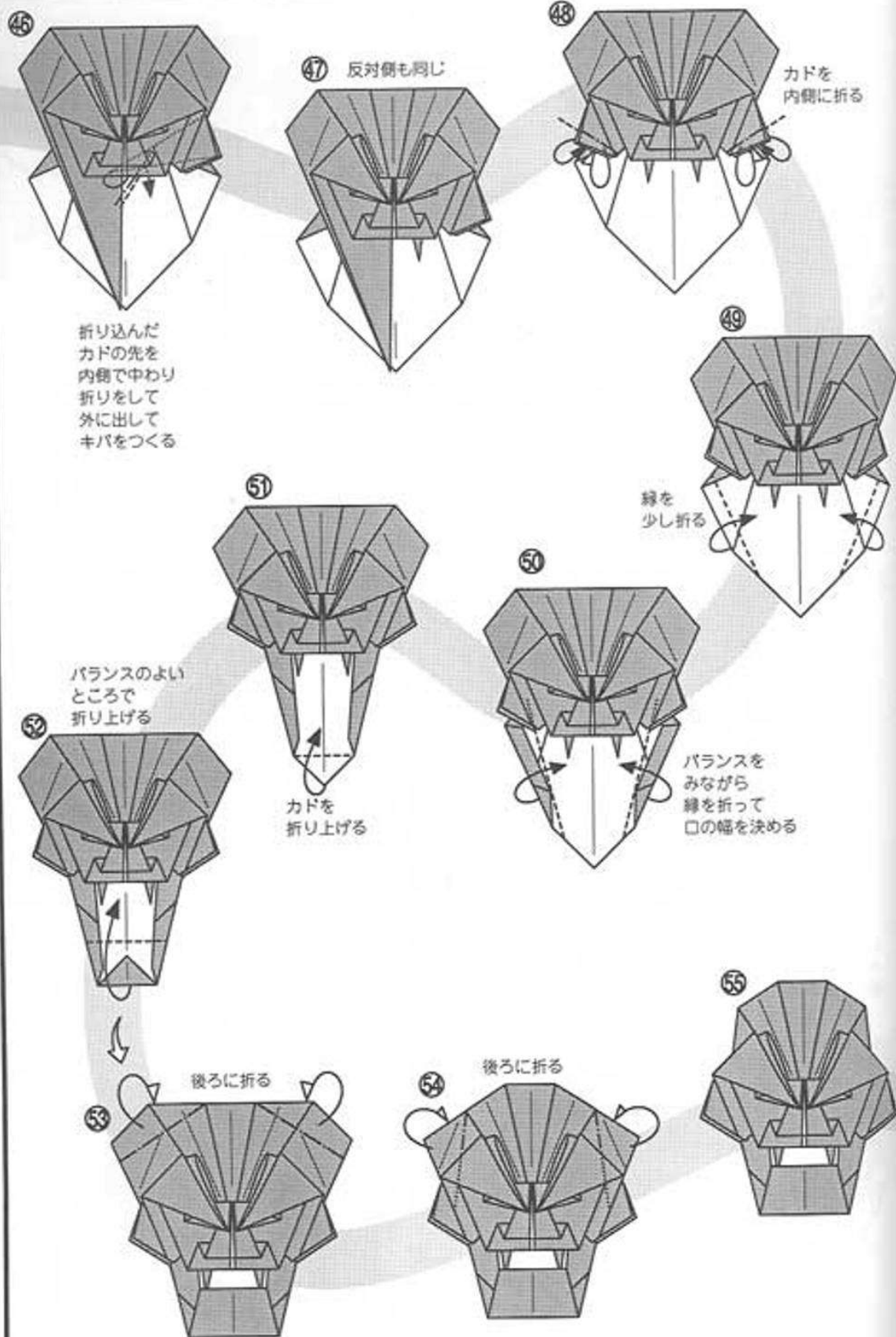
カドとカドを合わせて折る

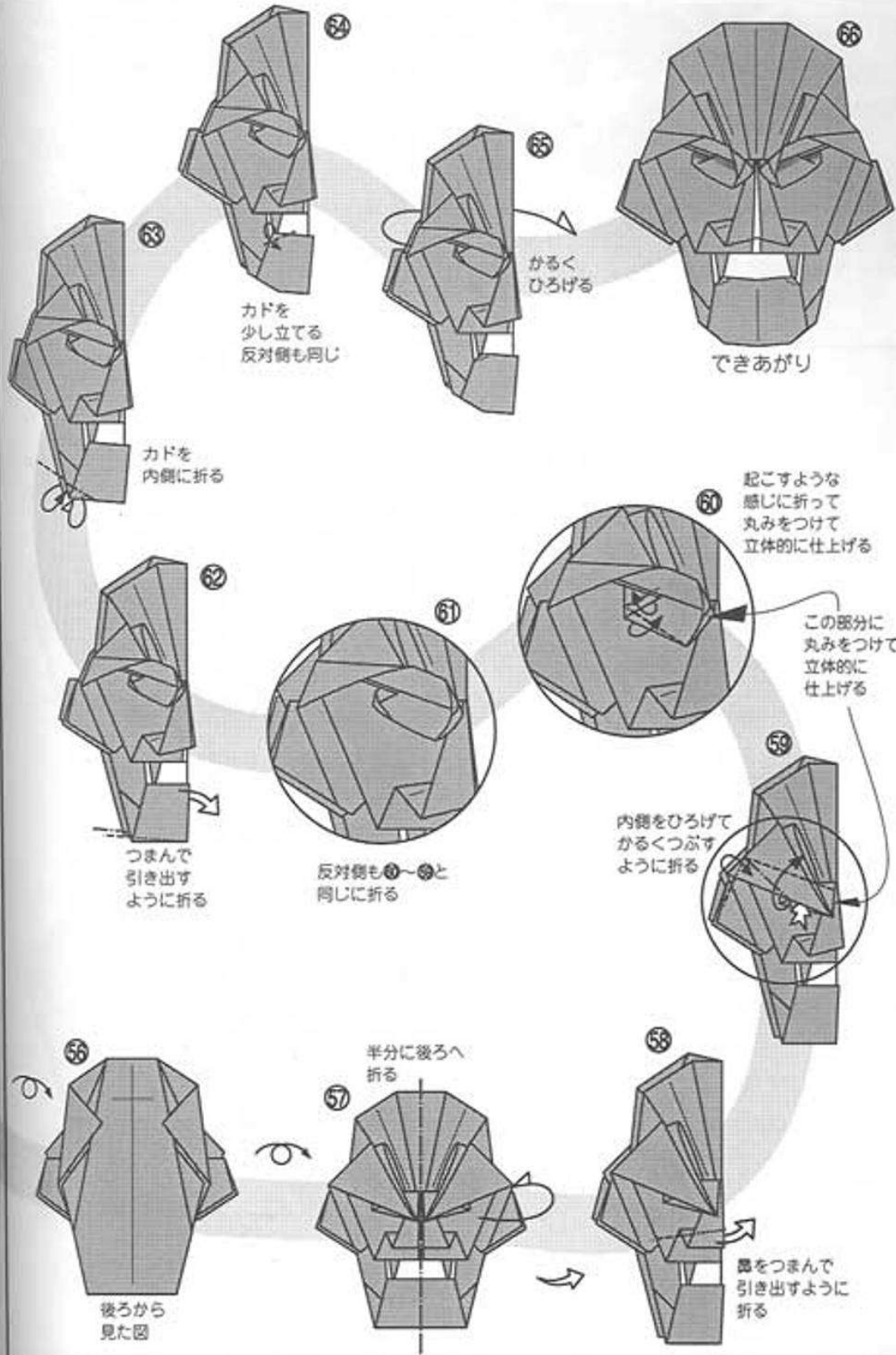






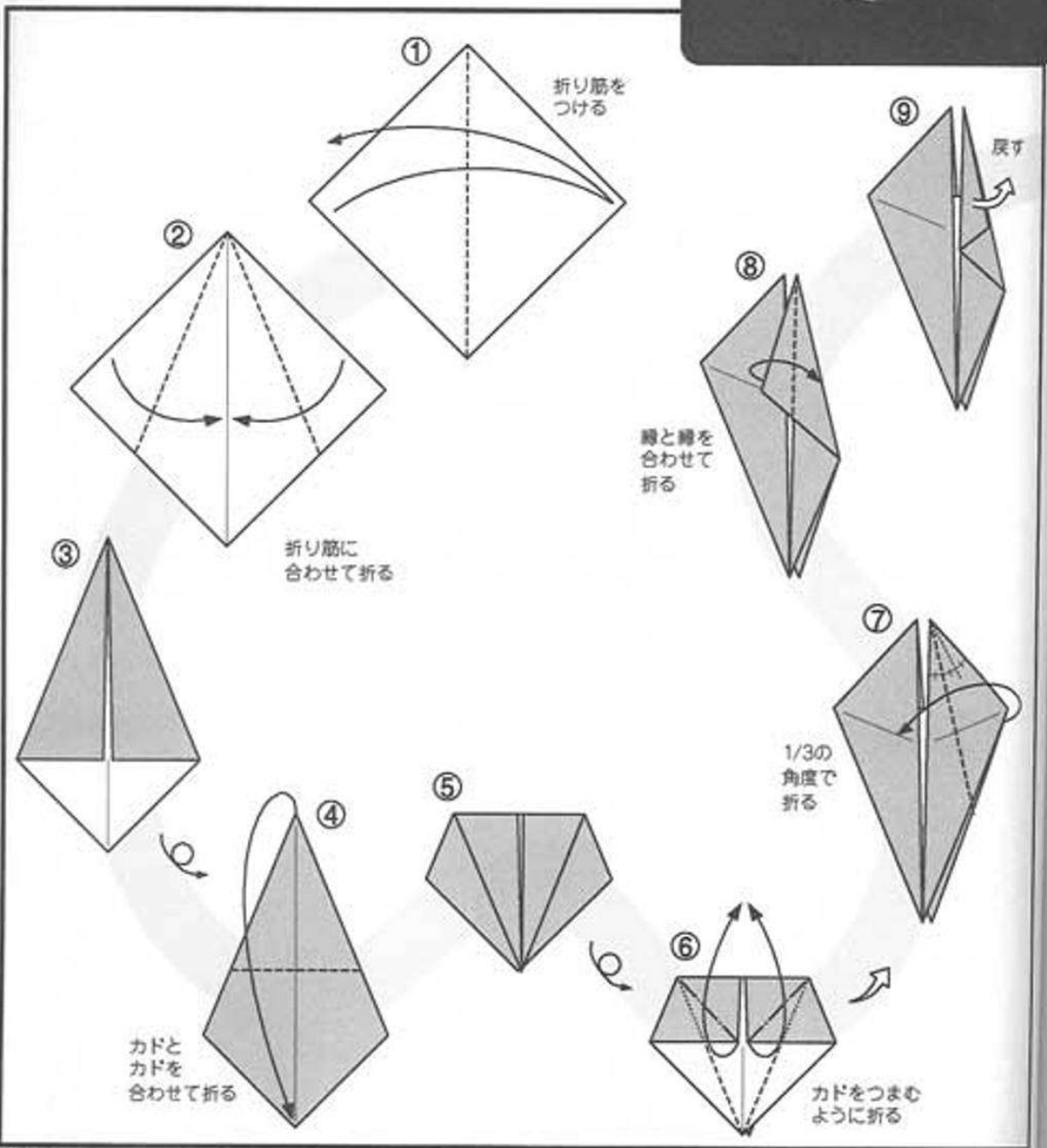


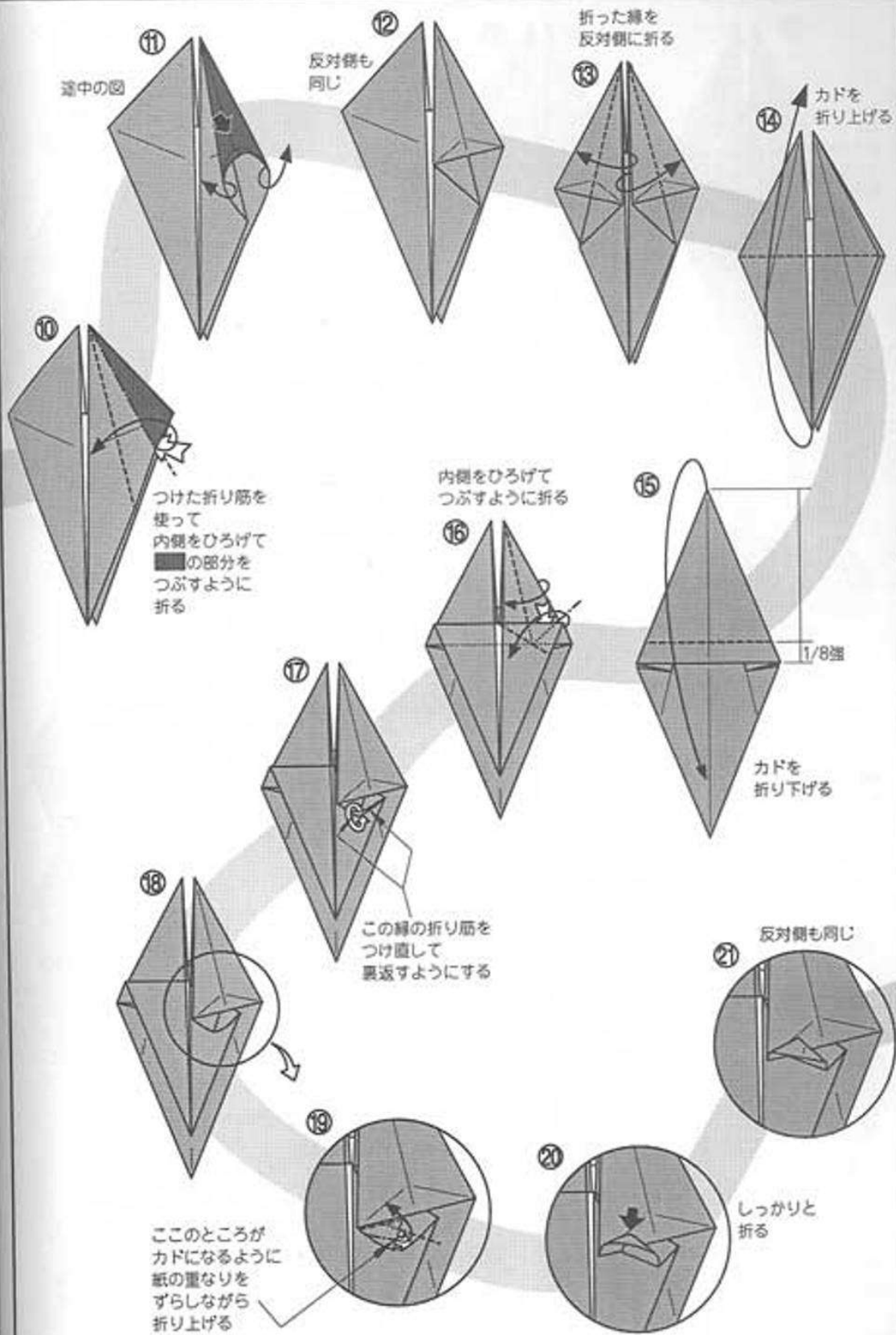


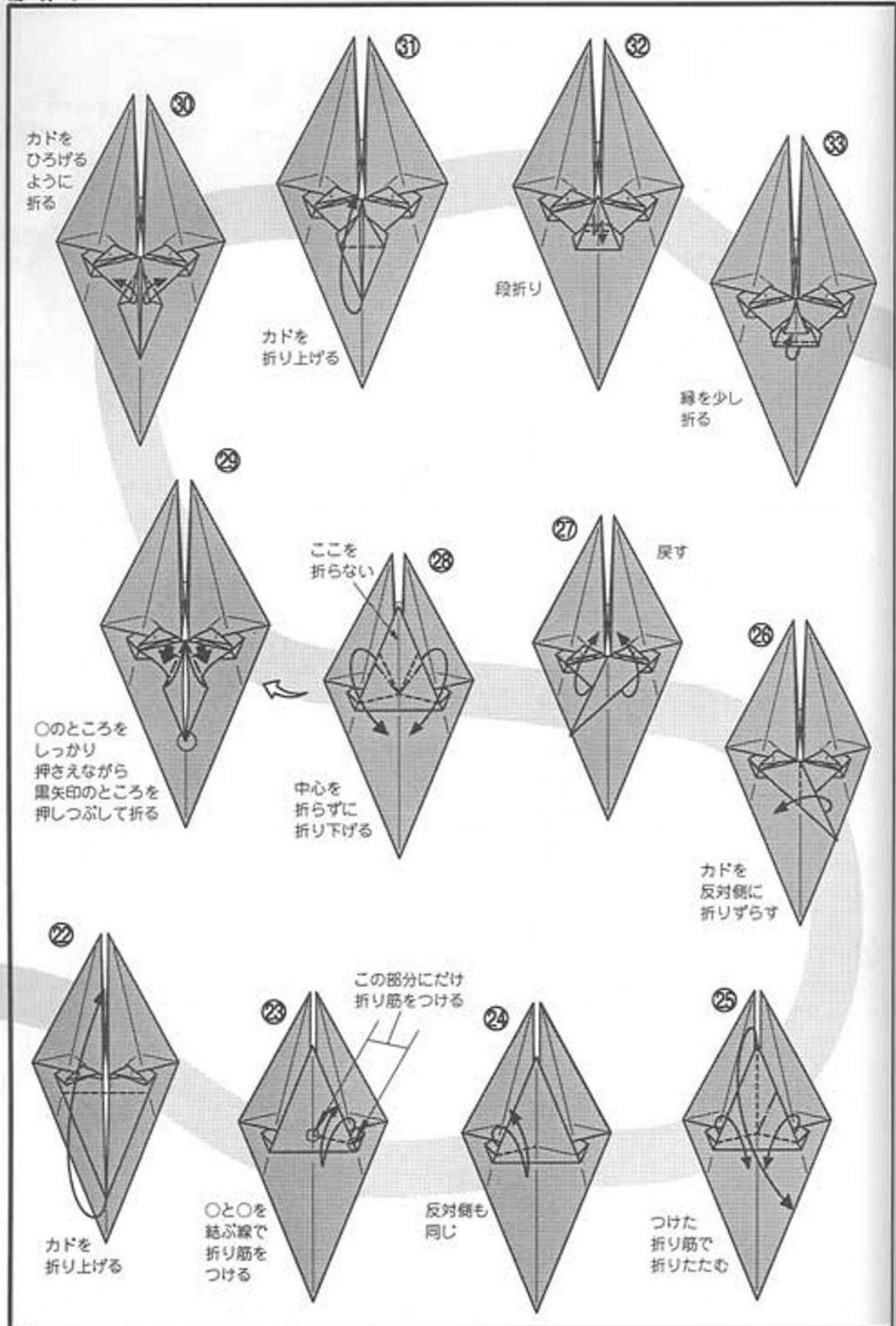


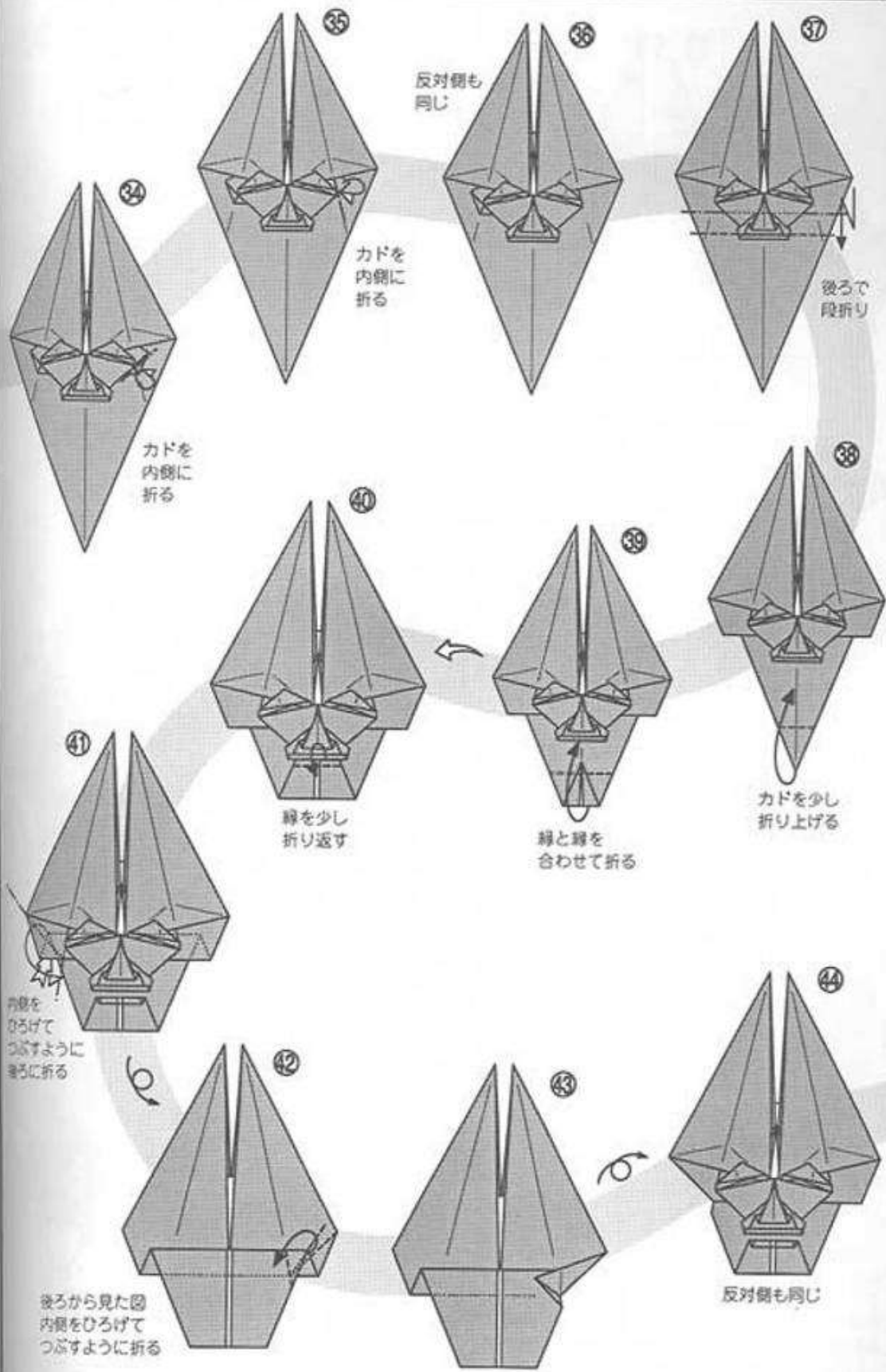


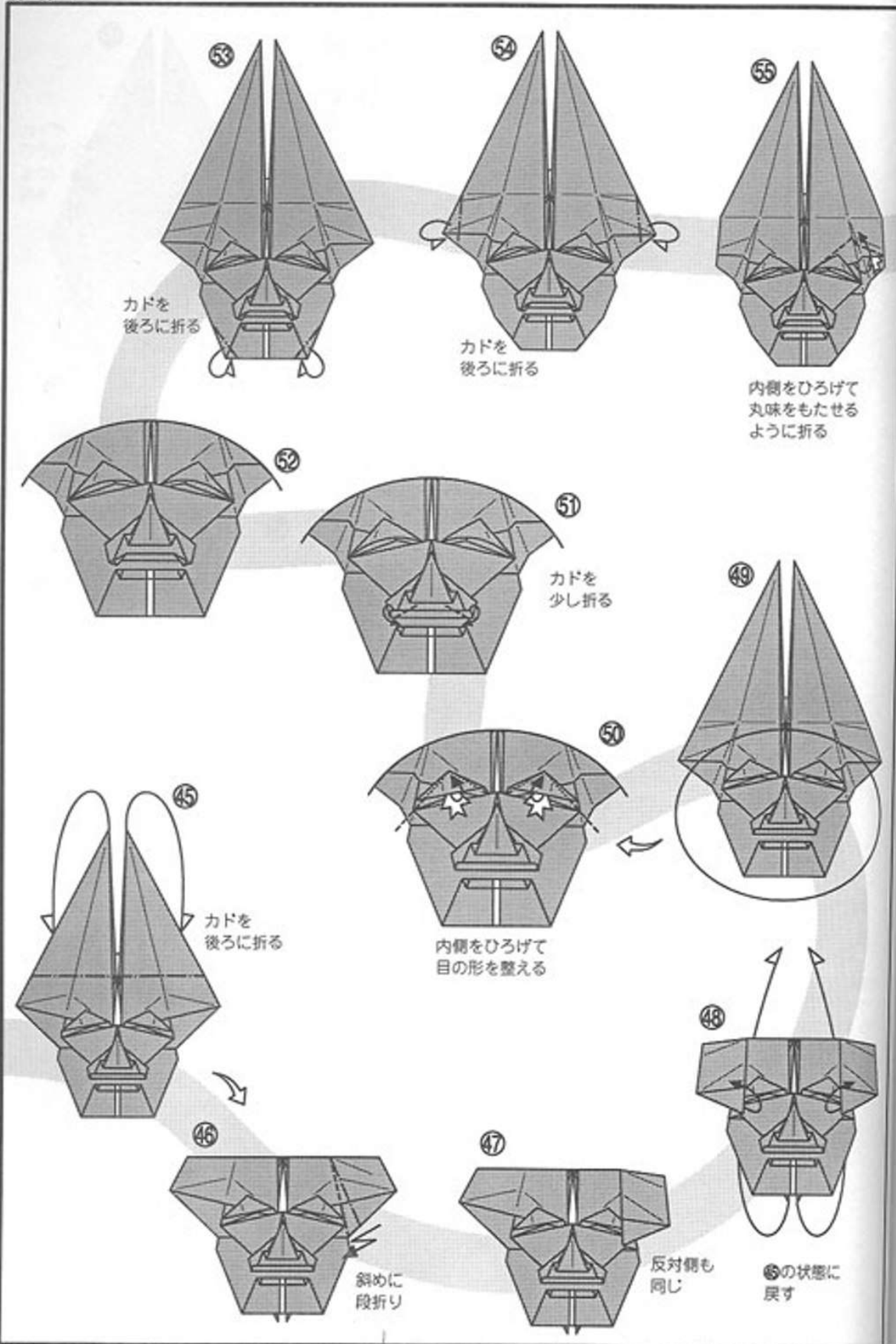
幽霊の顔。地獄の責苦にやつれ果てた感じのものと、執念と怨恨を晴らしに現われるものがある。
この折り紙面は前者をお手本にした。

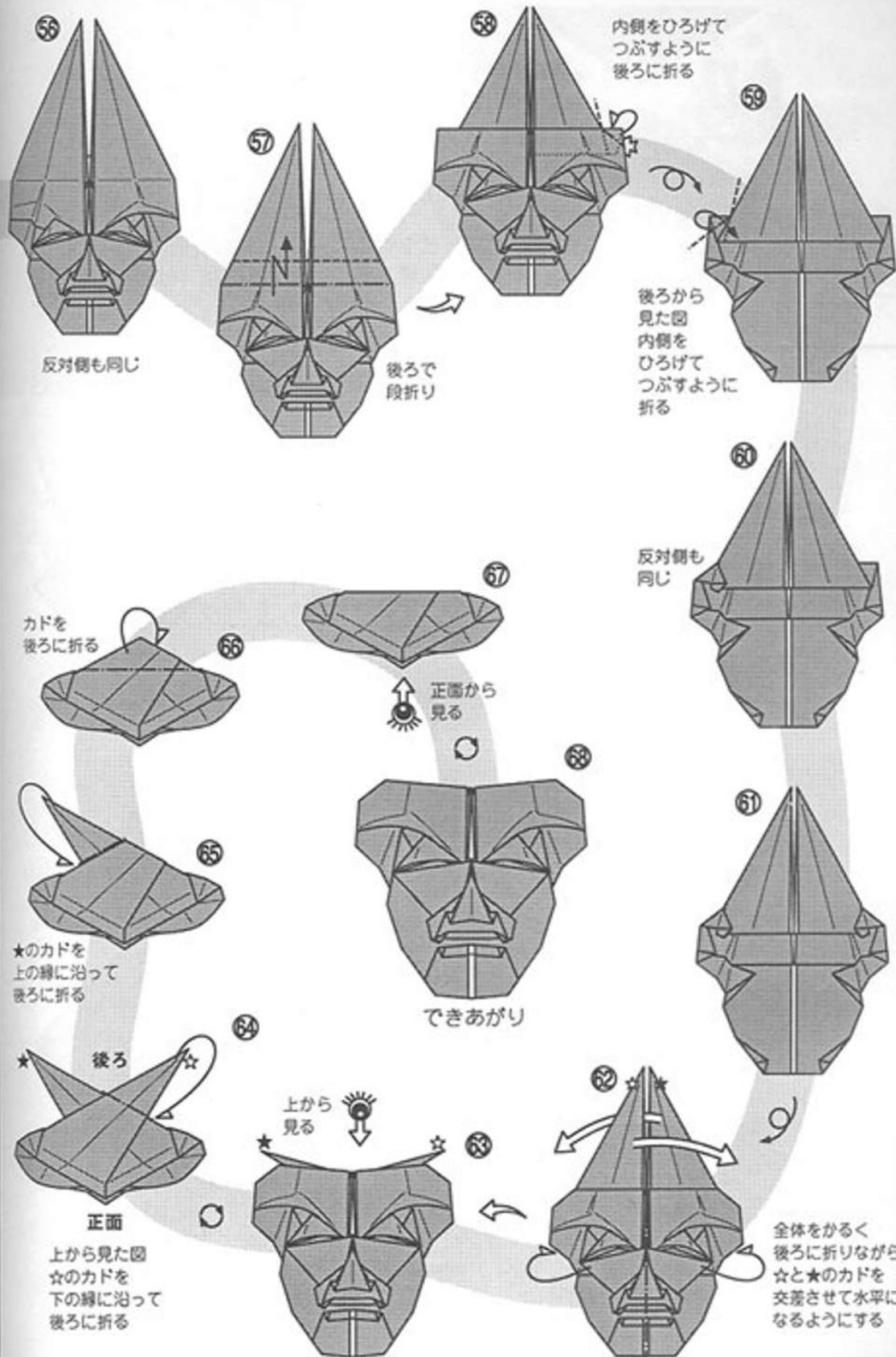






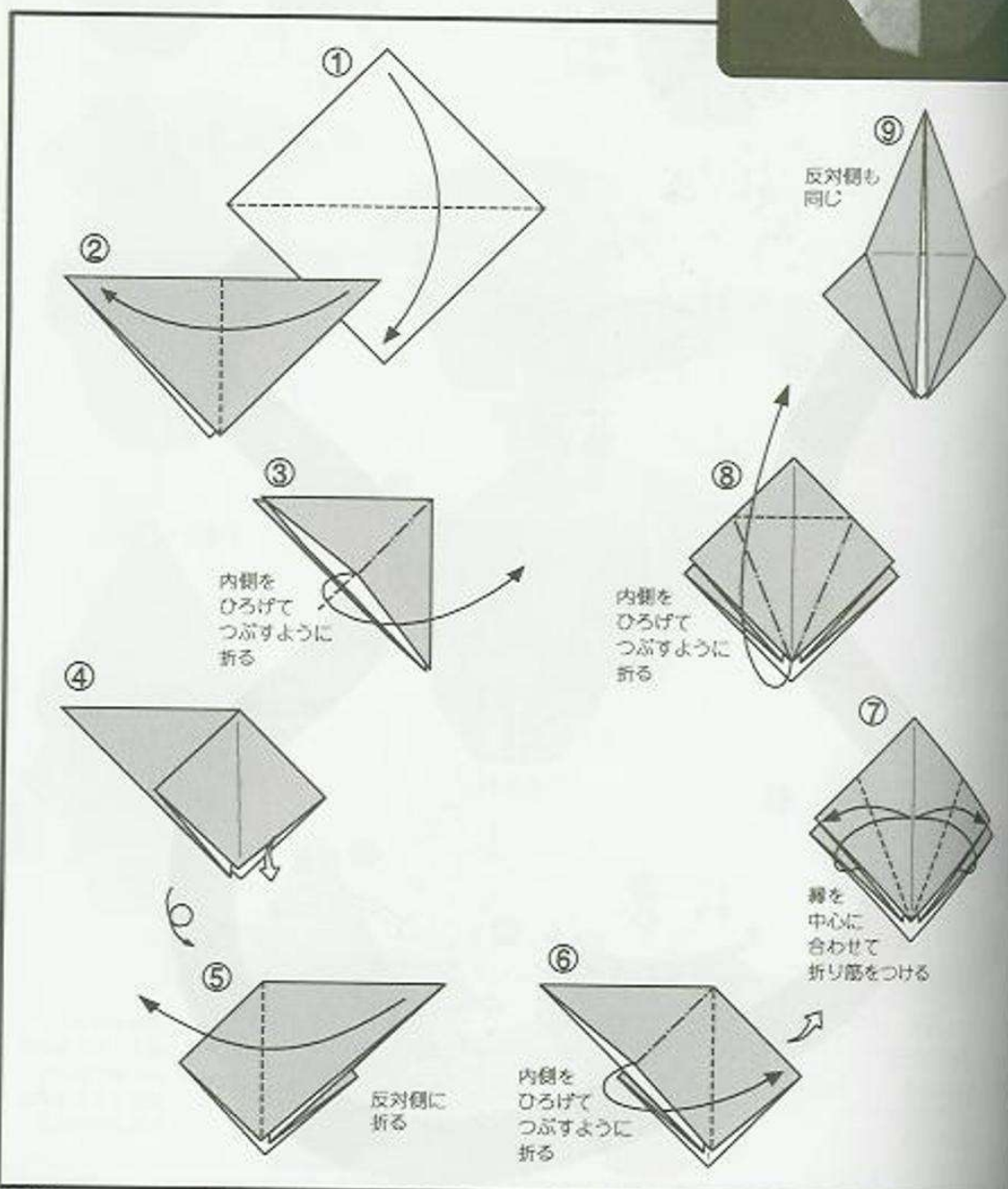


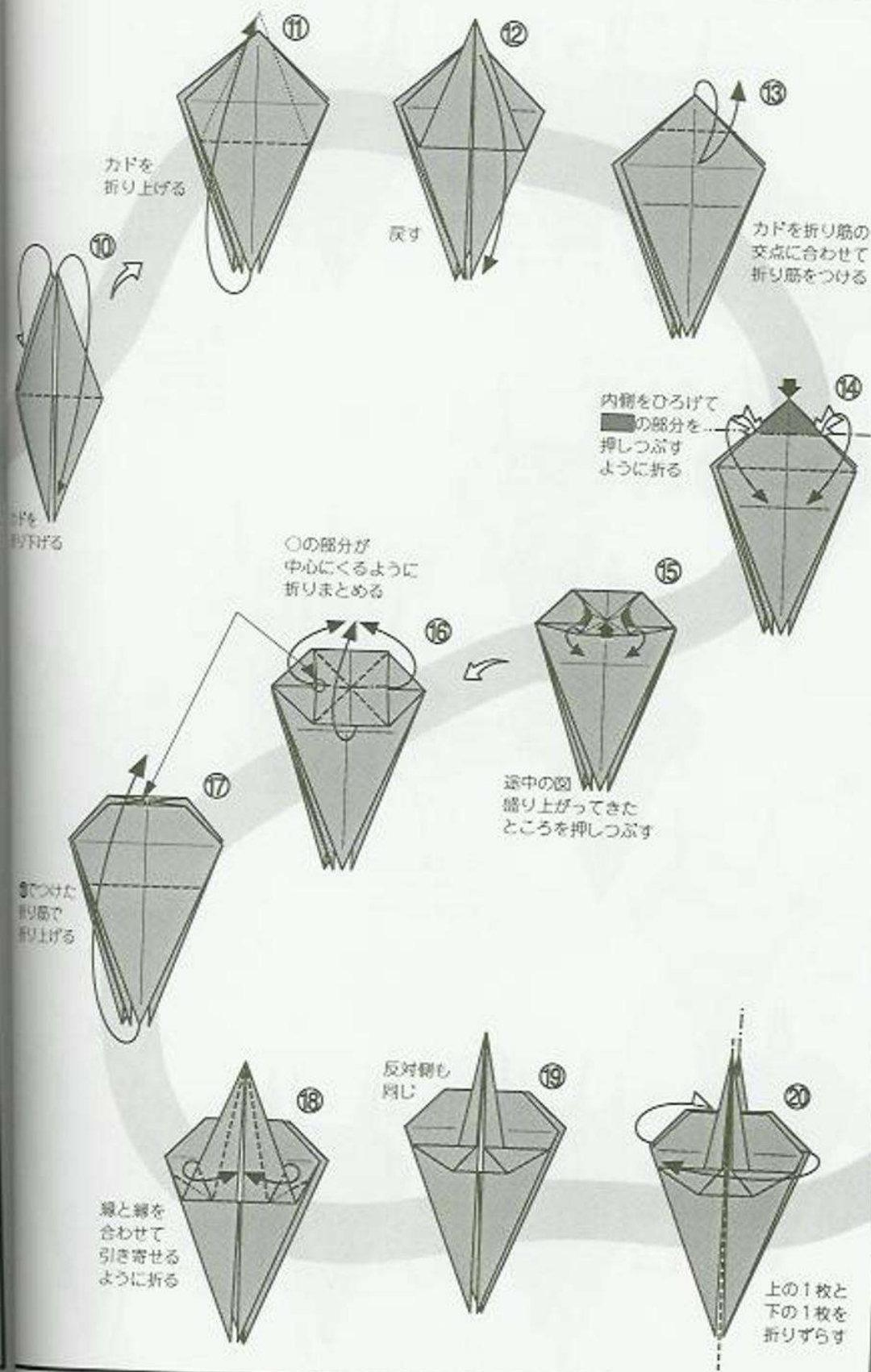




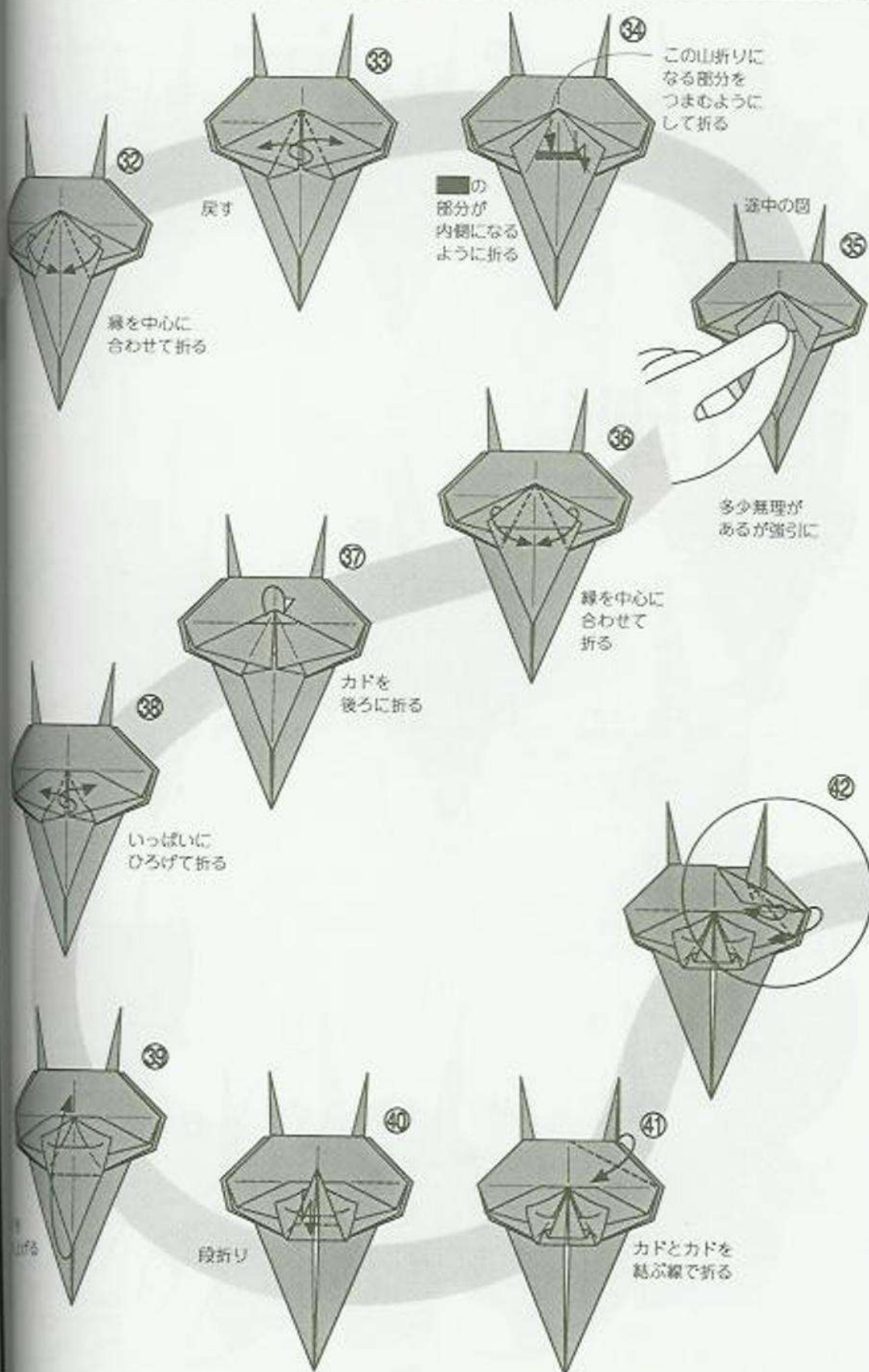
はん じゃ
般 若

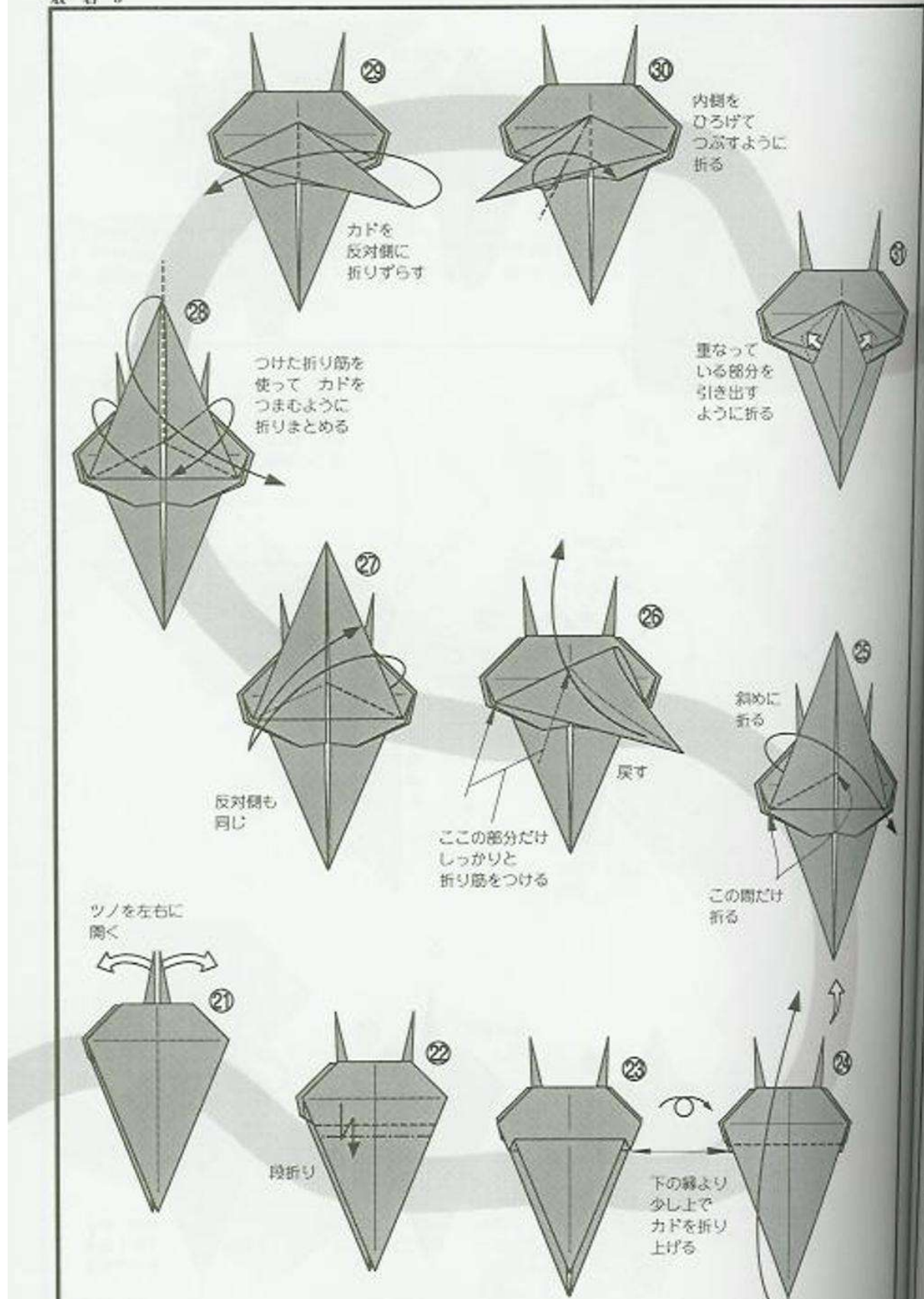
女性の憤怒と嫉妬をあらわす鬼女の面。
ポイントは何といても目の折り出し。作品に仕上げるときは迷い傷ならぬ迷い線が入らないように、何度も折ってこつをつかんでください。

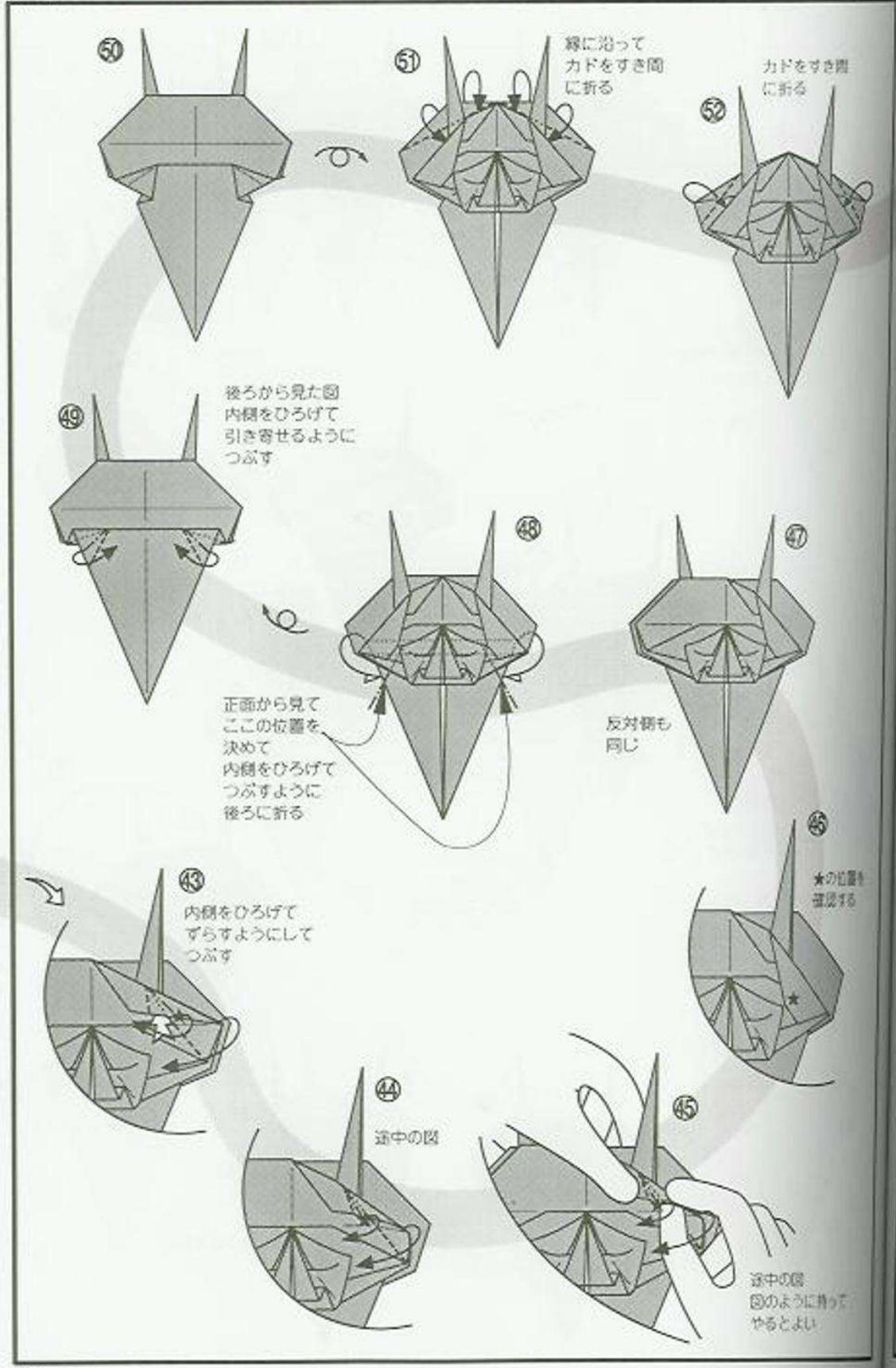


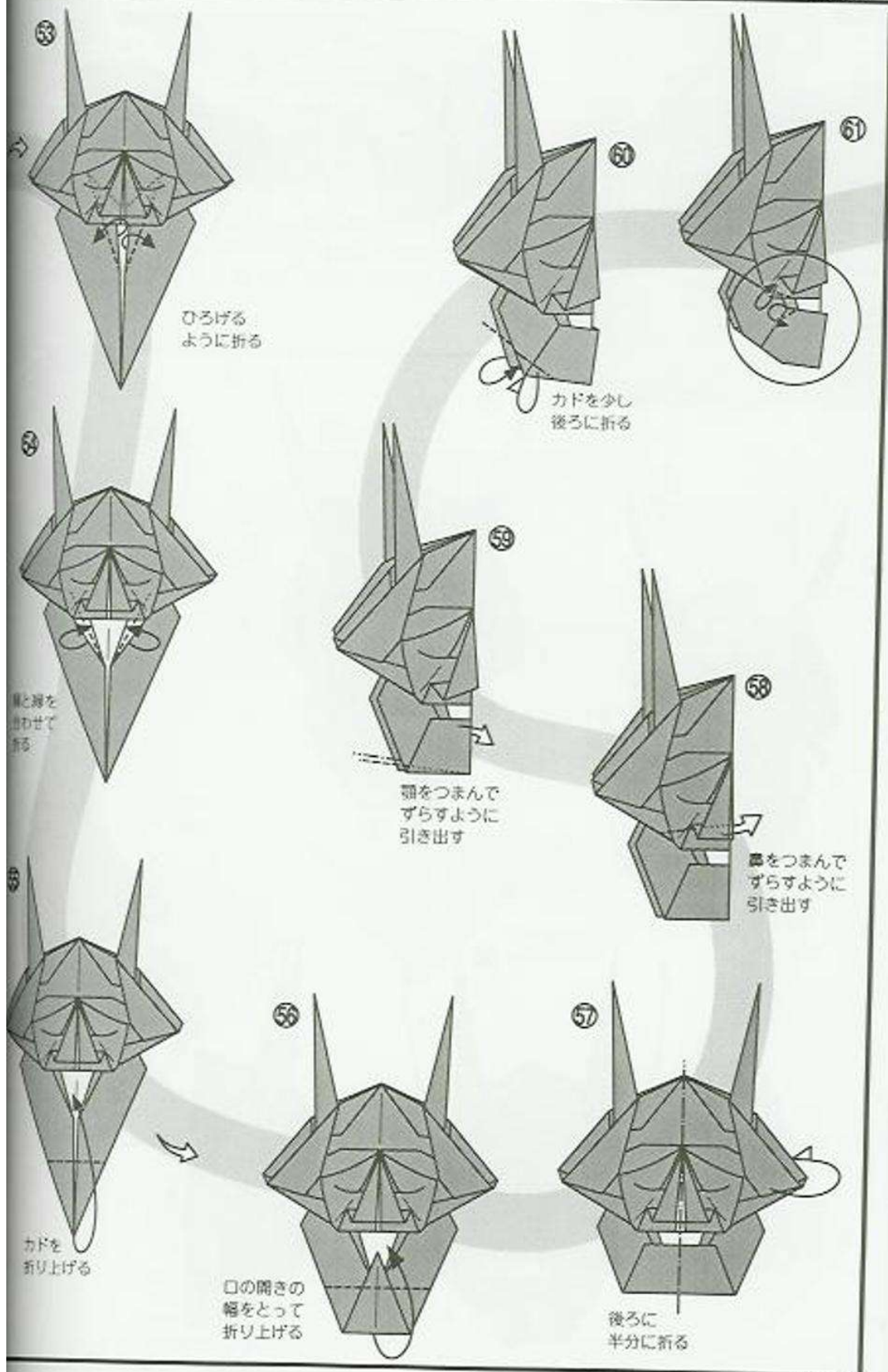


Mask=157

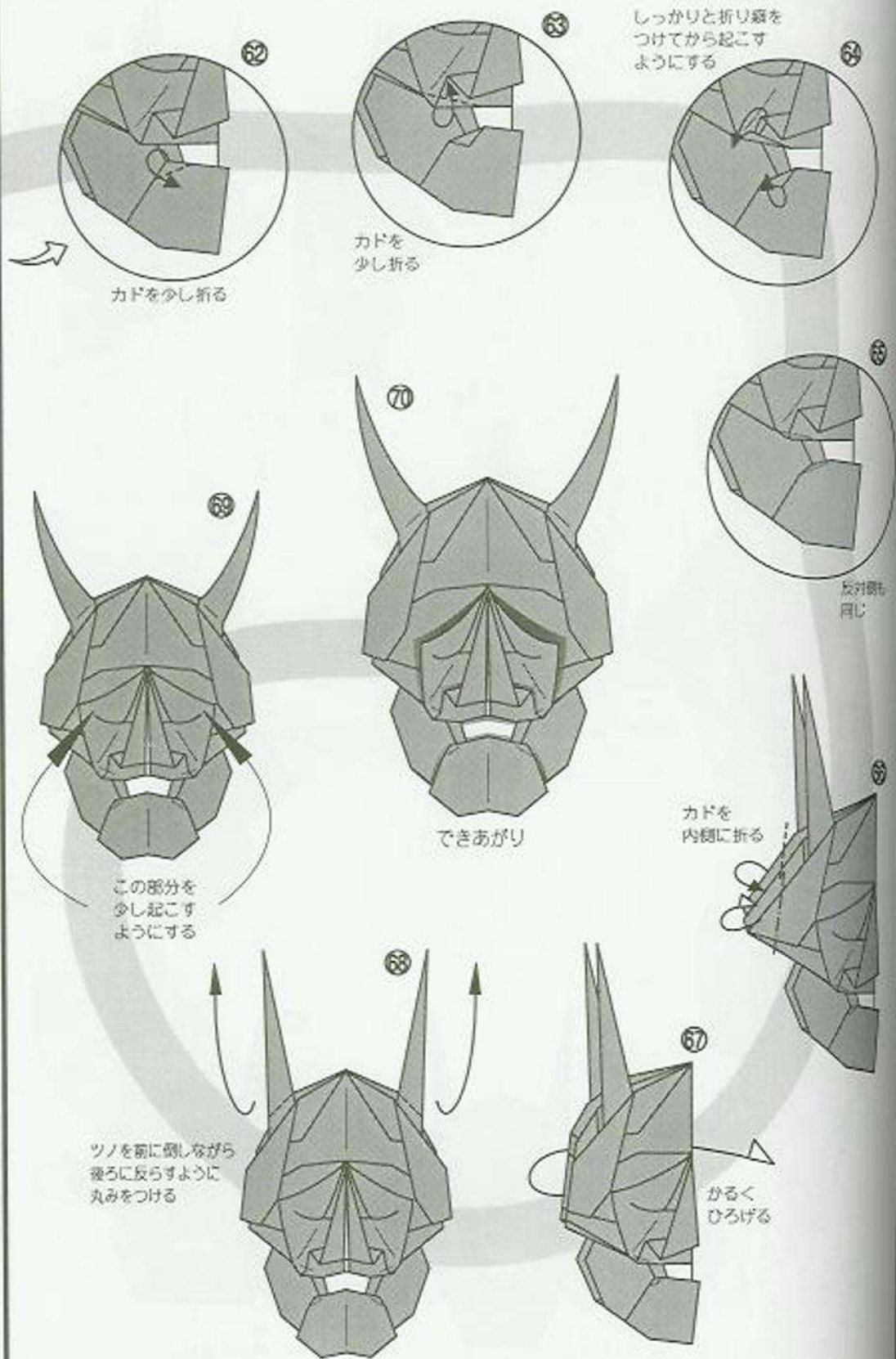






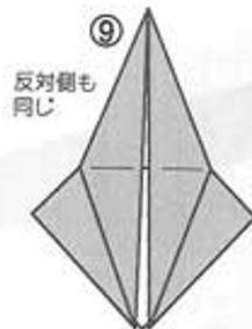
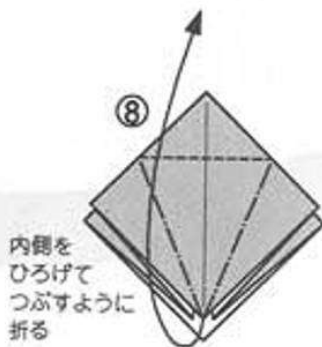
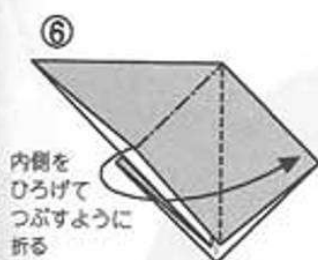
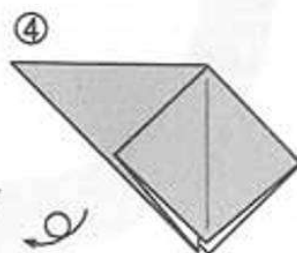
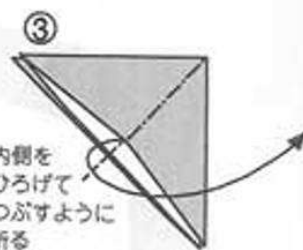
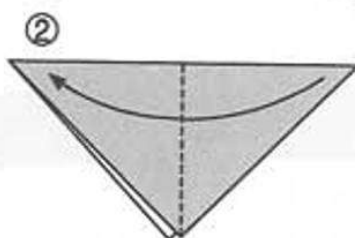
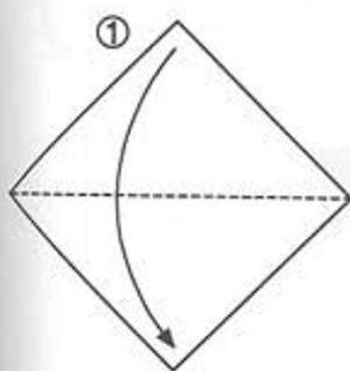


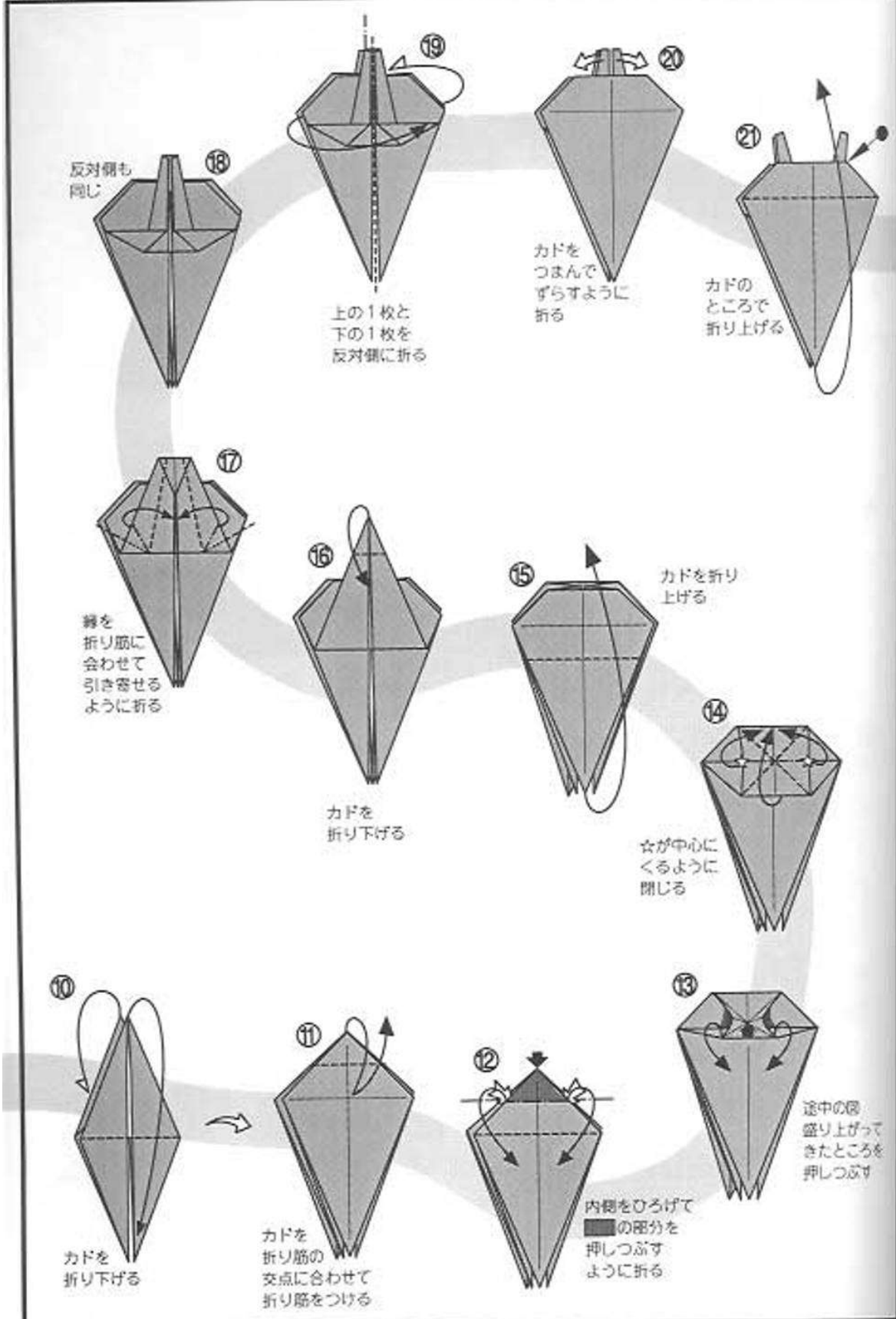
Mask=161

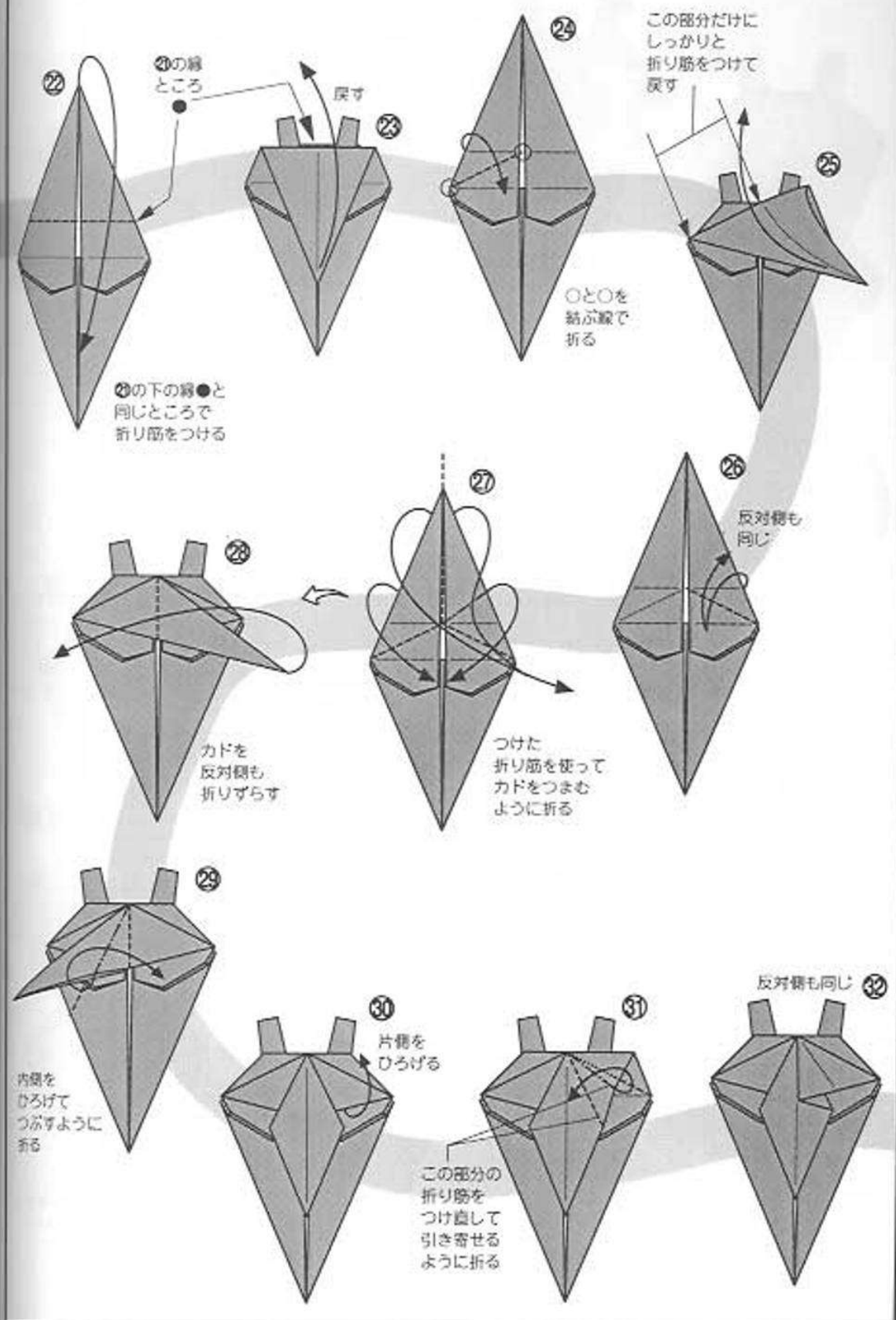


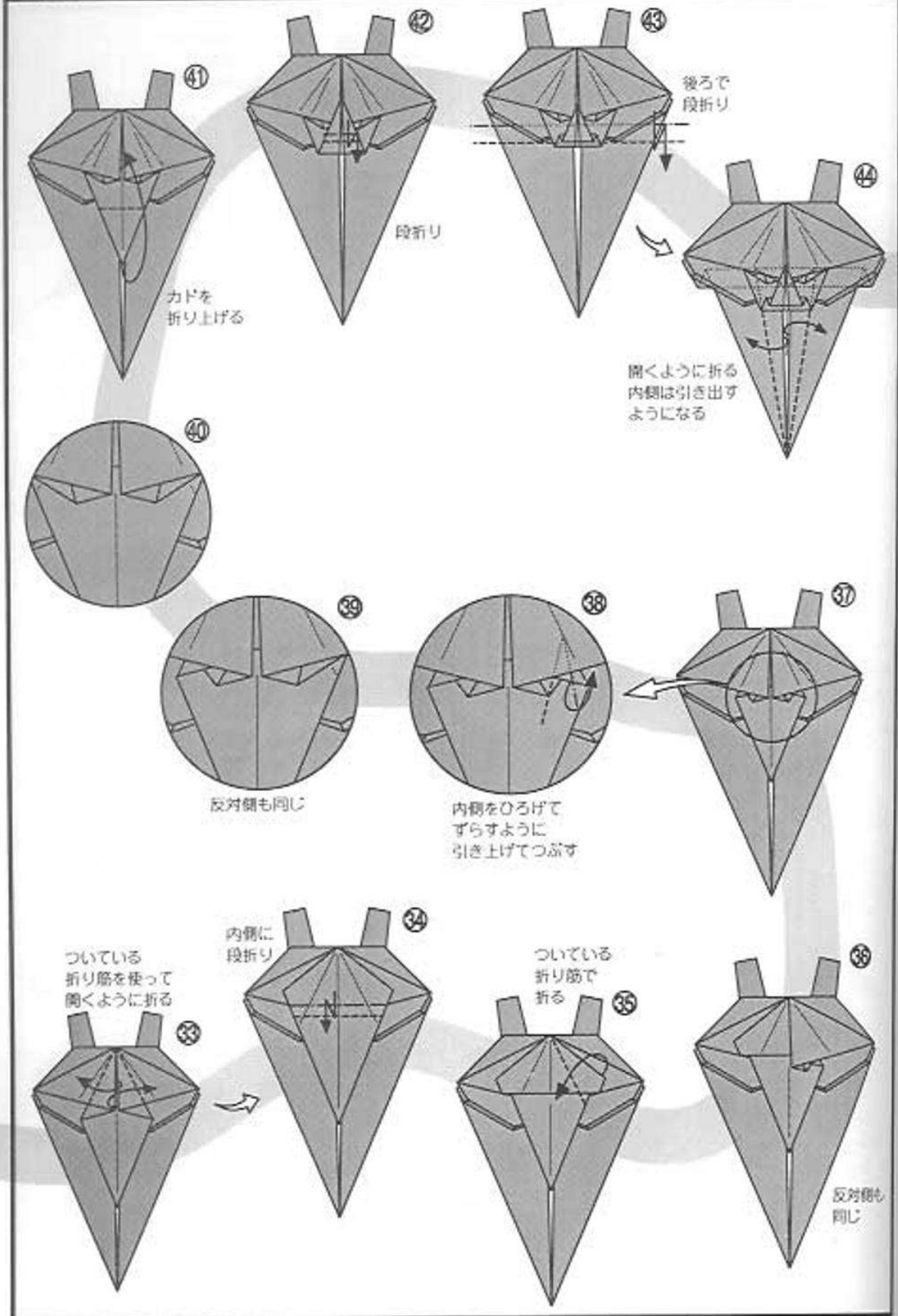
なまなり
生 成

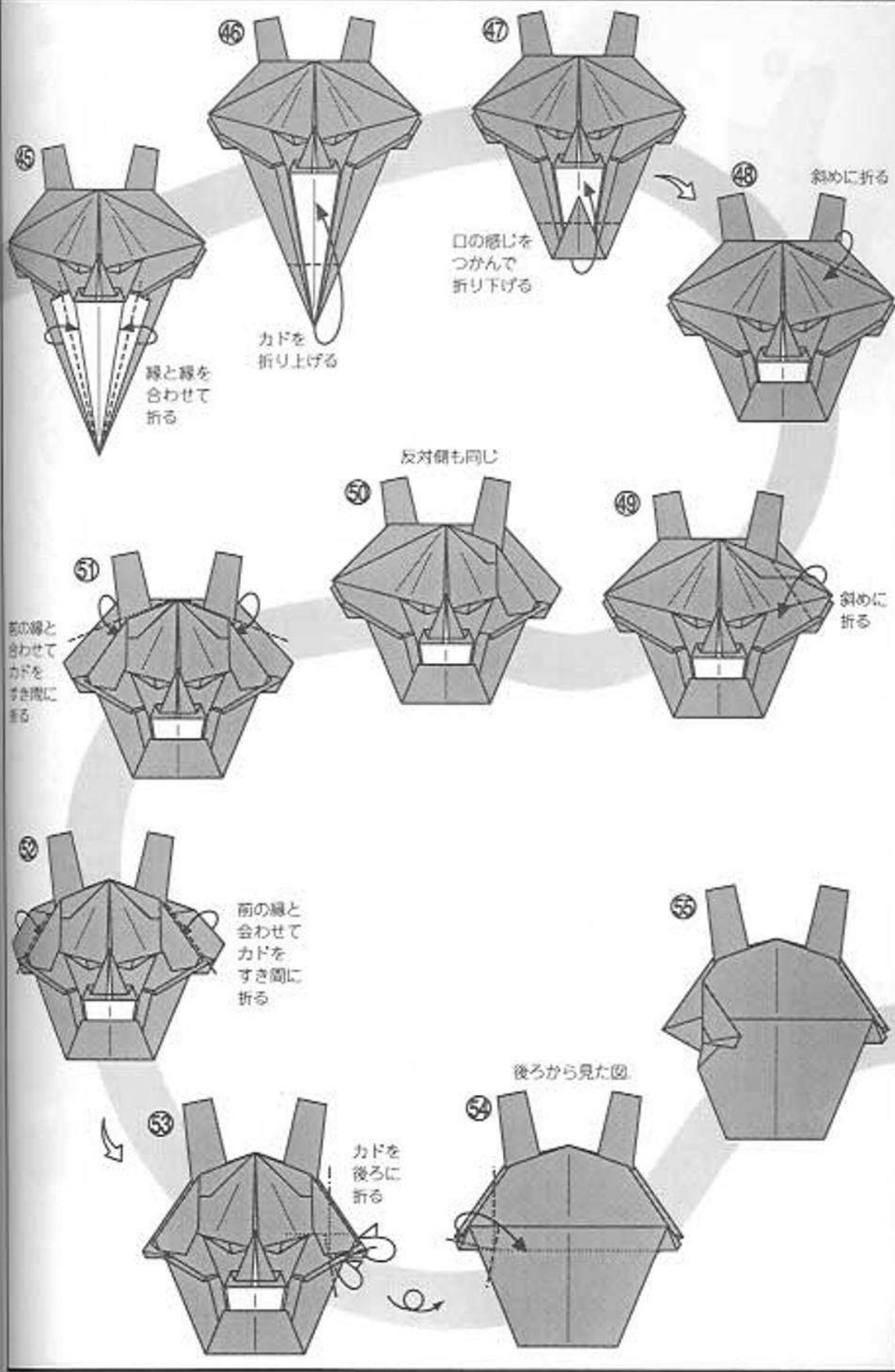
女性の魔性がまだ熟しきらない、般若の前段階。
 怪しく恐ろしい感じは、きらもみの和紙を使うことでずいぶん助けられたと思う。紙選びも折り紙の大きな要素である。

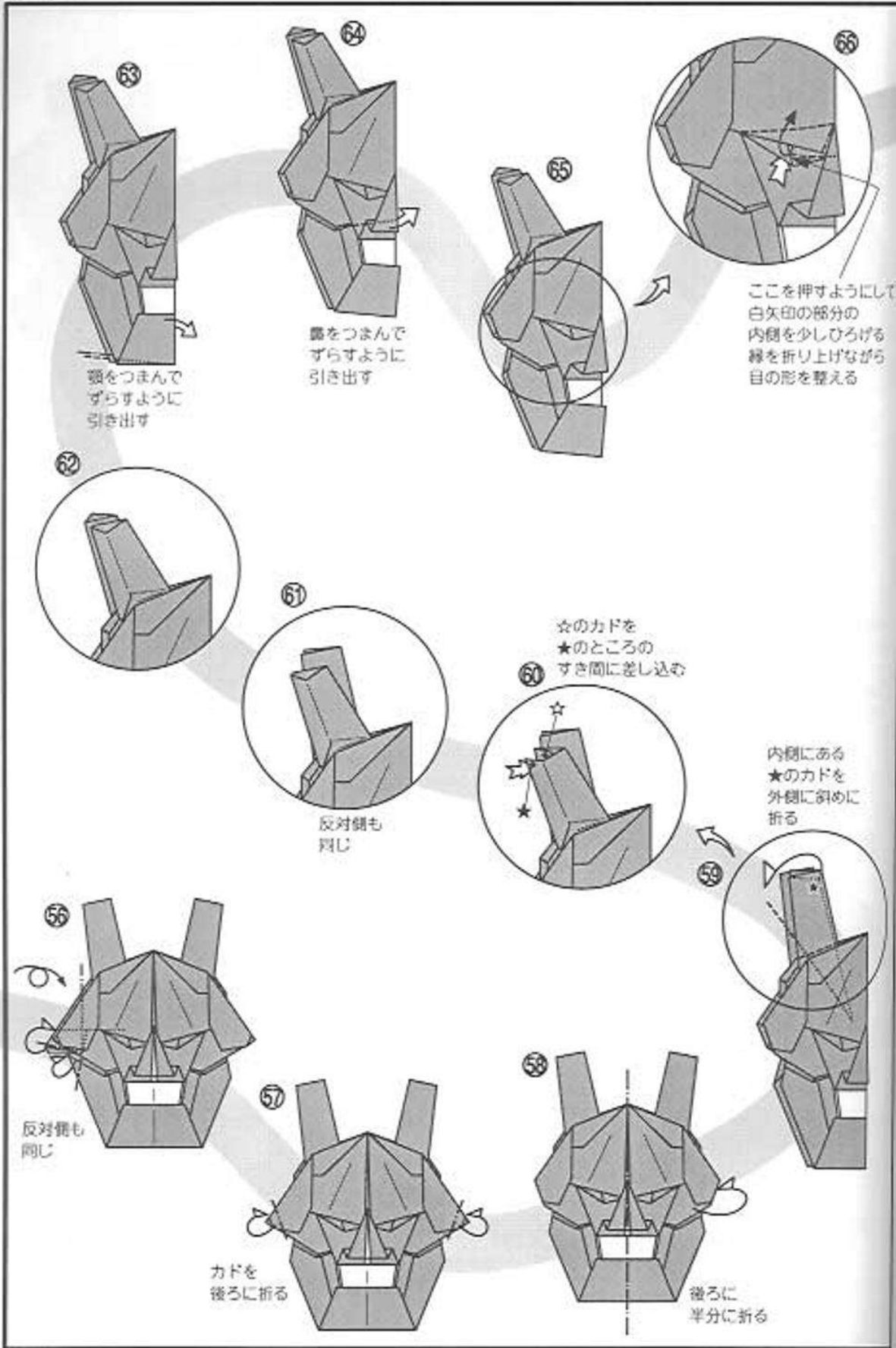


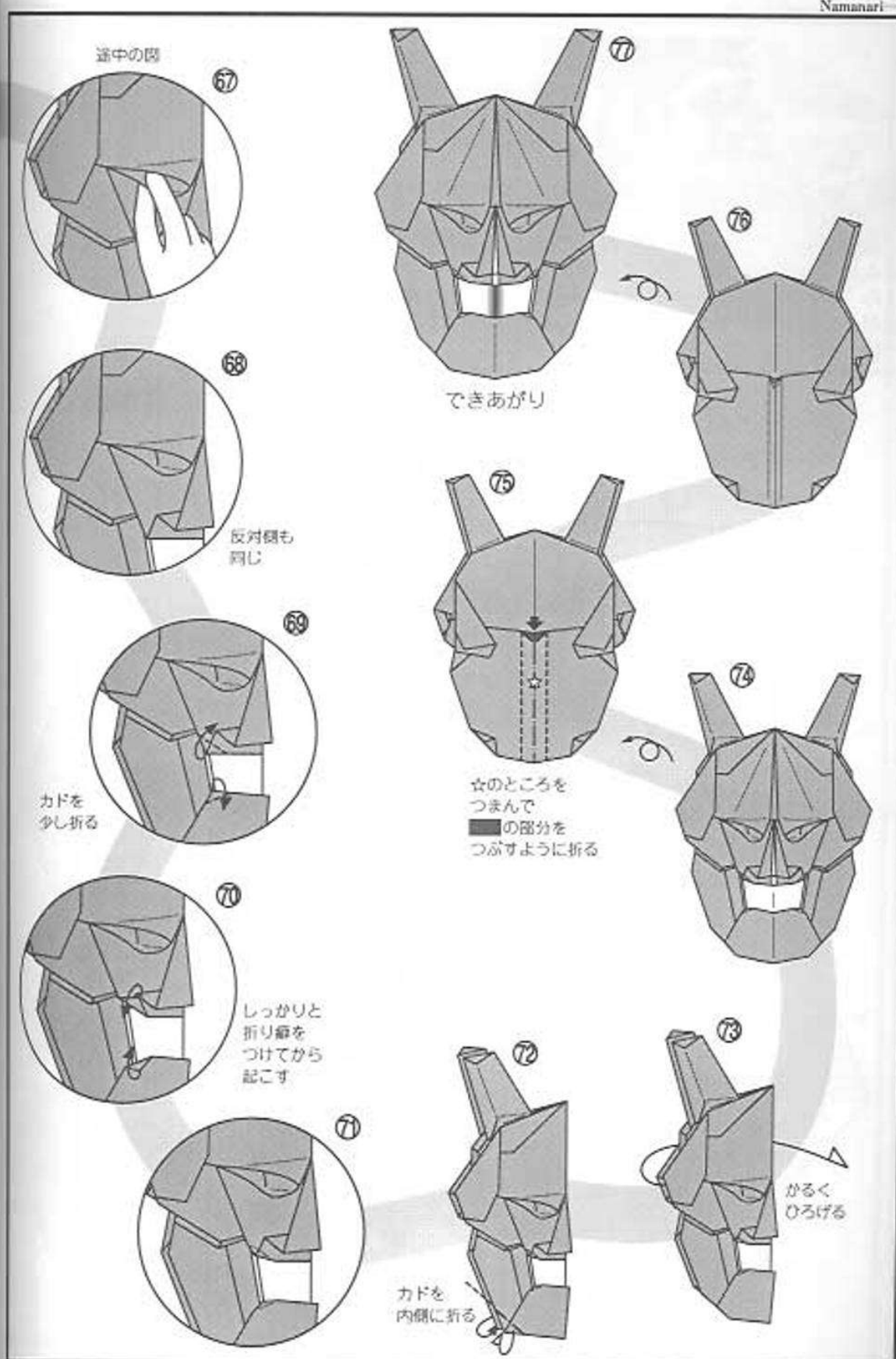








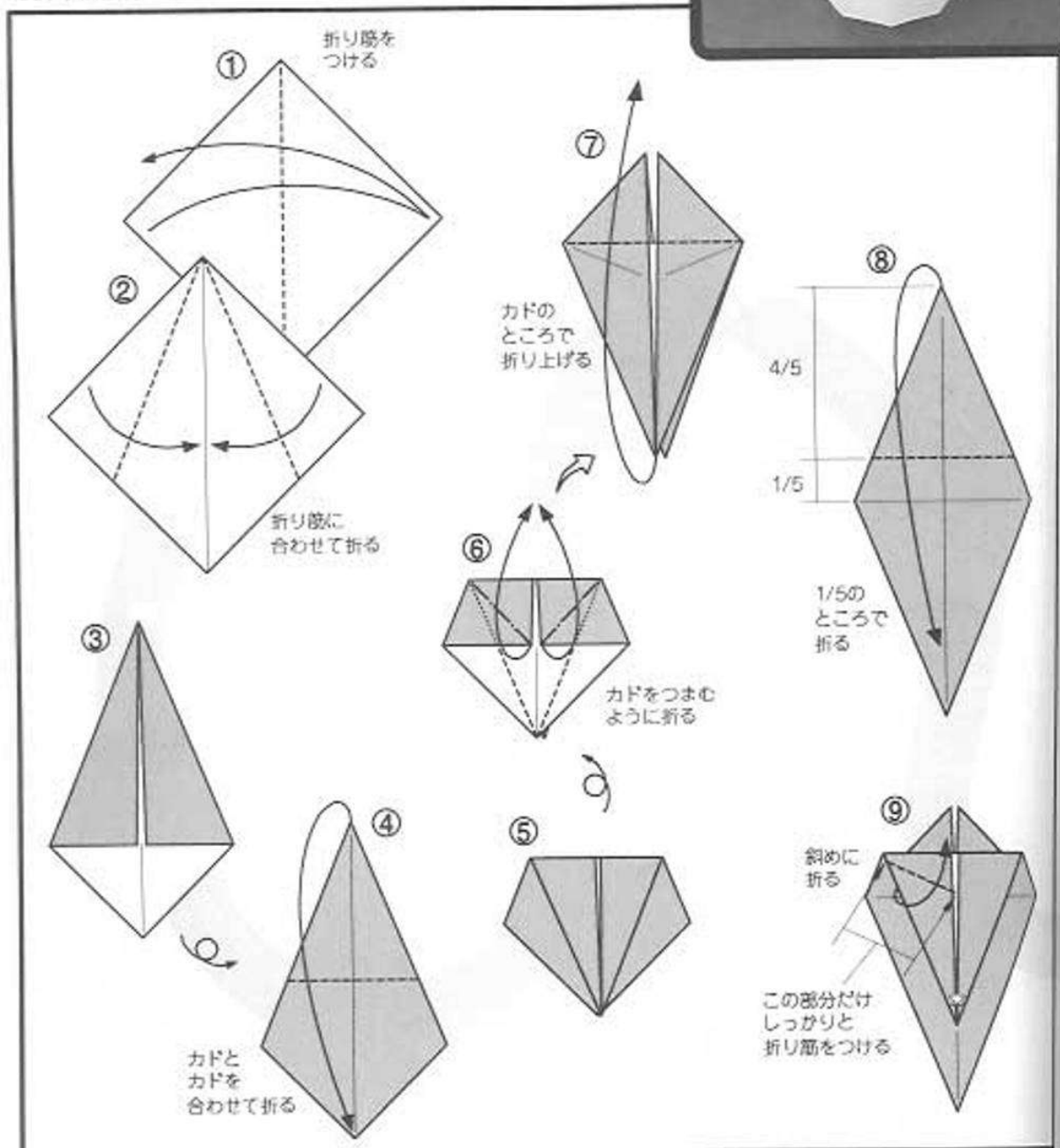




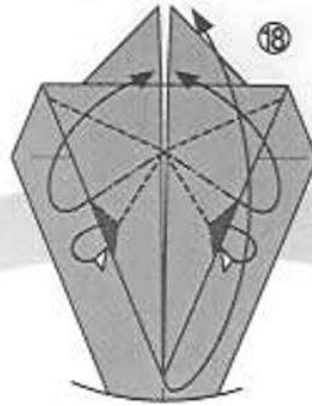
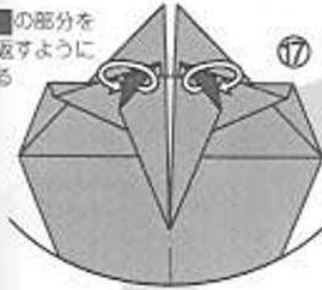
おんなのめん

女の面

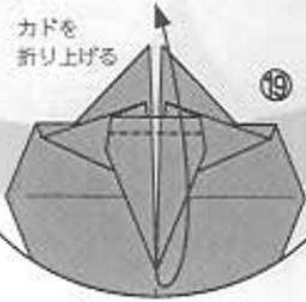
「女の面」と次の「般若風の頭」の二点は、能面のジャンルに入れてあるが、そのアレンジです。
 この「女の面」は、小面、若女、増女など、いささか乱暴だが、能で用いられる若い女面の総合イメージで折った折り紙面。



■の部分
裏返すように
折る

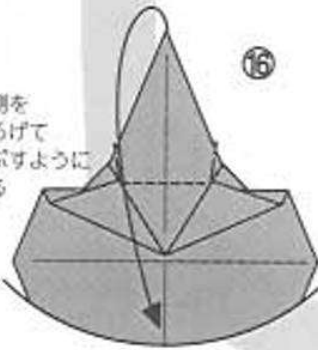


一度ひろげて
図のように
■の部分の
折り筋をつけ直して
折ってもよい



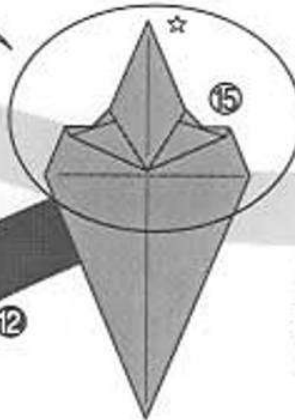
カドを
折り上げる

内側を
ひろげて
つぶすように
折る



16

こちらと同じように
縁になるところは
中心から少し離して
折る

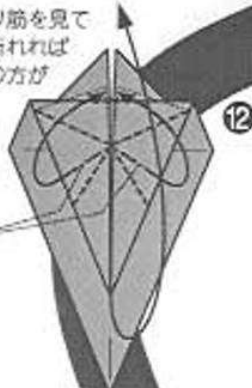


15



14

図の折り筋を見て
一度で折れば
こちらの方が
良い

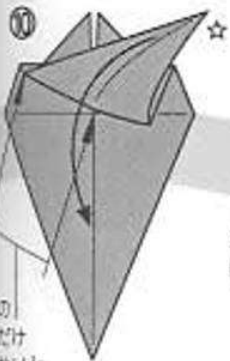


12

この縁になる
ところは
中心から少し
離して折る

内側を
ひろげて
つぶすように
折る

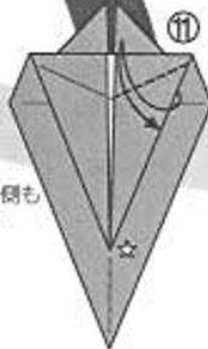
折り筋を
つけてから戻す



10

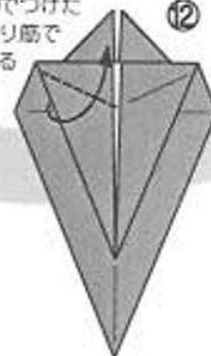
この
部分だけ
しっかりと
折り筋をつける

反対側も
同じ



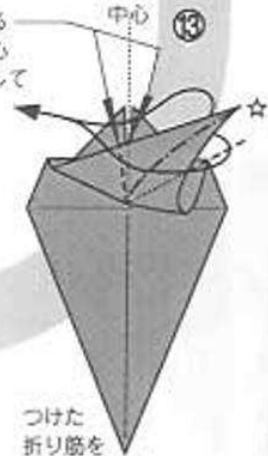
11

⑨でつけた
折り筋で
折る



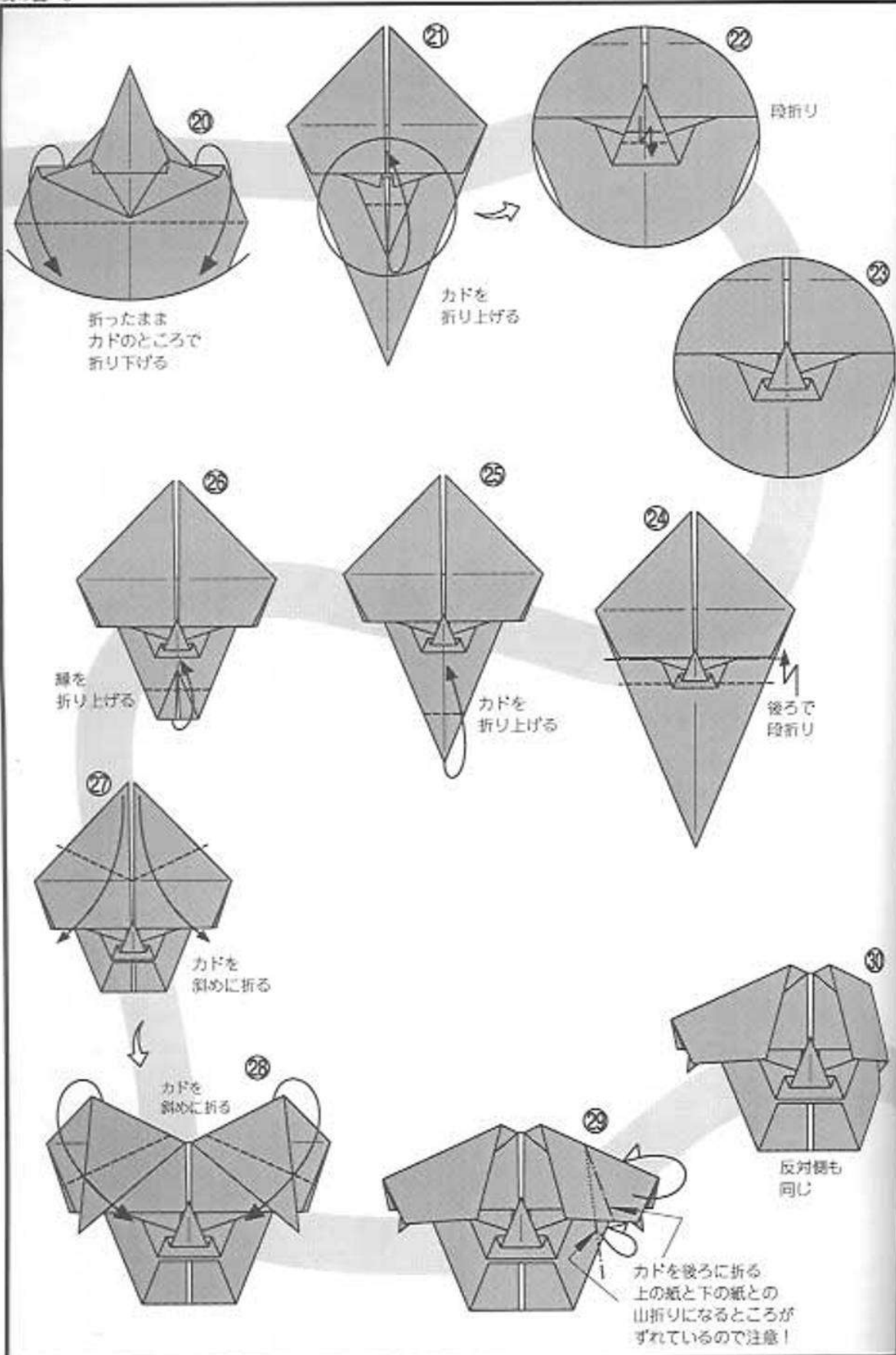
12

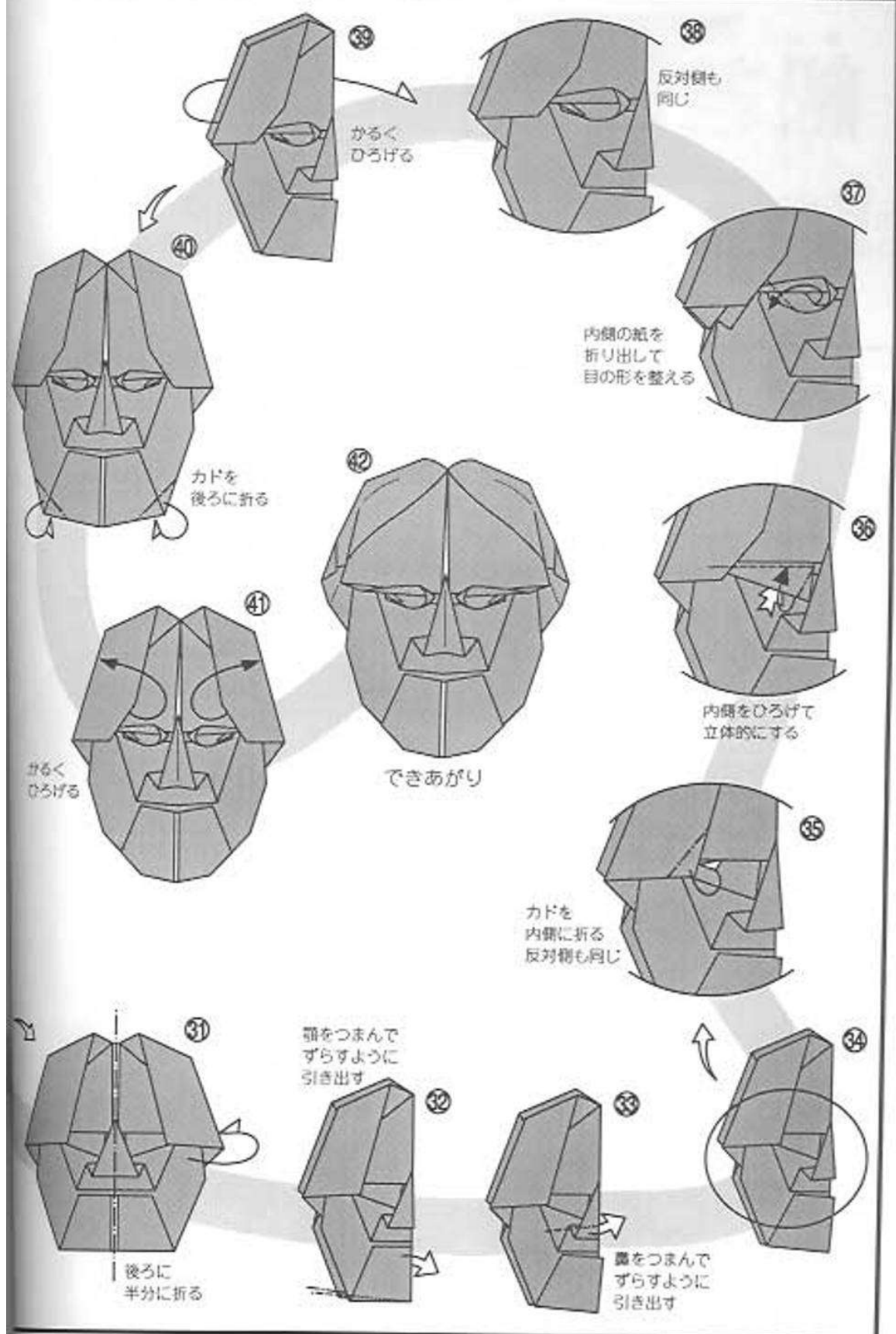
この縁になる
ところは中心
から少し離して
折る



13

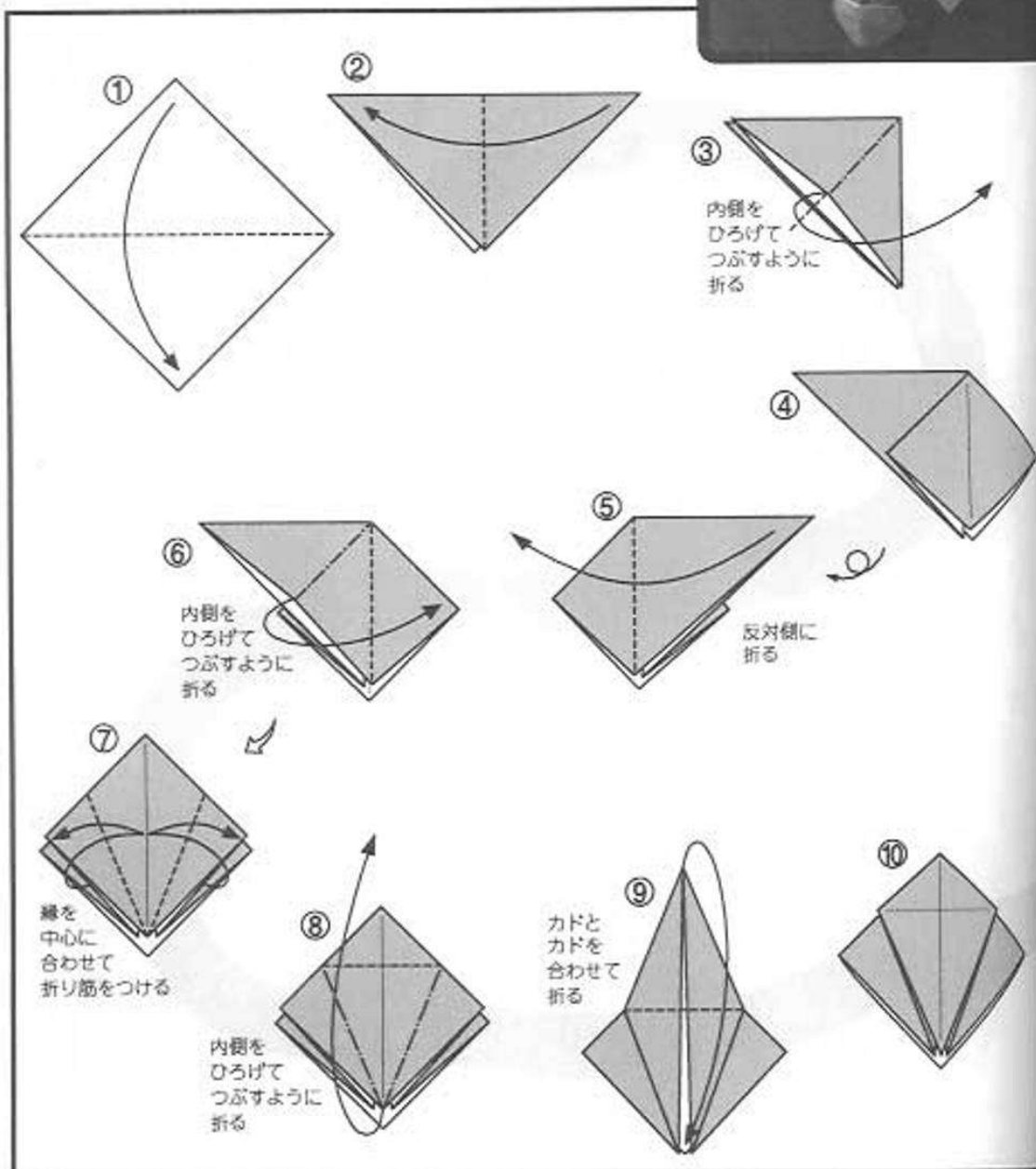
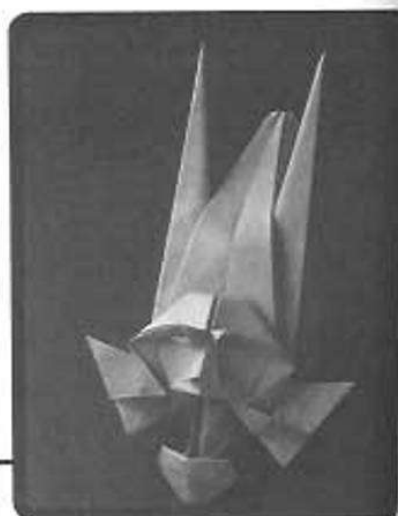
つけた
折り筋を
使ってつまむ
ように折る

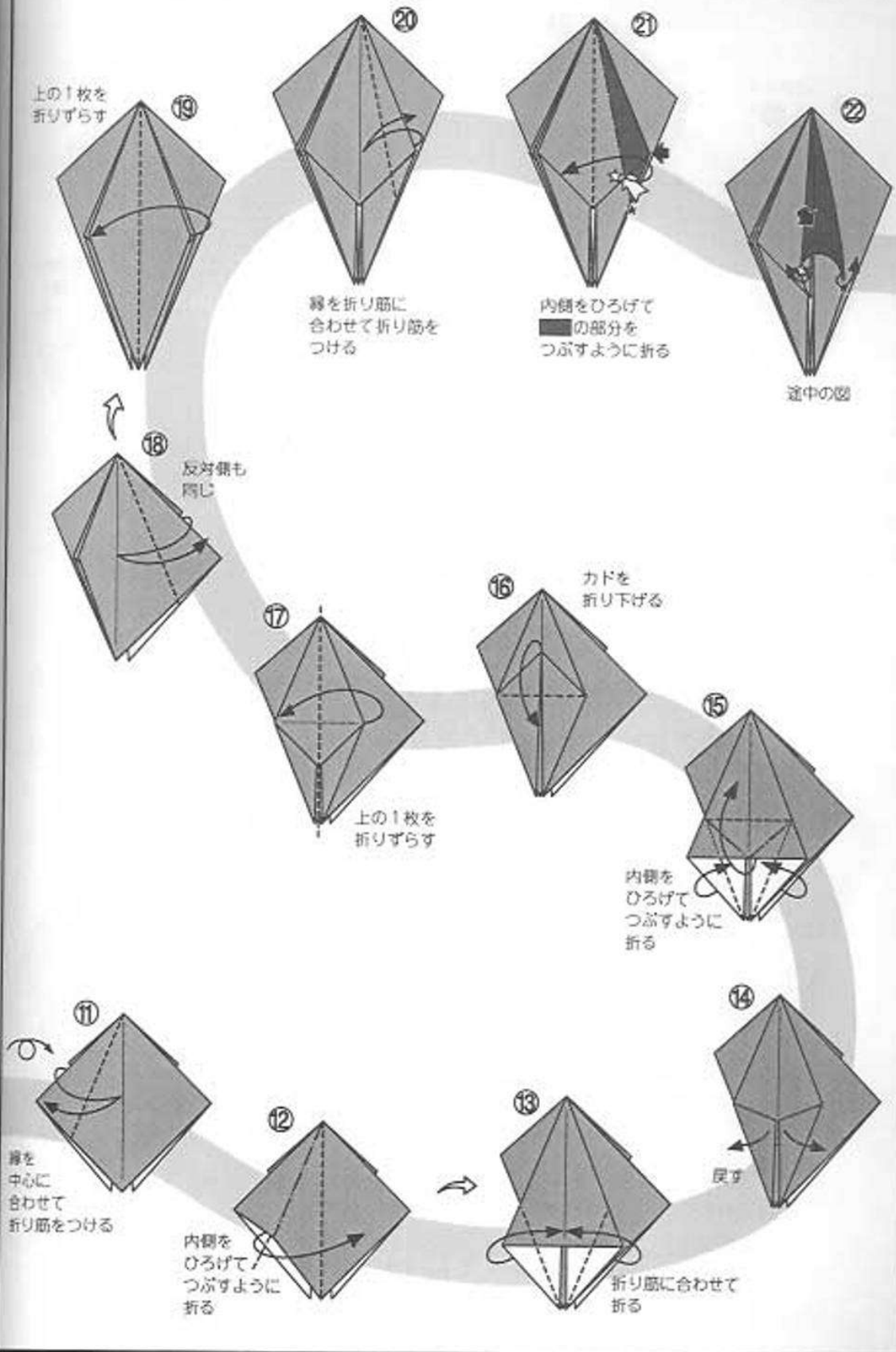


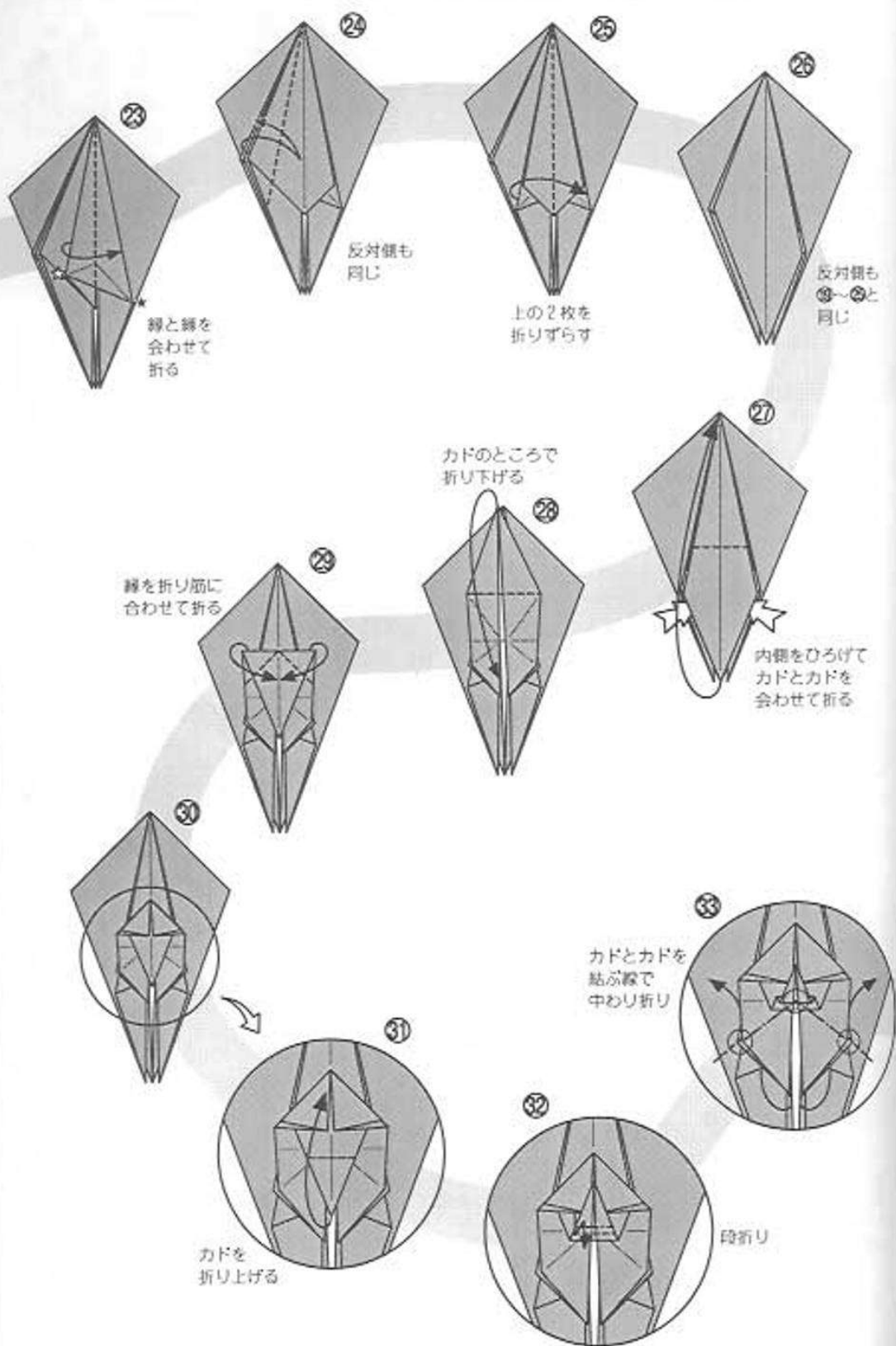


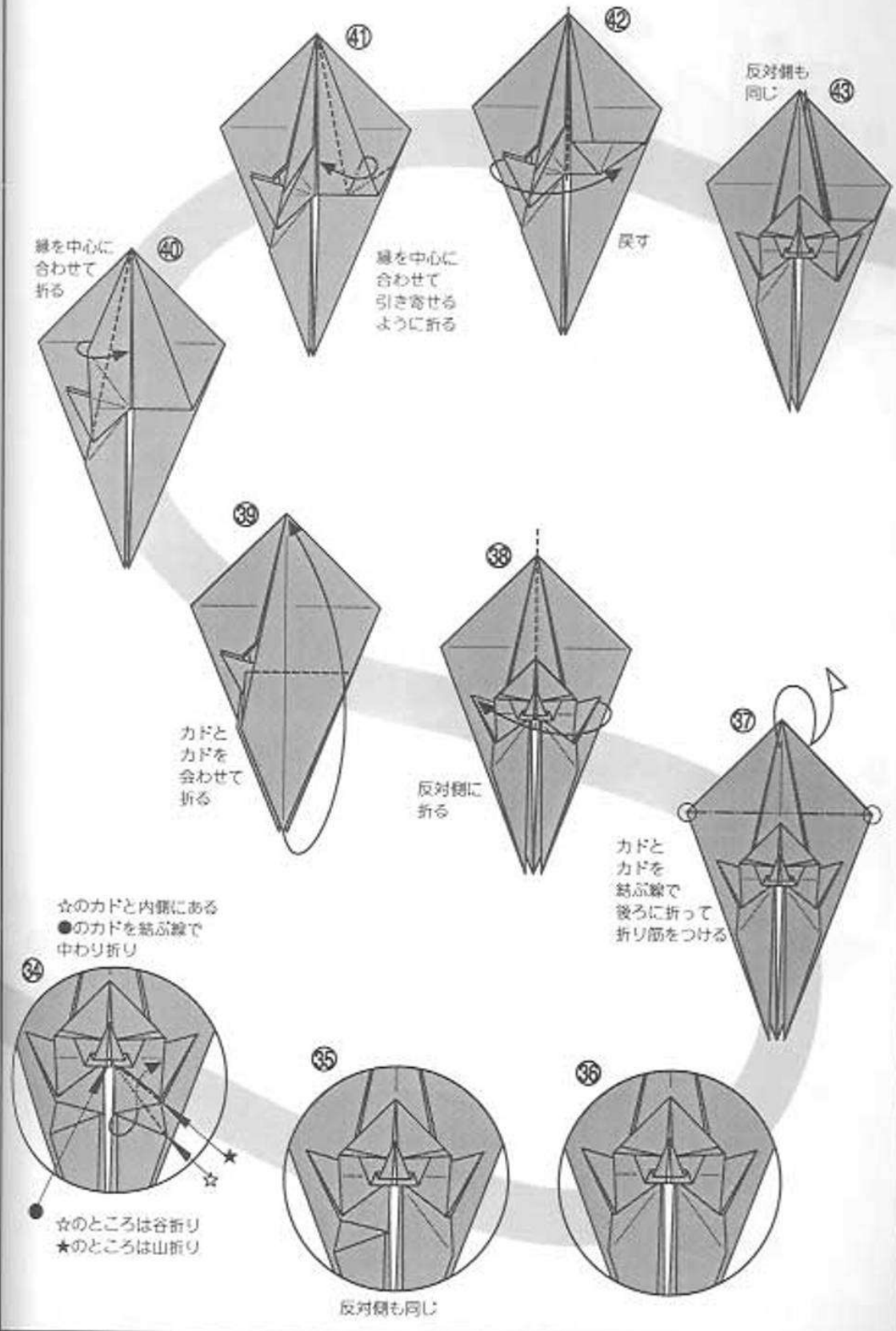
はん にい ふう かひる
般若風の頭

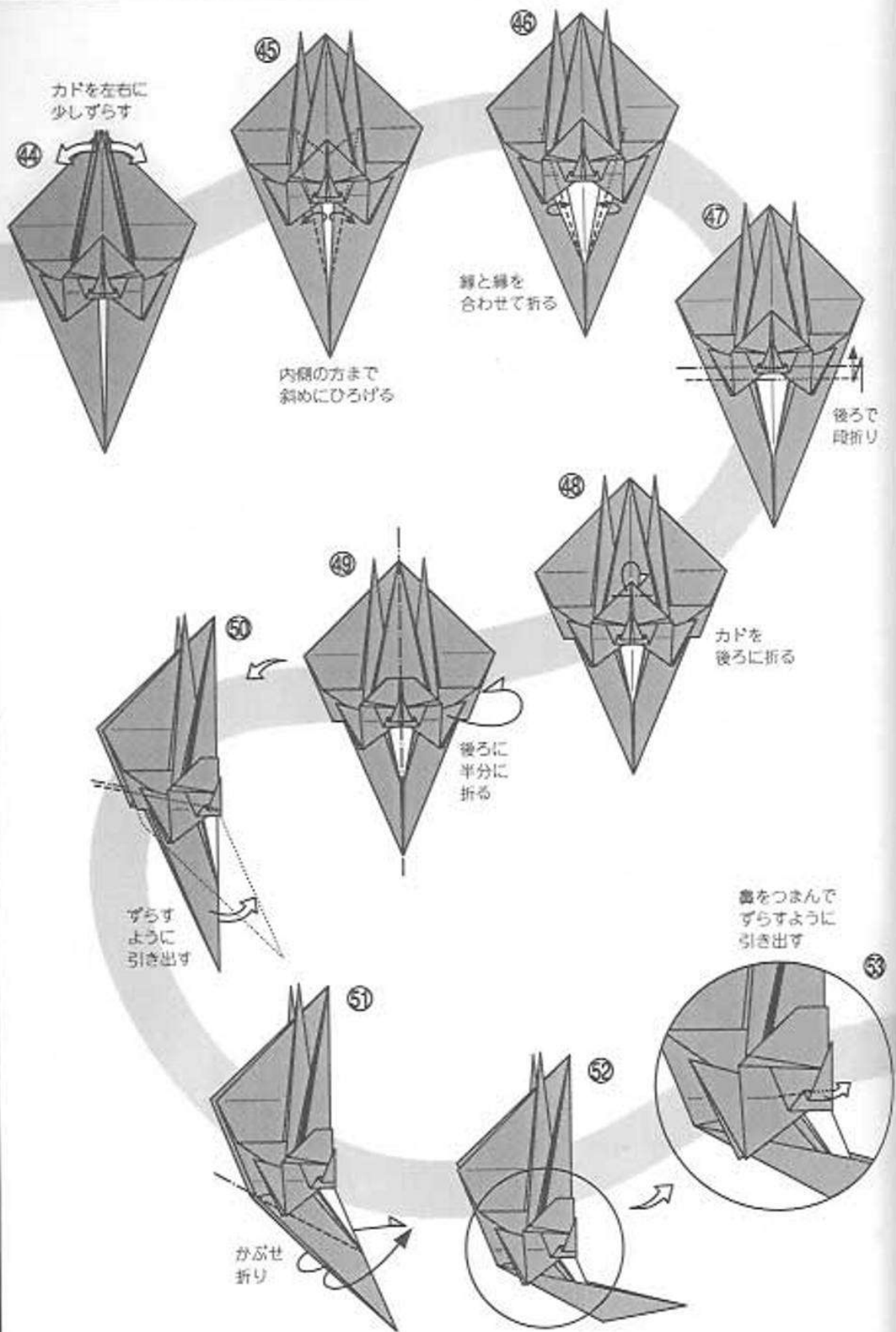
般若を折り紙的にアレンジして、頭全体を折り、顔を突き出して、机の上に置いて鑑賞できるようにしたもの。

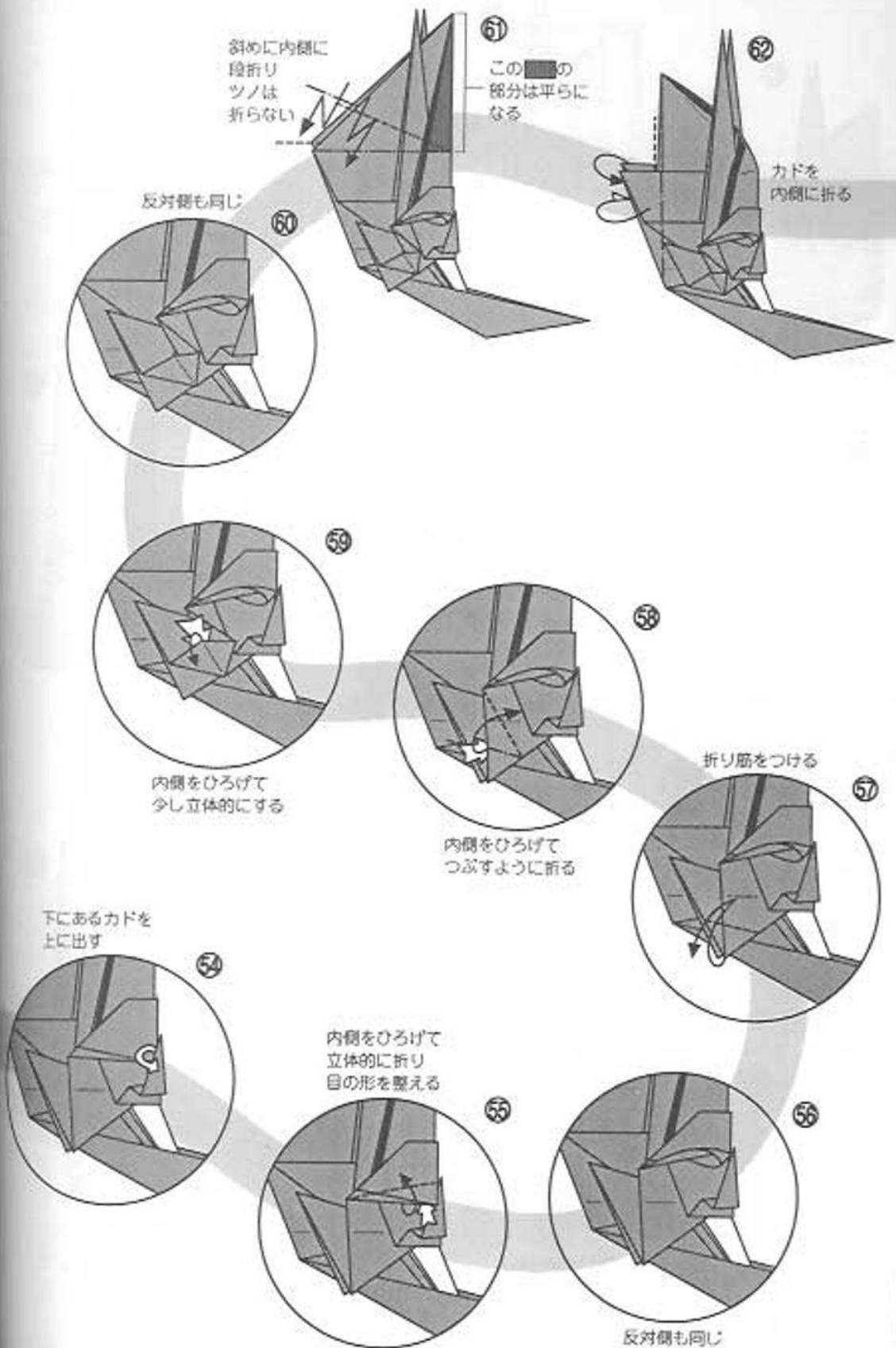


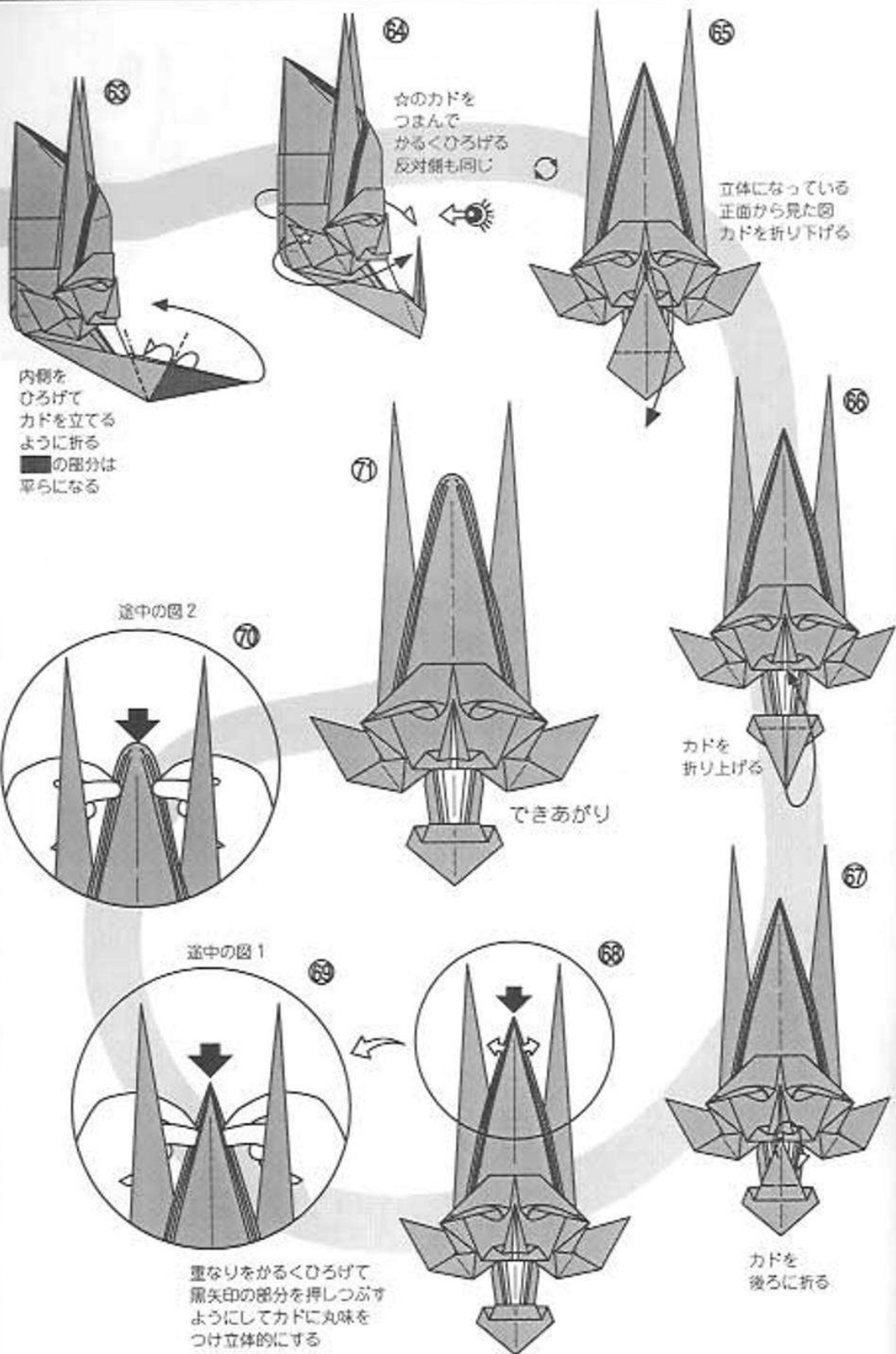






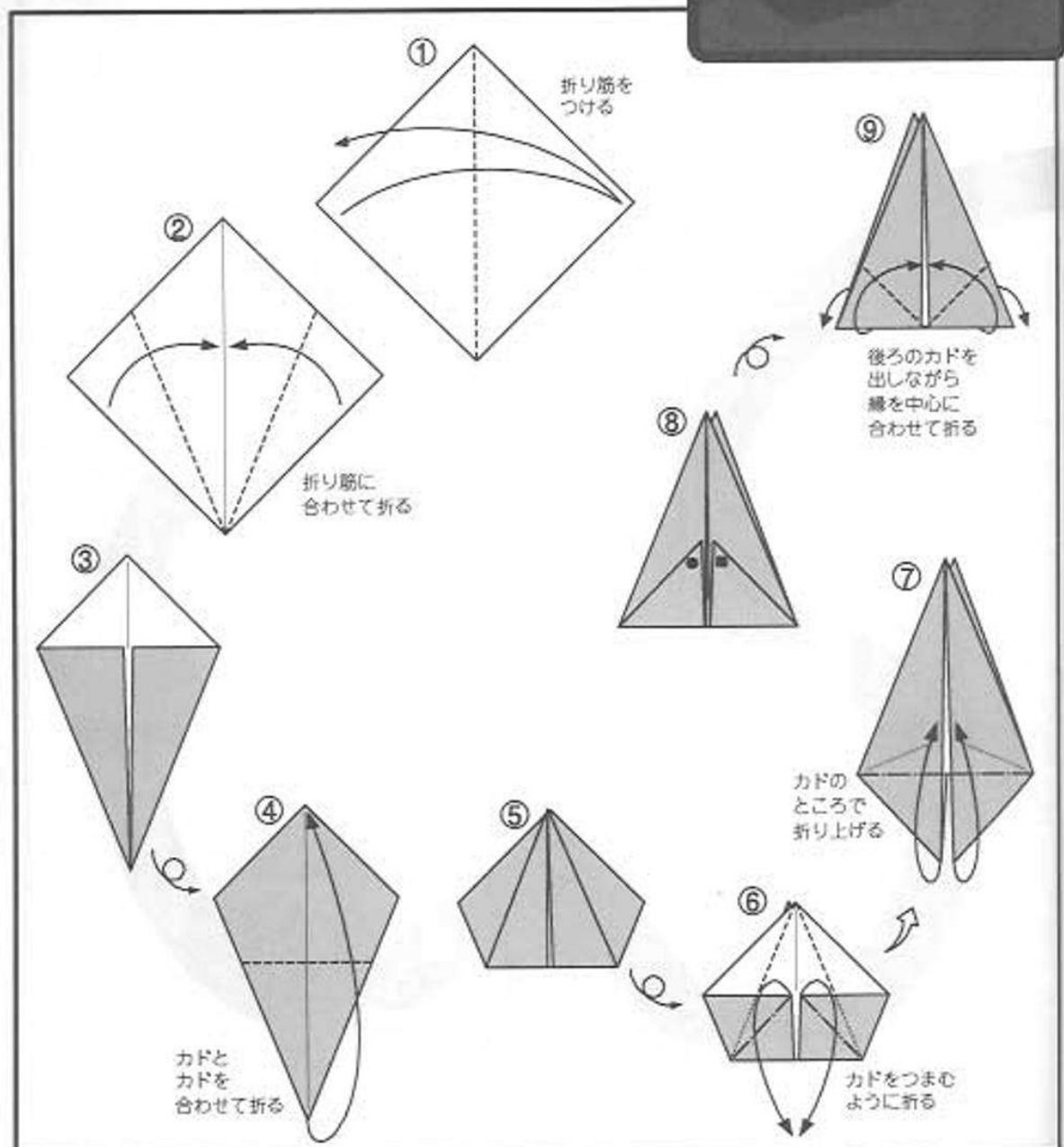


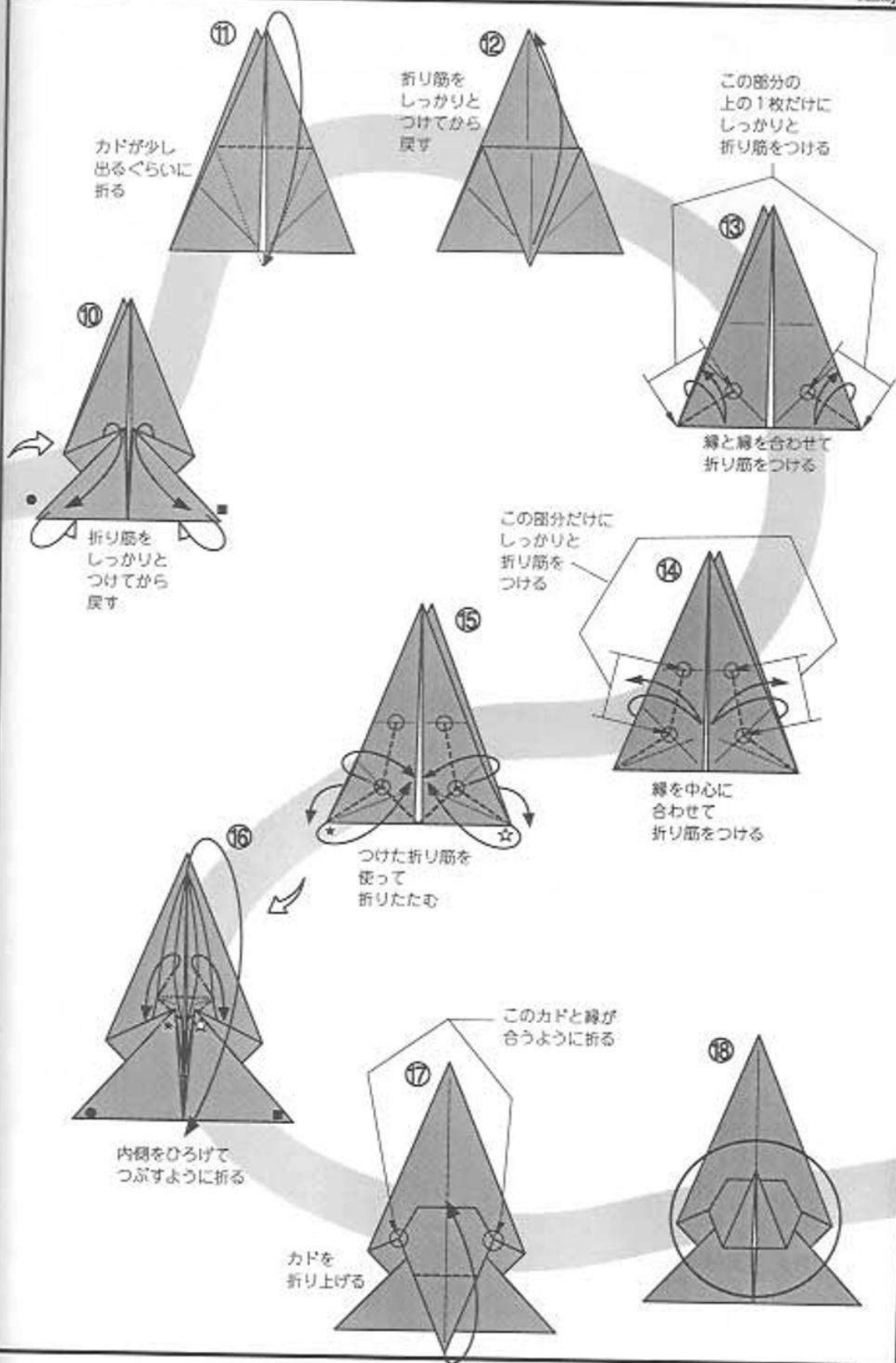


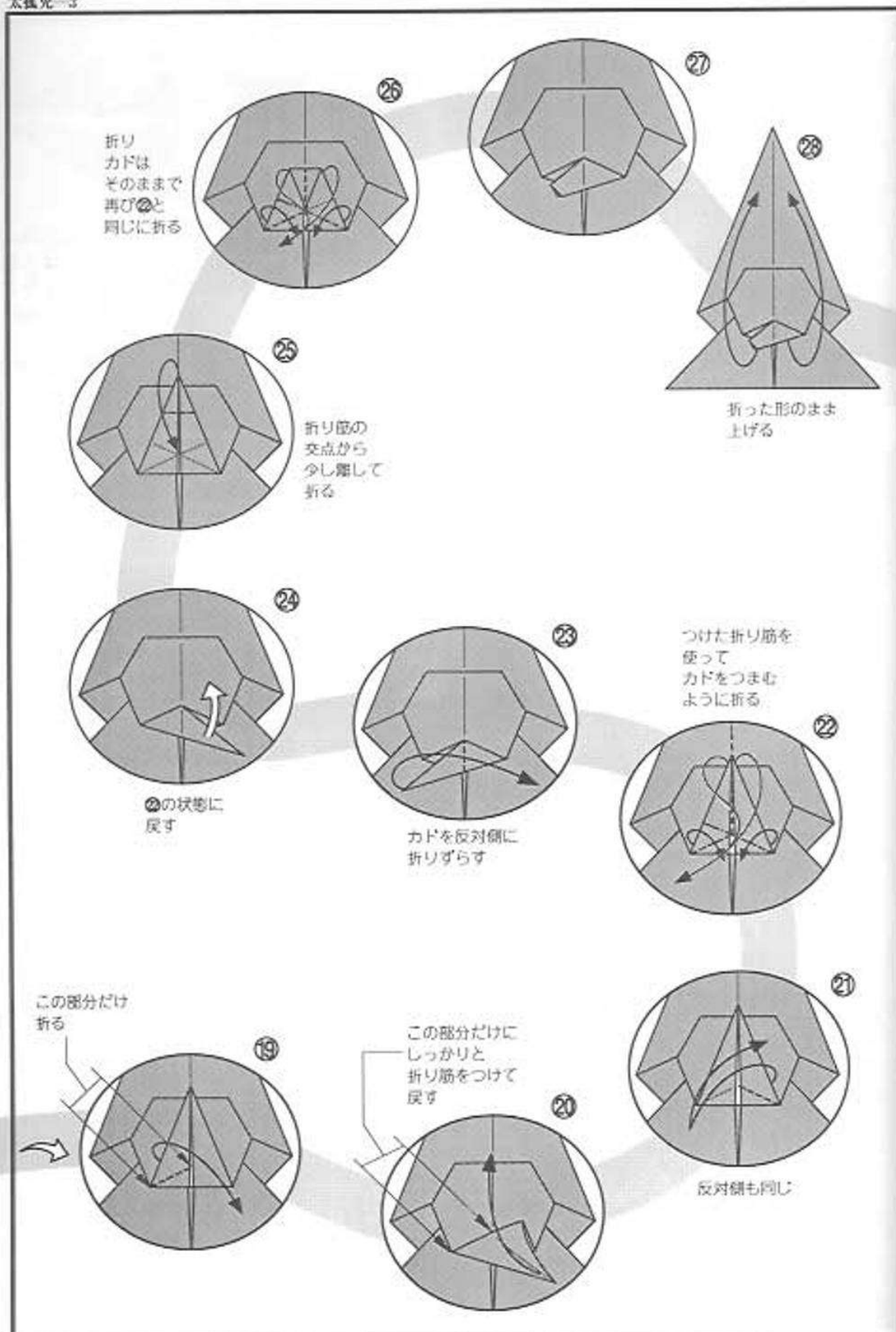


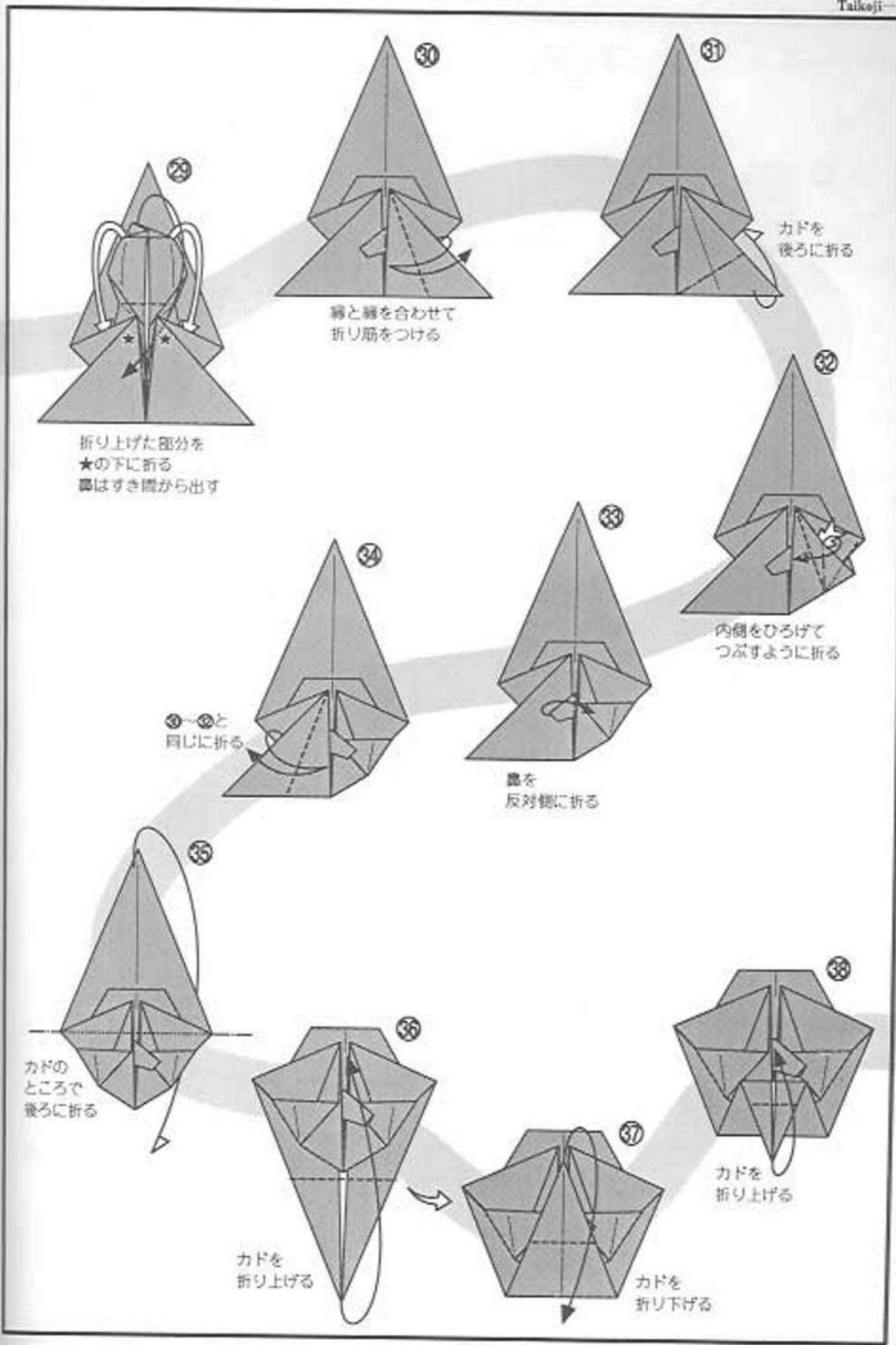
太孤児

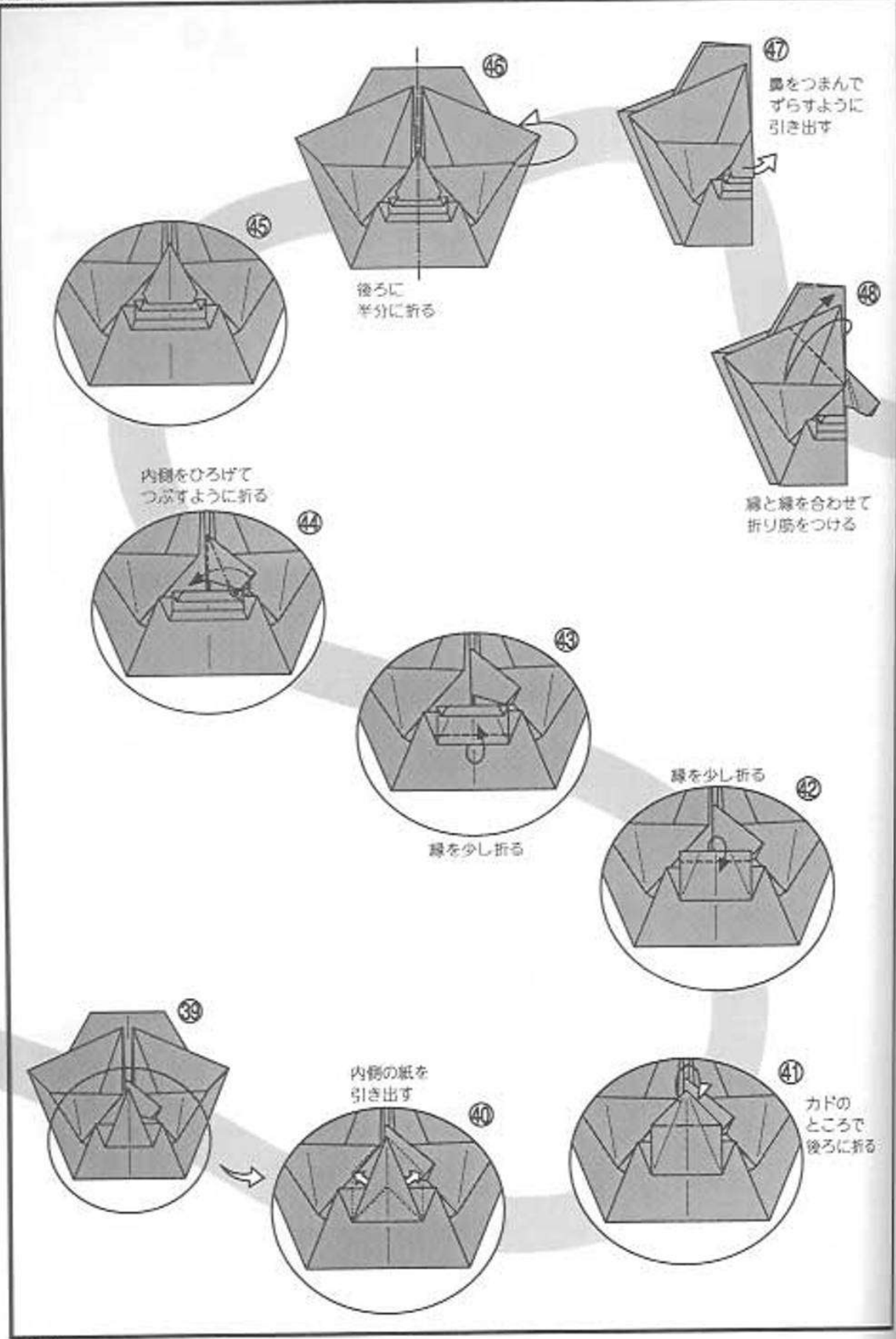
太孤児は無邪気に笑った童顔である。
部分的に目と口元の折り出しはよいと思うが、伎楽面を写そうとしたとき、全体のバランスにつめの甘いところがある。

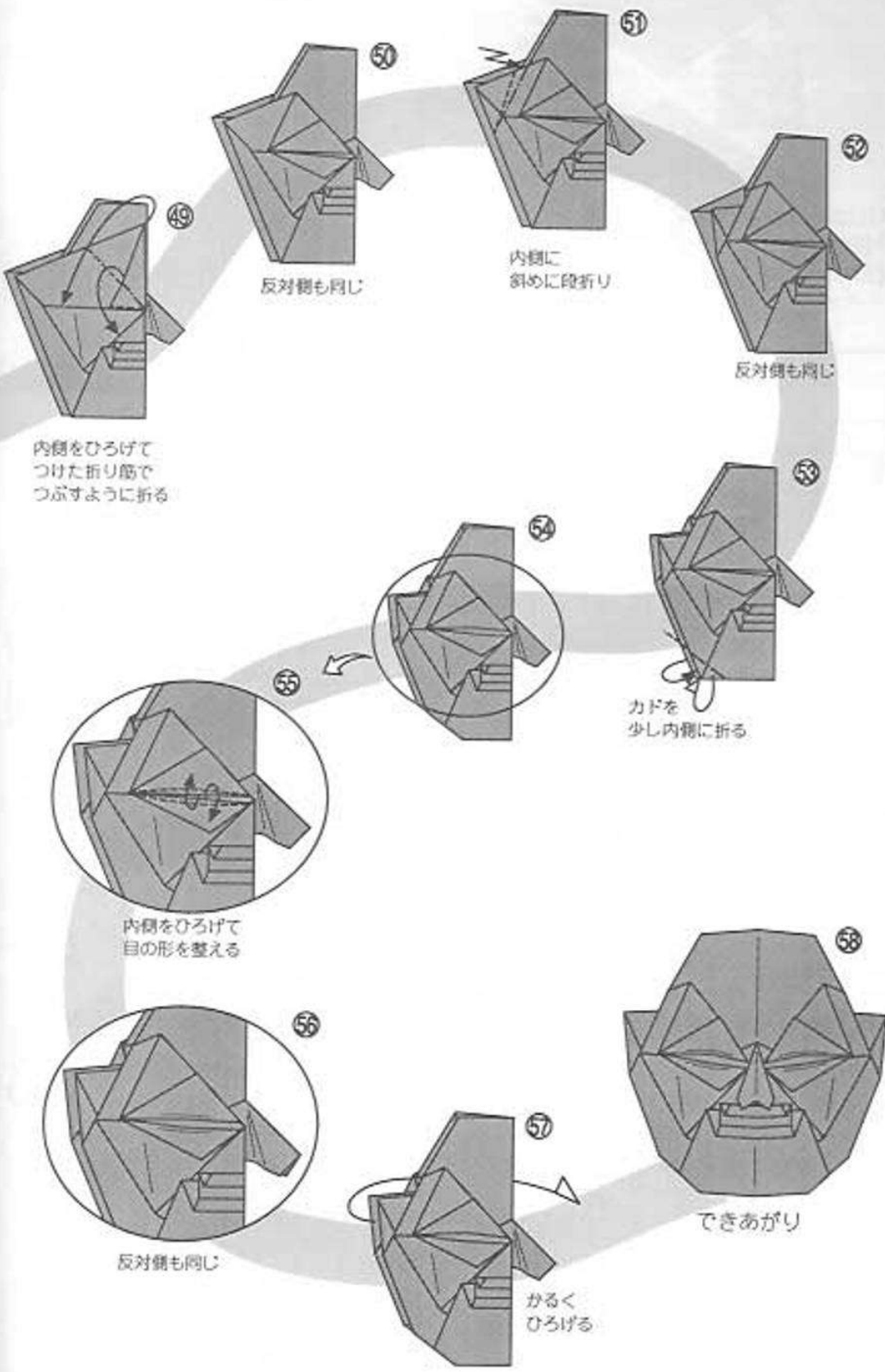






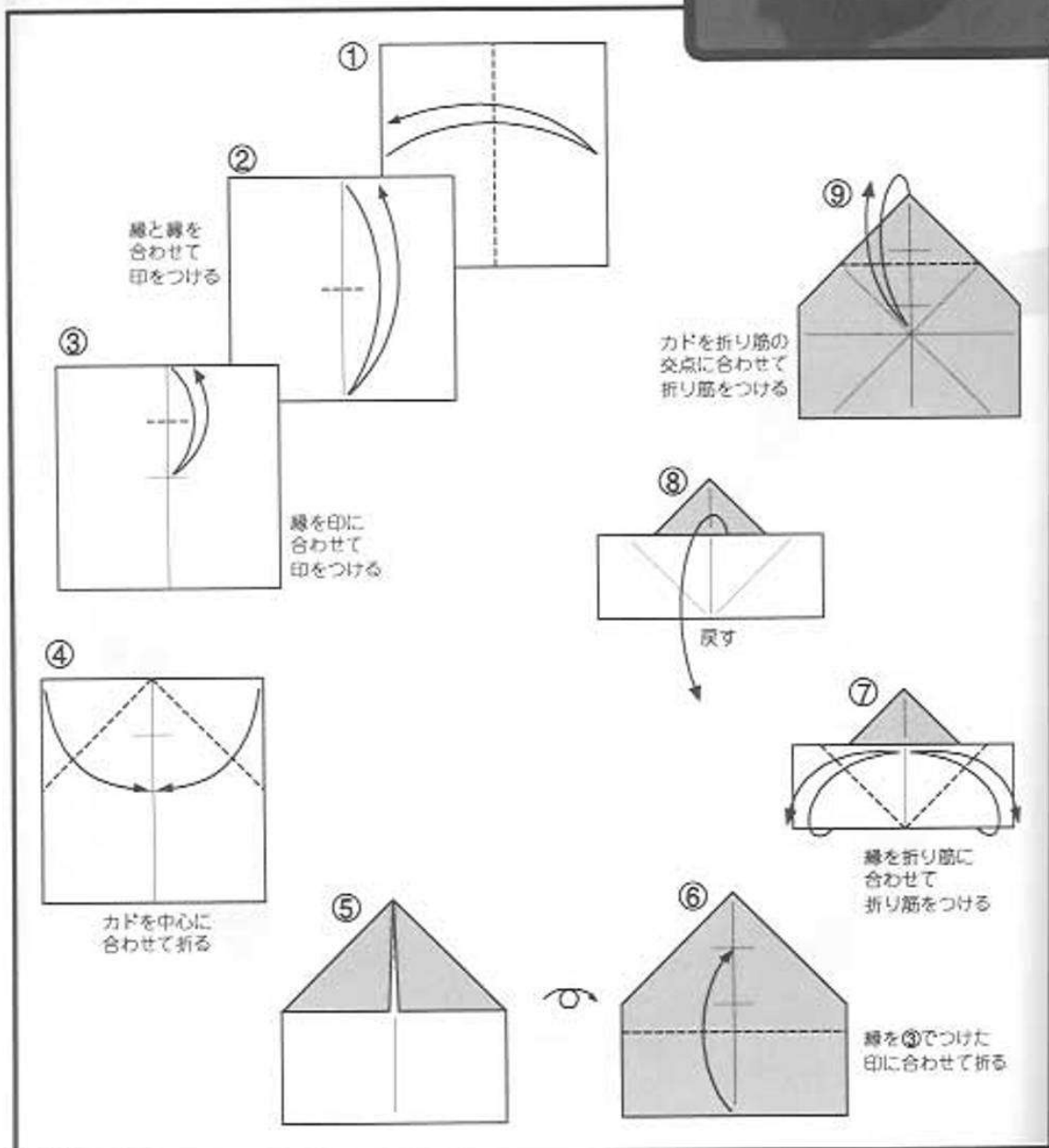


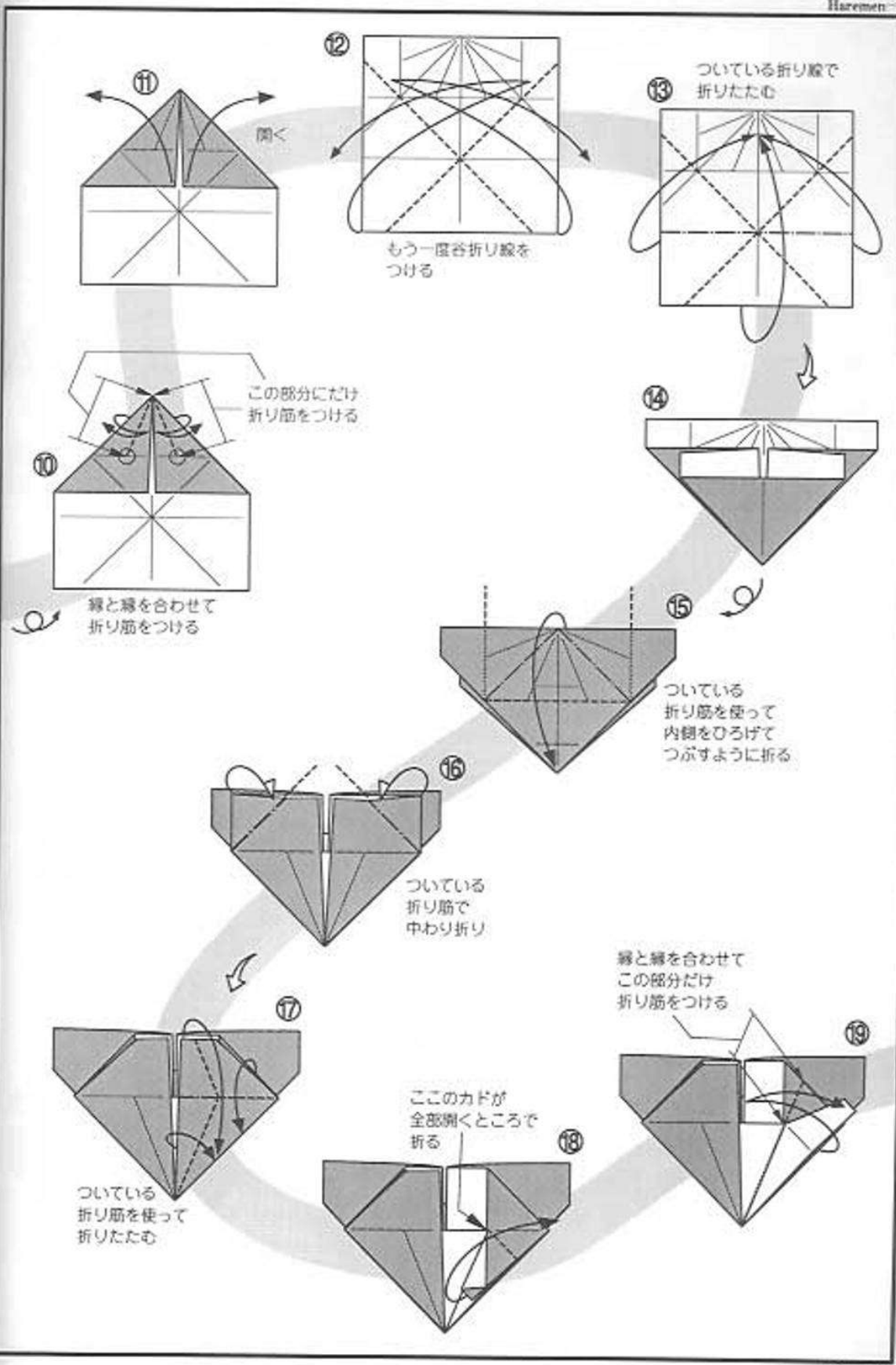


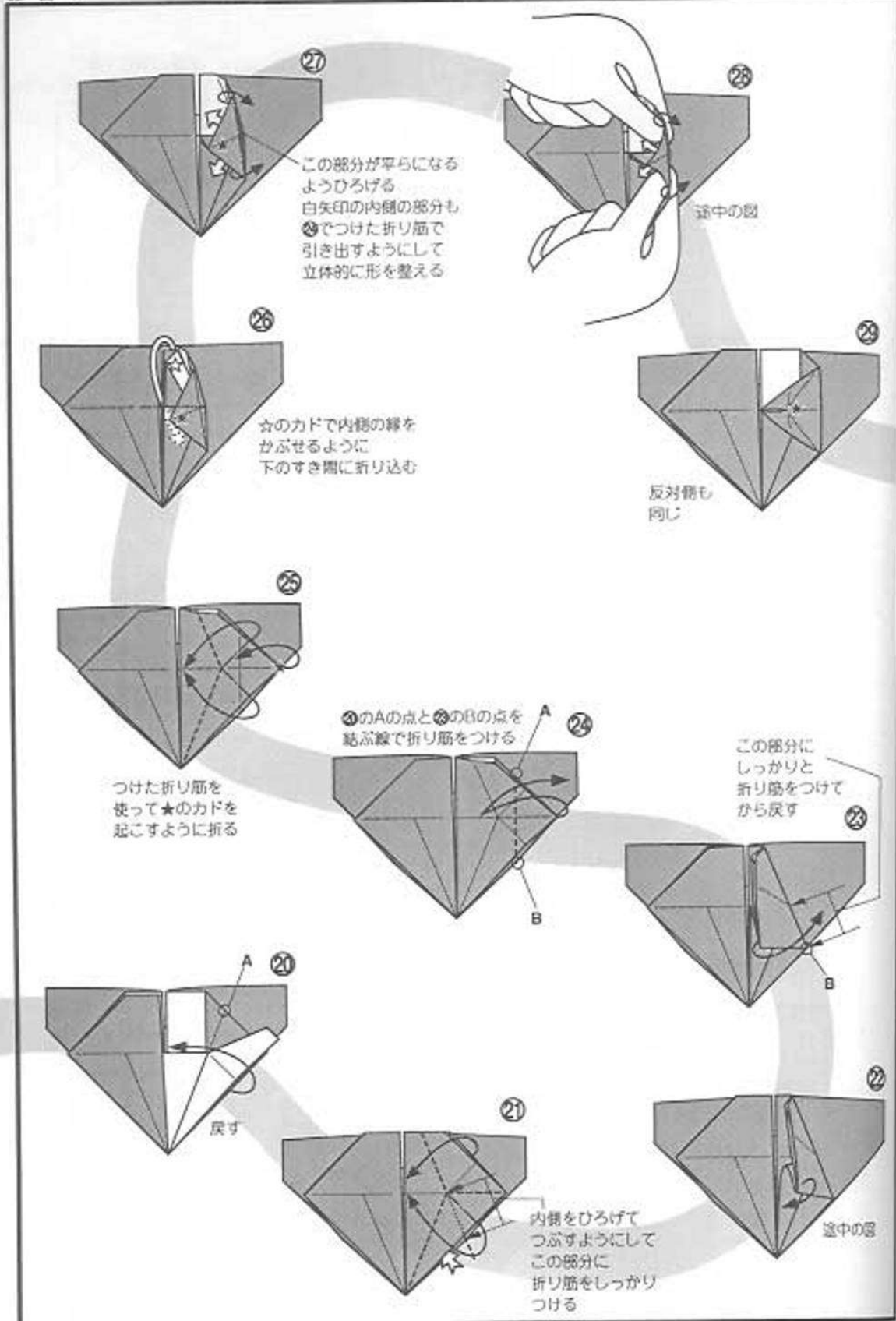


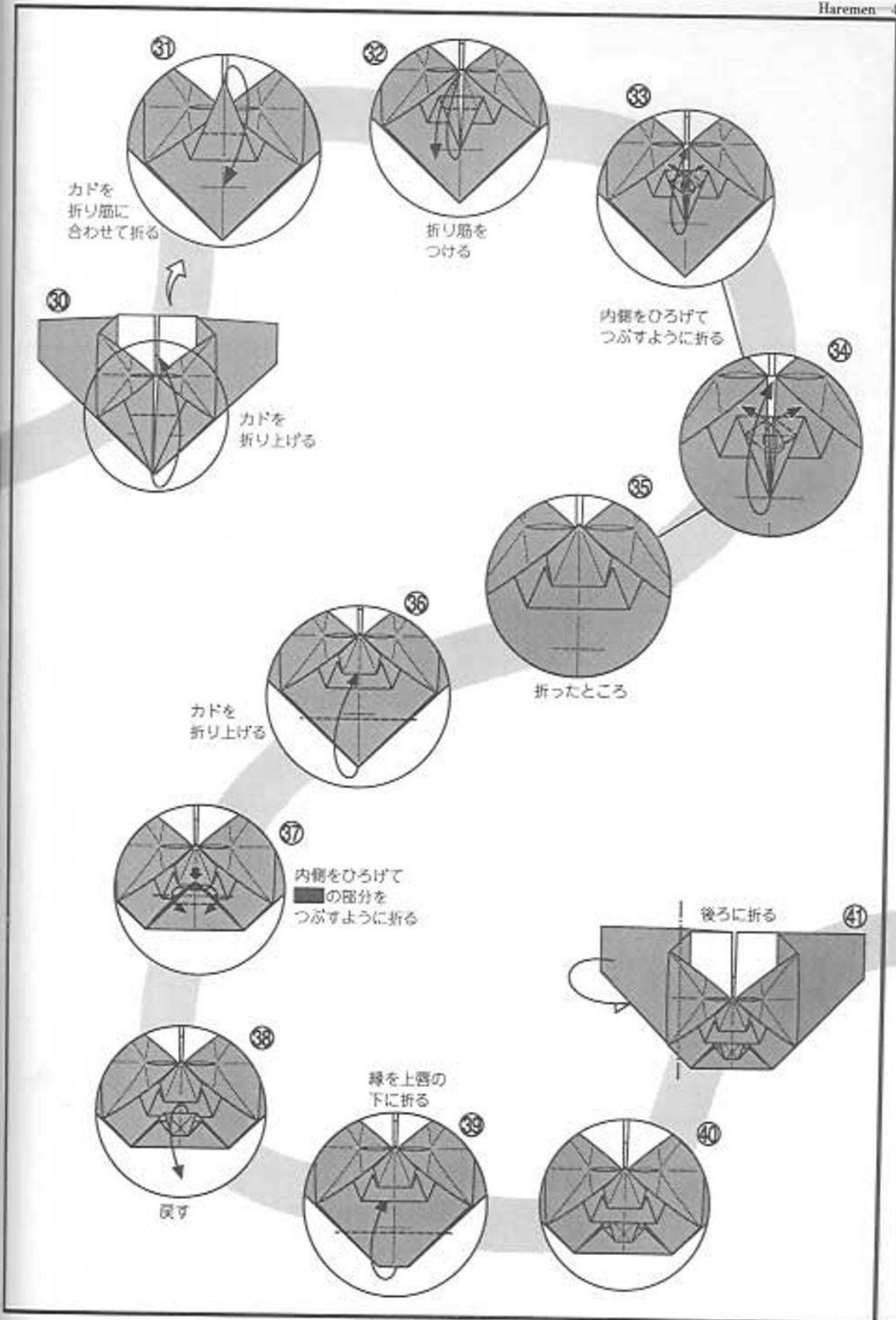
はれめん 腫面

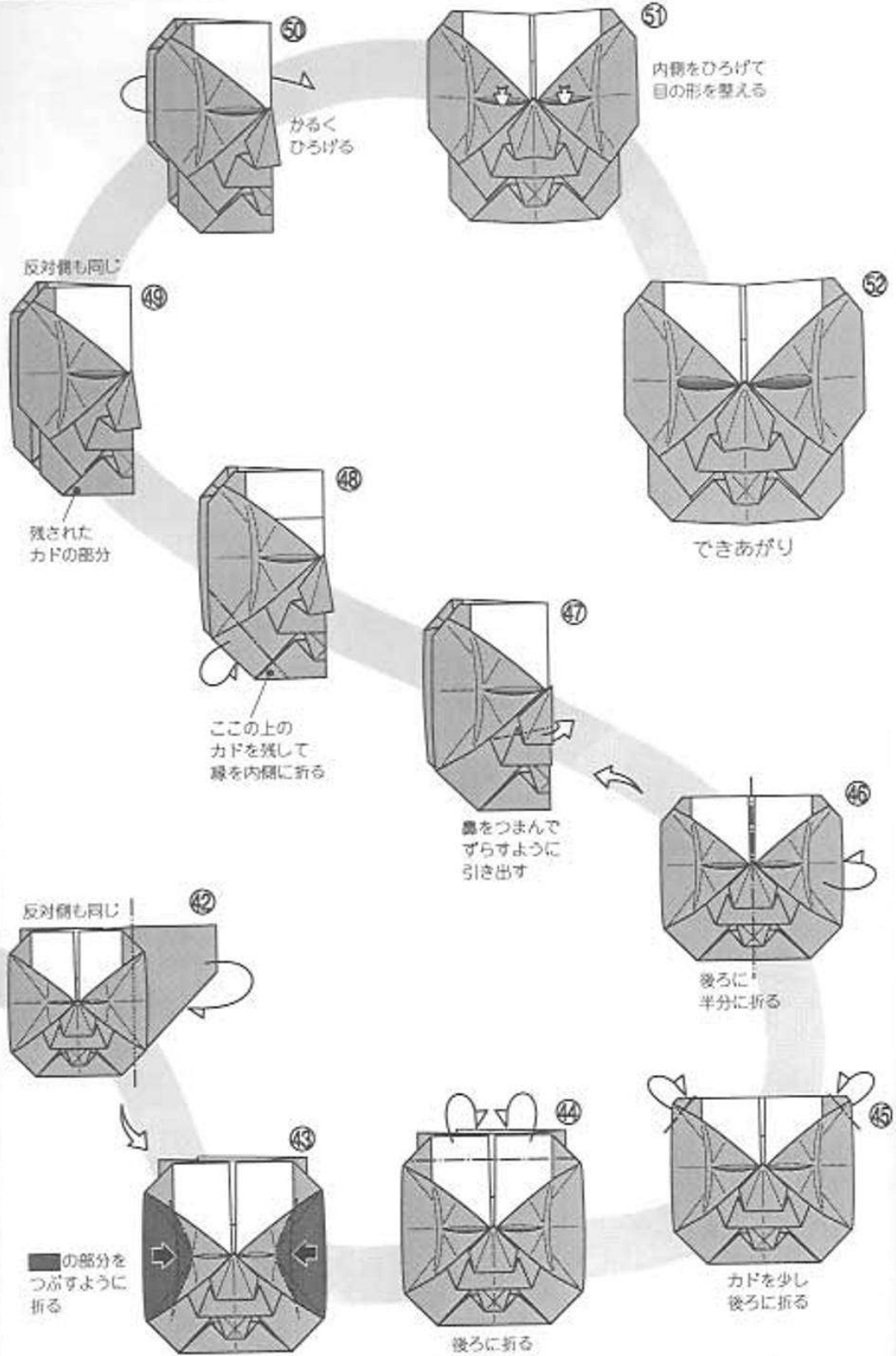
二ノ舞には咲面（えみめん）と腫面（はれめん）があり、前者が爺で後者が婆である。この腫面は目だけに注目した習作である。





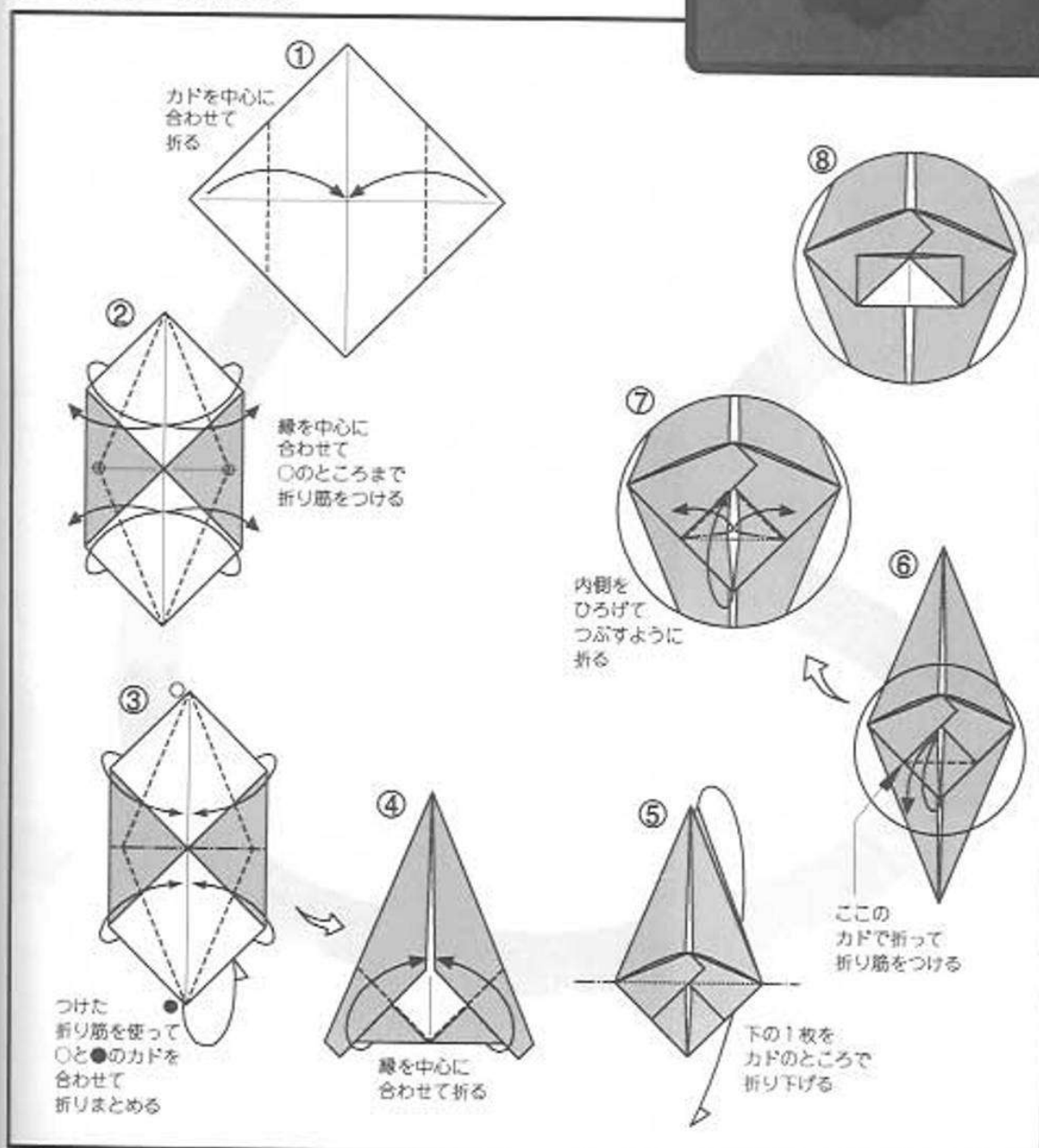
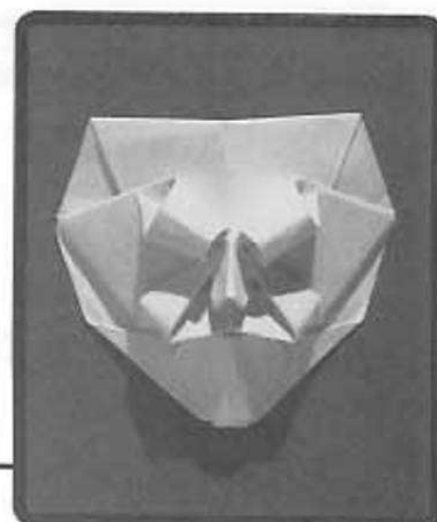






うそぶき

空吹とも書く。とほけたり空威張りすることをいうが、本当は空しく息を吹くことらしい。蟻や蚊など弱々しい精霊やおどおどした盗人の役。目と口にポイントをしばったが、これが「うそぶき」と自信がもてず、結局大部分は「賢徳」へ応用した。



Mask=193

